
シマジマのしまくとうば

1

危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した 実地調査研究

令和元年度

プロジェクトの概要	狩俣 繁久
琉球諸語の動詞の記述研究のための調査票をめざして	狩俣 繁久 (1)
瀬戸内町請島方言の動詞活用資料	白田 理人・重野 裕美 (8)
徳之島伊仙町方言 (面縄・検福) の動詞活用資料	加藤 幹治 (21)
伊是名村諸方言 (字伊是名方言、字勢理客方言) の動詞活用の資料	當山 奈那 (37)
沖縄県伊江島方言の動詞活用の資料	狩俣 繁久・島袋 幸子 (57)
粟国村東方言の動詞活用資料	仲原 穰 (77)
うるま市宮城島方言の動詞活用の資料	中本 謙 (87)
八重山地方石垣島川平方言の動詞の特徴	荻野千砂子 (104)
八重山地方西表島船浮方言の談話資料	荻野千砂子 (131)
八重山語波照間島方言について	金田 章宏 (143)
演劇をめぐる伝承・伝統の意義と役割 - 2つの「中断」を事例として -	前田 達朗 (169)
ニュースピーカーとしまくとうば劇の効果	石原 昌英 (179)

プロジェクトの概要

琉球大学島嶼地域科学研究所
狩俣繁久

本書は、令和元年度文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」の成果を報告するものである。

我が国における言語・方言のうち、消滅の危機にあるものについて、ユネスコが平成21年に発行した“Atlas of the World's Languages in Danger”の内容及び、平成23年度から平成26年度にかけて大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所及び琉球大学島嶼地域科学研究所（平成30年4月1日に国際沖縄研究所から改称）が実施した文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究事業」及び「危機的な状況にある言語・方言の保存・継承に係わる取組等の実体に関する調査研究事業」を参照の上、消滅の危機にある七つ（八丈方言、奄美方言、国頭方言、沖縄方言、宮古方言、八重山方言、与那国方言）の区画のうち、琉球諸語に関わる6区画において、音声資料、調査研究が十分とは言えない地域の方言について、当該地域の方言の保存・継承に資するため、アーカイブとして公開することを想定した実地調査及びその分析（以下「アーカイブ研究」とする）、方言の保存継承に資する諸研究（以下「保存調査研究とする」）を行った。

本年度実施するアーカイブ研究については消滅の危機に瀕しているとされ、音声資料、文法資料の調査研究が保存・継承にとって十分ではない琉球諸語の6区画のうち、奄美語の鹿児島県大島郡瀬戸内町請（請島）、同じく奄美語の鹿児島県大島郡伊仙町（徳之島）、沖縄語の沖縄県国頭郡伊江村（伊江島）、同じく沖縄語の沖縄県うるま市宮城（宮城島）、同じく沖縄語の沖縄県島尻郡粟国村粟国（粟国島）島、八重山語の沖縄県石垣市川平（石垣市）、同じく八重山語の沖縄県八重山郡竹富町波照間（波照間島）の7地点において、将来のアーカイブ化を想定して臨地調査を行った。

本事業は、2年計画のものである。その1年目にあたる本年度は、本事業で調査対象地としている上記7地点での調査（音声資料を含む）は当該方言の文法的な特徴が分かるよう、動詞の活用体系および動詞を述語にもつ文の構文論的な特徴の概要を調査するための2種類の調査票を新しく作成し、それを基にした臨地調査を実施した。

なお、2年目にあたる来年度は、形容詞および述語名詞の形態論、および、名詞に接続する格助詞・取り立て助詞のリストとその例文の調査研究を行う計画である。この2年間の調査研究によって、当該方言の発音と文法に関する基礎的で総合的な記録保存が可能になる。また、本年度大きくリニューアルしたサイト「シマジマのしまくとうばー危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」を琉球大学島嶼地域科学研究所のホームページで公開する。

保存調査研究については、方言劇の効果についての調査を実施した。調査地点は鹿児島県与論町と鹿児島県瀬戸内町諸鈍集落（加計呂麻島）の諸鈍シバヤ及び沖縄県で演劇活動の指導に当たった経験のある学校教師へのインタビュー等を行った。

与論の「方言劇」は2017-18年の二回公演された新しい取り組みだが2019年は文化庁の補助金申請が通らず公演が叶わなかった。諸鈍集落の伝統的な芸能の諸鈍シバヤは台風の影響などで2017年と2018年の2年中止された。2つの事例が経験した「中断」を軸に地域社会の、特にそれぞれに深く関わった人々への聞き取りを記録し分析を試み共通した課題、問題などを検討した。演劇活動の指導に当たった経験のある学校教師へのインタビューから浮かび上がった学校教育の中で継続的に取り組むことの課題を検討した。これらの調査結果については、本報告書に収録している。

アーカイブ研究及び保存調査研究の成果については、令和2年2月17日に沖縄県那覇市にある沖縄県立青年会館で成果報告会を開催し、意見交換と討議を行った。本年度の成果については、琉球大学の島嶼地域科学研究所のHPに開設する本事業のHPで公開する。合わせて、事業報告書を作成し公表するものである。

琉球諸語の動詞の記述研究のための調査票をめざして

狩俣繁久（琉球大学島嶼地域科学研究所）

1. 調査の目的

動詞は、人や物の動きや変化や状態を表す語彙的な意味を表し、文の中で主として述語として機能する品詞である。形態論的には、テンス、アスペクト、ムードの形態論的カテゴリーを表す形式としての活用形の体系を有している。動詞はまた、文の中で連体修飾語として名詞の前に置かれ名詞を修飾する。条件づけを表す従属複文の従属文の述語になって、主文の表す出来事が成立するための原因、理由、条件、前提、契機を表したり、譲歩的な条件やうらめ的な条件を表したりするための条件形の諸形式がある。二つの出来事間の時間的な前後関係、あるいは同時の関係を表す連用形の諸形式がある。

また動詞は、肯定否定、ていねいさ、受身、使役や授受などのベネファクティブ等の文法的な意味を表し分けるための諸形式の体系も有している。このように、動詞は、最も華やかな活用形の体系をもった品詞である。

これまでの琉球諸語の文法研究において、動詞の活用形に関する研究は、名詞に後接して名詞が文中の他の単語に対してとることがら上の関係を表す格（あるいは格助詞）に関する研究と同じかそれ以上によく研究されている。しかし、名詞を飾る連体修飾語や連体修飾節の述語位置に現れるときの連体形の現れ方についての研究は少ない。条件付けを表すつきそいあわせ文のつきそい文（以下、従属文）の述語に現れる形式が複数あるのだが、その形式の使い分けやそれぞれの形式の表す文法的な意味についての研究も少ない。

また、否定形の活用形についての記述研究は、肯定形の活用形の研究に比べて圧倒的に少ない。そこで当該方言の文法的な特徴が分かるよう、動詞の活用体系および動詞を述語にもつ文の構文論的な特徴の概要を調査するための 2 種類の調査票を本年度新しく作成し、それを基にした臨地調査を実施した。この調査票の眼目の一つが否定形の活用形の体系を明らかにする目的で 86 個の例文を用意したことである。

2 種類の調査票のうちの一つは、強変化動詞「食べる」、弱変化動詞「煮る」、不規則変化動詞「来る」の完成相の肯定形と否定形の活用形を調査するもの（以下、活用形調査票）である。214 の文を用意し、そこに示された日本語の文を方言に翻訳してもらうというものである。

もう一つは、当該方言の動詞活用のタイプがどのように分かれているかを把握することを目的に、「行く、漕ぐ、落とす、持つ、洗う、買う、食う、遊ぶ、売る、降る、切る、寝る、かぶる、起きる、降りる、呉れる、着る、坐る、蹴る、死ぬ、来る、する、ある、いる、無い」の代表形、否定形、過去形を述語に持つ文、および、「流す、着せる、注ぐ、喜ぶ、叱る、見せる、出す、掘る」等の動詞の一部の活用形を述語にもつ文の合計 172 の例文を用意した。この調査票（以下、活用型調査票）は、動詞活用のタイプを調べるこ

とのほかに、使役動詞、授受動詞、可能動詞等の形式と文法的な意味を調べるための文も用意している。

2. 活用形調査票

活用形調査票は、肯定形の活用形 128 個、否定形の活用形 86 個を調査するものである。活用形は文中での位置と機能の違いによって、終止形、連用形、連体形、条件形がある。終止形は、文末の述語に現れる活用形で、テンス、アスペクト、ムード体系を構成する。連体形は、名詞の前に置かれて名詞を修飾する活用形で、相対的テンスを表す非過去形と過去形から構成される。連用形は、ならべあわせ文のつづける文の述語になる活用形で二つの出来事の間での先行後続、同時等の時間的な関係を表す。条件形は、条件的なつきそいあわせ文のつきそい文の述語になる活用形で、原因・理由、条件、前提、目的、契機等を表す活用形で構成される小体系をなす。

本稿は活用形調査票を使用して得られた伊江島方言と恩納村恩納方言の資料を使って活用形調査票の意図を概説するものである。

2. 1. 終止形

北琉球諸語の完成相動詞の叙述法・断定・非過去形（以下、非過去形）は、第一中止形に有情物の存在を表す動詞が組み合わさって融合したものであることが知られる。それに対して、南琉球諸語の非過去形には、そのような形跡はなく、北琉球諸語と南琉球諸語を区分する大きな指標になっている。

前述したように終止形は、テンス、アスペクト、ムード体系を構成する活用形である。表 1 は伊江島方言、表 2 は恩納村字恩納方言の終止形の活用表である。

伊江島方言、恩納村字恩納方言の非過去形も第一中止形の有情物の存在を表わす動詞が組み合わさって融合した形式（以下、シヨル対応形式）である。このシヨル対応形式は、沖縄諸方言では完成相の形式（以下、スル対応形式）に置き換わっていて、活用形の作り方を複雑なものにしている。

表 1 伊江島方言の終止形直説法

			非過去	第一過去	第二過去
直 説 法	断定	非 強 調	?ケン、ニユン、チュン、	?カータン、ンチャ ン、チャン	?ケータン、 ニュータン、 チュータン
		強調	?ケール、ニユール、チュ ン	?カータル、チャンド ー	?ケータンデヤ、チューテイ ー/チュータルバイ
	推量	非 強 調	?ケールパズィ、ニユール パズィ、チュールパズィ	?カータルパズィ、ン ツチャルパズィ	?カータルパズィ、チュータ ルパズィ
	疑い		?ケーカヤー、チューカヤ ー /ニユールバーガヤー	?カータカヤー / ?カーターヤ、ンチ ヤーヤ、チャーヤ	チュータカヤ / ニューターヤ

表 2 恩納村恩納方言の終止形直説法

			非過去	第一過去	第二過去
直 説 法	断定	非強調	カミン、ニーン、クーン	カダン、ニチャン、チャ ン	カミタン、ニータン、ク ータン
	断定	強調文	カミル、ニン、クン	カダル、ニチャンドー、 チャンドー	ニータル、カミタン、ニ ータン、クータン
	推量	非強調	カミラハジ、ニーラハジ、 クーラハジ	カダラハジ、ニチャラハ ジ、チャーラハジ	カミタラハジ、ニータラ ハジ、クータラハジ
	疑い		カミガヤー、ニーガヤ ー、クーガヤー	カダガヤー、ニチャガ ヤー、チャーガヤー	カミタガヤー、ニタガヤ ー、クータガヤー

琉球諸語のばあい質問法を表す形式について肯否質問文の述語になる形式と疑問詞質問文の述語になる形式が異なることが知られている。本調査票も肯否質問文と疑問詞質問文を複数用意している。沖縄語中南部方言のばあい、カムンナ kamuNna、カムミ kamumi の肯否質問形とカムガ kamuga の疑問詞質問形の現れることが期待される。伊江島方言も肯否質問形と疑問詞質問形は異なる形式が現れる。疑問詞質問形のばあい、中南部方言の疑問詞質問の接辞ガ ga に由来する形式なのか現段階では確認できない。なお、恩納村谷茶、仲泊の二つの集落の方言には疑問詞質問文の専用形式がないことが確認できる。質問文および質問文の述語の発達の形式を知るうえで興味深い。それと同時に、想像以上に地域差の大きいことを念頭に入れておくことが肝要である。

アバーヤ イチ チューンナー。 アチャ チューン。恩納村谷茶方言
(姉さんは いつ 来るの。 明日、 来る。)

アバー 'ウトウン チューンナー。 ンー チューンドー。恩納村谷茶方言
(姉さんの 夫も 来るの? うん、来るよ。)

伊江島方言の確認要求を表す形式は、チューラー（来るだろう）のように古代日本語の推量を表す接辞「む」を含む形式に対応する形式と[?]ケーツァンニ（食べるだろう?）のように否定形に疑問を表す接辞の後接した形式の2つの形式がある。両形あるか、どちらが優勢か等の確認が必要である。なお、前者は琉球諸語の推量を表す形式名詞パズィ padzi、ハジ hadzi が現れる前に存在して推量形の痕跡をとどめるもので、推量文の発達の歴史を知るうえで重要な形式である。

表 3 伊江島方言の終止形質問法

質 問	肯否 質問	非強 調形	[?] ケールバイ、ニール バイ、チュールバイ	[?] カータルバイ、ンチャル バイ、チャールバイ	[?] ケータルバイ、チュータ ルバイ、ニューティー
	疑問 詞		[?] ケー、ニョー、チョー	[?] カーター、ンチャー、チ ヤー、チャール	チューター
	確認 要求		チューラー、/ [?] ケーツァ ンニ	[?] カータラー、ンチャラー	ニュータラー、チュータ ラー

表 4 恩納村恩納方言の終止形質問法

質 問	肯否	非強調	カミンナー、ニンナー、 クンナー	カディナー、ニチナー、 チナー、 ／ニチャンナー	カミティナー、ニーティ ー、クーティナー
	肯否	強調	ニンナー	ニチナー、チナー	ニーティ、クーティ
	疑問 詞		カミゲー、ニーゲ、クー ゲー	カダゲー、ニチャゲー、 チャーゲー	カミタゲー、ニータゲ、 チュータゲー
	確認 要求		カミラヤー、ニーラヤ ー、クーラヤー	カダラヤー、ニチャルヤ ー、チャーラヤー	カミタラヤー、クータラヤ ー、カミテサニ

表 5 伊江島方言の終止形命令法

命 令 法	命令	?ケー／?ケーバ、ニー／ニーバ、フー／フーバ
	意志	?ケンドー、ニュツツア、フーヤー(来ようネ)
	勧誘	?カンナ、ニャンナ、フーヤー(来ようネ)

表 6 恩納村恩納方言の終止形命令法

命 令 法	命令	カムワ、ニルワ、クーワ
	意志	カミハ、ニーハ、クーハ
	勧誘	カマナ、ニラナ、クラナ

2. 2. 連用形

連用形は日本語のシテ中止形に対応するシテ中止形と、日本語のシ中止形（第1中止形）にアリ（有る）が付いて融合したシアリ中止形（第3中止形）がある。シアリ中止形は日本語には見られない形式である。日本語のシ中止形に対応する形式は、形つくりの要素としては存在するが、単独の活用形として文の部分にならない。シアリ中止形は沖縄語の中南部方言に見られ、北部方言には見られない。なお、北部方言の中でも伊平屋島方言および伊是名島方言にはシアリ中止形がある。宮古語、八重山語にも連用形が二つあり、1つはシアリ中止形に対応する中止形で、もう一つはシテ中止形に外見上は似ているが、シアリ中止形にもシテ中止形にも対応しない形式である。

表 7 伊江島方言の連用形

第二	?カーティ、ンチ、チー、マツチ（待つて）、ホーティ（買って）
先行	?カーティラ、ンチーラ、チーラ、ムディーラ（揉んでから）
同時	?ケーチーニャ、ネーチーニャ、チェーチーニャ、

表 8 恩納村恩納方言の連用形

第二	カディ、ニチ、チー、
先行	カディカラ、ニチカラ、チーカラ
同時	カマガシナ、ニヤガチナ、クヤガチナー

2. 3. 連体形

連体形は、文末の述語の表す時間との相対的な前後関係を表す相対的なテンスを表すために非過去形と過去形がある。沖縄語諸方言のばあい、過去形は第一過去と第二過去の二つの形式がある。今回の調査では伊江島方言、恩納村恩納方言ともに第二過去形に相当する活用形は確認できなかった。

調査票の日本語の連体修飾語に対応する活用形に伊江島方言で「腐った肉」に「ツアーリトゥヌ」という継続相非過去形が得られた。恩納村恩納方言では「煮た」「来た」「買った」等の主体動作動詞の連体形は結果相非過去形が得られ、主体変化動詞「枯れた」は継続相非過去形が得られた。文末述語の表す時間との相対的なタクシスを考えるうえで興味深い結果が得られた。

表 9 伊江島方言の連体形

非過去	第一過去	第二過去
?ケール、チュール	?カータル、ンチャル、チャー ル、ホータル(買った)、 ツアーリトゥヌ(腐った)	

表 10 恩納村恩納方言の連体形

カミヌ、ニーヌ、クーヌ、	カダヌ、ニチェーヌ、チェーヌ、 コーテヌ(買った)、カリトゥ ヌ(枯れた)	
--------------	---	--

2. 4. 条件形

条件形のうち、原因・理由を表す形式とうらめ条件を表す形式と対比を表す形式に、文末の述語の表す時間との相対的な時間の前後関係を表す相対的なテンスを表すために終止形と同じく非過去形と過去形がある。沖縄語諸方言のばあい、過去形は第一過去と第二過去の二つの形式がある。今回の調査では伊江島方言、恩納村恩納方言ともに第二過去形に相当する活用形を確認できたが、うらめ条件と対比には第二過去形を確認できなかった。

恩納村恩納方言では理由を表す第二過去形に「煮たから」「来たから」と、うらめ条件を表す第一過去形に「食べたのに」「煮たのに」「来たのに」に対応して結果相非過去形が得られた。連体形と同じく、文末述語の表す時間との相対的なテンスを考えるうえで興味深い結果が得られた。

ヌクホー アタラハグトゥ カマンティカラ ニランコー。(前提)
 (残したらもったいないから、食べないなら炊くな。)
 ムシ ?ヤーガ カマンダラー ピージャヌシルヤ ヌクイラパジ。(仮定)
 (もし おまえが 食べなかったら ヤギ汁は 残るだろう。)
 クァンソー カムワカラ ユー ニンバイン。(条件)
 (クワンソウを食べれば眠れる。)

表 11 伊江島方言の条件形

原因・理由 カラ、ノデ	?ケートウ、ニュートウ、チュ ートウ	?カータトウ、ンチャトウ、チ ャートウ	?ケータトウ、ニュータトウ、 チュータトウ
うらめ ノニ	?ケースイガ、ニュースイ ガ、チュースイガ、 /ニュールムン	?カータスイガ、ンチャスイ ガ、チャースイガ、 /ンチャルムヌー	
対比 ガ		ニチャスイガ(煮たが)	
前提 ナラ	ニューラー、チューラー		
条件 レバ	?ケー、ネー、ケー		
契機 タラ	?ケー(食べたら)、ネー(煮たら)、ケー(来たら)		
譲歩 テモ	?カーティン、ンチン、?チン		

表 12 恩納村恩納方言の条件形

原因・理由	カミグトゥ、ニーグトゥ、クー グトゥ	ノータグトゥ(治ったから)、 プータグトゥ(掘ったから)	カミタグトゥ、ニーテグトゥ、 クーテグトゥ
うらめ	カミグァー、ニーグァー	カデグァー、ニチェグァー、 チェーグァー	
対比的	プーグァー(掘るけど)		
仮定			
前提	カミティカラ、ニーティカラ、クーティカラ		
条件	カムワカラ、ニーヤ、クーヤー		
契機	カダラ、ニーヤ、クーヤー		
譲歩	カディン、ニチン、チャンテン		
目的形	カミガ、アスピガ、		

表 13 恩納村恩納方言の完成相否定形の終止形

			非過去	過去
直 説 法	断定	非強調文	カマン、ニラン、クーン	カマンタン、ニランタン、クランタン
	断定	強調文	クラン	ニランタン、クランタン
	推量	非強調形	カマンラハジ、ニランハジ、クランラハジ	カマンタラハジ、ニランタラハジ、クランタラハジ
	疑い		カマンガヤー、ニランガヤー、クランガヤー	カマンタガヤー、ニランタガヤー、クランタガヤー
質 問	肯否	非強調形	カマンナー、クランナー	クランタンナー、ニランティナー、
	肯否	強調形	カマンル アンナー、ニランドゥ アンナー	カマンル アティナー、ニランティナー、ニランドゥ アーティ、クランドゥ アティナー、クランタンナー
	疑問詞		カマンゲ、ニランゲ、クランゲ	カマンタゲー、ニランタゲ、チャーゲー
	確認要求		カマンラヤー、ニランサニ、クランダラヤー	カマンタラヤー、ニランタラヤー、クランタラヤー
命 令 法	禁止	カムナ、ニーナ、クンナ、 ニーナクア、ムットウナクア(持つな)、タットウナクア(立つな)		

表 14 恩納村恩納方言の完成相否定形

連 用 形	カマングトウイ、チカングトウイ(聞かないで)		
	ニラナ、クラナ		
連 体 形	カマン、ニラン、クラン		カマンタヌ、ニランタヌ、クランタヌ
	カマンヌマル、クランヌマル、 ニランヌマードウイ、クランヌマードウイ		
条 件 形	原因・理由	カマングトウ、ニラングトウ、クラングトウ	カマンテグトウ、ニランテグトウ、クランテグトウ
	うらめ	カマンガァ、ニラングァ、クラングァ カマンムヌ、クランムヌ、ニランムヌ	カマンテグァー、クランテムヌ
	仮定	カマンダラー、クランタラ、ニランダラ、ニランダラ	
	前提	クランティカラ	
	条件	カマンダラ、ニランダラ、クランダラ	
	契機	カマンダラ、ニランダラ、クランダラ	
	譲歩	カマンティン、ニランティン、クランティン	

瀬戸内町請島方言の動詞活用資料

白田理人（志學館大学）・重野裕美（広島経済大学）

1 はじめに

本稿は、奄美大島の南の島嶼部に位置する請島（図1参照）の池地集落（鹿児島県大島郡瀬戸内町）で話される方言（以降池地方言と呼ぶ）を対象とし、動詞活用の資料を提示する。本稿で使用するデータは、池地集落出身の福原哲二氏ⁱへの執筆者による面接調査に基づいているⁱⁱ。

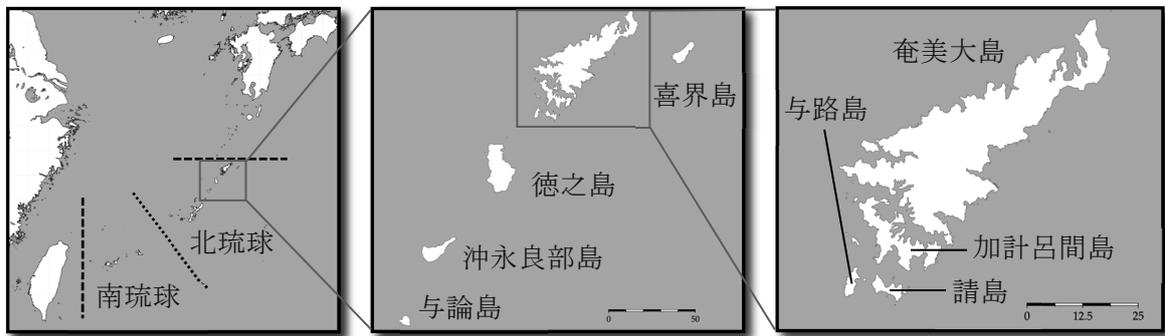
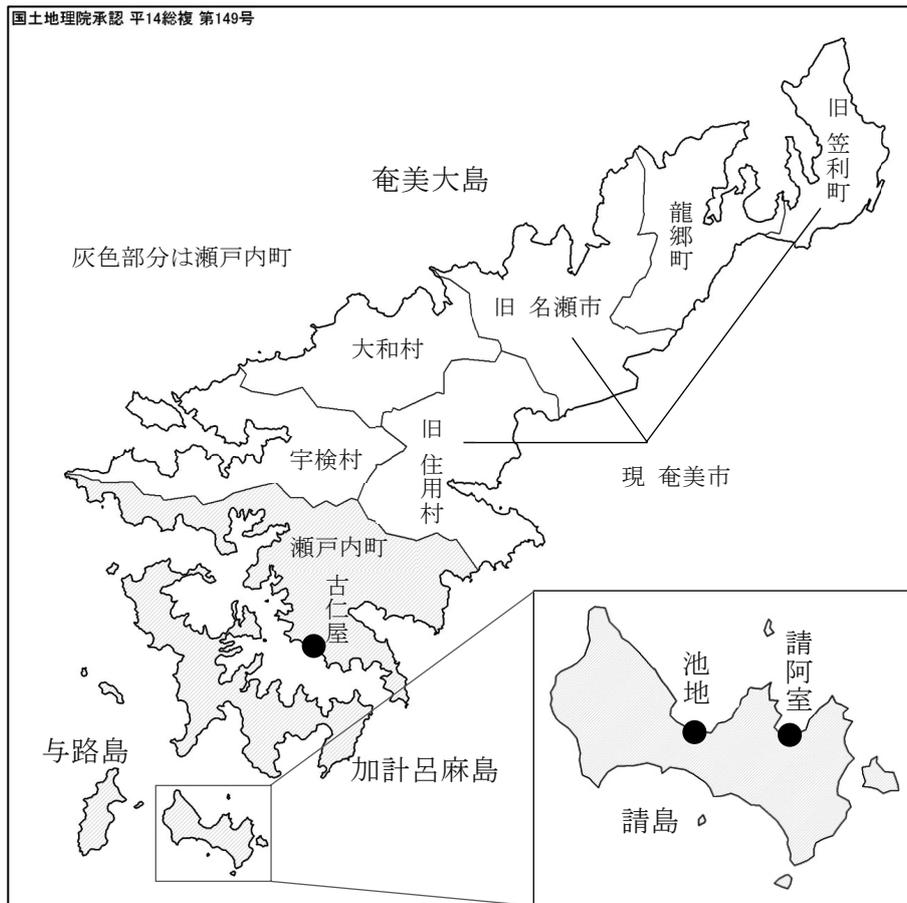


図1 請島の位置ⁱⁱⁱ

2 鹿児島県大島郡瀬戸内町請島の概要

瀬戸内町（図2参照）は、鹿児島市の南方約420kmの洋上に浮かぶ奄美大島の最南端に位置し、大島海峡をはさんで加計呂麻島、請島、与路島を含む、総面積239.65平方キロメートルに及ぶ行政区域を有している。請島の総面積は13.34キロ平方メートルで、請阿室と池地の2つの集落がある。請島へは、奄美大島の古仁屋港から、請島請阿室港・池地港を経由して与路島与路港に至る町営定期船「せとなみ」が一日一往復しているほか、海上タクシーも利用可能である。請島は奄美大島と同じく、ハブや天然記念物のルリカケスが生息している。また、奄美大島から徳之島にかけて分布している希少なウケユリ、固有亜種であるウケジママルバネクワガタも生息しており、保護活動もなされている。

令和元（2019）年8月時点での請島の池地集落の人口（世帯数）は52人（35世帯）、請阿室集落は40人（29世帯）である（瀬戸内町2019参照）。

図 2 瀬戸内町・請島周辺図^{iv}

3 請島の方言の概要

瀬戸内町請島方言とは、ここでは、鹿児島県の奄美群島に属する請島で話されている地域言語のことをさす。請阿室方言は、UNESCO の Atlas of the World's language in Danger にあげられた奄美語のなかの一つの下位方言である。奄美語は、UNESCO のリストによると、「危険」と判定されている。請島には方言母語話者は存在するが、人の流出が激しく、高齢化の進んだ限界集落となっている。

小中学校や簡易郵便局などは池地集落にある。池地小学校は併設されている中学校と合わせも 2004 年からは児童・生徒数も一桁台となり、休校となっていた。しかしながら、2017 年 4 月から地元出身の 2 家族が帰郷したことをきっかけに 3 年ぶりに再開している（「西日本新聞」2017 年 1 月 3 日掲載）。行事においても言語においても継承する若い人がいない状況である。

請島方言に関する先行研究として、池地集落出身の方言研究者である春日正三氏による音声・音韻・文法面にわたる一連の研究（春日 1961, 1962, 1974）の他、中舌母音に関する大野（2014a, b）、形態音韻論的交替に関する白田・重野（2017）がある。

池地方言も含め、瀬戸内町の諸方言の特徴として、音節末子音が後続子音と同器官的 (homorganic) ないわゆる促音・撥音に限られず、調音点・調音方法の異なる様々な子音の連続が観察される。本報告が主眼とする動詞の活用形の中では、子音語幹動詞に禁止接辞／条件接辞／目的接辞が後接する場合に子音連続が生じる (表1 四角内参照)。なお、語幹末が重子音もしくは子音連続の場合は、形態素境界に母音が現れる (表1 二重四角内参照)。

表 1 子音語幹動詞非過去形／禁止形／条件形／目的形語例

語幹末		意味	非過去形 「～する」	禁止形 「～するな」	条件形 「～すれば」	目的形 「～しに」
単子音	b	飛ぶ	tubjum	tub [□] ŋa	tub [□] ba	—
	m	飲む	numjum	num [□] na	num [□] ba	num [□] ga
	t	打つ	ufjum	u [□] tna	u [□] tba	u [□] tga
	s	干す	φufjum	φu [□] sna	φu [□] sba	φu [□] sga
	k	焼く	jakjum	ja [□] kna	ja [□] kba	ja [□] gga
	g	漕ぐ	kugjum	ku [□] gna	ku [□] gba	ku [□] gga
重子音／ 子音連続	mm	頼む	tammjum	tamm [□] na	tamm [□] ba	tamm [□] ga
	ŋg	握る	mingjum	ming [□] na	ming [□] ba	—

池地方言の特徴として、形態素境界において母音の高さが交替する現象が見られる。まず、r 語幹動詞及び母音語幹動詞のうち前舌母音／中舌母音を語幹末に持つ動詞では、語幹末母音の高さによって非過去接辞／意志勧誘接辞／命令接辞の母音の高さが交替する (表2 参照、四角内は語幹末母音、二重四角内は交替する母音)。

表 2 r／前舌母音／中舌母音語幹動詞非過去形／意志勧誘形／命令形語例

語幹末		意味	非過去形 「～する」	意志勧誘形 「～しよう」	命令形 「～しろ」
狭母音+r	ir	見る	m [□] ir [□] um	m [□] ir [□] u	m [□] ir [□]
	īr	蹴る	k [□] īr [□] um	k [□] īr [□] u	k [□] īr [□]
	ur	売る	ur [□] um	ur [□] u	ur [□]
半狭母音+r	er	もらう	je [□] er [□] om	je [□] er [□] o	je [□] er [□] ē
	or	乗る	no [□] r [□] om	no [□] r [□] o	no [□] r [□] ē
広母音+r	ar	割る	wa [□] r [□] om	wa [□] r [□] o	wa [□] r [□] ē
前舌／中舌 狭母音	i	出る	id [□] 3 [□] ir [□] um	id [□] 3 [□] ir [□] u	id [□] 3 [□] ir [□]
	ī	降りる	ur [□] īr [□] um	ur [□] īr [□] u	ur [□] īr [□]
前舌／中舌 半狭母音	e:	痩せる	je [□] e [□] :om	je [□] e [□] :r [□] o	je [□] e [□] :r [□] ē
	ë:	開ける	ë [□] :om	ë [□] :r [□] o	ë [□] :r [□] ē

次に、後舌母音(u/o/a)を語幹末に持つ動詞では、非過去接辞の母音が語幹末母音によって交替を示すのに加え、意志勧誘形／命令形では語幹末母音と接辞の母音が融合し、生じた母音に応じて先行する母音の高さが交替する（表3参照、四角内は語幹末母音またはこれに接辞が融合したもの、二重四角内は交替を示す母音）。

表3 後舌母音語幹動詞非過去形／意志勧誘形／命令形語例

語幹末		意味	非過去形 「～する」	意志勧誘形 「～しよう」	命令形 「～しろ」
後舌狭母音	u:	閉める	k ^u u:um	k ^u u:	k ^w wi:
後舌半狭母音	o:	買う	ko:ju:m	ko:	kw ^e e:
後舌広母音	a+子音+a	洗う	ara:um	aro	ar ^e
	i+子音+a	拾う	ci:ru:um	ci:ru:	he:ri:e
	i+子音+a	使う	ti:kaj:um	ti:ko	te:k ^e
	u+子音+a	歌う	utu:um	oto	ote
寄り合う		ju:ru:um	ju:ru:	ju:ri:e	

- i 大正12(1923)年生まれ、20代半ばまで池地在住、現在古仁屋(奄美大島)在住。
 ii JSPS 科研費 JP15K16754 「与路島・請島を中心とした奄美大島方言の記述的研究」の助成を受けている。
 iii 国土地理院発行の地図データをもとに Thomas Pellard 氏(フランス国立科学研究所)が作成した地図を用いている。
 iv 地図作成ソフト白地図 KenMap で作成した地図を用いている。

参考文献

- 大野眞男(2004a)「北奄美周辺方言の音韻の特徴」『岩手大学教育学部研究年報』63:51-70.
 (2004b)「一つ仮名弁ではない奄美北部方言の歴史的 성격」『音声研究』8(1):109-120.
 春日正三(1961)「請島(本島南部方言)」東条操(監修)『方言学講座 第四卷 九州・琉球方言』pp.321-333, 東京堂:東京.
 (1962)「請島方言の音韻」『立正大学文学部論叢』14:50-66.
 (1964)「請島方言の助詞一」『立正大学文学部論叢』30:25-47.
 (1974)「奄美大島方言の研究—請島・池地方言の音節について—」永山一勇博士退官記念会(編)『国語国文学論集』pp.564-547, 風間書房:東京.
 白田理人・重野裕美(2017)「北琉球奄美請島請阿室方言の音韻スケッチ—形態音韻論的交替を中心に—」『琉球の方言』41, pp.165-204, 東京.
 瀬戸内町(2019)「人口世帯集計表(令和元年8月末現在)」『鹿児島県大島郡瀬戸内町』
 〈<http://www.town.setouchi.lg.jp/koseki/cho/chosei/jinkou/documents/jinkou201908.pdf>〉,
 (2020年2月11日参照)

	瀬戸内町請島 2019年11月30日、2019年12月14日、2020年1月11日、2020年1月12日調査 福原哲二氏 (T12. 9. 1生)、池地出身 (古仁屋在住)、97歳M	
1-1	※どこでも男が舟を漕ぐ。	da:nantim jingadu funija kugjun
2	若いときはみんなで舟を漕いだ。	wa:sarijɲa gottoji funi kugjutado:
2-1	※私は昨日船を漕いだ	wanna kʔiɲu funi kudzado:
3	今でも女は舟を漕がない。	namadim unakka funi kugandija:
4-1	※今日は手が痛いので、舟は漕げない。	kju:ja tin jadi funija kugikʔirjando:
5-1	※病気が治ったから、舟を漕げる。	bjoknu no:taɲkaran funi kugariddo:
6	明日も海へ行く。	aɬfam umiɬ ikjuddo:
7	父は天気が悪いときは海へは行かない。	ɬʔanna tɛɲkʔin wassarba umitɬa ikjando:
8-1	※昼は仕事をして、夜は遊びに行った。	hirrja ɬikʔuɬɬi juruja asubga idzi
9-1	※今日はいとこが家に来る。	kju:ja itokoga jatɬ kjoddo:
10-1	※いとこはここには来ないよ。	itokoja kaɲɲa kondo:
11	祖父は叔父に電話をして いとこを来させた。	uɬɬuga udziɲi denwa ɬi itoko ko:ɬado:
12	孫も来たがっていたので来させた。	magam kʔi:buɬa ɬattu ko:ɬado:
13	叔父もいとこもバスから来た。	udzim itokom baɬɬi ɬʔa:do:
14	崖の側は危ないから、 子どもは来るな。	tɛn buɬija abnɛsaɲkaram warabiɲkja kunnajo:
15-1	※梅雨時期だからよく雨が降るねえ。	amaduk natɪ ji: amɪn ɬurjur.ja:
16-1	※12月は雨降らないよ。	ɬiwassa ammar amija ɬurandija:
17-1	※昨日も大雨だった。	kʔiɲum u:.amɪ atadija:
17-2	※昨日も雨が降った。	kʔiɲu amɪn ɬuta
18-1	※雨が降ってきた。	amiga ɬuti ɬʔi
19	大雨が降ったので橋が流された。	u:.amiga ɬutattu haɬga nagasatti
20	太郎は毎日学校の前で バスから降りる。	taro:ja itʔum gakkon mɛ:nanti baskara urɪjuddo:

21-1	※友人がさきにバスから降りた。	duf̥ga sak baskara urita
22-1	※ここでは誰も降りない。	kumanantija tarum uriram
23-1	※木の実は熟したら自然に落ちる。	kī:nu mi:ja umba duʃ ut̥ijuddo:
24-1	※青いのは木を揺らしても落ちない。	o:samunna kī: jubutim ut̥irandija:
25	木を揺らしたから、落ちた。	kī: jubutattu ut̥itam
26	オスの馬もメスの馬も人を蹴る。	jiŋga.umam unak.umam t̥ʃu: k̥irjum
27-1	※この馬は人を蹴らない。	kun umaja t̥ʃu: k̥iram
28-1	※あの馬は人を蹴った。	aŋ umaja t̥ʃu: k̥itam
29-1	※父は去年買ったものでも捨てている。	t̥ʃanna kudu ko:tamundim s̥it̥iturba
29-2	※明日は弟がゴミを捨てる。	aʃaja ututuga gumi s̥it̥ijuddo:
30-1	※まだ使えるラジオを捨ててある。	nama t̥ikorin radzio s̥it̥iti arba
30-2	※昨日は私がゴミを捨てた。	kʔijuja wa:ga gumi s̥it̥itam
31-1	※祖母はどんなに古くても、捨てられない。	haŋrija ikja ʃurusatim s̥it̥ikʔirjamba
31-2	※私はあまり物を捨てない。	wanna ammar mun s̥it̥irando:
32	父は壊れたラジオを弟に捨てさせた。	t̥ʃanna jaburitan radzio ututun s̥it̥iraf̥ado:
33-1	※誰にも聞かなくて、勝手に捨てた。	tarunim kikjan̄ganuʃ katten s̥it̥itarba
33-1	※このラジオをあそこに持って行って捨ててこい。	kun radzio ama muʃidzi s̥it̥iti ko:
34-1	※ノコギリで枯れた木を切ろうね。	nokoʃi karēgi kʔirjuja:
34-2	※今からノコギリで枯れた木を切る。	namara nokoʃi karēgi ba kʔirjuddo:
35	きのう枯れた木の枝を切った。	kʔiju karējuda kiʃado:
36	おじさんが一緒に切ってくれた。	udziga madzin kiʃi kʔurit̥ado:
37-1	※あのガジュマルは、こわくて誰も切らない。	aŋ gadmarrja utuʃʃat̥i tarum kʔirjando:
38-1	※穴はスコップで掘った。	komorrja sukoppuʃi ʃuti

38-2	※今からスコップで穴を掘るよ。	namara sukoppufi komor furjuddo:
39	お父さんは掘るけど、お母さんは掘らない。	ʔʔanna furjumbam ammaja furando:
40	二人でとても深い穴を掘った。	tʔarʔi waro ʔukasana komor ʔutado:
41	お父さんに頼んで兄さんにも掘らせた。	ʔʔanun tandi aʔonim ʔurafado:
42-1	※木の実は熟しているのに、祖父は自分では落とせない。	kʔn mi:ja udumbam uʔʔuja du:ʔiʔna utuʔkʔirjam
43	祖父が父に言いつけて兄に木の実を落とさせた。	uʔʔuga ʔʔanun iʔi aʔon kʔn mi: utusafam
44	父が兄に棒で木の実を落とさせた。	ʔʔaŋga aʔon bo:ʔi kʔn mi: utusafʔi
45-1	※兄が熟んでいる木の実を全部落とさせた。	aʔoga udun kʔn mi:ja gotto utufado:
46-1	※掃除している時には荷物を外に出している。	soʔʔun kiʔʔiʔna nimotta sotoʔ idʔafuddo:
46-2	※掃除しているから荷物は外に出す。	soʔʔunʔaran nimotta sotoʔ idʔafuddo:
47	弟も台所にあった荷物を外に出した。	ututum daidokoronan atan nimotta sotoʔ idʔafʔa
48	祖母が母に言いつけてホースで水を流させた。	haʔniʔa amman iʔi ho:suʔi miʔ nagasafʔi
49	母が花子にホースで水を流させた。	ammaga hanakon ho:suʔi miʔ nagasafʔi
50	父が兄に言いつけて祖父を起こさせた。	ʔʔaŋga aʔon iʔi uʔʔu udumasafʔi
50-1	※父が兄に言いつけて弟を起こさせた。	ʔʔaŋga aʔon iʔi ututu wʔi:safʔi
51	父が兄に寝ている祖父を起こさせた。	ʔʔaŋga aʔon jasmotun uʔʔuba udumasafʔi
51-1	※父が兄に寝ている弟を起こさせた。	ʔʔaŋga aʔon niʔtun ututuba wʔi:safʔi
52	兄が寝ていた祖父を起こした。	aʔoga jasmotutan uʔʔu udumafʔi
52-1	※兄が寝ていた弟を起こした。	aʔoga niʔtutan ututuba wʔi:ʔi
53-1	弟は左利きだけどお箸は右手で持つ。	ututuja ʔidʔargik ambam haʔiʔa miʔʔiʔi muʔfuddo:
54	汁鍋はこぼれやすいから、片手では持つな。	ʔinnabeʔa kuburiʔassanʔaran katatiʔiʔna mutnajo:
55	おにぎりの入った重箱はお母さんが持った。	niʔirimeʔin itʔun dʔo:bakka ammaga mutʔado:
56	おばあさんにはお茶を持ってもらった。	haʔniʔna ʔa: mutʔi murati

57-1	※弟にはムシロを持たせる。	ututujna muʃrju mutafjuddo:
58	重いけどもって持てる？	upsambam janar muʃkʲijna
59	あと一つだったら持てる。	ato tʲitta mutarim
60	いつも豚肉はお父さんが買う。	itʲum wʲa:ja ʃʲaŋga ko:jom
61	他には何も買わない。	ʃukarja num kom
62	お父さんは昨日は野菜を買った。	ʃʲanna kʲiju jasē ko:ti
63	明後日が給料日だから明日は買えない。	asatiŋa kʲju:rjo:bi dʒaŋkaran aʃaja ko:ram
64	明後日だったら欲しいものが買える。	asati narbaja ʃuʃan muŋga ko:rīm
65	お父さんは取ってきた魚を売る。	ʃʲanna tuti ʃʲan jʲu:ba urjum
66-1	※きょうは魚が少ないから、売れない。	kju:ja jʲu:ga ikʲirjasanʒkaran uraram
66-2	※お前には売れない。	urajna urando:
67	昨日は私が取ったイカとタコを売った。	kʲijuja wa:ga tutan ikjatu to: utam
68	その魚を安く売ってください。	kun jʲu: jassaʃi uti kʲuriranna
69	いつもおばあちゃんは私にお金をくれる。	itʲum haŋnija wanun kaniggwa kʲurijuddo:
70	今日は弟にも1000円くれた。	kju:ja ututujnim ʃenjen kʲuritado:
71	おじいちゃんは私に何もくれない。	uʃʃuja wanujna num kʲuriram
72	いつも漁師から魚をもらう。	itʲum iʃuʃanne:ra jʲu: jerjom
73	小さいカニは誰ももらわない。	inʃan ganna tarum jerando:
74-1	※隣から大根ももらった。	tonarkara de:kuni jeti
75-1	※モズクをたくさんもらったから隣の人にあげた。	sonor waro jetaŋkaran tonannu ʃʲun kʲuritam
76	喉が乾いたら水を飲む。	nudun kawakbaja miit numjum
77-1	※私の夫は酒は飲まない。	wa: utuja sē:ja numam
78-1	※私の叔父さんは酒を欲しがるけれど病気だから飲めない。	wa: udzija sē: ʃuʃa ʃumbam bjok dʒaŋkaran numaram

79	ここの井戸水は飲める。	kun igawan mitta numariddo:
80	お母さんが入れたお茶をたくさん飲んだ。	ammaga iritan tʃa:ba waro nudi
81	乗るなら飲むな。 飲むなら乗るな。	norjomun nabbaja numna numbaja nonna
82	お母さんは赤ちゃんに おっぱいを飲ませてあげた。	ammaja aggwan tʃ'i: numatʃi
83	山羊もウシも草を食う。	çindʒam uʃim kusadu kamjun
84	山羊は濡れた草は食わない。	çindʒaja nurikusaja kamam
85-1	※家の猫が魚を食った。	ja:nu mja:ga j'u: kadī
86	父が取った魚を猫に食われた。	tʃʷaŋga tuti tʃʷan j'u:ba mjan kamattī
87-1	※毎日暗くなるまで、 外で夢中で遊んだ。	itʷum kʷurak nargari sotonantī asuburītī
87-2	※今日は暗くなるまで、 外で遊ぶ。	kju:ja kʷurak nargadī sotonantī asubjuddo:
88-1	※暗くなったら、もう誰も遊ばない。	kʷurak narba ja: tarum asubam
89	昨日はいとことかくれんぼして遊んだ。	kʷiɲuja itokotu kakʷurəkunaʃi asudī
90	弟は酒を飲むと、すぐに酔う。	ututuja sē: numba sugu ji:juddo:
91-1	※昨日も酒を飲みすぎて、酔った。	kʷiɲum sē: numsuktʃi ji:tī
92	兄はどんなに飲んでも酔わない。	aɲoja ikjassa nudim ji:rando:
93	彼は酔って、寝ている。	arɲa ji:tī niɲtum
94-1	※たくさん飲みはしないのに酔った。	u: nummja sērammun ji:tam
95	汚れた皿とお椀はお父さんが洗う。	juɟritan massaraja tʃʷaŋga arajuddo:
96	私は兄さんに鍋を洗ってもらった。	wanna aɲon nabē aratī muratī
97	兄さんが私の代わりに洗ってくれた。	aɲoga wa: kawari aratī kʷurītī
98-1	※お母さんは料理を作っているから、洗わない。	ammaja dʒu:ri ʃuɲkaran arom
99	暑いときは帽子をかぶる。	attan kiʃinna buʃ kabrjuddo:
100-1	※今は誰もくば笠をかぶっていない。	namaja tarum kubagasa kapturando:

100-2	※私はくば笠をかぶらない。	wanna kubagasa kabrando:
101-1	※昔はみんなくば笠をかぶった。	mukaŋŋa gotto kubagasadu kaptutado:
101-2	※私は昨日くば笠をかぶった	wanna k [?] ɲu kubagasa kaptado:
102	いとこたちには帽子をかぶらせた。	itokoŋkjan buŋ kabraŋfado:
103-1	※私は毎年孫たちにお年玉をあげている。	wanna maitoŋi maganŋjan otoŋidama k [?] urituddo
103-1	※私は孫たちにお年玉をあげる。	namara maganŋjan otoŋidama k [?] urijuddo:
104	去年はみんなに千円ずつあげた。	kuduja gotton ŋenŋendut k [?] uritam
105	来年は二千元ずつあげよう。	janija niŋenŋendut k [?] uriramba
105-1	※お前にお年玉をあげようね。	uran otoŋidama k [?] uriruja:
106	お菓子も買ってあげよう。	k [?] wajim ko:ti k [?] uriruja:
107-1	※祖父は毎日6時には起きている。	uŋŋuja it [?] um rok [?] udziŋna udududdo:
107-2	※私は明日6時に起きる。	wanna aŋa rok [?] udzin w [?] i:juddo:
108-1	※祖父は9時に寝て、8時に起きた。	uŋŋuja k [?] udzin jasmoti haŋidzin ududi
108-2	※弟は9時に寝て、8時に起きた。	ututuja k [?] udzin niŋti haŋidzin w [?] i:ti
109	5時には誰も起きない。	godziŋna tarum w [?] i:ram
110	高校生は制服を着る	ko:ko:ŋeija ŋeiŋuk [?] u k [?] irjuddo:
111	その服は古いから誰も着ない。	un ŋuk [?] uja ŋursanŋkaran tarum k [?] irjando:
112-1	※昔は自分で織った芭蕉布を着ていた。	mukaŋŋa duŋ utan baŋagin kiŋfutado:
112-2	※昨日芭蕉布を着た。	k [?] ɲu baŋagin kiŋŋam
113	その子は二歳になったから自分で服を着られる。	kun k [?] wa:ja t [?] at natattu duŋ ŋuk [?] u k [?] irik [?] iddo:
114	ざぶとんにはいとこが座る。	un dabtonnaŋna itokoga irjum
115	床にはだれも座らない。	jukanaŋna tarum irjam
116	私たちはここに座るから きみたちは向こうに座れ。	wakjaja kunnan irjuŋkaran urakjaja ama iri

117	きみもざぶとんに座ってください。	uram dabtonnan iŋi kʔuriri
118-1	※私は今日はテレビを見る。	wanna kju:ja terebi mirjum
119-1	※最近クジラが見られない。	konogoro gudzirjaga mirjaram
119-2	※私は今日はテレビは見ない。	wanna kju:ja terebija mirjam
120-1	※昨日はクジラを見た。	kʔijuja gudzirja miŋi
121	お前も見たかったら見ろといって、孫に見させた。	uram mi:buŋarba miriŋi iŋi magan mijitado:
122-1	※池地は猫のことをミヤッチュと言う。	ikidzija nekōn kutu mjatŋuddija:
122-2	※私が言おうね。	wa:ga jʔu:ji:
123	兄は何も言わない。	aŋoja nuŋim jʔam
124	お母さんは弟に「あやまれ」と言った。	ammaja ututun nēgē sērēŋi iŋam
125	兄は弟に「いたずらするな」と言って、しかった。	aŋoja ututuŋna tēmūkar sēnnaŋi iŋi iŋam
126	弟は兄に「ばか」と言ってしまった。	ututuja aŋon bakaŋi iŋarba
127	蝉はすぐに死ぬ。	amagakka sugu ŋiŋuddo:
128	人に「死ね」って言ってはいけない。	ŋʔun ŋiŋiŋi iŋiŋa ikjando:
129-1	※蜘蛛はすぐには死なない。	kubuja suguŋna ŋiŋando:
130-1	※去年は日照りの年でカエルがたくさん死んだ。	kuduja ŋidorduŋnati bikʔiga waro ŋidzi
131	暑くて、家のネコも死んでしまった。	tirŋati jan mjam ŋidzarba
131-1	※家のネコが死んで子供がかわいそうがって泣いた。	jan mja:ga ŋidzi kʔwa:ga kʔimofagēsa ŋi naŋi
132	この村には港がある。	kun buraknaŋna ŋunatikibaga am
133	昔島には製糖工場があった。	mukaŋ ŋimanana satajadorga ati
134	製糖工場のあったところに学校を建てた。	ŋeito:ko:ban atan doronan gakko: tʔukti
135	お金があればなんでも買える。	kanisai arba nu:dīm ko:rīm
136	今日はお金が無いから買いたくても買えない。	namaja kaniga nēŋkaran ŋuŋatīm ko:ram

137	人の命は金では買えない。	ʃʷun inotʃa kanĩʃĩŋa ko:ram
138-1	※金があっても喜ぶな。	kanĩga amʃĩʃĩ jurkubna
138-1	※金がなくても残念がるな。	kanĩga nẽmʃĩʃĩ kʷujamnajo:
140-1	※人間の良し悪しはいずれ分かる。	ʃʷu:nu jĩʃawassaja atoja wakajum
141	塩がない。	maʃon nẽmba
142	かまどの上にあったよ	maʃoja kamadon wʷi:nan atado:
143	砂糖もなかった。	satam nẽntadija:
144	無ければわたしが買ってこよう。	nẽmba wa:ga ko:tĩ kjo:mĩ
145	座敷には人がたくさんいる。	daʃĩknaŋa ʃʷu:ga waro ur
146-1	※もうしばらくあそこにいてください。	ja: ittuk amanan omojotĩ taborẽ
146-2	※しばらく台所にいてくれ。	ja: ittuk annan utĩ kʷurĩrĩ
147	さっきまで座敷に人がいた。	saggadi daʃĩknan ʃʷu:ga utamundo:
148	座敷にいた人たちがみんな帰った。	dasʃĩknan utan ʃʷu:ja gotto modotĩ
149	みんなかえって今はだれもいない。	gotto modotĩ tarum uram
150-1	※私たちの若いころは 名瀬まで歩いた人がいた。	wa:kja wa:san koroja nasẽgadi atʃan ʃʷu:nu utado:
151	兄はお父さんに言われたら、何でもする。	aŋoja ʃʷanun jʷa:rba nu:dĩm ʃom
152	兄は言われなければ、何もしない。	aŋoja jʷa:rba num sẽrando:
153	兄はしなさいと言われたから、 畑仕事をした。	aŋoja sẽrẽʃĩ jʷattĩ hatĩkadĩ ʃĩ
154	お父さんは兄に畑仕事をさせた	ʃʷanna aŋon hatĩkadĩ ʃĩmitĩ
155	休んでないで仕事をしろ。	jo:tĩbẽri uraŋganuʃ ʃikʷussẽrẽ
156	木の葉が詰まって 溝の水が流れない。	kĩn ʃaga tʷumatĩ midzumĩdga nagarẽram
157	お母さんが兄さんに木の葉を取らせて 水を流れさせた。	ammaga aŋon iʃĩ kĩnʃa turatʃĩ midzon mĩt nagatʃam
158	兄さんは木の葉を取って水を流れさせた。	aŋoja kĩn ʃa tutĩ midzon mĩt nagatʃam

159	ようやく(やっと)水が流れた。	jatto mīdga nagaritam
160	この井戸水は飲めない。	kun igawamitta numaram
161	誰でもこんなにたくさんの水は 飲みきれない	tarum kassan mitta numk [?] irjam
162	あく抜きした蘇鉄は食べられる。	aknuk fan fenna kamarim
163	腐った肉は食べられない。	kusarētun nik [?] uja kamaram
164-1	※まだ残っているけど食べれる？	nama no:tumun kamik [?] ijna
165-1	※もうお腹がいっぱいになって 食べきれない。	na: watan mitfī kamik [?] irjam
166-1	※たくさんお茶を注いでくれ。	u:.u:tu ŋa: iritī k [?] urīrī
167-1	※湯が沸くまで待ち遠しい。	ju:nu waggadī matnagēsa
168-1	※子どもには見せたくなかったけど、 見るって聞かなかったから、見せた。	warabijna mifibufika nēntamun mirjumfī kikjantaŋkaran mifitī
169	三味線を弾いて友達に聞かせる。	samfer çitfī duŋin kikjaŋfī
170	おととい買った服を赤ちゃんに着せる。	uttī ko:tan ŋuk [?] uba akaggwan kosētī
171	おばあさんは自分が買った服を お母さんに頼んで赤ちゃんに着させた。	haŋnija ko:tī ŋ [?] an ŋuk [?] uba amman iŋfī akaggwan kosēraŋam
172-1	※祖母が自分で着せたいと言ったので、 祖母に着せさせた。	haŋniga kosēbufamfī iŋfattu haŋnin kosēraŋam

徳之島伊仙町方言（面縄・検福）の動詞活用資料

加藤幹治（東京外国語大学大学院博士後期課程・日本学術振興会特別研究員）

1. はじめに

本稿では、徳之島伊仙方言（検福・面縄集落）の動詞活用について報告する。まず言語と資料の概要について簡単に述べたあと、動詞活用の例文資料を提示する。

2. 言語の概要

伊仙町は奄美群島の一つである徳之島の南部に位置し、中でも検福集落と面縄集落は東南部に隣接して位置する（図1）。

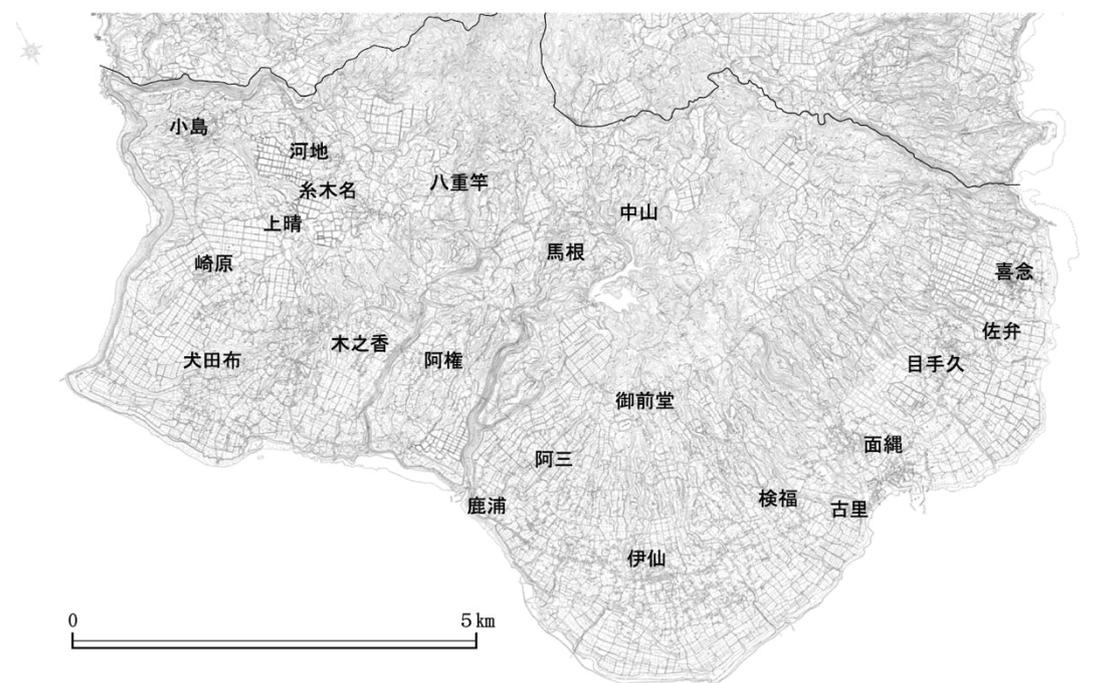


図1. 伊仙町の集落の位置（伊仙町地域文化遺産総合活性化実行委員会（編）(2015)p.13, 図16「集落の位置」）

徳之島方言は系統的に日琉語族・琉球語族・北琉球語群・奄美語に属する（cf. 上村 1997、Pellard 2015、中本 1984）。管見の限り、奄美語内部での他方言との系統的關係に関しては定説がない。伊仙方言の徳之島方言内における類型論的位置づけに言及した研究には、北西・東・南の3群のうち南群に属するとするもの（崎村 1983）と、北・南の2群のうち南群に属するとするもの（平山 1966）がある。ただし、島内での系統的位置づけに言及した研究は管見の限り存在しない。

筆者の臨地調査から見ると、40代より若い住民同士が伝統的な伊仙方言で会話することは稀であり、薩隅方言と伊仙方言に影響を受けた共通語を使用することがほとんどである。60代以上同士の会話は、公的な場面を除き、伝統的な伊仙方言で行われる事が多い。町内では、「島口つこわデー」（伊仙方言を用いる日）などの方言保存運動があるが、若年層同士の会話が日常的に伝統方言で行われるにまでは至っていないようである。

伊仙方言に関する先行研究を年代順に列挙する。平山 (1966) は分節音韻論・語アクセント・代名詞・動詞屈折の基礎的記述を行っている。崎村 (1981) は語彙集・談話資料・語アクセント・動詞屈折の記述を行っている。Kato (2019) は音韻論・形態論・統語論・語彙集・談話資料の記述を行っている。加藤 (2020) は音韻論・形態論・統語論の記述を行っている。また、琉球諸語に関する総説の一部で伊仙方言が触れられているものとして、仲宗根 (1961) と山田 (1984) が挙げられる。

3. 伊仙方言の音韻論・動詞形態論の概要

伊仙方言は a, i, u, e, o, i, ε の 7 つの母音を持つ。子音は p, t, c, s, k, h, b, d, z, g, m, n, j, r, w, tʰ, kʰ, nʰ, mʰ, jʰ, wʰ の 21 個である。/t/は無声歯茎破裂音、/c/は無声歯茎破擦音、/tj/は無声歯茎硬口蓋破擦音の系列である。名詞アクセントは 3 型である。動詞アクセントは高起/低起の 2 型である。音節構造は単純で、CGVC が最大の形である。ただし、音節末に現れる子音は促音、撥音のみである。

伊仙方言の動詞形態論は、語幹のクラスを 11 種類 (t, s, k, b, g, m, n, j, r, w と不規則) に分けられるという点において、他の奄美諸方言および徳之島方言に比べ単純である。例えば、白田 (2016) は、喜界島上嘉鉄方言の動詞を、その活用によって 20 のクラスに分類している。11 種類の語幹は、大きく分けて子音語幹の規則変化動詞 (規則動詞のうち、j 語幹「煮る」nii 「見る」nii は母音語幹の弱変化動詞と分析することもできる) と不規則変化動詞に分かれる。動詞の活用体系に関しては、基本語幹・融合語幹・連用語幹・音便語幹の 4 つが接尾辞の要求により交替するという立場 (平山 1966)、語幹自体の交替は認めず、形態音韻規則によって表層形が現れるとする立場 (Kato 2019) と、語幹自体の交替は認めず、「脱落音便」を認める立場 (狩俣 2018、ただし北琉球語全般に対して) がある。

以下では、語幹の交替を認める平山 (1966) の立場から動詞活用を概観する。ただし、本稿では、融合語幹・連用語幹の別は認めず、これらをまとめて連用語幹と呼称する。動詞は、語根と派生接辞と屈折接辞からなる。語根と屈折接辞はいかなる場合でも必須の要素である。屈折接辞には、命令 1 -i、命令 2 -ee、禁止 -una、意志勧誘 -a、中止 -i、否定条件 -ama、並置 -aari、連体 -n、連用 -i、強調 -ru が存在する。ただし、強調形を持たない話者も多く、その場合係り結びは起こらない。派生接辞には、使役 -as、受身可能 -ar、進行 -ur、否定 -a/ada、非過去 -jur、過去 -ar が存在し、この順番に承接する。ただし、進行 -ur と非過去 -jur は共起しない。これらの接尾辞のうち、連用 -i は連用語幹を、中止 -i、並置 -aari、過去 -ar、継続 -ur は音便語幹を、それ以外は基本語幹を要求する。どの語幹クラスがどのような交替語幹を持つかを表 1 に示す。

表 1 交替語幹の一覧

語根	基本	連用	音便	語根	基本	連用	音便
打つ (t)	ut	utj	utj	読む (m)	jum	jum	jud
飛ぶ (b)	tub	tud	tud	死ぬ (n)	sin	sin	sizj
書く (k)	kak	kak	katj	居る (r)	ur	ur	ut
為す (s)	nas	nas	natj	煮る (j)	nj	nj	nitj
漕ぐ (g)	kug	kug	kuzj	買う (w)	koow	koo	koot

4. 動詞活用資料の概要

動詞活用資料は、w 語幹動詞 kooi「食べる」、不規則変化動詞 kii「来る」、j 語幹動詞 nii「煮る」の動詞活用を詳細に調査したもの、「どこでも漁をするときは男が船を漕ぐ」から始まり様々の動詞の活用を数個ずつ調査したものの4点を掲載する。

4点のうち「煮る」のみ琉清孝氏（検福集落、男性、1955年生）から収集したもので、それ以外の3点の調査票は全て赤塚文子氏（面縄集落、女性、1936年生）から収集したものである。

動詞活用資料では、音節境界を明示的に示す必要がある場合にピリオドを用いた。例えば、wanja(私は)をワニヤと読ませないために、wan.jaと表記した。この用法の場合、ピリオドは常に語中に置かれる。また、文の終わりもピリオドで示した。この用法の場合、ピリオドは常に語末に置かれる。

参照文献

- 平山輝男 (1966) 『琉球方言の総合的研究』 明治書院.
- 伊仙町地域文化遺産総合活性化実行委員会 (編) (2015) 『伊仙町の文化遺産: 伊仙町における奄美遺産悉皆調査報告書』
- 狩俣繁久 (2018) 「琉球語の動詞活用形の歴史的变化」, 「フィールドと文献から見る日琉諸語の系統と歴史」 シンポジウム発表資料, 2018年12月23日, 国立国語研究所.
- Kato, Kanji (2019) A sketch grammar of the Isen dialect of Tokunoshima, Amami. Master's thesis, Tokyo University of Foreign Studies Graduate School.
- 加藤幹治 (2020) 「徳之島伊仙方言文法概説」 『言語・地域文化研究』, 26: pp. 211-227. 東京外国語大学.
- 中本正智 (1984) 「南島方言の概説」 飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一 (編) 『講座方言学 10 沖縄・奄美地方の方言』, pp. 1-79. 国書刊行会.
- 仲宗根政善 (1961) 「琉球方言概説」 東条操 (編) 『方言学講座 4』, pp. 20-43. 東京出版.
- Pellard, Thomas (2015) The linguistic archaeology of the Ryukyu islands. In: Heinrich, Patrick, Shinsho Miyara, and Michinori Shimoji (eds.) *Handbook of the Ryukyuan languages: history, structure, and use*. 11 of Handbooks of Japanese language and linguistics. 1337. Berlin/New York: Mouton de Gruyter.
- 崎村弘文 (1981) 「徳之島の方言 1 伊仙町目手 久方言の実態」 『鹿児島大学文科報告第1分冊哲学・倫理学・心理学・国文学・漢文学篇』, 17: pp. 1-19.
- 崎村弘文 (1983) 「徳之島の方言 3 徳之島町亀津方言の実態」 『鹿児島大学文科報告第1分冊哲学・倫理学・心理学・国文学・漢文学篇』, 19: pp. 1-17.
- 白田理人 (2016) 「琉球奄美喜界島上嘉鉄方言の文法」, 博士論文, 京都大学.
- 上村幸雄 (1997) 「琉球列島の言語 0 総説」 亀井孝・河野六郎・千野栄一(編) 『日本列島の言語』, pp. 311-354. 三省堂.
- 山田実 (1984) 「奄美諸島(属島)の方言」 飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一(編) 『講座方言学 10 沖縄・奄美地方の方言』, pp. 151-167. 国書刊行会.

徳之島伊仙町面縄2019年11月8日調査、赤塚文子、1936年生、女		
1-1	本土の人もニガウリを食べるの？	jamatuntjuma gaura kooiga
2-1	うん、本土の人はニガウリは食べない。	aran jamatuntjuja gauraja koowan
3	我が家では、夏になったら、毎日ニガウリを食べる。	wakkja jaananti nacunen icima gaura kooi
4	今日の朝ごはんは何を食べたの？	kjuuja insjarunen nuu kootanga
5	冬瓜を食べた。	toogan kootan
6	姉さんは食べなかった。	wakkja akaja koowadatan
7	このサトイモは誰が食べるの？	kun un.ja tanga kooi
8	姉さんがこそ食べるんだ。私はたべない。	akagadu kooi. wan.ja koowan
9	お前が天ぷらを全部食べただろう？	uraga tenpura muuru kootanwaa
10	私は一つだけ食べたんだよ。	wan.ja tindu kootan
11	残ったテンブラは、全部母さんがこそ 食べよったんだ。	nukutan tenpuraja muuru amagadu kootan
12	父さんもバナナ食べるかなあ。	azjama basja kooigajaa
13	父さんも食べるだろう／食べるはず。	azjama kooisaree/kooihazi
14	お前もバナナを食べるだろう？	urama basja kooi saree
15	誰がお菓子を食べたのかなあ。	taruga kwasi kootangajaa
16	お菓子は妹が食べただろう／食べたはず。	kwasiya uttuga kootanhazi
17	そこに置いた魚は誰が食べよったの？	umanan atan j'uu taruga kootanga
18	犬が食べよったのかな。	inga kootangajaa
19	隣の猫が食べよったはずよ。	tunarinu majuga kootanhazidaa
20	食べるなっていったのに、食べたのか？	koounatji itjamun kootanga
21	兄さんが食べよったから、私も食べたんだよ。	miiga kootutamunaati wanma kootan
22	兄さんが食べよったの？本当なの？	miiga kootanga? hontosee?
23	兄さんは三つも食べよった。	miija miicuma kootan
24	ねえさんも食べよっただろう？見たらどう？	akama kootjutanzjaroo? nitjutagajaa?
25	昨日食べたソバはおいしかった。	kinjuu kootan soba maahatan
26	今日も一緒に食べよう。	kjuuma mazin koowadi
27	今日は名護に食べに行こう。	kjuuja nagoka kooiga ikadi
28	ご飯を食べながらテレビを見るな。	munu kamigatjanan terebi njuuna
29	もう片付けるから、急いで食べる。	j'aadu katazikirjumunnaati ida kooweehee
30	ぜんぶ食べるまで待ってちょうだい。	muuru koojuntee matji kuirehee
31	お前が 食べきれないなら、俺が食べよう。	uraga kooikiranmun waga koowa

32	これは 私が 食べる。	kurija waga kooi
33	食べるなら残すな。残すなら食べるな。	kooi natika nukusuna. nukusi naatika koouna
34	明日食べるコメを買ってきて。	attja koojun kumi kooti tjii
35	おじいさんはご飯を食べて薬を飲みよったか。	hussjuja mun kooti kusuri nudanga
36	おばあさんは昼ごはんを食べて、それから畑に行った。	hansjarija assi kooti, umakara hattee izjan
37	兄さんは昼飯を食べてから畑に行った。	mijja assi kootikara hattee izjan
38	明日もサシミを食べるから、買って来い。	attja namasi koojumun kaati tjii
39	今日食べたから、明日は食べなくてもいい。	kjuu kootaatu attja koowadima jutan
40-1	※飯を食べると眠くなる	uban kootika agumaaku nari
41-1	子供はご飯を食べないと大きくなる	waarenkajaja uban koowama hutoran
42-1	加藤さんは食べ物を食べても太らない	katoosan.ja mun kootima hutoran
43-1	腐ったものを食べれば腹が痛くなる	kusaritamun kootika wata jami
44-1	カビが生えたものを食べたのに腹が痛くならなかった	koozi meetamun kootasiga wata jamadatan
45	クワンソウを 食べなかったのに よく 眠れた。	
46	私は、クワンソウを食べなくても眠れる。	
47	肉は よく 食べるのに 野菜は ぜんぜん 食べない。	antjuja sisi juu koojunga jasee mattaku koowan
48	今日買ったキャベツはおいしいから、食べてみる。	kjuu kootan kjabecu maamunnaati kootjinii
49	その腐った豆腐は食べるな。	un kusariton toohu koouna
50	何故 ヤギ汁を 食べないの？ おいしいくないの？	nuu naati jaagiziru koowanga? maakunenga?
51	腹いっぱいだから 食べないんだ。ヤギ汁は好きだよ。	wata mitjunmunnaati koowandaa. jaagiziruja sukkjun
52	姉さんも食べなかったらう／食べなかったはず。	akama koowadatan hazi
53	お腹が痛かったから、食べなかったんだよ。	watanu jamjunmunnaati koowadatanhazidaa
54	お前もヤギ汁は食べないんだろう？	urama jaagiziru koowanjaroojaa
55	父さんも食べないだろう／食べないはず。	azjama koowanjaroo
56	父さんはヤギ汁を食べないかなあ。	azjaja jaagiziru koowankajaa
57	もし おまえが 食べなかったら ヤギ汁は 残るだろう。	uraga koowadatika zaagiziru noorizjaroojaa
58-1	※本土の人はニガウリを食べないの？	jamatuntjuja gaura koowanga?
59	食べるっていったのに、食べなかったのか？	koowitji itjamun koowadatija
60	粥が残っているけど、誰が食べなかったの？	okaisan nooritunsiga taruga koowadatanga
61	お前もお粥を食べなかったんだろう？	urama okaisan koowadatansee
62	何故、お菓子を食べなかったのかなあ。	nuunaati kwasi koowadatangajaa
63	誰も 食べないのに 芋を 煮た。	taruma koowamun jan waatji

64	誰も食べない物は買ってはいけない。	taruma koowanmun kootika ikan
65	ぜんぶ食べないうちに 片付けられた。	muuru koowan utji katazikiratti
66-1	※ご飯を食べなかった子にはお菓子をあげない	mun koowadatan kwaaninja kwasi neeran
67	おじさんは夕ご飯を食べないで眠ろうとしていた。	hussjuja juuwahi koowadi nimbitji sjuuti daa
68	今日は肉を食べないから、買って来るな。	kjuuja sisi koowamunnaati kootikuuna
69	昨日魚を食べなかったから、今日は食べよう。	kiinju j'uu koowadatanmun kjuuja koowadi
70	残したらもったいないから、食べないなら炊くな。	nootjika ikan koowamun cukuruna
71	もし おまえが 食べないなら ご飯は 炊かないよ	uraga koowadatika uban waasan
72	お祝いのごちそうは、私が食べる前に 無くなっていった。	gotjisooja waga koojunmee muuru kootan
73	姉さんが東京から来る。	akaga tookjookara kii/kiidaa
74	姉さんは いつ 来るの。(明日、来る。)	akaja ici kiigaa (attja kii)
75	姉さんの旦那(夫)も来るの?(うん、来るよ。)	akaga wutuma kiijaa? (un kiidaa)
76	姉さんたちが来るから、孫も来るだろう。	akata kiinati maagama kiizjarooodaa
77	孫たちが来たら、いっしょに遊ぼう。	maagankjanu tjiika mazinnan asiba
78	大阪の兄さんは来ないだろう/来ないはず。	oosakanu miija kunjjaroojaa
79	なぜ 来ないの。	nuunaati kii arangajaa/kungaa
80	忙しいから、来ないんだ。(来たくないわけじゃない。)	isjugamunati kunjaree (kiitjakunen ja aransiga)
81	姉さんたちが来るなら、ご馳走をつくっておこう。	akataga kiinatikara maamunkja cukutukaja/cukutukanbaja
82	おじさんも来ないの?	uzima kiiaran.jaa
83	うん、おじさんは仕事があるから、来ない。	un uzija sigjutunu anmunnati kun
84	おじさんが来ないから、おばさんも来ない。	uzinu kundan uubama kun
85	姉さんたちは空港からバスで来るんだ。	akataja hikoozjookara basusi kiidaa
86-1	*姉さんたちが来ないうちに家の中を片付けよう	akataga kun utjin jannaa katazikira
87	孫たちが来たから、一緒に遊んだ。	maagankjanu tjaatu mazinnan asidi
88	姉さんたちは飛行機で来て、船で帰った。	akataja hikookisi tjii hunisi izi/izjan
89	いどこにも来っていったのに、来なかったのか?	itokonima kuutji tjamun kuudatijaa?
90	いどこは来月沖縄に来てから、仕事を探そうだよ。	tokoja raigecu naawaka tjiiigeekaara sigjutu tumiri janbee
91	あさっては、家にいないから、来るな。	asatija jaanan uramunnati kungon see
92	今日は来なくてもいいって言ったのに、来たのか?	kjuuja kuudati t'antji itjamun tjijjaa
93	なぜ、来たの。	nuunaati/nuusiga tjanga?
94	急ぎの用事があったから、来たんだよ。	isjugarjun juuzinu atatu tjandaa
95	昨日は来なかったんだろう?	kiinuja kuudatan hazi zjaga

96	なぜ来なかったの？	nuunaati kuudatanga
97	忙しかったし、頭も 痛かったから、来なかった。	isjugaati ukkanma jamjutaatu kuudati
98	しあさっては君も来るだろう？	attjaasatija urama kjun zjaroojaa
99	サンバ、今年は 来なかったねえ。	t'aaja kutusija kuudatanwajaa
100	何故、来なかったのかなあ	nuunaati kuudatangajaa
101	今年は台風が多かったから、来なかったんだよ。	kutusi kazinu huuwatatu kuudatandaa
102	サンバ、来年は 来るかなあ。	t'aaja jaanija kjuuruwaa
103	もうサンバは来ないかなあ。	n'jaa t'aaja kunwaa
104	サンバ、去年は来よかったよ。	t'aa kuuzuja tjuutasiga
105	そうか。来よかったんだ。(私は見なかったけど)	ugasi tjuutandaa (wan.ja njaadatasiga)
106	いつ来たのかなあ。	icinben tjanga jaa
107	だったら、今年は、来なくても、来年はくるかもしれない。	ugasi jaatika kutusi kuudatima jaanija kjuunga daara wakaran
108	今年は来なかったのに 来年は来るの？	kutusija kundatasiga jaanija kiiija
109	むかし、来なかった年もあったよ。	mukasi kuudatan tusima atandaa
110	郵便屋はさっき来たよ。	juubinhaitacuja saki tjandaa
111	郵便屋は来よかったの？本当なの？	juubinhaitacuja tjanwaa?/tjuutijaa? huntoja?
112	郵便屋が 来よかったから、手紙があるんだよ。	juubinhaitacuga tjankja/tjankjadu tegaminu andaa/anzjaroojaa
113	誰も 来ないのに 店を開けているの。	tanma kunnungan eeturijaa
114	客が来るなら 店を開ける。	kjakunu kjuutikara mise eeri
115	もし 客が 来ないなら 店を閉めよう。	mosi kjakunu kuudatikara misi kuuwa
116	夕方には客が来るだろう／来るはず。	kurigurinija kjakunu kjunzjaroojaa
117	今から来る人にはサービス(おまけを)しよう。	j'aakara kjun tjuunen.ja makira
118	何人、来よかったの？	ikutaari tjanga
119	私が言った通り、来よかったらう？	waga itjanganesi/itjantuuri tjaarajaa
120	うん、昨日、来た人が今日も来よかった。	un kiinu tjan tjuunu kjuuma tjii/tjuutan
121	夜になって 誰も来なかったから、閉めた。	juuru natatu tanma kuudatatu kuuti
122	以前からサービス(おまけ)をしていれば、客はもっと来よかったらう	meeekara makitutika kjakuja n'jaanin kjuutan zjaroojaa
123	サービス(おまけ)していたら、来よかったのかな。	n'antan makitatika kjuutanwaa
124	うん、もう少しは客が来ただろう／来たはず。	un n'jangwa/n'jaaningwaja kakjunu kjuutaroojaa
125	客が 来ない 店は つぶれる。	kjakunu kun misija cuburiri
126	あの子は学校に来ないで、家で休んでいる。	ankwaaja gakkooka kungon jaananti jasuduri
127	学校に来ながら、友だちの家に行ってみた。	gakkooka kiigatjan dusin jaa iziniitji

128	友だちを連れて学校に来い。	dusi sooti gakkooka kwaa
129	島に来なければ、島のいいところはわからない。	simaka kunba simanu ii tooka wakaran
130	船が来るまで港で待とう。	huninu kjuntan minatonanti mata
131	もし バスが 来なかったら タクシーに乗ろう。	mosi basunu kuudatika takusiinan nura
132	せっかく島に 来たのに 雨ばかり降っていた。	tamatama simaka tjanmun am iben hututi
133	来年も二人で一緒に来よう。	jaanima wanten mazinnan kuudee
134	私たちが来れば、太郎も来るって言っていたよ。	waakjaga tjiika tarooma kiiitji itjutandaa
135	来年 来れなくても、再来年は みんなで来よう。	jaani kuuradatima j ² aaintju muurusi kuu
136	魚をたくさん釣って楽しかったから、来年も来よう。	j ² uu teegee waatji miziraatatu jaanima kuu
137	あいつは友達が家に来ても、お茶も出さない。	anmun.ja dusinu jaaka tjanten tjaama izjasan
138	あいつは 友だちが 来るのに お茶さえ出さないのか？	anmun.ja dusinu kjunmun tjaatjon izjasamun.jaa
139	だから、今までだれも来なかっただろう／来なかったはず。	ugasinati j ² anten tanma kuudatanzjaroojaa
140	おまえ昨日も来ただろう？(うん、来たよ。)	ura kiinuma tjaarajaa (un tjandaa)
141	明日は来ないんだろう？(うん、畑に行くから来ない。)	attjaja kun zjaroojaa (un hatteeka ikinati kuuraran)
142	子どもが来ない前(来る前に)に お菓子を用意しておこう。	waarenkjanu kunmεε kwasinkja jooi sjunka
徳之島伊仙町検福 2019年11月15日調査 琉清孝 1955年生 男		
143	今日は何を煮るの？	kjuuja nuu niiga
144	今日は、昨日掘ったサツマイモを煮る。	kjuuja kiinu hutan jan niida
145	この鍋で煮るの？	kun naabisi niijaa?
146	うん、小さいからその鍋では煮ない。	kun naabija gunjamunnaati nii aran
147	どうやってたくさんサツマイモを煮るのかなあ。	ikjasi teegee jan niigajaa
148	今日はいかぼちやを煮ないの？	kjuuja tocciburu nii aran.jaa?
149	昨日煮たから、今日は煮ないんだ。	kiinu nitjaatu kjuuja niarandaa
150	冷蔵庫に豚肉があるのに 何故煮ないの？	reezookonan w ² aasiga anmun nuunati njanga
151	きのうも豚肉だったから、今日は豚肉は煮ないんだろう？	kiinuma w ² aasisi jatatu kjuuja w ² aasi niianandaa
152	大根も一緒に入れて煮ないかなあ。	deekuninma mazin iri nii anan.jaa
153	ゴボウは煮ないだろう／煮ないはず。	gobooja nii anansanee/nii ananhazi
154	そうか、好きじゃないから、ゴボウは煮ないんだ。	ugasija sukamunnati nii anandaa
155	今日 煮ない豚肉は 冷蔵庫に 入れておけ。	kjuu njan w ² aasija reezookonen irituki
156	今日の里芋は誰が煮たの？	kyuunu janja taruga nitjanga
157	その里芋は 母さんが 煮たんだ。私じゃないよ。	un un.ja amaga nitjanhazi. wan anandaa
158	母さんが煮たんだろう？	amaga nitjan

159	母さんが 煮た 里芋は おいしかったねえ。	amaga nitjan un.ja maahatandaa
160	豚肉が冷蔵庫にあるけど、何故豚肉を煮なかったの？	w'aasi reezooko atamun nuunati w'aasi njaadatanga
161	鶏肉が食べたかったから、鶏肉を煮た。	turin kooitjaatatu turi nitjan
162	鶏肉は煮たけど、豚肉は煮なかった。	turija nitjansiga w'aasija njaadati
163	昨日も豚肉を煮たから、今日は煮なかったんだろう？	kiinu w'aasi nitjaasiga kjuuja njaadatijaa
164	一昨日も豚肉だったから、昨日は煮なかったんだよ。	uttija w'aasi jatatatu kiinuja njaadatandaa
165	もし おばあさんが 煮ないなら 誰が 煮るの？	hussjuga njaadatika tanga niiga
166	姉さんが煮るだろう／煮るはず。	akaga nii saree/njuuhazi
167	お前も時々は煮るだろう？	urama niisaree
168	何故、豚肉は煮なかったのかなあ。	nuunaati w'aasi njaadatangajaa
169	誰がカボチャを煮たのかなあ。	tanga toociburu nitjanga
170	そのカボチャは母さんが煮ただろう。	un toociburuja amaga nitjan hazi
171	姉さんは煮なかっただろう。	akaja njaadatan hazi
172	母さんが煮るカボチャは甘くておいしい。	
173	母さんが煮れば、みんな残さず食べる。	amaga nitjika muuru noosangon koojun
174	鍋にあったトウガンは誰が煮よったの？	naabini atan siburi taruga nitjanga
175	さっき台所にいた姉さんが煮よっただろう。	sakintee situbinan utan akaga nitjan hazidaa
176	サトイモを煮ろっていったのに、煮なかったのか？	un niitji itjamun nuunanti njandatanga?
177	兄さんが煮よったから、私は煮なかった。	miiga waatjatatu wan.ja njandati
178	兄さんが煮よったの？本当なの？	miiga waatjija? hontosee?
179	兄さんは食べきれないくらい煮よった。	miï kooikiransanben nitjaatan
180	何故あんなにたくさん煮よったのかな。	nuunaati agasangan teegee nitjangajaa
181	里芋を煮ながら テレビを見るな。	un niigatjanaan terebi niitjika ikandaa
182	ぜんぶ煮ないうちに 火が消えた。	muuru njan utjin m'aaciga kiiti
183	ゴボウは煮るなっていったのに、煮たのか？	goboo niitjika ikan tji itjamun nittjija?
184	誰も 煮ないのに 魚を 買ってきた。	tanma njanmun j'uu kooitjii
185	魚を煮ないで、何を煮るの。	j'uu njangon nuu niija
186	少しか 煮なかったのに 柔らかく なっている。	njangwasika njaadatamun teegee jawaraaku naturi
187	タコは煮る前に 塩で揉んでから煮ると柔らかくなる。	tooja njunmee maasjusi mudikara nitjika jawaraaku nari
188	魚を煮るなら、もう少し大きい鍋を使え。	j'uu niijatika n'angwa hutteejan nabi cukowi
189	母さんもそうやって煮よっただろう？見ただろう？	amama ugasi nitjazaroojaa
190	今日は 豚肉は 煮ないから、買って来るな。	kjuuja w'aasi njanmunnanti kooiti kuruna

191	昨日は、煮なかったから、今日煮よう。	kiinu njaadataatuja kjuu njaadi
192	大根は、肉も入れて煮なければ、美味しくない。	deekunija w'aasima iriti njandatika maakunendaa
193	もし おばあさんが 煮なかったら 誰も 煮ないだろう。	jatasi hansjariga njaadatika taruma njanhazi
194	おばあさんが煮ないなら、私たち二人と一緒に 煮よう。	hansjariga njaadatika wanten t'aarisi njaadi
195	今日は おまえが 煮ろ。	kjuuja uraga nitjinee
196	お前が 煮ないなら、俺が煮よう。	uraga njaadatika waga niidaa
197	これは 私が 煮る。煮よう。	kurija wanga nii
198	せっかく、私がサトイモを煮たのに誰も食べなかった。	waga un nitjamun taruma koowadati
199	魚ぐらいたまには自分で煮てみる。	j'unben jatika duusi nitjinee
200	魚を全部煮るまで待ってくれ。	j'uu muuru njunte matjuti kuiru
201	全部煮なくても家族の分はあるよ。	muuru njandatima jautjinu bun.ja andaa
202	魚を煮るなら、塩を少し入れろ。	j'uu nii jatika maasju njangwa niirama ikan
203	大根を煮てから、味噌汁も作った。	deekuni nitjigen misosiruma cukutan
204	父さんは自分で魚を煮て酢の物を作った。	azjaja duusi j'uu nitji sunomono cukutan
205	明日はゴボウを煮るから、買って来い。	attja goboo njunken kootikuu
206	肉とゴボウを煮たら、アクがたくさん出る。	w'aasitu goboo nitjika akuga teegee izirjun
207	弟が魚を煮ても、だれも食べない。	uttuga j'uu nitjima taruma koowan
208	その魚は腐っているから煮るな。	un j'uujja kusatumun naati nitjika ikandaa
209	大根は よく 煮るのに 冬瓜は あまり 煮ない。	deekunija juu njuusiga siburija j'anma njan
210	全部母さんがこそ 煮よったんだ。	muuru amagadu njandaa
211	トウガンはおばあさんがこそ煮るんだ。ほかの人は煮ない。	siburija hansjarigadu nitjaaru hukantjuja njandaa
212	雑炊を煮なかった日は、ご飯を炊いた。	doosuban njandatan dukin.ja uban tatjandaa

徳之島伊仙町面縄2019年11月8日調査、赤塚文子、1936年生、女		
1-1	※どこでも漁をするときは男が船を漕ぐ	daanantima j [?] uu turjun dukin.ja inganu huni kugi
2	若いときはみんなで舟を漕いだ。	waahan dukin.ja muurusi huni kuzi/kuzjandaa
3	今でも女は舟を漕がない。	j [?] aadu jaatima unaguja hunija kugan
4	今日は手が痛いので、舟を漕げない。	kjuuja tiinu jamjumnunati huniija kugaran
5	病気が治ったから、舟も漕げる。	jaminu nootatu hunima kugarjuri
6	明日も海へ行く。	attjama unka iki
7	父は天気が悪いときは海へは行かない。	azjaja tenkinu wassan dukin.ja unkaja ikan
8	昼間仕事をして、夜遊びに行った。	hirun eeja sigjutu sii juuruja asibiga izi
9	今日は叔父が家に来る。	kjuuja uzinu jaaka kii
10	叔母は来ない。	ubaja kii aran /ubaja kun
11	祖父は叔父に電話をしていこを 来させた。	hussjuja uzinen denwa sii itoko kusatjan/kuusatji
12	孫も来たがっていたので、来させた。	maagama kiitjantji itjaatu kuusatjan/kuusatji
13	叔父もいとこもバスから来た。	wuzima itokoma basusi tjii/tjan
14	崖の側は危ないから、子どもは来るな。	kanparanu subaja oosjamunnati waarenkjaja kun gon see
15	5月はよく雨降るねえ。	gogacuja juu ami hurjusaja/hurjuri
16	12月は雨降らないよ。	zjuunigacuja ami huran
17	昨日も大雨が降った。	kinuuma uuami huti/hutasaja
18	あ、雨 降ってきた。	a aminu huti tjii
19	大雨が降ったので、橋が流された。	uuaminu hutaatu hasinu nagasati
20	太郎は毎日学校の前でバスから降りる。	tarooja icima gakkoono meenanti basukara uriti
21	友人がさきにバスを降りた。	dusinu saki basukara uriti/uritan
22	このバス停では誰も降りない。	kumanu basuteenantija tanma uriran
23	熟したら、木の実は自然に落ちる。	udika kinnarija hantiri
24	青い実は木を揺らしても、落ちない。	aoka narija kii kuzima hantiran
25	木を揺らしたから、落ちた。	kii kuzjaatu hantiti
26	オスの馬もメスの馬も人を蹴る。	uu m [?] aama mii m [?] aama t [?] juu kirjuri
27	おとなしい馬は人を蹴らない。	jooringwa sjun m [?] aaja t [?] juu kiran
28	あのおとなしかった馬が人を蹴った。	an utunaatan m [?] aanu t [?] juu kiti
29	父は去年買ったものでも捨てる。	azjaja kuuzuu kootamun jatima hannaqiri

30	まだ使えるのにラジオを捨てた。	j'aadugan cukowarjumun razio hannnagiti
31	祖母はどんなに古くても、捨てない。	hansjarija ikjasi huruwaatima
32	父は壊れたラジオを弟に捨てさせた。	azjaja kunzutan razio uttunen hannaqiracjan
33	誰にも聞かないで、捨ててしまった。	tannema kikangon hannagiti
34	ノギリで枯れた木を切る。	noogirisi karitan kii kiri
35	きのう枯れた木の枝を切った。	kiinu karitan kiinu juda kitji/kitjan
36	おじさんが一緒に切ってくれた。	uzinu mazinan kitji kuiti
37	こわくて、誰もガジュマルを切らない。	utusjan tanma cinba kiran
38	穴はスコップで掘る。	miija sukoppusi huri
39	お父さんは掘るけど、お母さんは掘らない。	azjaja hurjusiga amaja huran
40	二人でとても深い穴を掘った。	t'aarisi ikjasi hukan miï huti/hutan
41	お父さんに頼んで兄さんにも掘らせた。	azjani tandi miinima hurasatji
42	木の実が熟したのに、祖父は自分では落とせない。	kinnarinu udamun hussjuja duusija hantusaran
43	祖父が父に言いつけて兄に木の実を落とさせた。	hussjuuga azjani iicikiti miinen kinnari utusatji
44	父が兄に棒で木の実を落とさせた。	azjaga miinen buusi kinnari utusatji
45	兄が熟んだ木の実を全部落とした。	miiga udan kinnari muuru ututji
46	掃除の時には荷物を外に出す。	soozinu tukija nimocu sutuka izjasi
47	弟も台所にあった荷物を外に出した。	uttuma sirubinan atan nimocu sutuka izjatji
48	祖母が母に言いつけてホースで水を流させた。	hansjariga amani iicikiti hoosusi mizi nagasatji
49	母が花子にホースで水を流させた。	amaga hanakonen hoosusi mizi nagasatji
50	父が兄に言いつけて祖父を起こさせた。	azjaga miini iicikiti hussjuu uusatji
51	父が兄に寝ている祖父を起こさせた。	azjaga miini nindun hussjuu uusatji
52	兄が寝ていた祖父を起こした。	miiga nindutan hussjuu uutji
53	弟は左利きだけど右手でお箸を持つ。	uttuja hidarikiki jaasuga migitisi hasi mutji
54	汁鍋はこぼれやすいから、片手では持つな。	siinaabi hankariri jaasamunnaati katatisi mucuna /siinaabi hankariri jaasamunnaati katatisi mutji ikandaa
55	おにぎりの入った重箱はお母さんが持った。	nigirinu hwettjan zjuubakoja amaga mutji
56	おばあさんにはお茶を持ってもらった。	hansjarinin.ja tjaa mutji moroti
57	おじいさんにはムシロを持たせる。	hussjuunija mussjuu mutasi
58	重いけどもって持てる？	ubuhaasiga n'aanin mutarjurijaa
59	あと一つだったら持てる。	atu t'in jaatika mutarjuri
60	いつも豚肉はお父さんが買う。	icima w'aasisija azjaga kooi

61	他には何も買わない。	hukanan.ja nuuma kooi aran
62	お父さんは昨日は野菜を買った。	azjaja kiinu jasseε kooti
63	明後日が給料日だから、明日は買えない。	asaatija kjuurjoobinaati attjaaja koowaran
64	明後日だったら欲しいものが買える。	asaatijaatikara husjamun koowarjun
65	お父さんは取ってきた魚を売る。	azjaja tutitjan j'uu uri
66	きょうは魚が少ないから、売らない。	kjuuja j'uunu ikkjaamunaati uri aran
67	昨日は私が取ったイカとタコを 売った。	kiinuuja waga tutan ikjatu too uti
68	その魚を安く売ってください。	un j'uu jasu jaasi uti kuirannaa
69	いつもおばあちゃんは私にお金をくれる。	icima hansjarija wannin kani kuirjuri
70	今日は弟にも1000円くれた。	kjuuja uttuninma sen jen kuiti
71	おじいちゃんは私に何もくれない。	hussjuuja wannin.ja nuuma ku iran
72	いつも漁師から魚をもらう。	icima ituman kara j'uu moroti
73	小さいカニは誰ももらわない。	gunjaka ganija tanma morowan
74	隣の家から大根ももらった。	subanu jaakara deekuni moroti
75	モズクをたくさんもらったからみんなに分けてあげた。	jassee teegee morotankja muuruni uiti neeti
76	喉が乾いたら水を飲む。	nuubinu kooracika mizi nomi
77	私の夫は酒を飲まない。	waa wutuja saki numan
78	叔父さんは病気だから、酒が飲みたくても飲めない。	wuzija bjookinaati saki numitjaatima numaran
79	ここの井戸水は飲める。	kumanu cingjoomizija numarjuri
80	お母さんが入れたお茶をたくさん飲んだ。	amaga iritan tjaa teegee nuudi
81	乗るなら飲むな。飲むなら乗るな。	nuri jaatika numuna numi jaatika nuran gon sii
82	お母さんは赤ちゃんにおっぱいを飲ませてあげた。	amaja baabaa t'jii numatji neetan
83	山羊もウシも草を食う。	jaagima usima kusa kami
84	山羊は濡れた草は食わない。	jaagija sittatan kusaja kaman
85	家で飼っている猫が魚を食べた。	jaananti cukanotun majunu j'uu kadi
86	父が取った魚を猫に食われた。	azjaga tutan j'uu majuni kamati
87	毎日暗くなるまで、外で遊ぶ。	icima kuraku narjuntee sutunanti asibi
88	暗くなったら、誰も遊ばない。	kuraku naatikara tanma asiban
89	昨日はいとことかくれんぼ／おにごっこして 遊んだ。	kiinu itokotu kakubweku sii asidi
90	弟は酒を飲むと、すぐに酔う。	uttuja saki nuudika sun juuguriri
91	昨日も酒を飲んだので、酔った。	kiinuma saki nudatu juuguriti

92	兄はどんなに飲んでも酔わない。	miija ikjasaa nuudima juuguriran
93	彼は酔って、寝ている。	kun tʔjuu ja juuguriti ninduri
94	少ししか飲んでいないのに、酔ってしまった。	nangwadu nudamun juuguritiee
95	汚れた皿とお椀はお父さんが洗う。	jungwitan tjawansaraja azjaga aroi
96	私は兄さんに鍋を洗ってもらった。	wan.ja miini naabi aroti moroti
97	兄さんが私の代わりに洗ってくれた。	miiga waa kawari aroti kuiti
98	お母さんは料理を作るから、洗わない。	amaga rjoori cukurinati arowan
99	暑いときは帽子をかぶる。	acihan tukin.ja kubagasa kanbi
100	今は誰もくば笠をかぶらない。	jʔaaja tanma kubagasa kanban
101	昔はみんなくば笠をかぶった。	mukasi muuru kubagasa kandutti
102	いとこたちには帽子をかぶらせた。	itokonkjanin.ja boosi kanbatji
103	私は毎年孫たちにお年玉を上げる。	wan.ja mainen maagankjani otosidama neeri
104	去年はみんなに千円ずつ上げた。	kuuzu.ja muuruni sen.enzucu neeti
105	来年は二千元ずつ上げよう。	jaanija nisen.en zucu neeradee
106	お菓子も買ってあげよう。	kwasima kooti neera
107	祖父は毎日6時に起きる。	hussju icima rokuzi uiri
108	昨日は9時に寝て、8時に起きた。	kiinuuja kuzi nindi katjizi uiti
109	5時には誰も起きない。	gozija tanma uiran
110	高校生は制服を着る	kookooseeja seehuku kiri
111	その服は古いから誰も着ない。	un hukuja huruhamunnaati tanma kiran
112	昔は自分で織った芭蕉布を着た。	muutuja duusi utan basjagin kiri
113	その子は二歳になったから自分で 服を着ることができる / 着れる	unkkwaaja tʔaaci natankja duusi huku kirarjuri
114	ざぶとんにはいとこが座る。	zabutonnan.ja itokoga iri
115	床にはだれも座らない。	itjawakanan.ja tanma iran
116	私たちはここに座るから、きみたちは向こうに座れ。	waakjaja kumanan irjunkin ukkja amazi iri
117	きみもざぶとんに座ってください。	urima zabutinnan itji taboore
118	毎日祖父は海を見る。	hussjuja un nii
119	最近クジラを見ない。	nʔanben gunzja njan
120	昨日クジラを見た。	kiinuu gunzja niitji
121	お前も見たかったら見ろといって、孫に見させた。	urama niitjaatikara nii itji maagani njaatji
122-	※ 「ありがとう」という。	oboradaani tji ii

123	兄は何も言わない。	miija nuuma j'an
124	お母さんは弟に「あやまれ」と言った。	amaja uttunen ajamari tji itji
125	兄は弟に「いたずらするな」と言って、しかった。	miija uttunen itazurasurunatji itji noroti
126	弟は兄に「ばか」と言ってしまった。	uttuja miini bakatji itjieee
127	蟬はすぐに死ぬ。	zijaasun sini
128	人に「死ね」って言うてはいけない。	t'juunen sinitji itjika ikan
129	ゴキブリはすぐには死なない。	anbamusija sun.ja sinan
130	去年はひでりでカエルがたくさん 死んだ。	kuuzuujaa aataranu teegee sizi
131	暑くて、家のネコも死んでしまった。	acihati waakjajaanu majuma sizjandaa
132	この村には港がある。	kun muranan.ja minatunu ari
133	昔島には製糖工場があった。	mukasi simanan.ja seetookoozjoonu ati
134	製糖工場のあったところに学校を 建てた。	seetookoozjoonu atan toonan gakkoo tatitandaa
135	お金があればなんでも買える。	kaninu arisee siikaa nuujaren koowarjuri
136	今日はお金が無いから買いたくても買えない。	kjuua kaninu nenmunnaati kooitjaatima koowaran
137	人の命は金では買えない。	t'juunu inutjija kanisija koowaran
138	有っても喜ぶな。	attima hooraa siina
139	無くても泣くな。	needatima nakuna
140	人間の良し悪しは後でこそ分かる。	t'juu juraa j'aahaja atunaatidu wakarjuri
141	塩がない。	maasjunu nen
142	かまどの上にあったよ	ziirunu miinan atandaa
143	砂糖もなかった。	satama needati
144	無ければわたしが買ってこよう。	neeradatika waga kooti kuu
145	座敷には人がたくさんいる。	zasikinan.ja t'juunu teegee uri
146	あなたはしばらく台所にいてください。	uraja ikkjutan ee suizibanan uti kuiranna
147	さっきまで座敷に客がいた。	sakintee zasikini t'juunu uti
148	座敷にいた人たちがみんな帰った。	zasikinan utan t'juu muuru kaeti
149	みんなかえって今はだれもいない。	muuru kaeti j'aa tanma uran
150	若いころは那覇まで歩いた人がいた。	waahan kuruja kamizuntee attjan t'juunu utan
151	兄はお父さんに言われたら、何でもする。	miija azjani j'attikara nuu jarenma sjuuri
152	兄は言われなければ、何もしない。	miija j'aaranba nuuma san
153	兄はしなさいと言われたから、畑仕事をした。	miija siitji j'attatu hate sigjutu sjandaa

154	お父さんは兄に畑仕事をさせた	azjaja miini hatesiqjutu saatji
155	休んでないで仕事をしろ。	jukuiben sangon sigjutu siijaa
156	木の葉が詰まって溝の水が流れない。	kinhwanu cumaati jinzjunu mizinu nagariran
157	お母さんが兄さんに木の葉を取らせて水を流れさせた。	amaga miinen kinhwa turaatji mizi nagasatji
158	兄さんは木の葉を取って水を流れさせた。	miija kinhwa tuti mizi nagarirjungane sjandaa
159	ようやく(やっと)水が流れた。	jaatokatu mizi nagariti
160	この井戸水は飲めない。	kun cingjoo mizija numaran
161	誰でもこんなにたくさんのは飲めきれない	tan jatanten kasingan teegenu mizi numikiran
162	あく抜きした蘇鉄は食べられる。	akunukisjan suticija koowarjuri
163	腐った肉は食べられない。	kusatan sisija koowaran
164	ソーキ汁まだ残っているけど食べれる？	seebuniziru j'aama nootusiga koowarjunsee
165	腹いっぱいだからもうこれ以上は 食べきれない。	watanu mittjumunaati n'jaa ugassangan kooi kiran
166	溢れるくらいお茶を注いでくれ。	anbirjun hudu tjaa cuzi kuire
167	湯が沸くまで待てない。	juunu wakjuntee mataran
168	子どもだから、見せたくなかったけど、見るといって聞かなかったから、見せさせた。	waarenkja naati nisiritjakuneedatasiga niitji itji kikadatatu njaatji
169	三線を弾いて客に聞かせる。	sansiru hitji dusinen kikatji
170	祖母が自分で着せたいと言ったので、仕方なく孫に服を着せさせた。	hansjariga duusi kusiritjantji itjankjaa sikatanengon maag ani huku kusiratji
171	おととい買った服を赤ちゃんに着せる。	uttii kootan huku baabaani kiratji
172	お婆さんは自分が買った服をお母さんに頼んで赤ちゃんに着せさせた。	hansjarija duunu kootan huku amani tandi baabaani kus iti

伊是名村諸方言（字伊是名方言、字勢理客方言）の動詞活用資料

當山奈那（琉球大学）

1 はじめに

本報告では、沖縄島の北方に位置する伊是名島の勢理客集落、伊是名集落で話される方言（以降、勢理客方言、伊是名方言と呼ぶ。また、伊是名島内の諸方言の総称として伊是名村諸方言を用いる）を対象とし、動詞活用の資料を掲載する。本報告内のデータは、伊是名村教育委員会と伊是名村内の方のご協力のもと、勢理客の勢理客老人クラブのみなさま（2019年12月21日、2020年2月10日）¹、字伊是名出身である H.S さん（2019年9月27、28日）への面接調査によって得たものを用いている。

2 伊是名島の概要

伊是名島は沖縄島の北方に位置し、今帰仁運天港の北 27.8km の地点にある。総面積 15,44 キロ平方メートルである。近接する伊平屋島よりも標高は低く、海岸に面して平坦な地形が広がっている。伊是名島が属する伊是名村は、伊是名島その他、屋那覇島、具志川島、降神島の三つの無人島からなっている。伊是名島には、伊是名（いぜな）、内花（うちはな）、諸見（しょみ）、勢理客（せりきゃく）、仲田（なかだ）の 5 つの字がある。このうち、内花集落は、昭和 19 年に勢理客、諸見から分立してできている屋取集落である。伊是名島へは、今帰仁運天港と仲田港との間を 1 日 2 往復する村営フェリーが交通手段となっている。2017 年 4 月時点での実人口は 1433 人（766 世帯）である（伊是名村役場 HP 参照（2020 年 2 月 16 日））。

3 伊是名方言に関する先行研究

字伊是名方言、勢理客方言を含む伊是名村諸方言の先行研究としては、重要なものとして、伊是名島方言辞典編集委員会（2004）『伊是名島方言辞典』（伊是名村教育委員会）があげられる。辞典は、諸見方言を中心とした記述がなされている。また、音韻・動詞活用に関する記述が含まれている。方言辞典の他に、琉球方言研究クラブ（1977）『伊是名村勢理客方言』や、沖縄国際大学文学部高橋ゼミ（1994）「伊是名方言における副詞・助詞の研究」『沖縄方言研究』13 号、名嘉真三成（1993）「伊是名村諸見方言の音韻と活用論」（仲宗根勇編『島の文化と社会』）のような音韻、文法に関する先行研究が存在している。さらに、野村節子（2004）「第七節方言」『はなぬ仲里・仲田字誌』では、名詞の格の用例集が掲載されており、末吉武光・大森一郎（2006）「第 15 節伊是名村の方言」『名護市史言語編』では、伊是名村諸方言に特徴的な音声現象や語彙についてまとめられている。

¹ 本来であれば、ご協力いただいた方すべての氏名、生年月日、言語環境なども記録する必要があるが、初めての調査地であったため、ラポール形成を重視し、「勢理客老人クラブ」というクラブ名での掲載にしてほしいというご要望を尊重する形で資料を提供する。調査時のご協力者は 8 名ほどで男女いらっしやう。60 代後半～80 代の方である。

4 伊是名方言の動詞の特徴

勢理客方言の動詞活用一覧

	基本語幹	連用語幹	音便語幹	
強変化	否定形	禁止形	非過去形	第三中止形 過去形
I m1	num-an (飲まない)	num-inna	nun-un	nu-dan
I m2	sukum-an (死なない)		sukun-un	suku-dan
I b	aeiw-an (遊ばない)			aei-dan
I t	(持たない)	mute-inna ²	mute-un	mu-tean
I k	ik-an (行かない)		its-un/ndz-un	i-dzan / n-dzan
I g	φug-an (漕がない)		φudz-un	φu-dzan
I s	(出さない)		ndzas-un	ndza-tean
	turas-an (とらさない)		turas-un	tura-tean
	(落とさない)			utu-tean
I r1	ur-an (売らない)	u-in		u-e: u-tan
	tur-an (取らない)			tu-e: tu-tan
	(帰らない)			ke:-e: ke:-tan
	φur-an (降らない)	φu-in		φu-e φu-tan
	φur-an (掘らない)	φu-in		φu-tan
	haur-an/φu:r-an (かぶらない)	φu:-in		hau-tan/φu:-tan
	teir-an (切らない)			ki:-e: ³ tei-tan
	(乗らない)	nu-inna		
I r2	arar-an (洗わない)	ara-n		ara-e: ara-tan
	ho:r-an (買わない)	φu:-n		ho:-e: ho:-tan
	'wi:r-an (酔わない)	'wi:-n		'wi:-e: 'wi:-tan
II e1	eitir-an (捨てない)	eiti:-n		eiti-e: eiti-tan
	ki:r-an (くれない)	ki:-n		ki:-tan
	(寝ない)			nu:-e: nu-tan
	kir-an (蹴らない)	ki:-n		ki-tan
II e2	ukir-an (起きない)	uki-n		uki-tan
	urir-an (降りない)	uri:-n		uri-tan
	utir-an (落ちない)	uti:-n		uti-tan
II i	teir-an (着ない)	tei-n		tei-tan
II i	ur-an (いない)	u-n		ui-tan/u-tan
III		a-n (ある)		ai-tan/a-tan

² mut-inna である可能性がある。

³ tei:-e: である可能性がある。

	基本語幹		連用語幹	融合語幹	音便語幹
特殊変化	否定形	禁止形	非過去形	第三中止形	過去形
Ⅲ	sa:n（しない）		sun		eitean
Ⅲ	φu:n（来ない）	φu:nna	teu:n		tean
Ⅱi	mi:r-an（みない）		nu:n		ntean
	kwan（食べない）		kwen		kwa:tan
	ʔja:n（言わない）		ʔjun	ʔie:	itean
	ja:n（座らない）		ju:n		
	（ない）		ne:n		

勢理客・伊是名方言の動詞の文法的な形式

肯定の形式（※「食べる・煮る」は伊是名方言、「来る」は勢理客方言）

		肯定				
		非過去	第一過去	第二過去		
直説法	断定	非強調文	カヌン（食べる）、ニーン（煮る）、チュン（来る）	カダン（食べた）、ニータン（煮た）、チャン（来た）	カヌタン（食べよった）	
		強調文	カヌル（食べる）	カダル（食べた）、ニール（煮た）、チャー（来た）		
	推量	非強調形	カヌル ハジ（食べるだろう）、ニール ファジ（煮るだろう）、チュール ハジ（来るだろう）	カダムナー（食べただろう）、カダル ハジ（食べただろう）、ニータル ファジ（煮ただろう）、チャー（来ただろう）	クワータル ハジ（食べよっただろう）、チュータル ハジ（来よっただろう）	
強調形						
疑問法	疑問	疑い	カヌカヤー（食べるか）、ニーッカヤー（煮るか）、チューカヤー／チューガヤー（来るか）	カダカヤー（食べたか）、ニータカヤー（煮たかな）、ニータカ（煮たかな）、チャーガヤー（来たかな）	クワータカ（食べよったか）、ニータカヤー（煮よったか）チュタガヤー（来よったか）	
		肯否質問	非強調形	カヌミ（食べる？）、ニールイ（煮る？）、チューミ（来る？）		
		強調文		カミル シチャカ（食べた？）		
命令法	命令	疑問質問	カノー（食べる？）、ニーヨ（煮る）、チュロー（来る？）	カダー（食べた？）、ニータ（煮た？）、チャー（来た？）	カヌタ（食べよった？）	
		確認要求	カミーハニ（食べるでしょ？）、ニーハニ（煮るでしょ？）、チーハニ／チーエーサニ（来るでしょ？）	チャーハニ（来たでしょ？）		
		命令	カミー（食べろ）、ニーリ（煮ろ）、フー（来い）			
中止形	意志	勸誘	ニーラ（煮る）、チューサ（来るよ）			
		第二	カマー（食べよう）、ニーラ（煮よう）			
		第三				
		先行	カネハラ（食べてから）、ニーエハラ（煮てから）			
		同時	カネガチナー（食べながら）、ニーガチナ（煮ながら）			
		目的形	カミンガ（食べるに）			
連体	連体	連体	カヌル（食べる）、ニーヌ（煮る）	カダヌ（食べた）、ニータル（煮た）		
		連体2	カヌヌヤカー（食べるまで）、ニーヌヤカー（煮るまで）、チュールマリ（来るまで）			
条件	条件	假定	ニーヤ（煮るなら）、ヌイヤ（乗るなら）、ヌミーヤ（飲むなら）			
		前提	ニーローヤ／ニーロー（煮るなら）、チュロー（来るなら）、フアー（くるなら）			
		条件	カモー（食べれば）、ニーローヤ（煮れば）、フアー（来れば）			
		契機	カモー（食べたら）、ニーロー（煮たら）、フアー（来たら）			
		原因・理由	カヌトゥ（食べるから）、ニートゥ（煮るから）	カダトゥ（食べたから）、ニータトゥ（煮たから）、チャートゥ（来たから）	カヌタトゥ（食べよったから）	
		譲歩	カネーン（食べても）、ニーエン（煮ても）、チャーンテン（来ても）			
		うらめ	カヌシガ（食べるが）、ニーシガ（煮るが）、ニータシガ（煮たけど）	カダシガ（食べたが）、ニータシガ／ニーヤシガ（煮たが）、チャーシガ（来たが）		

否定の形式（※「食べる・煮る」は伊是名方言、「来る」は勢理客方言）

		否定	
		非過去	過去
直説法	断定	非強調文 カマン（食べない）、ニーラン（煮ない）、フン（来ない） 強調文	カマナータン（食べなかった）ニーラナータン（煮なかった）、フナータン（来なかった）
	推量	非強調形 カマン ハジ（食べないだろう）、ニーラン ファジ（煮ないだろう）、フン ハジ（来ないだろう） 強調形	カマナータル ハジ（食べなかっただろう）、ニーラナータル ハジ（煮なかっただろう）、フナータル ハジ（来なかっただろう）
	疑い	カマンカヤー（食べないかな）、ニーランカヤー（煮ないかな）、フンガヤー（来ないかな）	カマナータカヤ（食べなかったかな）、ニーラナータカヤー（煮なかったかな）、フナータガヤー（来なかったのかな）
質問法	肯否質問	非強調形 カマニ（食べないの？）、ニーラン（煮ないの？）、フニ（来ないの？） 強調形	ニラナーティ（煮なかったの？） カマンル アイタカー（食べなかったの？）、フンドゥアイティー（来なかったの？）
	疑問質問	カマンル（食べないの？）、ニーランル（煮ないの？）、フナー（来ないの？）	カマナーティ（食べなかったの？）、ニーラハータ（煮なかったの？）、フナータン（来なかったの？）
	確認要求	カマンハニ（食べないんでしょ？）、ニーランハニ（煮ないんでしょ？）	カマナータンハニ（食べなかったんでしょ？）、フナータン アラニ？（来なかったんでしょ？）
命令法	禁止	カミンナ（食べるな）、ニンナ/ニーンナ（煮るな）、フンナ（来るな）	
	勧誘		
中止形	第二	カマントゥ（食べないで）、ニーラナ（煮ないで）、フーナ（来ないで）	
	第三		
	先行		
	同時		
	目的形		
連体		カマンヌ（食べない）、ニーラヌ（煮ない）、ニーラン（煮ない）、フヌ（来ない）	カマナータン（食べなかった）
		カマンヌハーネー（食べないうちに）、ニーランマードゥ（煮ないうちに）、フンマール（来ないうちに）	
条件	仮定	カマナーコー（食べないなら）、ニーラナータロー（煮ないなら）、ニーラナーコー（煮ないなら）、フナーコー（来なかったら）	
	前提	カマーコー（食べないなら）、カマナーコーヤ（食べないなら）、フナー（来ないなら）	
	条件	カマナーコーヤ（食べなかったら）	
	契機	カマナーコー（食べないと）、フナーコー（来ないと）	
	原因・理由	カマントゥ（食べないから）、ニーラントゥ（煮ないから）、フントゥ（来ないから）	カマナータトゥ（食べなかったから）、ニーラナータトゥ（煮なかったから）、フナータトゥ（来なかったから）
	譲歩	カマナン（食べなくても）、ニーラナン（煮なくても）、フナン/フナーティン（来なくても）	カマナータンテン（食べなかったとしても）
	うらめ	カマンシガ（食べないが）、ニーランシガ（煮ないが）、フンシガ（来ないが）	カマナータシガ（食べなかったが）

	伊是名勢理客2020.02.10. 勢理客老人クラブ(60代～80代の方、8名より聞き取り)	
1	どこでも ハーリーでは 男が 舟を 漕ぐ。	ダーネン ハーリーヤ イキガヌ フニ フジュン。
2	若い ときは みんなで 舟を 漕いだ。	ワハサニヤ ムールネ/ムールヘ フジャン。
3	今でも 女は 舟を 漕がない。	ナンマヤ 'イキガヤ フニ フガン。
4	今日は 手が 痛いので、舟を 漕げない。	クーヤ ティーガ ヤストウ、フニン フジューサン/フジューハン。
5	病気が 治ったから、舟も 漕げる。	ヤンメー ノータウ フニン フガリーン。
6	明日も 海へ 行く。	アチャン ウミンケ ンジュン/イツン。
7	父は 天気が 悪いときは 海へは 行かない。	オトーヤ ティーチガ ワッサトウ/ワッサヌ バーヤ ウミンケーヤ イカン。
8	昼間 仕事をして、夜 遊びに 行った。	ヒルマヤ シグトウシェー ユルヤ アシビンガ イジャン/ンジャン。
9	今日は 叔父が 家に 来る。	クーヤ タンメーヤ/ウジャサーガ ヤーンケ チューン。
10	叔母は 来ない。	ウバマーヤ フーン。
11	祖父は 叔父に 電話をして いとこを 来させた。	タンメーヤ オジーンケ デンワ シェー イチクー ユダン。(クラチャンは使わない)
12	孫も 来たがっていたので 来させた。	マーガン チーフサ シチャトウ、ソーチャン。
13	叔父も いたこも バスから 来た。	オジン イチクン バスハラ チャン。
14	崖の 側は 危ないから、子どもは 来るな。	シルガーヤ アブナハトウ ワレーヤ フーンナ。
15	5月は よく 雨 降るねえ。	グングウチャ ユー アミ フィン/フィサー。
16	12月は 雨 降らないよ。	シムチチャ ジューニガツヤ アミ フランヤー。
17	昨日も 大雨が 降った。	チンヌーン ウフアミ フタン。
18	あ、雨 降ってきた。(存現文)ハダカ主語が出やすい	アッキヤー/アギヤ/アゲー アミ フタン/フェ チャン。
19	大雨が 降ったので 橋が 流された。	ウフアミガ フェー ハシガ ナガサリタン/ナガリタン。
20	太郎は 毎日 学校の 前で バスから 降りる。	タローガ メーナチ ガッコーヌ メーネ バスハラ ウリーン。
21	友人が さきに バスを 降りた。	ドゥシガ サチネ/サチニ バス ウリタン。
22	この バス停では 誰も 降りない。	クヌ バステイネヤ タルン ウリラン。
23	熟したら、木の 実は 自然に 落ちる。	ウモー キーヌ ナイヤ ナンクル/ドゥーヘー ウティーン/ウティタン。
24	青い実は 木を 揺らしても、落ちない。	オーサヌ/オーハヌ ミーヤ ウージャンティン、ウティラン。

25	木を 揺らしたから、落ちた。	キー ウージャトウ ウティタン。
26	オスの 馬も メスの 馬も 人を 蹴る。	ウーウマーン ミーウマーン チュー キーン。
27	おとなしい 馬は 人を 蹴らない。	ウトウナハヌ ウマヤ チュー キラン。
28	あの おとなしかった 馬が 人を 蹴った。	アヌ ウトウナハヌ ウマガ チュー キタン。
29	父は 去年 買った ものでも 捨てる。	スーヤ フズー フータヌ ムンヌン シティーン/シテイタン。
30	まだ 使えるのに ラジオを 捨てた。	ナー チカラリーシガ ラジオ シテイタン。
31	祖母は どんなに 古くても、捨てない。	ハンシーヤ イカナ フルハータテン シテイラン。
32	父は 壊れた ラジオを 弟に 捨てさせた。	スーヤ コーリタヌ ラジオ ウットウンケ シティラチャン。
33	誰にも 聞かないで、捨てて しまった。	タルンケ チカングトウ、シティエー ネーン/シテイタン。
34	ノコギリで 枯れた 木を 切る。	ヌフジリネ ハリヨヌ キー チタン。
35	きのう 枯れた 木の 枝を 切った。	チンヌー ハリヨヌ キーヌ ユダー チタン。
36	おじさんが 一緒に 切ってくれた。	オジーガ マジュン キーエー クイータン。
37	こわくて、誰も ガジュマルを 切らない。	ウトウラハヌ タルン ガディマンヤ チラン。
38	穴は スコップで 掘る。	アナヤ スコップネ ファイル。
39	お父さんは 掘るけど、お母さんは 掘らない。	オトーヤ フィシガ オカーヤ フラン。
40	二人で とても 深い 穴を 掘った。	タイネー デーatina フカハヌ アナー フタン。
41	お父さんに 頼んで 兄さんにも 掘らせた。	オトーケ タルネー シジャンケン フラチャン/フラシミタン。
42	木の実が 熟したのに、祖父は 自分では 落とせない。	キーヌ ナイガ ウノーシガ タンメーヤ ドウーネーヤ ウトウシーサン。
43	祖父が 父に 言いつけて 兄に 木の実を 落とさせた。	タンメーガ オトーンケ イーチキエー シージャンケ キーヌ ミー ウトウシミタン。
44	父が 兄に 棒で 木の実を 落とさせた。	オトーガ シージャンケー ボーネ キーヌ ミー ウトウシミタン。
45	兄が 熟んだ 木の実を 全部 落とした。	シージャガ ウノーヌ キーヌ ミー ムール ウトウチャン。
46	掃除の 時には 荷物を 外に 出す。	ソージヌ トウチャ/ソージヌヌ バーヤ ニーヤ アランケー ンジャスン。
47	弟も 台所に あった 荷物を 外に 出した。	ウットウン トウングウネ アイタヌ ニーヤ アランケー ンジャチャン。
48	祖母が 母に 言いつけて ホースで 水を 流させた。	ハンシーヤ アンマーケ イーチキエー ホースネ ミジナガシミタン/ナガチャン。
49	母が 花子に ホースで 水を 流させた。	アンマーガ ハナコケ イーチキエー ホースネ ミジ ナガシミタン。

50	父が 兄に 言いつけて 祖父を 起こさせた。	オトーガ シージャンケー イーチキエー タンメー ウフシミタン。
51	父が 兄に 寝ている 祖父を 起こさせた。	オトーガ シージャンケー ノーヨヌ／ノーヨール タンメー ウフシミタン。
52	兄が 寝ていた 祖父を 起こした。	シージャガ ノーヨータヌ タンメー ウフシミタン。
53	弟は 左利きだけど 右手で お箸を持つ。	ウットウーヤ ヒジヤイガナーヤシガ ミギヌ ティーネ メーシ ムチャン／ムチュン。
54	汁鍋は こぼれやすいから、片手では持たない。	シルナービヤ イックリ ヤッサートウ、ハタディーネ ムチンナ。
55	おにぎりの 入った 重箱は お母さんが持った。	メーニジヤーヌ ジョークヤ オカーガ ムチャン。
56	おばあさんには お茶を 持ってもらった。	ハンシンケー チャー ムタシミタン。／*ムタチャン。
57	おじいさんには ムシロを 持たせる。	タンメーケーヤ ムース ムタチャン。
58	重いけど もっと 持てる？	ンブハーシガ ナーシ ムッチーヒミ。
59	あと 一つだったら 持てる。	ナー ティーチャロー ムチュン／ムチーユースン。
60	いつも 豚肉は お父さんが 買う。	チャー ワーシヤ オトーガ フーン。
61	他には 何も 買わない。	フカヤ ヌーン ホーラン。
62	お父さんは 昨日は 野菜を 買った。	オトーヤ チンヌーヤ ヤサイ ホータン。
63	明後日が 給料日だから 明日は 買えない。	アサティガ ティマートウイヌ ヒーヤットウ アチャヤ ホーイサン／ホーイファン／ホーユースン。
64	明後日だったら 欲しいものが 買える。	アサティヤロー フサーヌ ムン ホーラリン。
65	お父さんは 取って きた 魚を 売る。	オトーガ テーチャヌ ユー ウタン／ウイン。
66	きょうは 魚が 少ないから、売らない。	クーヤ 'ユー イキラハットウ／イキラハヌ ウラン。
67	昨日は 私が 取った イカと タコを 売った。	チンヌーヤ ワーガ トウタヌ イチャットウ タウー ウタン。
68	その 魚を 安く 売って ください。	ウヌ 'ユーヤ ヤシク エー ンディ。
69	いつも おばあちゃんは 私に お金を くれる。	チャー ハンシーヤ ワンケ ジン トウラスン／キーサ。
70	今日は 弟にも 1000円 くれた。	クーヤ ウットウンケ センイエン トウラチャン／キータン。
71	おじいちゃんには 私に 何も くない。	タンメーヤ ワンケ ヌーン キーラン／トウラサン。
72	いつも 漁師から 魚を もらう。	チャー ウミンチューハラ 'ユー トウタン。
73	小さい カニは 誰も もらわない。	フーサヌ ガイヤ タルン トウラン。
74	隣の 家から 大根も もらった。	トゥナイヌ ヤーハラ デークニ ムラタン。

75	モズクをたくさんもらったから みんなに 分けて あげた。	スヌイ チョーラ ムラタトゥ、ムールンケ ワキエー キータン。
76	喉が 乾いたら 水を 飲む。	ヌディー ハーキエー ミジー ヌヌン。
77	私の 夫は 酒を 飲まない。	ワー 'ウトウヤー サキヤ ヌマン。
78	叔父さんは 病気だから 酒が 飲みたくても 飲めない。	オジーヤ ヤンメーヤトゥ サキ ヌミフサシガ/ヌミフサータンテン、ヌマラン。
79	この 井戸水は 飲む。	マーヌ ハーヌ ミジ ヌマリーン。
80	お母さんが 入れた お茶を たくさん 飲んだ。	アンマーガ イリタヌ チャー イチャサン ヌダン。
81	乗るなら 飲むな。飲むなら 乗るな。	クルマネ ヌイヤロー ヌミンナ。ヌヌンヤロー ヌインナ。
82	お母さんは 赤ちゃんに おっぱいを 飲ませてあげた。	アンマーヤ アハングワンケ チー ヌマチャン。
83	山羊も ウシも 草を 食う。	シージャーン ウシン クサー ケン。
84	山羊は 濡れた 草は 食わない。	シージャーヤ ンダヨーヌ クサヤ クワーン。
85	家で 飼っている 猫が 魚を 食った。	ヤーネ チカナヨーヌ マイガ 'ユー クワータン。
86	父が 取った 魚を 猫に 食われた。	オトーガ テーチャヌ 'ユー マインケ クワーリタン。
87	毎日 暗く なるまで、外で 遊ぶ。	メーナチ クラシミ ナイヌマリ アラーネ アシダン。
88	暗く なったら、誰も 遊ばない。	クラシミナロー タルン アシワン。
89	昨日は いとこと かくれんぼ/おにごっこして 遊んだ。	チンヌーヤ イチクトウ ハンクゲーイシェー アシダン。
90	弟は 酒を 飲むと、すぐに 酔う。	ウツウヤ サキ ヌモー、スグ 'ウィーン。
91	昨日も 酒を 飲んだので、酔った。	チンヌン サキ ヌネー 'ウィータン。
92	兄は どんなに 飲んでも 酔わない。	シージャヤ イチサ ヌネーン 'ウィーラン。
93	彼は 酔って、寝ている。	アリヤ 'ウィーエー、ヌーヨーン。
94	少ししか 飲んでいないのに、酔ってしまった。	イフィル ヌダシガ、'ウィータッサー/'ウィーヨーサー。
95	汚れた 皿と お椀は お父さんが 洗う。	ユグリヨーヌ サラトゥ マハイヤ オトーガ アラン。
96	私は 兄さんに 鍋を 洗ってもらった。	ワンヤ シージャンケ ナーウィ アララチャン/*アラシミタン。
97	兄さんが 私の 代わりに 洗ってくれた。	シージャヤ ワーカワイ アラエー キータン/??トゥラチャン。
98	お母さんは 料理を 作るから、洗わない。	オッカーヤ クワッチ ツクインテ/ツクイシガ、アララン。
99	暑い ときは 帽子を かぶる。	アチャハヌ バーヤ ボーシ フーイン。

100	今は 誰も くば笠を かぶらない。	ナマヤ タルン クバガサ ハウラン/フーラン。
101	昔は みんな くば笠を かぶった。	ムカシヤ ムール/ウルカイ クバガサ ハウタン/フータン。
102	いとこたちには 帽子を かぶらせた。	イチクンチャーヤ ボーシ ハウラチャン/フーラチャン。
103	私は 毎年 孫たちに お年玉を 上げる。	ワンヤ メーニン 'マーガタンケー オトシダマ キータン/トウラチャン。
104	去年は みんなに 千円ずつ 上げた。	フジュヤ ムールンケー センイェン ナー キータン。
105	来年は 二千元ずつ 上げよう。	アキヤ ニセンイェンナー トウラスン/キーン。
106	お菓子も 買ってあげよう。	クワーシン ホーエー キーン。
107	祖父は 毎日 6時に 起きる。	タンメー メーナチ ログジニ ウキン。
108	昨日は 9時に 寝て、8時に 起きた。	チンヌーヤ ログジネ ヌーエー ハチジネ/ハチジニ ウキタン。
109	5時には 誰も 起きない。	ゴジネーヤ タルン ウキラン。
110	高校生は 制服を 着る	コーコーセーヤ セーフク チン。
111	その 服は 古いから 誰も 着ない。	ウヌ 'チンヤ フルハヌ/フルサヌ、タルン チラン。
112	昔は 自分で 織った 芭蕉布を 着た。	ムカシヤ ドゥーネ ウタヌ バサーチン チタン。
113	その 子は 二歳に なったから 自分で 服を 着ることが出来る/着れる	クヌ クワーヤ ターチ ナタトウ、ドゥーネ/ドゥーへ チンチーヌ フトゥ ナイサ。
114	ざぶとんには ところが 座る。	ザブトンヤ イチクガ ユーン。
115	床には だれも 座らない。	ヨホンケヤ タルン ヤーン。
116	私たちは ここに 座るから きみたちは 向こうに 座れ。	ワッターヤ マンケ ユートウ、イッターヤ アマンケ 'イー。
117	きみも ざぶとんに 座ってください。	ウラン ザブトンケ イン ホーロー。
118	毎日 祖父は 海を 見る。	メーナチ タンメーヤ ウミ ヌーン。
119	最近 クジラを 見ない。	チガグルーヤ クジラー ミーラン。
120	昨日 クジラを 見た。	チンヌーヤ クジラ ンチャン。
121	お前も 見たかったら 見ろといって、孫に 見させた。	ヤーン ミーフサール ネーテ/ミーテ マーガンケ ミシタン。
122	「ありがとう」には 方言で「〜〜〜」と言う。	アリガトーネヤ ホーゲンネ ニヘーヤタンテ 'ユン。
123	兄は 何も 言わない。	シージャーヤ ヌーン 'ヤーン。
124	お母さんは 弟に 「あやまれ」と 言った。	アンマーヤ ウットウンケ クネリテ イチャン。

125	兄は 弟に「いたずらするな」と 言って、 しかった。	シージャーヤ ウットウンケ ガンマリ シンナトウ ムガタ ン。
126	弟は 兄に「ばか」と 言って しまった。	ウットウヤ シージャンケ ヤーテ イチャン/イエー ネー ン。
127	蟬は すぐに 死ぬ。	ジーヤーヤ スグ スクヌン。
128	人に「死ぬ」って 言っては いけない。	ツンケ マーシテ イエー ナラン。
129	ゴキブリは すぐには 死なない。	トービラーヤ スグヤ スクマン。
130	去年は ひでりで カエルが たくさん 死んだ。	フジュヤ ヒヤーイシェー カエルガ チョーラ スクダン。
131	暑くて、家の ネコも 死んで しまっ た。	アチハヌ、ヤーヌ マイン スクノータン。
132	この 村には 港が ある。	ウヌ シマネーヤ ナートウガ アン。
133	昔 島には 製糖工場が あった。	ムカシ シマネ サーターヤーガ アイタン。
134	製糖工場の あった ところに 学校を 建てた。	サーターヤーヌ アタヌ ミーネー ガッコー ツクタン。
135	お金が あれば なんでも 買える。	ジンガ アロー ヌーヌ ホーラリン。
136	今日は お金が 無いから 買いたくても 買えない。	クーヤ ジンガ ネーントウ、ホーイフサタンテン、ホーイ ファン/ホーララン。
137	人の命は金では買えない。	チューヌ ヌチャ ジンネー ホーララン。
138	有っても 喜ぶな。	アエーン ムッサシンナ/ユルクブナ。
139	無くても 泣くな。	ネーナンテン、ナキンナ。
140	人間の 良し悪しは 後でこそ 分かる。	ツヌ ユタサワッサヤ アトウ ナロール/アトゥネール ワハ イル。
141	塩が ない。	マースガ ネーン。
142	かまどの 上に あったよ	ハマヌ イーネ/ワイネ、アタンドー。
143	砂糖も なかった。	サータン ネーン。
144	無ければ わたしが 買って こよう。	ネーナコー ワーガ ホーイチュサー。
145	座敷には 人が たくさん いる。	ザーネーヤ ツーガ イチャサヌ/イチャサン ウン。
146	あなたは しばらく 台所に いて くださ い。	ウラヤ ナー イフィ トウングワネ ヨーリ。
147	さっきまで 座敷に 客が いた。	キーサマディ ザーネー チャク ウイタン。
148	座敷に いた 人たちが みんな 帰っ た。	ジャーネ ウイタヌ チューガ ムル ケータン。
149	みんな かえって 今は だれも いな い。	ウルカイ ケーエー ナンマヤ タルン ウラン。

150	若いころは 那覇まで 歩いた 人が いた。	ワハハヌ バーヤ ナーファマディ アッチュヌ チューガウタン。
151	兄は お父さんに 言われたら、何でも する。	シージャヤ オトンケ 'ヤーリロー ヌーヤティン スン。
152	兄は 言われなければ、何も しない。	シージャヤ 'ヤーラナーコー ヌーン サーン。
153	兄は しなさいと 言われたから、畑仕事 を した。	シージャヤ シーテ イチャトウ/'ヤーリタトウ、 ハルシグトウ シチャン。
154	お父さんは 兄に 畑仕事を させた	スーヤ シージャンケ ハルシグトウ シミタン。
155	休んでないで 仕事を しろ。	ユフラングトウ シグトウ シー。
156	木の葉が 詰まって 溝の水が 流れない。	キーヌ ファーガ チマエー、 ユザンヌ ミジガ ナガリラン。
157	お母さんが 兄さんに 木の葉を 取らせて 水を 流れさせた。	アンマーガ シージャンケ キーヌ ファー トウラヘー、 ミジ ナガラチャン。
158	兄さんは 木の葉を 取って 水を 流れさせた。	シージャヤ キーヌ ファー トウエー、 ミジ ナガラシミタン/ナガラチャン。
159	ようやく(やっ)水が 流れた。	ヤットウ ミジ ナガリタン。
160	この 井戸水は 飲めない。	クヌ ハーヌ ミジヤ ヌマラン。
161	誰でも こんなに たくさんの 水は 飲みきれない	タルン ウッサナーヌ ミジヤ ヌミューサン。
162	あく抜きした 蘇鉄は 食べられる。	アークー ヌジェーヌ シチチャ カマリン。
163	腐った 肉は 食べられない。	クサリヨーヌ ニクヤ カマラン。
164	ソーキ汁 まだ 残っているけど 食べれる? 実現	ソーキジル ナー ヌフヨーシガ、 カマリーミ/カヌミ?
164-2	※食べない。(164番の回答として)	カマン。
165	腹いっぱいだから もう これ以上は 食べきれない。非実現	ワター ミチョートウ、 ナー ウリ イジョーヤ カミューサン。
166	溢れる くらい お茶を 注いで くれ。	アンディルマリ チャー イリリ/イーエー キリ。
167	湯が 沸くまで 待てない	ユーガ ワチョヌマリ マタラン。
168	子どもだから、見せたくなかったけど、見るといって聞かなかったから、見せさせた	ワレーヤットウ、 ミシチャク ネーンシガ、 チカナータトウ、 ミシタン。
169	三線を 弾いて 客に 聞かせる。	サンシン ヒチューー チャクンケ チカスン。
170	祖母が自分で着せたいと言ったので、仕方なく孫に服を着せさせた。	ハンシーガ ドゥーネ フシーンテ イチャトウ/イチャシガ シカタネーナ、 マーガンケ チン チラチャン。
171	おととい 買った 服を 赤ちゃんに 着せる。	ウッティー ホータヌ チン アハングワンケー チラチャン。
172	お婆さんは 自分が買った服をお母さんに頼んで赤ちゃんに着せさせた。	オバーヤ ドゥーネ ホータヌ チン アンマーケ タヌネ アハングワンケ チラチャン。

	伊是名字伊是名2019. 9. 26. -27. H. S（女性） S5年生まれ。両親ともに字伊是名出身	
1	本土の人もへちまを食べるの？	ヤマトウンチュン ナベラー カヌミ？
2	我が家では、夏になったらニガウリを毎日食べる。	ワッターヤ ナチー ナロー メーナチ ゴーヤー カヌン。
3	今日の朝ごはんは何を食べたの？	クーヌ ナーシーヤ ヌー カダー？
4	冬瓜を食べた。	シウイ カダン。
5	このサトイモは誰が食べるの？	ウヌ ターンム タガ カノー。
6	姉さんがこそ食べるんだ。私はたべない。	シジャガル カヌル。 ワンヤ カマン。 / シジャガル カヌンダー。 ワンヤ カマン。
7	お前が天ぷらを全部食べただろう？	ヤーガル アンダーギー ムール カダムナー？
8	私は一つだけ食べたんだよ。	ワンヤ ティーチル カダル。
9	残ったテンプラは、全部母さんがこそ食べよったんだ。俺じゃないよ。	ヌフヨージュ ティンブラヤ ムル アンマーガル カダル。 ワンヤ アラン。
10	お前もバナナを食べるだろう？	ヤーン バサナイ カミーハニ？
11	父さんもバナナ食べるかなあ。	スーン バサナイ カヌカヤー。
12	父さんも食べるだろう。	スーン カマーハニ。 スーン カヌル ハジ。
13	誰がお菓子を食べたのかなあ。	タガ クワーシ カダカヤー。
14	お菓子は妹が食べただろう。	クワーシヤ ウットウガル カダル ハジ。
15	そこに置いた魚は誰が食べよったの？	ウマネ ウチャル ユーヤ タガ カヌタ？
16	犬が食べよったのかな。	イヌガル クワータカ。
17	隣の猫が食べよっただろう。	トゥナイヌ マイガル クワータル ハジ。
18	食べるなっていったのに、食べたのか？	カミンナチェ イチャシガ カミル シチャカ。
19	兄さんが食べよったから、私も食べたんだよ。	シジャガ カヌタトゥ、 ワンヌン カダン。
20	兄さんが食べよったの？本当なの？	シジャガ カヌタンテーシ フントーヤカ。
21	兄さんは三つも食べよった。	シジャヤ ミーチン カダン。 / シジャヤ ミーチン カヌタン。
22	ねえさんも食べよっただろう？見ただろう？	シジャン カヌタン。 ンチャイハニ？ / シジャン カヌタン。 ンチャイハニ？
23	昨日食べたソバはおいしかった。	チヌー カダヌ スバヤ マーハタン。
24	今日も一緒に食べよう。	クーン マンナ カマー。
25	今日は名護に食べに行こう。	クーヤ ナゴンケ カミンガ イカー。
26	ご飯を食べながらテレビを見るな。	ムン カネガチナー、 テレビ ミーンナ。
27	もう片付けるから、急いで食べろ。	ナー カタジキートウ、 ヘーク カミー。

28	ぜんぶ食べるまで待ってちょうだい。	ムール カヌヌヤカー マチョーキ。
29	お前が食べきれないなら、俺が食べよう。	ヤーガ カミーフナーコー、 ワガ カヌン。
30	これは私が食べる。食べよう。	ウリヤ ワガ カヌン。／ウリヤ ワガ カマー。
31	食べるなら残すな。残すなら食べるな。	ツタラガムン、 カマナーコー、 ヌフシンナ。ヌフサローヤ カミンナ。
32	明日食べるコメを買ってきて。	アチャー カヌル フミー ホーエー フー。
33	おじいさんはご飯を食べて薬を飲みよったか。	タンメーヤ ムン カネー、 クスイ ヌヌタカー。
34	おばあさんは夕ご飯を食べて寝よった。	ハンシーヤ ユーバン カネー、 ヌーイタン。
35	兄さんは昼飯を食べてから畑に行った。	シジャヤ アシー カネハラ、 ハタキンケ ンジャン。
36	明日もサシミを食べるから、買って来い。	アチャン サシミ カヌトウ、 ホーエー フー。
37	今日食べたから、明日は食べなくてもいい。	クー カダトウ、 アチャヤ カマナン シヌン。
38	パパイヤを食べたらお乳がよく出る。	パッパヤー カモー、 チー ユー ンジーン。
39	クワンソウを食べれば眠れる。	クワンソー カモー、 ヌーラリーン。
40	男はパパイヤを食べても、お乳は出ない。	イキガヤ パッパヤー カネーン、 チーヤ ンジラン。
41	その豆腐は腐っているから食べるな。	ウヌ トーフヤ シーヨートウ、 カミンナ。
42	そのお湯はさっき沸かしたから、もう沸かさなくてもいい。	ウヌ ユーヤ ヒッサ ワハハートウ ナー ワハハナン シヌン。
43	肉はよく食べるのに野菜は食べない。	ニクヤ ユー カヌシガ ヤサイヤ カマン。
44	クワンソウを食べたのに眠れなかった。	クワンソー カダシガ、 ヌーララナータン。
45	うん、本土の人はヘチマは食べない。	ンー。ヤマトウンチュヤ ナビラー カマン。
46	姉さんが食べなかった。	シジャガ カマナータン。
47	腹いっぱいだから食べないんだ。ヤギ汁は好きだよ。	ワター ミチョートウ、 カマナータン。フィージャーシルガ マシヤタン。
48	私はお腹が痛かったから、食べなかったんだよ。	ワンヤ ワタ ヤダトウ、 カマナータン。
49	父さんも食べないだろう／食べないはず。	スーン カマナータン。／スーン カマナータル ハジ。／スーン カマン ハジ。
50	姉さんも食べなかっただろう／食べなかったはず。	シジャン カマナータル ハジ。／シジャン カマナータン。
51	本土の人はヘチマを食べないの？	ヤマトウンチュヤ ナベラーヤ カマニ？
52	食べろっていったのに、食べなかったのか？	カミーテ イチャンテ、 カマンル アイタカー？
53	何故ヤギ汁を食べないの？ おいしくないの？	ヌガ フィージャシル カマンル？ マークネーントウ？ /マーク ネーシルイ？
54	粥が残っているけど、誰が食べなかったの？	ウカメー ヌフヨーシガ、 タガラ カマナーティ？
55	お前はヤギ汁も食べないんだらう？	ヤーヤ フィージャーシルン カマンハニ？

56	お前もお粥を食べなかったんだろう？	ヤーン ウカメー カマナータンハニ？
57	父さんはヤギ汁を食べないかなあ。	スーヤ フィージャーシル カマンカヤー。
58	何故、お菓子を食べてなかったのかなあ。	ヌガ クワーシ カマナータカヤ。
59	誰も食べないのに芋を煮た。	タルン カマントウ ヌムー ニータン。／タルン カマンシガ ヌムー ニータン。
60	クワンソウを食べなかったのによく眠れた。	クワンソー カマナータシガ ユー ヌーラッタ
61	誰も食べない物は買ってはいけない。	タルン カマンヌ ムンヤ ホーエーヤ ナラン。
62	ぜんぶ食べないうちに片付けられた。	ムール カマンヌハーネー カタジキラッタン。／ムール カマナータシガ カタジキラッタン。
63	ヨモギ雑炊を食べなかった子供にはお菓子をあげない	フーチバー ジューシー カマナータン ワレンケヤ クワーシ クィーラン。
64	おじいさんはご飯を食べないで薬を飲みよった。	タンメーヤ ムン カマントウ クスイ ヌヌタン。
65	明日はサシミを食べないから、買って来るな。	アチャヤ サシミ カマントウ ホーエー フナ。
66	昨日食べなかったから、今日食べよう。	チンヌー カマナータトウ クー カマー。
67	お金がもったいないから、食べないなら買うな。	ジンガ イチャハットウ、 カマーコー ホーナ。
68	パパイヤを食べなければお乳は出ない。	パッパヤー カマナーコー、 チー ンジラン。
69	クワンソウを食べなくても眠れる。	クワンソー カマナータンテン ヌーラリン。
70	もしおまえが食べないならご飯は炊かないよ	ヤーガ カマナーコーヤ、 ムンヤ ニーラン。
71	もしおまえが食べなかったらヤギ汁は残るだろう。	ヤーガ カマナーコーヤ フィージャヌ シルヤヌファイル スンドー。
72	食べる前に無くなっていた。	カヌヌ メーニ ネーンナタン。
伊是名勢理客2019. 12. 21. 勢理客老人クラブ(60代～80代の方、8名より聞き取り)		
73	姉さんが東京から来る。	アングワーガ トーキョーカラ チュン。
74	姉さんはいつ来るの。明日、来る。	アングワーヤ イチ チューロー。アチャー チュン。
75	姉さんの旦那(夫)も来るの？	アングワーヌ 'ウトウン チューミ？
76	姉さんたちが来るから、孫も来るだろう。	アングワーガ チュートウ マーガン チューミ。／アングワーガ チュートウ マーガン チューカヤー。
77	孫たちが来たら、いっしょに遊ぼう。	マーガガ ファー、 マジュン アシワニ。
78	大阪の兄さんは来ないだろう。	オーサカヌ ニーサンヤ フーン ハジ。
79	なぜ 来ないの。	ヌーガ フーナー。
80	忙しいから、来ないんだ。	イチユナハヌ チーフアンサ。
81	姉さんたちが来るなら、ご馳走をつくっておこう。	アングワータガ チューロー、 クワッチー チュクヨーカ。
82	おじさんも来ないの？	オジーン フーニ。

83	うん、おじさんは仕事があるから、来ない。	シー。オジサンヤ シグトゥ アイトゥ、フララン。
84	おじさんが来ないから、おばさんも来ない。	オジサンガ フントウ、オバーン フン。
85	姉さんたちは空港からバスで来るんだ。(タクシーじゃない。)	アングワーターヤ クーコーハラ バスネ チュン。ハイヤーヤ アラン。
86	姉さんたちが来ないうちに家の中を片付けろ。	アングワーターガ フンマール ヤーヌ ナカ カタジキラニ。
87	孫たちが来たから、一緒に遊んだ。	マーガヌ チャートウ、マジジュン アシダン。
88	姉さんたちは飛行機で来て、船で帰った。	アングワヤー ヒコーキネ チェー、フニネ ケータン。
89	いどこにも来いっていったのに、来なかったのか？	イチュクンケー フーテ イチャシガ フーナータン。 /イチュクンケー フーテ イチャシガ フーンドウ アイティー。
90	いどこは来月沖縄に来てから、仕事を探すそうだよ。	イチュクヤ ウチナーケ チェー、シグトゥ カミンテマ。
91	あさっては、家にいないから、来るな。	アサッティヤ ヤーネ ウラントウ フーンナ。
92	今日は来なくてもいいって言ったのに、来たのか？	クーヤ フーナン シヌンテ イチャシガ チャーサーヤ。
93	なぜ、来たの。	ヌーガ チャール。/ ヌーシシガ チャー。
94	急ぎの用事があったから、来たんだよ。遊びに来たんじゃないよ。	アワティエー ユージヌ アエール、チャイ。アシーウインガ チェー ネンドー。
95	昨日は来なかったんだろう？	チンウーヤ フーナータン アラニ？
96	なぜ来なかったの？	ヌーガ フーナータン？
97	忙しかったし、頭も痛かったから、来なかった。	イチュガハヌ、ハナジン ヤネー、フーナータン。
98	しあさっては君も来るだろう？	アサティエーヤ ウラン チーハニ / チエーハニ？
99	サシバ、今年は来なかったねえ。	サシバヤ フンドウ チェー ネーン。
100	何故、来なかったのかなあ。	ヌーガ フーナータガヤー。
101	今年は台風が多かったから、来なかったんだよ。	フンドウヤ ハジ ウフハヌ チェーネーサ。
102	サシバ、来年は来るかなあ。	サージ、アケー チューガヤー。
103	もうサシバは来ないかなあ。	ナー サージェー フンガヤー。
104	サシバ、去年は来よかったよ。	サージ、フジュヤ チャーンドー。
105	そうか。来よかったんだ。	アンヤミ /アパーイ、チョータン / チョーティ。
106	いつ来たのかなあ。	イチ チャーガヤー。
107	だったら、今年は、来なくても、来年はくるかもしれない。	アホー、フンドウヤ フーナータン アキエーヤ チュール ハジヤー / チェーハニ / チェーサニ。
108	今年は来なかったのに来年は来るの？	フンドウヤ チェーンネーシガ アキエー チェーサニ /チュール ハジ。
109	むかし、来なかった年もあったよ。	ムカシヤ フーヌ トウシン アタン。

110	郵便屋はさっき来たよ。	ユービンヤヤ キーサ チャン / チョータンロー。
111	郵便屋は来よったの？ 本当なの？	ユービンヤ チョーティ？ フントーヤミ？
112	郵便屋が来よったから、手紙があるんだよ。	ユービンヤガ チャートウ、 ティガミガ アインドー。
113	誰も来ないのに店を開けているの。	タルン フンシガ マチヤ アキヤール？ / アキヤールイ？ / アキヤガ ヤルイ？
114	客が来るなら店を開ける。	チャクヌ ファー、 マチヤ アキン。
115	もし客が来ないなら店を占めよう。	チューヌ フーナ、 マチヤ シミラニ。 / チャクガ フーナ、 マチヤ シミラニ。
116	夕方には客が来るだろう / 来るはず。	ユーニガタ チャク チーエーサニ / チュール ハジ。
117	今から来る人にはおまけをしよう。	ナンマハラ チュール チュンケヤ シーブン サーニ / スサ / トウラサニ。
118	何人、来よったの？	イクタイ チョーター。
119	私が言った通り、来よっただろう？	ワガ イチャルグトウ チョータン。
120	うん、昨日、来た人が今日も来よった。	アバーイ、 チヌー チョータル チューガ クーン チョータン。
121	夜になって 誰も来なかったから、閉めた。	ユーキエー タルン フーナタトウ、 シミタン / フータン。
122	以前からおまけをしていれば、客はもっと来よっただろう	ヘークハラ シーブン ソータロー / ソーコーヤ、 チャクヤ ナーヒン チュータル ハジ。
123	おまけしていたら、来よったのかな。	シーブン ソータロー チュタガヤー。
124	うん、もう少しは客が来ただろう。	アバーイ、 ナーヒン ソーコヤ チャクヌ チャール ハジ。
125	客が来ない店はつぶれる。	チャクガ フーナ マチヤーヤ チブリン。 / チャクガ フーナーク チブリン。
126	あの子は学校に来ないで、家で休んでいる。	ウヌクワヤ ガッコーンケ イカナ / フーナ、 ヤーネ ユフィル / ユフオーン。
127	学校に来ながら、友だちの家に行ってみた。	ガッコーンケ ンジャガチ、 ドウシヌ ヤーケ ンジョーン。
128	友だちを連れて学校に來い。	ドウシ ソーエー、 ガッコーケ フー。
129	島に来なければ、島のいいところはわからない。	シマンケ フーナークー、 シマヌ フトウヤ ワハイミ。
130	船が来るまで港で待とう。	フニガ チュールマリ ナートウネ マチュン。
131	もしバスが来なかったらタクシーに乗ろう。	アホー / アバーイ バスガ フーナーク タクシーネ イカナ。
132	せっかく島に来たのに雨ばかり降っていた。	ワザワザ シマンケ チャーシガ アミガガイル フィル。
133	来年も二人で一緒に来よう。	アケーン タイネ マジュン フーミ / フーニ。
134	私たちが来れば、太郎も来るって言っていたよ。	ワッターガ ファー タローン チュンテ イタン / イタマ。
135	来年来れなくても、再来年はみんなで来よう。	アキエー フーナークーティン ンーチュナティヤ ムールネ チューサ。
136	魚をたくさん釣って楽しかったから、来年も来よう。	ユー チョーラ クワーヘー ムサツタトウ アキエーン チューサ。
137	あいつは友達が家に来て、お茶も出さない。	アリヤ ドウシガ ヤンケ チャーnten、 チャーnten ンジャサン。

138	あいつは友だちが来るのにお茶さえ出さないのか？	アリヤ ドウシヌ チャーンテン チャーン ンジャハニ。 ／ アリヤ ドウシヌ チャーンテン チャーン ヌガ
139	だから、今までだれも来なかつただろう。	アヘール ナママディ タルン フーナータル ハジ。
140	おまえ昨日も来ただろう？うん、来たよ。	ウラヤ チンヌン チャーハニ /チェーサ ナティ。 ワイ、チャン。
141	明日は来ないだろう？うん、畑に行くから来ない。	アチャヤ フーン ハジ。ハルンケ イチュトウ フーン。
142	子どもが来ない前にお菓子を用意しておこう。	ワレーヌ フーンマール クワーシ ウチョーカニ / ホーヨーツン。
	伊是名字伊是名2019. 9. 26. -27. H. S (女性) S5年生まれ。両親ともに字伊是名出身	
143	今日は何を煮るの？	クーヤ ヌー ニーヨ？
144	今日は、昨日掘ったサツマイモを煮る。	クーヤ チンヌー フタヌ ウムー ニーん。
145	この鍋で煮るの？	ウヌ ナーウィネ ニールイ。
146	ううん、小さいからその鍋では煮ない。	シー。 フーハートウ、 ウヌ ナーウィネ ニーラン。
147	どうやってたくさんのサツマイモを煮るのかなあ。	イチャントウシェー、 ウツサヌ ウムー ニーツカヤー。
148	今日のかぼちゃを煮ないの？	クーヤ ナンクワンヤ ニーラン。
149	昨日煮たから、今日は煮ないんだ。	チンヌー ニータトウ、 クーヤ ニーラン。
150	冷蔵庫に豚肉があるのに 何故煮ないの？	レイゾウコネ ワーシ アイシガ ヌガ ニーランル？
151	きのうも豚肉だったから、今日は豚肉は煮ないんだらう？	チンヌー ワーシ ヤトウ、 クーヤ ワーシ ニーラン。
152	大根も一緒に入れて煮ないかなあ。	デークニン マンナ イレー ニーランカヤー。
153	ゴボウは煮ないだらう／煮ないはず。	グンボーヤ ニーランハニ。 / グンボーヤ ニーラン ファジ。
154	そうか、好きじゃないから、ゴボウは煮ないんだ。	アンヤミ。 シカントウ、 グンボーヤ ニーラン。
155	今日煮ない豚肉は冷蔵庫に入れておけ。	クー ニーラヌ ワーシヤ レイゾウコンケ イリヨーキ。
156	今日の里芋は誰が煮たの？	クーヌ ターンムヤ タガー ニータ？
157	その里芋は母さんが煮たんだよ。私じゃないよ。	ウヌ サトイモヤ アンマーガル ニータンダー。 ワンヤ アラン。
158	母さんが煮たんだらう？	アンマーガル ニータル ファジ。
159	母さんが煮た芋はおいしかったねえ。	アンマーガ ニータル サトイモヤ マーハタンヤー。
160	豚肉が冷蔵庫にあるけど、何故豚肉を煮なかつたの？	ワーシガ レイゾウコネ アイシガ ヌガ ワーシヤ ニーラハータ？
161	鶏肉が食べたかつたから、鶏肉を煮た。	トウイヌ ニクガ カミチャハットウ、 トウイヌ ニク ニータン。
162	鶏肉は煮たけど、豚肉は煮なかつた。	トウイヌ ニクヤ ニータシガ、 ワーシェー ニーラン ナータン。
163	昨日も豚肉を煮たから、今日は煮なかつたんだらう？	チンヌー ワーシ ニータトウ、 クーヤ ニーラナータン。
164	一昨日も豚肉だったから、昨日は煮なかつたんだよ。	チンヌー ワーシ ヤトウ、 クーヤ ニーラナータン。

165	もし おばあさんが 煮ないなら 誰が 煮るの？	ハンシーガ ニーラナータロー、タガ ニーヨー？
166	姉さんが煮るだろう／煮るはず。	シジャガ ニーハニ。 /シジャガ ニール ファジ。
167	お前も時々は煮るだろう？	ヤーシ トウチドウチヤ ニーハニ？
168	何故、豚肉は煮なかったのかなあ。	ヌガ ワーシェー ニーラナータカヤー。
169	誰がカボチャを煮たのかなあ。	タガ ナンクワン ニータカヤヤー。
170	そのカボチャは母さんが煮ただろう／煮たはず。	ウヌ ナンクワンヤ アンマーガ ニータル ファジ。 / ウヌ ナンクワンヤ アンマーガル ニーヤール。
171	姉さんは煮なかっただろう。	シジャヤ ニーラナータル ハジ。
172	母さんが煮るカボチャは甘くておいしい。	アンマーガ ニーヌ ナンクワンヤ アマハヌ、マー ハン。
173	母さんが煮れば、みんな残さず食べる。	アンマーガ ニーローヤ、ムール ヌーハントウ カヌ ン。
174	鍋にあったトウガンは誰が煮よったの？	ナーウィネ アイタル シーウイヤ タガー ニーターカ ヤー。
175	さっき台所にいた姉さんが煮よっただろう。	キッサ トウングワネ ウイタル シジャガ ニータル ハ ジ。
176	サトイモを煮ろっていったのに、煮なかったの か？	サトイモ ニーリテ イチャシガ、ニラナーティ？
177	兄さんが煮よったから、私は煮なかった。	シジャガ ニータトウ ワンヤ ニーラナータン。
178	兄さんが煮よったの？ 本当なの？	シジャガ ニータシ フントーイ？※
179	兄さんは食べきれないくらい煮よった。	シジャヤ カミーファンヌ ウッサ ニータン。
180	何故あんなにたくさん煮よったのかな。	ヌガ ウンテ チョーラ ニータカ。
181	里芋を煮ながらテレビを見るな。	サトイモ ニーガチナ、テレビヤ ミーンナ。
182	ぜんぶ煮ないうちに火が消えた。	ムール ニーランマードウ、フィーヤ チャータン。
183	ゴボウは煮るなっていったのに、煮たのか？	グンボーヤ ニーンナテ イチャシガ ニール シチ？
184	誰も煮ないのに魚を買ってきた。	タルン ニーランシガ ユー ホーイ チャン。
185	魚を煮ないで、何を煮るの。	ユー ニーラナ ヌー ニーヨー。
186	少ししか煮なかったのに柔らかくなっている。	ヨーイフィル ニータシガ ヤファラク ナヨーン。
187	タコは煮る前に塩で揉んでから煮ると柔らかくなる。	タウヤ ニーヌ メーネー マースネ ムネハラ ニー ローヤ、ヤファラク ナン。
188	魚を煮るなら、もう少し大きい鍋を使え。	ユーヤ ニーローヤ、ナーフィ マギハル ナーウイ チカリ。
189	母さんもそうやって煮よっただろう？ 見ただろ う？	アンマーン ウントウシェール ニーヤツタトウ、ン チャイハニ？
190	今日は豚肉は煮ないから、買って来るな。	クーヤ ワーシャー ニーラントウ、ホーエー フン ナ。
191	昨日は、煮なかったから、今日煮よう。	チンヌーヤ ニーラナータトウ クーヤ ニーラ。
192	大根は、肉も入れて煮なければ美味しくない。	デークニヤ ニクン イレー ニーローヤ マーク ネーン。

193	おばあさんが煮なかったら誰も ないだろう。	ハンシーガ ニーラナーコー、タガン ニーランハニ。
194	おばあさんが煮ないなら、私たち二人で一緒に煮よう。	ハンシーガ ニーラナーコー ワッター テイネ マンナ ニーン。
195	今日はおまえが煮ろ。	クーヤ ヤーガ ニーリ。
196	お前が煮ないなら、俺が煮よう。	ヤーガ ニーラナーコー、ワガ ニーラ。
197	これは私が 煮る。煮よう。	ウリヤ ワガ ニーン。／ウリヤ ワガ ニヨ。
198	せっかく、私がサトイモを煮たのに誰も食べなかった。	ワンガ ナンジシェー サトイモ ニーヤシガ、タガン カマナータン。
199	魚ぐらいたまには自分で煮てみる。	ユーヌ アタイヤ マリティケーティヤ ドゥーネ ニーリ。／ユーヌ アタイヤ マリティケーティヤ ドゥーネ ニーエンビー。
200	魚を全部煮るまで待ってくれ。	ユー ムール ニーヌヤカー マチョーキ。
201	全部煮なくても家族の分はあるよ。	ムール ニーラナン ヤーニンジュヌ ブンヤ アン。
202	魚を煮るなら、塩を少し入れろ。	ユー ニーロー、マース イフィー イリリ。
204	父さんは自分で魚を煮て酔の物を作った。	スーヤ ドゥーネ ユー ニーエー、アマザキヌ ムンツクタン。
204	大根を煮てから、味噌汁も作った。	デークニ ニーエハラ、ミスジルン ツクタン。
205	明日はゴボウを煮るから、買って来い。	アチャヤ グンボー ニートウ、ホーエ フー。
206	肉とゴボウを煮たら、アクがたくさん出る。	ニクトウ グンボー ニーロー アクガ チョーラ ンジーン。
207	弟が魚を煮ても、だれも食べない。	ウットウガ ユー ニーエン、タガン カマン。
208	その魚は腐っているから煮るな。	ウヌ ユーヤ クサリョートウ、ニンナ。
209	大根は よく 煮るのに 冬瓜は あまり 煮ない。	デークニヤ ユー ニーシガ、シウイヤ ウンテマディ ニーラン。
210	全部母さんがこそ 煮よったんだ。	ムール アンマーガル ニータン。
211	トウガンはおばあさんがこそ煮るんだ。ほかの人は煮ない。	シウイヤ ハンシーガル ニーン。フカヌ チューヤ ニーラン。
212	雑炊を煮なかった日は、ご飯を炊いた。	ジューシーヤ ニーラン フィーヤ、ンバイ ニータン。

沖縄県伊江島方言の動詞活用の資料

狩俣繁久（琉球大学）・島袋幸子（琉球大学）

1 はじめに

本稿は、沖縄県の沖縄本島北部本部半島の東に位置する伊江島の伊江島（沖縄県伊江村）で話される方言（以降伊江島方言と呼ぶ）を対象とし、動詞活用の資料を提示する。本稿で使用するデータは、伊江村東江前出身の C.S.ⁱ氏と伊江村西江前出身の U.K.ⁱⁱ氏への面接調査によって得られたものである。

2 沖縄県国頭郡伊江村伊江島の概要

伊江島は、沖縄本島北部本部半島の北西 9 km にある東西 8.4 km、南北 3 km のほぼ楕円形状の島で沖縄県伊江村の 1 島 1 村の島である。伊江島の面積は 22.76 km² で、東江前、東江上、西江前、西江上、川平、安良の六つの集落がある。伊江島へは、本部町の本部港からフェリーで約 30 分。島の中央に標高 172m の城山（通称、伊江タッチュー）がそびえる。島の中西部（約 8 km²）は米軍演習場（伊江島補助飛行場）として軍用機の発着やパラシュート降下訓練などに使用されている。

令和元（2019）年 8 月時点での伊江島の人口は 4260 人、世帯数は 1917 世帯である。年齢構成比で見ると中学生以下の人口が 14%、15 歳～64 歳 65%、65 歳以上 30% である。

3 伊江島方言の概要

伊江島方言は、沖縄県伊江村東江前と西江前で話されている地域言語のことをさす。伊江島方言は、UNESCO の *Atlas of the World's language in Danger* にあげられた国頭語のなかの一つの下位方言である。国頭語は、UNESCO のリストによると、「危険」と判定されている。

伊江島方言に関する先行研究としては生塩睦子（1999）『沖縄伊江島方言辞典』が著名である。その他に生塩睦子（1998）「沖縄伊江島方言の文末詞」『日本語文末詞の歴史的な研究』三弥井書店、生塩睦子（1994）「沖縄伊江島方言の述部構造」『継承と展開 3 国語方言の生成と展開』和泉書院、生塩睦子（1992）「沖縄伊江島方言の動詞の活用」『小林芳規博士退官記念 国語論集』及古書院、などがあり、辞書を有し、文法記述も多い方言の一つである。他の地域に比べて地元の方言継承の取り組みも多い。しかし、方言の継承活動に取り組む関係者は、若い世代への継承に不安を抱えていて強い危機感を持っている。

伊江島方言の顕著な特徴として、破裂音と破擦音において有声／無声の対立だけでなく、無声の破裂音と破擦音に喉頭／非喉頭化の対立があり、さらに、鼻音、流音、接近音においても喉頭化／非喉頭の対立がある。喉頭化した無声子音の系列には、/p', t', k', tʃ/ の 4 個、喉頭化しない無声子音の系列には /p, t, k, ts, s, h/ が 6 個ある。また、

喉頭化した有声子音の系列には /ʔ, ʔm, ʔn, ʔw, ʔj, ʔr/ が 6 個あり、喉頭化しない有声子音の系列には /g, d, b, ʾ, m, n, r, j, w / の 9 個、合計 25 個の子音がある。また、伊江島方言には口蓋音化した子音と唇音化した子音があり、これらを 1 個の子音フォネームと認め、かつ口蓋音化も唇音化もしないとの音韻的対立を認めると、子音フォネームの数はさらに増え、子音体系は複雑になる。その他に、日琉祖語の *p を保持していることが挙げられる。喉頭音化した流音 ʔr を保持しているのは、琉球諸語の中でも伊江島方言だけである。なお、本稿では喉頭音化した子音で始まる音節を「ʔラー、ʔリー、ʔマー、ʔワー、ʔヤー」のように、喉頭破裂音 ʔ を上付き文字^ʔにして仮名文字の左肩に添えて表す。ゆるやかな声立てで始まる母音音節は、「ʾい、ʾう」のように Apostrophe の ʾ を母音音節の左肩に添えて表す。

-
- i 昭和 12 (1937) 年生まれ、東江前在住。昭和 20 年から昭和 22 年まで米軍の命により渡嘉敷島、本部町に強制移住。
 - ii 昭和 12 (1937) 年生まれ、西江前在住。昭和 20 年から昭和 21 年まで米軍の命により今帰仁村、旧久志村に強制移住。

	伊江村東江・西江2019年11月22日 C. S. 昭和12年生まれ東江前、U. K. 昭和12年生まれ西江前生まれ。	
1	本土の人もヘチマを食べるの？	ヤマトウンチュン ナベーラ ² ケンナー。 ヤマトウンチュン ナベーラー ² ケールバイ。
2	ううん、本土の人はヘチマは食べない。	ンーンンー。ヤマトウンチュヤ ナベーラヤ ² カン。
3	我が家では、夏になったら、毎日ニガウリを食べる。	ワッタ ヤーナイティヤ ナツイ ナレー メーニチ ゴーヤー ² ケン。
4	今日の朝ごはんは何を食べたの？	チューヌ アスイヤ ヌー ² カーター。 チューヌ スイカマムンヤ ヌー ² カーター。
5	冬瓜を食べた。	スブイ ² カータン。
6	姉さんは食べなかった。	マーマヤ ² カンタン。
7	このサトイモは誰が食べるの？	フヌ スィンヌークウム ター ² ケー。
8	姉さんがこそ食べるんだ。私はたべない。	マーマ ヤトウドウ ² ケン/ ² ケール。ワンヤ ² カン。 マーマドウ ² ケール。ワンヤ ² カン。
9	お前が天ぷらを全部食べただろう？	² ラードウ ティンブラ スームル ² カータラー。
10	私は一つだけ食べたんだよ。	ワンヤ ² ティーツイドウ ² カータル。 ² カータンデヤ
11	残ったテンプラは、全部母さんがこそ 食べよったんだ。	ノホタル ティンプラヤ スームル アンマードウ ² ケータン。
12	父さんもバナナ食べるかなあ。	チャーチャン 'ウンナイ ² ケーカヤー。
13	父さんも食べる食べるはず。	チャーチャン ² ケールパズイデー。
14	お前もバナナを食べるだろう？	² ラン 'ウンナイ ² ケーツァンニ。 ² ラン 'ウンナイ ² ケラー。
15	誰がお菓子を食べたのかなあ。	ター クァーシ ² カーターヤ。 ター クァーシ ² カーターヤー。
16	お菓子は妹が食べたはず。	クァーシヤ ウットウヌ ² カータルパズイデー。
17	そこに置いた魚は誰が食べよったの？	マーナイ ウッチ アタル ² ユーヤ ター ² ケーターヤ。 マーナイ ウッチ アタル ² ユーヤ ター ² カーターヤ。
18	犬が食べよったのかな。	インヌークァズドウ ² ケータカヤー。 インヌークァズドウ ² カータカヤー。
19	隣の猫が食べよったはずよ。	トゥナイヌ メースドウ ² ケータルパズイデー。
20	食べるなっていたのに、食べたのか？	² コーナーディ イチャスイガ ² カータルバイ。 ² コーナーディ イチャスイガ ² カーティー。
21	兄さんが食べよったから、私も食べたんだよ。	ンーミーガ ² ケータトゥ ワヌン ² カータン。
22	兄さんが食べよったの？本当なの？	ンーメー ² ケータルバイ。ジュンニナー。 ンーメー ² カーティー。ジュンニナー。
23	兄さんは三つも食べよった。	ンーメー ニーツィン ² ケータンドー。
24	ねえさんも食べよっただろう？見ただろう？	マーマン ² カーティーアエーツァンニ。ンーツァラー。 マーマン ² ケータラー。ンーツァラー。

25	昨日食べたソバはおいしかった。	チニュー ² カータル スバヤ マーサタン。
26	今日も一緒に食べよう。	チュン マジー ² カンナ。
27	今日は名護に食べに行こう。	チューヤ ナグンカイ ² ケンジャ イチャ。
28	ご飯を食べながらテレビを見るな。	ムヌ ² ケーチーニヤ テレビヤ ニンナ。
29	もう片付けるから、急いで食べる。	² ニヤ ハタズイキコトウ ハク ² ケー。 ² ニヤ ハタズイキコトウ ハク ² ケーバ。
30	ぜんぶ食べるまで待ってちょうだい。	ムール ² コーダ マッチ トウラシヤンネ。
31	お前が食べきれないなら、俺が食べよう。	² ラー ² ケーユーサンナレー ワー ² ケンドー。
32	これは私が食べる。	フレー ワー ² ケン。 フレー ワー ² ケツツア。
33	もったいないから、食べるなら残すな。残すなら食べるな。	アタラシャートウ ² ケールムンデーレー ノホスナ。ノホシュル ムンデーレー ² コーナ。
34	明日食べるコメを買ってきて。	アチャー ² ケール フミー ホーティ フー。
35	おじいさんはご飯を食べて薬を飲みよったか。	ウプシュヤ ムヌ ² カーティ クスイ ヌニューディー。
36	おばあさんは昼ごはんを食べて、それから畑に行った。	パツパヤ ² ティルマンチ ² カーティ/アゴーチ(召し上がって) パルンカイ イジャン/イチュタン。 パツパヤ アスイ ² カーティ/アゴーチ(召し上がって) パ ルンカイ イジャン。
37	兄さんは昼飯を食べてから畑に行った。。	シーミヤ ² ティルマンチ ² カーティラ パルンカイ イジャン。 シーミヤ アスイ ² カーティラ パルンカイ イジャン。
38	明日もサシミを食べるから、買って来い。	アチャン ナマスィ ² ケートウ ホーティ フー。
39	今日食べたから、明日は食べなくてもいい。	チュー ² カータウ アチャヤ ² カンナティン シニユン。 チュー ² カータウ アチャヤ ² カンティン シニユン。
40	パパイヤを食べたらお乳がよく出る。	マンジューギ ² ケー チー ユー イジュンドー。
41	痩せた女の人は、パパイヤを食べなければお乳は出ない。	ヨーガリ ² イナウヤ マンジューギ ² カンナレー ² チーヤ イ ジラン
42	男はパパイヤを食べても、お乳は出ない。	² イキガヤ マンジューギ ² カーティン チーヤ イジラン
43	クワンソウを食べれば眠れる。	クアンソ ² ケー ユー ニンバリン。
44	クワンソウを食べたのに眠れなかった。	クアンソ ² カータスイガ ニンバラタン。 クアンソ ² カータルムン ニンバラタン。
45	クワンソウを食べなかったのによく眠れた。	クアンソ ² カンナタスイガ ユー ニンバリタン。 クアンソ ² カンタスイガ ユー ニンバリタン。
46	私は、クワンソウを食べなくても眠れる。	ワンヤ クアンソ ² カンナティン ニンバリン。 ワンヤ クアンソ ² カンティン ニンバリン。
47	肉はよく食べるのに野菜はぜんぜん食べない。	シシヤ ユー ² ケースィガ ヤセヤ マルディ ² カン。 シシヤ ユー ² ケールムン ヤセヤ マルディ ² カン。
48	今日買ったキャベツはおいしいから、食べてみる。	² チュー ホータル ハブタンヤ マーサトウ ² カーティン ニー。

49	その腐った豆腐は食べるな。	フヌ ツァーリトウヌ トープヤ コーナ。 ／ツァーリトウ コーナ(腐っているから食べるな)。
50	何故ヤギ汁を 食べないの？おいしくないの？。	ヌーガ フィージャシル [?] カンナルー。マーサ ネンバイ。
51	腹いっぱいだから食べないんだ。ヤギ汁は好きだよ。	ワタ [?] ピーシャ アトウドウ [?] カンバー。フィージャシルヤ スイチドー。 ワタ [?] ピーシャ アトウドウ [?] カンバー。フィージャシルヤ スイチドー。
52	姉さんも食べなかつただろう。	マーマン [?] カンナタルパズィ。 マーマン [?] カンタラー。マーマン [?] カンナタラー。
53	お腹が痛かったから、食べなかつたんだよ。	ワタ ヤデイドウ [?] カンナタンデヤー。
54	お前もヤギ汁は食べないんだらう？	[?] ラン フィージャシルヤ [?] カンナエーツァンニ。 [?] ラン フィージャシルヤ [?] カンダラー。
55	父さんも 食べないだらう。	[?] チャーチャン [?] カンパズィ。 [?] チャーチャン [?] カンダラー。
56	父さんはヤギ汁を食べないかなあ。	チャーチャン フィージャシルヤ [?] カンカヤー。／アゴランカヤー(召し上がらないかな)。
57	もしおまえが食べなかつたらヤギ汁は残るはず。	ムシーカ／ムシン [?] ラー [?] カンナレー フィージャシルヤ ノホユルパズィ ムシーカ／ムシン [?] ラー [?] カンナレー フィージャシルヤ ノホユラドー。 ムシーカ／ムシン [?] ラー [?] カンナレー フィージャシルヤ ノホユンデヤー。
58	本土の人はヘチマを食べないの？	ヤマトウンチュヤ ナベーラヤ [?] カンバイ。
59	食べろっていったのに、食べなかつたのか？	[?] ケーディ イチャスイガ [?] カンナタルバイ。
60	粥が残っているけど、誰が食べなかつたの	ウケーメ ノホトウスイガ ター [?] カンナター。
61	お前もお粥を食べなかつたんだらう？	[?] ラン ウケーメ [?] カンナタラー。 [?] ラン ウケーメ [?] カンタラー。
62	何故、お菓子を食べなかつたのかなあ。	ヌーディチ クァーシヤ [?] カンナターヤ。
63	誰も食べないのに芋を煮た。	タン [?] カンスイガ ウムー ニチャン。
64	誰も食べない物は買ってはいけない。	タン [?] カーヌ ムヌヤ ホーティヤ ナラン。
65	ぜんぶ食べないうちに片付けられた。	ムル [?] ケーパティヌ マドゥイナイ シジミラタン。 ムル [?] カーヌ マドゥイナイ シジミラタン。
66	ヨモギ雑炊を食べなかつた子供にはお菓子をあげない。	プチバズーシ [?] カーヌ [?] クァンカイヤ クァーシヤ [?] カーサン。
67	おじいさんは夕ご飯を食べないで眠ろうとしていた。	ウプシュヤ ユックイ [?] カングートウ ニンジョラーディ シュータン。 ウプシュヤ ユクイ [?] カングートウ ニンジョラーディ シュータン。 ／アゴラーグートウ ニンジョラーディ シンシェタン(召し上がらずに休もうとなさった)。
68	今日は肉を食べないから、買って来るな。	チューヤ シシヤ [?] カントウ ホーティ クンナ。
69	昨日魚を食べなかつたから、今日は食べよう。	チニューヤ [?] ユー [?] カンナタトウ チューヤ [?] カンナ(勧誘)／ [?] ケンドー(食べるよ・意志)。

70	残したらもったいないから、食べないなら炊くな。	ノホセー アタラシムン ヤトゥ [?] カンナレー ニンナ。
71	もしおまえが食べないならご飯は炊かないよ。	ムシーカ/ムシン [?] ラー [?] カンナレー メーメヤ ニヤンドー。
72	お祝いのごちそうは、私が食べる前に無くなっていた。	ユウエヌ [?] クアッチヤ ワー [?] ケール メーナィ ネン ナティ 'ウタン。
73	姉さんが東京から来る。	マーマーガ トーキョーラ チュン。
74	姉さんはいつ来るの。明日、来る。	マーマヤ イツイ チョー。アチャー チュン。
75	姉さんの夫も来るの？うん、来るよ。	マーマー 'ウツウン チュールバイ。イン、チュンドー/チュツツア。
76	姉さんたちが来るから、孫も来るだろう。	マーマタガ チュートウ マーハン チュールパズィ。
77	孫たちが来たら、いっしょに遊ぼう。	マーハンチャヌ ケー マジー アスイバ。
78	大阪の兄さんは来ないはず。	オーサカヌ ンーミヤ フンパズィ。 /フンナーツァンニ(来ないんだろう?)/フンダラー(来ないだろう?)。
79	なぜ 来ないの。	ヌーディチ フンナヨー。ヌーディチ フンナルー。 ヌーガ フーヌ。ヌーガ フーヌヤー。
80	忙しいから、来ないんだ。	イチユナーシャヌ フンバー。 イチユナーシャトウドウ フン。
81	姉さんたちが来るなら、ご馳走をつくっておこう。	マーマタガ チューラー クアッチ シコティ ウカ。
82	おじさんも来ないの？	ウンチュン フンバイ。
83	うん、おじさんは仕事があるから、来ない。	イン/ンー、ウンチュヤ シクチヌ アトゥ フン。シクチヌ アトウドウ フン。
84	おじさんが来ないから、おばさんも来ない。	ウンチュヌ フントウ バーバン フン。 /ウンチュヌ フーララントウ バーバン フン(おじさんが来れないからおばさんも来れない)。
85	姉さんたちは空港からバスで来るんだ。	マーマタヤ ヒコージョーラ バスーラ チュン。マーマタヤ ヒコージョーラ バスーラドゥ チュール。
86	姉さんたちが来ないうちに家の中を片付けろ。	マーマタ フーヌ マドゥイナイ/ウチナイ ヤーヌ ナハ ハ タズィキリ。
87	孫たちが来たから、一緒に遊んだ。	マーハンシャヌ チャートウ マジー アスイダン。
88	姉さんたちは飛行機で来て、船で帰った。	マーマタヤ ヒコーキラ/ヒコーキシ チー クニラ/クニシ ケータン。
89	いとこにも来いっていったのに、来なかったのか？	イチユンカイン フーディ イチャスイガ フンナタルバイ。 /イチユンカイヌン フーディ イチャスイガ フンナタルバイ。
90	いとは来月沖縄に来てから、仕事を探すそだよ。	イチユフヤ チュール スイツィー ウチナンカイ チーラ シ クチ トゥメユンディ。
91	あさっては、家にいないから、来るな。	アサッティヤ ヤーナイ 'ウラントウ クンナ。
92	今日は来なくてもいいって言ったのに、来たのか？	チューヤ フンティン シニユンディ イチ アタルムヌー/イ チアタスイガ チャールバイ。ツチーを言うか確認
93	なぜ、来たの。	ヌーディチ チャー。/ヌーガ チャール。 ユージュドゥ アッティー/ユージュヌドゥ アッティー(用があったのか)。

94	急ぎの用事があったから、来たんだよ。	アワティ 'ウル ユージュヌ アツティドゥ チヤンドー。 /アワティ 'ウル ユージュヌ アトウ チヤンドー。
95	昨日は来なかったんだらう？	チニューヤ フンナタラー。
96	なぜ来なかったの？	ヌーディチ フンナター。
97	忙しかったし、頭も痛かったから、来なかった	イチューナーシャン アティ スイブルン ヤニュータトゥ フン ナタン(忙しくもあつたし頭も痛かったから来なかった)。
98	しあさっては君も来るだらう？	アサティンナーチャヤ ?ラン チューラー。
99	サシバ、今年は来なかったねえ	タハーヤ フトゥシヤ フンナタンヤー。
100	何故、来なかったのかなあ。	ヌーディチ フンナターヤー。ヌーグトウヌ アティー フンナ ターヤ(何があったの)
101	今年台風が多かったから、来なかったんだよ。	フトウシヤ ハズイプチヌ ウプサヌ フンナタンドヤー。
102	サシバ、来年は来るかなあ。	タハヤ ヤニヤ チューカヤー。 タハヤ ヤニーヤ チューカヤー。
103	もうサシバは来ないかなあ。	ニヤ タハヤ フンカヤ/フンバーデーカヤ。
104	サシバ、去年は来よかったよ。	タハヤ フズヤ チュータンドー。
105	いつ来たのかなあ。	イツィ チャーヤ。/イツィヌ マドウィ チャーヤ。
106	そうか。来よかったんだ。	アニ、チューティー/チュータルバイ。
107	だったら、今年、来なくても、来年はくるかもしれ ない。	ヤレー フトゥシヤ フンナティン ヤニヤ チューラ ワカラ ンドー。
108	今年来なかったのに来年は来るの？	フトウシヤ フンナタスイガ/フンタスイガ ヤニーヤ チュールバイ。
109	むかし、来なかった年もあつたよ。	ンカシ フンナタル トウシン アターモ/アタンドー。
110	郵便屋はさっき来たよ。	ユービンヤヤ ニヤンマ サーチ チヤンドー。 /ユービンヤヤ パーサ チヤンドー。
111	郵便屋は来よかったの？本当なの？	ユービンヤヤ チュータルバイ。ショーヤミ。
112	郵便屋が来よかったから、手紙があるんだよ。	ユービンヤヌ チュータトウドウ ティガミヤ アンドー。
113	誰も来ないのに 店を開けているの。	タン フンスイガ マチャヤ アキティ 'ウルバイ。
114	客が来るなら店を開ける。	チャクヌ ?ケー マチャ アキユン。
115	もし客が来ないならを閉めよう。	ムシーカ/ムシン チャクヌ フンナレー マチャヤ ?ク ーラ。
116	夕方には客が来るだらう。	ヨーネーヤ チャク チュールパズドー/チューラドー。
117	今から来る人にはサービス(おまけを)しよう。 ツアー。	ニヤンマハラ チュール ?チュンカイヤ スイーブン ツアー。 ニヤンマーラ チュール ?チュンカイヤ スイーブン ツアー。
118	何人、来よかったの？	イクタイ チューター。 /イクタイ チャー/チャーヤ(来たの)

119	私が言った通り、来よっただろう？	ワー イチャル グートウ チュータラー。 ワー イチャル トゥーイ チュータラー。
120	うん、昨日、来た人が今日も来よった。	イン、チニュー チャール [?] チューヌ チュン チュータン。 イン、チニュー チャール [?] チューヤ チュン チュータン。
121	夜になって誰も来なかったから、閉めた。	ユルー ナティ タン フンタトウ [?] クータン。
122	以前からおまけをしていれば、客はもっと来よっただろう。	メーメーラ スィーブン シーウケー チャクヤ ニヤーピン チュータルパズイドー。
123	おまけをしていたら、来よったのかな。	スィーブン シーウケー チュータカヤ。
124	うん、もう少しは客が来ただろう。	シー、ニヤー フターミヤ チャクヌ チュータルパズイドー。
125	客が来ない店はつぶれる。	チャクヌ フーヌ マチャヤ [?] コーリユン。
126	あの子は学校に来ないで、家で休んでいる。	アヌ クアーヤ ガッコンカイ フングートウ ヤーナイ/ヤー ナイティ ユフティ 'ウン。
127	学校に来ながら、友だちの家に行ってみた。	ガッコンカイ チューチーニヤ ドゥーシヌ ヤー イジン チャン。
128	友だちを連れて学校に來い。	ドゥーシ ソーティ ガッコンカイ フー。
129	島に来なければ、島のいいところはわからない。	シマンカイ フンナレー シマヌ イー トゥーマ ワハラン。
130	船が来るまで港で待とう。	クニヌ クローダ ニヤートゥーティ マター。 クニヌ クローダ ニヤートウナイティ マター。
131	もしバスが来なかったらタクシーに乗ろう	ムシーカ/ムシン バスヌ フンナレー タクシンカイ スラ。
132	せっかく島に来たのに雨ばかり降っていた	ティンダティティ シマンカイ チャーシガ アミービケイ プ ティ 'ウタン。 /ティンダティティ シマンカイ チャーシガ アミービケイ プティ 'ウータン/プュータン。
133	来年も二人で一緒に来よう。	ヤニン [?] タイシ マジー イチャ。
134	私たちが来れば、太郎も来るって言っていたよ。	ワッタ [?] ケー タラン チュンディ [?] ユータン。
135	来年来れなくても、再来年はみんなで来よう。	ヤニー フラランティン/フラランナレー [?] ニヤンチュヤ ム ルシ マジー フーヤー。
136	魚をたくさん釣って楽しかったから、来年も来よう。	[?] ユー イチャーサン [?] クアーチ イーシャトウ ヤニン フー ヤー。
137	あいつは友達が家に来ても、お茶も出さない。	アリヤ ドゥーシンチャヌ ヤンカイ [?] チン チャン イジャサ ン。
138	あいつは友だちが来るのにお茶さえ出さないのか？	アリヤ ドゥーシンチャヌ チューシガ [?] チャン イジャサン バイ。
139	だから、今までだれも来なっただろう。	ヤトウ ニヤンマエーダ タン フンナタルパズイ。 /ヤトウ ニヤンマヤケ タン フンナタルパズイ。
140	おまえ昨日も来ただろう？うん、来たよ。	[?] ラー チニユン チャーラー？ シー チヤンドー。
141	明日は来ないんだろう？うん、畑に行くから来ない。	アチャヤ フンダラー。シー、パルンカイ イチュトウ フン。 フーラン(来れない)。
142	子どもが来ない前にお菓子をを用意しておこう。	ワラビヌ フーヌ メーナイ クアーシ イジャチュカ/イジャ チューカ。

143	今日は何を煮るの？	チューヤ ヌー ニョー。
144	今日は、昨日掘ったサツマイモを煮る。	チューヤ チニュー プタヌ ウムー ニュン。
145	この鍋で煮るの？	フヌ ナビシ ニュールバイ。
146	うん、小さいからその鍋では煮ない。	アイ、フーサトゥ／グニャサヌ フヌ ナビシヤ ニヤン。
147	どうやってたくさんのサツマイモを煮るのかなあ。	イチャシ イチャーサール／ウサナナール ウムー ニューカ ヤー／ニュールバーガヤー。 ／イチャシ／イチャナナール／ウサナナール ウムー ニョーヤ。
148	今日のかぼちゃを煮ないの？	チューヤ ナンクアンヤ ニヤンバイ？
149	昨日煮たから、今日は煮ないんだ。	チニュー ニチャトゥ チューヤ ニヤンサ。
150	冷蔵庫に豚肉があるのに何故煮ないの？	レイゾーコナイ [?] ワーシシ アスイガ ヌーディチ ニヤン バーガ。
151	昨日も豚肉だったから、今日は豚肉は煮ない んだらう？	チニユン [?] ワーシシ ヤタトゥ チューヤ [?] ワーシシヤ ニヤ ンダラー。 ／チニユン シシ ヤタトゥ チューヤ シシヤ ニヤンバイ。
152	大根も一緒に入れて煮ないかなあ。	デークニン マジー イリティ ニヤンカヤ。
153	ゴボウは煮ないだらう。嫌いだから。	グンボヤ ニヤンパズィ。スイチ アラントゥ。
154	そうか、好きじゃないから、ゴボウは煮ない んだ	アニー。スイチー アラントウドゥ グンボーヤ ニヤンサ。 アニー。スイチー アラントゥ グンボーヤ ニヤンサ。
155	今日煮ない豚肉は冷蔵庫に入れておけ。	チュー ニャーヌ [?] ワーシシヤ レーゾーコカイ イリティ ウ キバ。
156	今日の里芋は誰が煮たの？	チューヌ スインヌークウムヤ ター ンチャー。
157	その里芋は母さんが煮たんだよ。私じゃない よ。	フヌ スインヌークウムヤ アンマー ンチャドー。ワンヤ アラドー。 フヌ スインヌークウムヤ アンマー ヤトウドゥ ンチャル。
158	母さんが煮たんだらう？	アンマードゥ ンチョチャラー。 マーマドゥ ンチャラー。
159	母さんが煮た里芋はおいしかったねえ。	アンマー ニョーチャル スインヌークウムヤ マーサタン ヤー。
160	豚肉が冷蔵庫にあるけど、何故豚肉を煮な かったの？	[?] ワーシシヤ レーゾーコナイ アエーチャーニャ／アスイガ ヌーディチ [?] ワーシシ ニヤンナター。
161	鶏肉が食べたかったから、鶏肉を煮た。	トウイシシ [?] ケーブーシャ アタトゥ トウイシシ ンチャン。 トウイシシ [?] ケーブーシャ アタトゥ トウイシシ ンチャン。
162	鶏肉は煮たけど、豚肉は煮なかった。	トウイシシヤ ンチャスイガ [?] ワーシシヤ ニヤンナタン。
163	昨日も豚肉を煮たから、今日は煮なかったん だらう？	チニユン [?] ワーシシ ンチャトゥ チューヤ ニヤンナタラー。 チニユン [?] ワーシシ ンチャトゥ チューヤ ニヤンタラー。
164	一昨日も豚肉だったから、昨日は煮なかった んだよ。	[?] ウッティン [?] ワーシシ ヤタウドゥ チニユヤ ニヤンナタ ン。
165	もしおばあさんが煮ないなら誰が煮るの？	ムシーカ／ムシン パッパー ニョーラランナレー ター ニョー。ムシーカ パッパー ニヤンナレー ター ニョー。

166	姉さんが煮るはず。	マーマー ネーツァンニ/ニュールパズィ。
167	お前も時々煮るだろう？	[?] ラン トウチドゥチャ/マリマリ ネーツァンニ。 [?] ラン トウチドゥチャ/マリマリ ニューラー。
168	何故、豚肉は煮なかったのかなあ。	ヌーディチ [?] ワーシシヤ ニャンナターカヤ。 ヌーディチ [?] ワーシシヤ ニャンナターヤ。
169	誰がカボチャを煮たのかなあ。	ター ナンクァン インチャカヤ。 ター ナンクァン インチャーヤ。
170	そのカボチャは姉さんが煮たはず。	ウヌ ナンクァンヤ マーマー インチャルパズィ。
171	姉さんは煮なかったはず。	マーマー ニャンナタルパズィ。 マーマー ニャンナタラードー。
172	母さんが煮るカボチャは甘くておいしい。	アンマー インチャル ナンクァンヤ アマサヌ マーサン。 マーサタン(美味しかった) /アンマー ニョーチャル ナンクァンヤ アマサヌ マーサン。
173	姉さんが煮れば、みんな残さず食べる。	マーマー ネー ムル ノホサングトウ [?] ケン。 マーマー ネー ムル ノホサングートウ [?] ケン。
174	鍋にあったトウガンは誰が煮よったの？	ナビナイ アタル シブイヤ ター ニューター。 ナビナイ アタル シブイヤ ター インチャー。
175	さっき台所にいた姉さんが煮よっただろう。	ニャンマサーチ トウングァナイ ウタル マーマー インチャルパズィ。 ニャンマサーチ トウングァナイ ウタル マーマー ニュータルパズィ。
176	サトイモを煮ろっていったのに、煮なかったのか？	スイヌークウム ニーディ イチャスイガ ニャンタルバイ。 スイヌークウム ニーディ イチャスイガ ニャンナタルバイ。
177	兄さんが煮よったから、私は煮なかった。	シーメー ニュータウ ワンヤ ニャンタン/ニャンナタン。
178	兄さんが煮よったの？本当なの？	シーメー ニューディー。ジュンニナー。 シーメー ニュータルバイ。ジュンニナー。
179	兄さんは食べきれないくらい煮よった。	シーメー [?] ケーパティユーサヌ アタイ ニュータン。
180	何故あんなにたくさん煮よったのかな。	ヌーディチ アヌグートウ イチャーサン ニュータカヤー。 ヌーディチ ウサナナー ニューターヤ。
181	里芋を煮ながらテレビを見るな。	スイヌークウム ネーチーニャ テレビヤ ニンナ。
182	ぜんぶ煮ないうちに火が消えた。	ムル ニーラヌ マドウイ ティーヤ [?] チータン。 ムル ニューヌ マドウイ ティー [?] チータン。
183	ゴボウは煮るなっていったのに、煮たのか。	グンボヤ ニンナーディ イチャスイガ インチャルバイ。 グンボヤ ニンナーディ イチャスイガ インチャー。
184	誰も煮ないのに魚を買ってきた。	タン ニャンスイガ [?] ユー ホーティ チャン。 タン ニャンムンヌ [?] ユー ホーティ チャルバイ
185	魚を煮ないで、何を煮るの。	[?] ユーヤ ニャングートウ ヌー ニュールバーガ。
186	少ししか煮なかったのに柔らかくなっている。	フーターミドゥ インチャスイガ ヤパラーサ ナティ 'ウン。
186	おかあさんが 煮なかったのにおいしく なっている。	
187	タコは煮る前に塩で揉んでから煮ると柔らかくなる。	タフヤ ニュール メーナイ マシュシ ムディーラ ネー ヤパラーサ ナン。 /タフヤ ニュール メーナイ マシュシ ムディーラ ユゲセー(茹でたら) ヤパラーサ ナン。

188	魚を煮ないなら、まな板と包丁をかたずける。	
188	魚を煮るなら、もう少し大きい鍋を使え。	[?] ユー ニューラー ニヤーピ ウッピシャル ナビ シッカリベ。
189	母さんもそうやって煮よっただろう？見ただろ う？	アンマン アンシドゥ ニュータラー。ンチェー サンニ(見 よっただろう？)/ンチャラー(見ただろ？)
190	今日は豚肉は煮ないから、買って来るな。	チューヤ [?] ワーシシヤ ニヤントウ ホーティ クンナ。
191	昨日は、煮なかったから、今日煮よう。	チニューヤ ニヤンナタトウ チューヤ ニヤンナ。
192	大根は、肉も入れて煮なければ美味しくない。	デークニヤ シシン イリティ ニヤンナレー マーサ ネン。
193	もしおばあさんが煮なかったら誰も煮ないだ ろう。	ムシーカ/ムシン マーマー ニヤンナレー/パッパー ニョーランナレー タン ニヤンナエーツァンニ。
194	おばあさんが煮ないなら、私たち二人で一 緒に煮よう。	パッパーガ ニヤン ナレー/ニョーラン ナレー ワッタ タ イシ マジー ニヤンナ
195	今日はおまえが煮ろ。	チューヤ [?] ラー ニー/ニーバ。
196	お前が煮ないなら、俺が煮よう。	[?] ラー ニヤン ナレー ワー ニュツツァ。
197	これは私が煮る。煮よう。	フレー ワー ニュン。/フレー ワー ニュツツァ。
198	せっかく、私がサトイモを煮たのに誰も食べな かった。	ティンダティティ ワー スインヌークウムー ンチャルムヌー /ンチャスイガ タン [?] カンナタン
199	魚ぐらいたまには自分で煮てみる。	[?] ユーヌ アタイヤ マリマリーヤ ドウシ ニー/ニーバ。 [?] ユーヌ アタイヤ マリマリヤ ドウシ ニー/ニーバ。
200	魚を全部煮るまで待ってくれ。	[?] ユー ムール ニローダ マティバ。 / [?] ユー ムル ニローダ マティバ。
201	全部煮なくても家族の分はあるよ。	スームル ニヤンティン ヤーニンジュヌ タマスイヤ/ブンヤ アンドー。
202	魚を煮るなら、塩を少し入れろ。	[?] ユー ニューラー マシュ フーターミヤ イリリ/イリリバ。 [?] ユー ニューラー マシュ フーターマ イリリ/イリリバ。
204	大根を煮てから、味噌汁も作った。	デークニ ンチーラ ニシュシル シュガタン。 デークニ ンチーラ ニシュシル シュガタン。
204	父さんは自分で魚を煮て酢の物を作った。	チャーチャヤ ドウシ [?] ユー ンチ エームン シュガタン。 チャーチャヤ ドウシ [?] ユー ンチーラ エームン シュガ タン。
205	明日はゴボウを煮るから、買って来い。	アチャヤ グンボ ニユートウ ホーティ フーバ。
206	肉とゴボウを煮たら、アクがたくさん出る。ン。	シシトウ グンボトウ ネー アクー イチャーサン イジュン。
207	弟が魚を煮ても、だれも食べない。	ウットウヌ [?] ユー ンチン タン [?] カン。
208	その魚は腐っているから煮るな。	フヌ [?] ユーヤ ツァーリティ ウトウ ニンナ。 フヌ [?] ユーヤ ツァーリトウトウ ニンナ。
209	大根は よく 煮るのに 冬瓜は あまり 煮ない。 。	デークニヤ ユー ニュールムン/ニョースイガ シブイヤ ドゥク ニヤン。 /デークニヤ ウミシッチ ニュールムン/ニョースイガ シ ブイヤ ドゥク ニヤン。
210	全部母さんがこそ煮よったんだ。	スームル アンマ ヤトウドウ ニュータン。ニョータン。ネー タン。
211	トウガンはおばあさんがこそ煮るんだ。ほかの 人は煮ない。	シブイヤ パッパー ヤトウドウ ニュール/ネール。フカヌ チューヤ ニヤン。
212	雑炊を煮なかった日は、ご飯を炊いた。	ズースイメーメ ニヤーヌ/ニヤンヌ/ネーヌ ティーヤ メー メ ニュン。

	伊江村東江前、西江前 C. S. 昭和12年生まれ東江前、U. K. 昭和12年生まれ西江前。	
1	どこでもハーリーでは男が舟を漕ぐ。	ダーウティン パーリヤ 'イキガヌ クニヤ フジュン。 ダーナイティン パーリヤ 'イキガヌドゥ クニヤ フジュン。
2	若いときはみんなで舟を漕いだ。	ワハサイヤ ムルシドゥ クニ フジャン。 ワハサイナイヤ ムールシ クニヤ フジャン。
3	今でも女は舟を漕がない。	ニヤンマ ヤティン 'イナウヤ クニヤ フガン。 ニヤンマ ヤティン 'イナウヤ クニヤ フガン。
4	今日は手が痛いので、舟を漕げない。	チューヤ ティー ヤニユトウ クニヤ フジューサン/フガラン。 チューヤ ティーヌ ヤニユトウ クニヤ フジューサン/フガラン。
5	病気が治ったから、舟も漕げる。	ヤンメヌ ノータトウ クニン クガリン。
6	明日も海へ行く。	アチャン ウニンカイ イチュン。
7	父は天気が悪いときは海へは行かない。	チャーチャヤ テインチヌ ワツツァアイヤ ウニンカイヤ イチャン。
8	昼間仕事をして、夜遊びに行った。	ティルヤ シクチ シー ユルヤ アシディンジャ イジャン。
9	今日は叔父が家に来る。	チューヤ ウンチョー ヤンカイ チュン。
10	叔母は来ない。	バーバヤ/ウバマヤ フン。 バーバヤ フン。
11	祖父は叔父に電話をしていところを来させた。	ウプショー ウンチュンカイ デンワシー イチュフ フーサチャン。
12	孫も来たがっていたので、来させた。	マーハン チーブーシャ シュータトウ フーサチャン。
13	叔父もいとこもバスから来た。	ウンチュン イチュフン バスーラ チャン。
14	崖の側は危ないから、子どもは来んな。	プチパンタヌ スバヤ ウカーシャトウ ワラビンシャヤ クンナ。
15	5月はよく雨降るねえ。	グンガツィヤ ユー アミー プユンヤー。
16	12月は雨降らないよ。	シワースィヤ アミー プランヤー。
17	昨日も大雨が降った。	チニユン ウプアミ プタン。
18	あ、雨 降ってきた	アメ、 アミー プッティ チャン。 アメ、 アミー プティ チャン。
19	大雨が降ったので、橋が流された。	ウプアミヌ プティ チャートウ パシヌ ナーラサタン。 ウプアミヌ プティ チャートウ パシン ナーラサタン。
20	太郎は毎日学校の前でバスから降りる。	タラヤ メーニチ ガッコーヌ メーウティ バスーラ ウリユン。 タラヤ メーニチ ガッコーヌ メーナイティ バスーラ ウリユン。
21	友人がさきにバスを降りた。	ドゥーシヤ サチ ナティ バスーラ ウリタン。このヤはガの意味だとか。
22	このバス停では誰も降りない。	フヌ ウリクチナイヤ タン ウリラン。 フヌ バステイナイヤ タン ウリラン。

23	熟したら、木の実は自然に落ちる。	ウメー キーヌ ナイヤ ドウシ ウティユン／ウティユツァ。 ジューツェー キンナイヤ ドウシ ウティユン。
24	青い実は木を揺らしても、落ちない。	オーナイヤ キー 'ウーティン ウティラン。
25	木を揺らしたから、落ちた。	キー 'ウータウ ウティタン。
26	オスの馬もメスの馬も人を蹴る。	ウーマン ミーマン チュー キユン。
27	おとなしい馬は人を蹴らない。	ウエザーサヌ ² マーヤ チューヤ キラン。 ウエンザマヤ チュー キラン。
28	あのおとなしかった馬が人を蹴った。	アヌ ウエンザマヌ チュー キタン。 アヌ ウエンザマヌ チュー キタン。
29	父は去年買ったものでも捨てる。	チャーチャヤ フズー ホータル ムヌー ヤティン ² ウエッテーシユン。 チャーチャヤ フズー ホータル ムヌン ヤティン ² ウエッテーシユン。
30	まだ使えるのにラジオを捨てた。	² ニヤーマ スイカラルル ラジオ ² ウエッテーチャン。 ² ニヤーマ スイカラルル ラジオ ² ウエッテーチャン。
31	祖母はどんなに古くても、捨てない。	パーパヤ イチャール プルムン ヤティン ² ウエッテーサン。 パパヤ イチャール プルムヌン ² ウエッテーサン。
32	父は壊れたラジオを弟に捨てさせた。	チャーチャヤ コーリティ ウル ラジオ ウットウンカイ ² ウエッテーサチャン。 チャーチャヤ コーリトウル ラジオ ウットウンカイ ² ウエッテーサチャン。
33	誰にも聞かないで、捨ててしまった。	タンカイヌン チチャングートウ ² ウエッテーチ ネン。 タンカイヌン チチャングートウ ² ウエッテーチ ネン。
34	ノコギリで枯れた木を切る。	ノホジシ ハリタル キー チュン。 ノホジーシ ハリティウル キー チュン。／ハリギー チュン。
35	きのう枯れた木の枝を切った。	チニュー ハリトウル キーヌ ユダ チチャン。 チニュー ハリティ ウル キーヌ ユダ チチャン。
36	おじさんが一緒に切ってくれた。	ウンチョー マジー チッチ トウラチャン。 ウンチョー マジー チッチ トウラチャン。
37	こわくて、誰もガジュマルを切らない。	ウトウルーシャヌ タン ガジマールヤ チャン。 ウトウルーシャヌ タン ガジマールヤ チャン。
38	穴はスコップで掘る。	アナヤ スコップシ プユン。 アナヤ スコップシ プユン。
39	お父さんは掘るけど、お母さんは掘らない。	チャーチャヤ プユスイガ アンマヤ ブラン。 チャーチャヤ プユスイガ アンマヤ ブラン。
40	二人でとても深い穴を掘った。	² タイシ シーッペ プカサール アナー プタン。 ² タイシ デーatina プカサ アル アナー プタン。
41	お父さんに頼んで兄さんにも掘らさせた。	チャーチャナイ タルマティ ンーミン プラサタン。
42	木の実が熟したのに、祖父は自分では落とせない。	キーヌ ナイヌ ウディ ウシガ ウプシュヤ ドウシヤ ウトウシューサン。 キンナイヤ ウディ ウシガ ウプシュヤ ドウシヤ ウトウシューサン。
43	祖父が父に言いつけて兄に木の実を落とさせた。	ウプシュヤ チャーチャンカイ イースイキティ ンーミンカイ キヌナイ ウトウサチャン。

44	父が兄に棒で木の実を落とさせた。	チャーチャヤ ンーミカイ ボーシ キーヌナイ ウトゥサチャン。
45	兄が熟んだ木の実を全部落とした。	ンーメー ウディ ウル キーヌナイ スームル ウトゥチャン。 ンーメー ウドゥ ウル キーヌミー スームル ウトゥチャン。
46	掃除の時には荷物を外に出す。	ソージヌ バーヤ ニムツィヤ ポホンカイ イジャシュン。 シジミカタ シーナイヤ ニムツィヤ ポホンカイ イジャシュン。
47	弟も台所にあった荷物を外に出した。	ウトウン トウンガナイ アタル ニムツィヤ ポホンカイ イジャチャン。 ウトウン トウンガナイ アタル ニムツィヤ ポホンカイ イジャチャン。
48	祖母が母に言いつけてホースで水を流させた。	パーパー アンマンカイ イースイキティ オースシ ミズィ ナーラサチャン。 パパヤ アンマンカイ イースイキティ オースシ ミズィ ナーラサチャン。
49	母が花子にホースで水を流させた。	アンマー ハナコンカイ ホースシ ミズィ ナーラサチャン。 アンマヤ ハナコンカイ ホースシ ミズィ ナーラサチャン。
50	父が兄に言いつけて祖父を起こさせた。	チャーチャーヤ ンーミンカイ イースイキティ ウプシュ ウフサチャン。 チャーチャー ンーミンカイ イースイキティ ウプシュ ウフサチャン。
51	父が兄に寝ている祖父を起こさせた。	チャーチャヤ ンーミンカイ ニンバティ ウル プシュ ウフサシミタン。 チャーチャヤ ンーミンカイ イーシキティ ニンバティ ウル プシュ ウフサチャン。
52	兄が寝ていた祖父を起こした。	ンーメー ニンバティウル ウプシュ ウフチャン。 ンーメー ニンバティウル ウプシュ ウフチャン。
53	弟は左利きだけど右手でお箸を持つ。	ウットウヤ ティジャルー ヤシガ ニジーゲーニヤシ [?] メーシ ムチュン。 ウットウヤ ティジャイブラゲー ヤシガ ニジーゲーニヤシ [?] メーシ ムチュン。
54	汁鍋はこぼれやすいから、片手では持つな。	シルナビヤ イツケーリヤツツアトウ ハタディシヤ ムトゥーナ。 シルナビヤ ケーリヤツサトウ ハタディシヤ ムトゥーナ。
55	おにぎりの入った重箱はお母さんが持った。	ニンジメーメヌ イッチウル ジューバーフヤ アンマー ムチャン。 ニンジメーメヌ イチュール ジューバーフヤ アンマー ムチャン。
56	おばあさんにはお茶を持ってもらった。	パーパンカイヤ チャー ムチョーラチャン。ムチンショラチャン。 パパンカイヤ チャー ムチョーラチャン。ムチンショラチャン。
57	おじいさんにはムシロを持たせる。	ウプシュンカイヤ ムシュ ムチョーラシュン。 プシュンカイヤ ムシュ ムタシンシエン。 ウトウンカイヤ ムシュ ムタシュン(弟には籠を持たせる)。
58	重いけどもって持てる?	ウブサアスィガ [?] ニヤーピ [?] ムチューシュミ? ウブーサスィガ [?] ニヤーピ [?] ムチューシュミ?
59	あと一つだったら持てる。	[?] ニヤー [?] ティーツイドウン ヤレー ムチューシュン。 [?] ニヤー [?] ティーツイドウン ヤレー ムチューシュン。
60	いつも豚肉はお父さんが買う。	チャパルン [?] ワーシシヤ チャーチャ ホーエン(目上に) チャパル [?] ワーシシヤ チャーチャ ホーエン(目上に) ウトウヌ ホーユン(弟が買う)。
61	他には何も買わない。	フカヤ ヌン ホーラン。 フカヤ ヌン ホーラン。
62	お父さんは昨日は野菜を買った。	チャーチャヤ チニュー ヤセ ホーヨチャン。 チャーチャヤ チニュー ヤセ ホーヨチャン。ホータン(目下の行為)

63	明後日が給料日だから、明日は買えない。	アサッティヤ ジツチュービ ヤトウ アチャヤ ホーユーサン。 アサッティヤ ジツチュービ ヤトウ アチャヤ ホーユーサン。
64	明後日だったら欲しいものが買える。	アサッティヤ ヤレー プシャアル ムヌー ホーユーシュン／(ホーラリン)。 アサッティヤ ヤレー プシャアル ムヌー ホーユーシュン／(ホーラリン)。
65	お父さんは取ってきた魚を売る。	チャーチャヤ トウッティ チャール [?] ユー ウエン／ウユン(目下の行為) チャーチャヤ トウティ チャール [?] ユー ウエン／ウユン(目下の行為)
66	きょうは魚が少ないから、売らない。	チューヤ [?] ユー イキラーサヌ／イキラーサトウ ウラン。 チューヤ [?] ユー イキラーサヌ／イキラーサトウ ウラン。
67	昨日は私が取ったイカとタコを売った。	チニューヤ ワー トウッティ チャール タフトウ イチャ ウタン。 チニューヤ ワー トウティ チャール タフトウ イチャ ウタン。
68	その魚を安く売ってください。	フヌ [?] ユー ヤッサシ ウッティ トウラジャンネ。 フヌ [?] ユー ヤッサシ ウティ トウラジャンネ。
69	いつもおばあちゃんは私にお金をくれる。	チャッパルン パーパヤ ワンカイ ジニー キーエン。／キーユン(目下の行為) チャパル バパヤ ワンカイ ジニー キンシェン。／キーユン(目下の行為)
70	今日は弟にも1000円くれた。	チューヤ ウトウンカイヌン シェンエン [?] キータン。 チューヤ ウトウンカイン シェンエン [?] キータン。
71	おじいちゃんは私に何もくれない。	ウプシュヤ ワンカイ ヌン [?] キーヨラン／ [?] キーラン(目下の行為)。 ウプシュヤ ワンカイ ヌン [?] キンシヨラン／ [?] キーラン(目下の行為)。
72	いつも漁師から魚をもらう。	チャパルン ウニンチューラ [?] ユー [?] キーラリン。 チャパル ウニンチューラ [?] ユー [?] キーラリン。
73	小さいカニは誰ももらわない。	グニヤサル ガイヤ タン ヤン／ヤンタン(もらわなかった)。 フーサアル ガイヤ タン ヤン／ヤンタン(もらわなかった)。
74	隣の家から大根ももらった。	トウナイヌ ヤーラ デークニ イタン。 [?] カーサタン トウナイヌ ヤーラ デークニ イータン。
75	モズクをたくさんもらったからみんなに分けてあげた。	スイヌイ イチャーサン イタトウ ムールンカイ ワキティ トウラチャン。 スイヌイ イチャーサン イタトウ ムールンカイ ワキティ トウラチャン。
76	喉が乾いたら水を飲む。	ヌディヌ ハーラケー ミズイ ヌニユン。 ヌディヌ ハーラケー ミズイ ヌニユン。
77	私の夫は酒を飲まない。	ワー 'ウツウヤ サキヤ ヌマン。 ワー 'ウツウヤ サキヤ ヌマン。
78	叔父さんは病気だから、酒が飲みたくても飲めない。	ウンチュヤ ヤンメ ヤトウ サキ ヌニブーシャティン ヌマラン。 ウンチュヤ ヤンメ ヤトウ サキ ヌニ プシャティン／ヌニブーシャティン ヌマラン。
79	ここの井戸水は飲める。	フマヌ ハーヌ ミズイヤ ヌマリン。 フマヌ ハーミズイヤ ヌマリン(ここの井戸水は飲める)。
80	お母さんが入れたお茶をたくさん飲んだ。	アンマー イリヨチャル チャーヤ イチャーサン ヌダン。 アンマー イリヨチャル チャー イチャーサン ヌダン。

81	乗るなら飲むな。飲むなら乗るな。	ヌユラー ヌムーナ。ヌニユラー ヌンナ。 ヌユラー ヌムーナ。ヌニユラー ヌルナ。
82	お母さんは赤ちゃんにおっぱいを飲ませてあげた。	アンマヤ アハングアンカイ チー ヌマシユタン。 アンマー アハングアンカイ チー ヌマシユタン。
83	山羊もウシも草を食う。	ティツティジャン ウシン [?] ツァー [?] ケン。 ティティジャン ウシン [?] ツァー [?] ケン。
84	山羊は濡れた草は食わない。	ティツティジャヤ ンディティ ウル ツァー [?] カン。 ティティジャヤ ンディトル ツァーヤ [?] カン。
85	家で飼っている猫が魚を食った。	ヤーナイ スイカナティ ウル メーヌ [?] ユー [?] カータン。 ヤーナイ スイカナティ ウル メーヌ [?] ユー [?] カータン。
86	父が取った魚を猫に食われた。	チャーチャ トウツティ ウチャル [?] ユー メーナイ [?] カーラタン。 チャーチャ トウティ ウチャル [?] ユー メーナイ [?] カーラタン。
87	毎日暗くなるまで、外で遊ぶ。	メーニチ [?] カーサ ナローダ ポホウティ アスイデユン。 メーニチ [?] カーサ ナローダ ポホナイティ アスイデユン。
88	暗くなったら、誰も遊ばない。	[?] カーサ ナレー タン アスイバン。 [?] カーサ ナレー タン アスイバン。
89	昨日はいとことかくれんぼして遊んだ。	チニューヤ イチュフトウ [?] カーシェシ アスイダン。 チニューヤ イチュフトウ [?] カーシェ シー アスイダン。
90	弟は酒を飲むと、すぐに酔う。	ウツウヤ サキ ヌメー スイグイ ウィーユン。 ウツウヤ サキ ヌメー スイグイ ウィーユン。
91	昨日も酒を飲んだので、酔った。	チニユン サキ ヌダトウ ウィータン。 チニユン サキ ヌダトウ ウィータン。
92	兄はどんなに飲んでも酔わない。	シーミヤ イチャーサン ヌディン ウィーラン。 シーミヤ イチャーサン ヌディン ウィーラン。
93	彼は酔って、寝ている。	アリヤ ウィーティ ニントウン。 アリヤ ウィーティ ニントウン。
94	私はまだ飲んでいないのに弟が全部飲んだ。	
94	少ししか飲んでいないのに、酔ってしまった。	ウツピドゥ ヌダスイガ ウィーティ ウツツァー。 フーターミドゥ ヌダスイガ ウィータツツァー。
95	汚れた皿とお椀はお父さんが洗う。	ユグリザラトウ マハイヤ チャーチャー アラエン/アラタン(目下の行為) ユグリザラトウ マハイヤ チャーチャー アラエン/アラタン(目下の行為) ユグリティウル サラトウ マハイヤ チャーチャー アラエン/アラタン(目下の行為)
96	私は兄さんに鍋を洗ってもらった。	ワンヤ ンーミンカイ ナビ アララチャン。 ワンヤ ンーミンカイ ナビ アララチャン。
97	兄さんが私の代わりに洗ってくれた。	シーミヤ ワー ハワイ アラティ トウチャン。 シーミヤ ワー ハワイ アラティ トウチャン。
98	お母さんは料理を作るから、洗わない。	アンマヤ パンメ シュガエトウ アラヨラン/アララン(目下の行為)。 アンマヤ パンメ シュガエトウ アラヨラン/シュガエトウ アララン(目下の行為)。
99	暑いときは帽子をかぶる。	アツイサル バーヤ ボーシ ハンジュン。 アツイサル バーヤ ボーシ ハンジュン。
100	今は誰もくば笠をかぶらない。	[?] ニヤンマヤ タン フバガサヤ ハンバン。 [?] ニヤンマヤ タン フバガサヤ ハンバン。

101	昔はみんなくば笠をかぶった。	ンカシヤ ムル フバガサ ハンタン。 ンカシヤ ムル フバガサ ハンタン。
102	いとこたちには帽子をかぶらせた。	イチュフンチャンカイヤ ボーシ ハンシタン。 イチュフンシヤンカイヤ ボーシ ハンシタン。
103	私は毎年孫たちにお年玉を上げる。	ワシヤ メーニン マーハンチャンカイ オトシダマ キーユン。 ワシヤ メーニン マーハンシヤンカイ オトシダマ キーユン。
104	去年はみんなに千円ずつ上げた。	フズヤ ムールンカイ センエンナ キータン。 フズヤ ムールンカイ センエンナ キータン。
105	来年は二千元ずつ上げよう。	ヤニヤ ニセンエンナ キーラ。 ヤニヤ ニセンエンナ キーラ。
106	お菓子も買ってあげよう。	クアーシン ホーティ [?] カーサ。／ホーティ キーユン／ホーティ トウラサ。 クアーシン ホーティ [?] カーサ。／ホーティ キーユン／ホーティ トウラサ。
107	祖父は毎日6時に起きる。	ウブシュヤ メーニチ ログジナイ ウキエン／ウキユン(目下の行 為) ウブシュヤ メーニチ ログジナイ ウキンシエン／ウキユン(目下の 行為)
108	昨日は9時に寝て、8時に起きた。	チニューヤ クジナイ ニンティ ハチジナイ ウキタン。 チニューヤ クジナイ ニンティ ハチジナイ ウキタン。
109	5時には誰も起きない。	ゴジナイヤ タン ウキラン。 ゴジナイヤ タン ウキラン。
110	高校生は制服を着る	コーコーセイヤ セイフク チュン。 コーコーセイヤ セイフク チュン。
111	その服は古いから誰も着ない。	ウヌ フクヤ プルサ ナティ タン チャン。ウヌ フクヤ プルサヌ タン チャン。 ウヌ フクヤ プルサ ナティ タン チャン。ウヌ フクヤ プルサヌ タン チャン。
112	昔は自分で織った芭蕉布を着た。	'ンカシヤ ドウシ ウタル 'ウージン チチャン。 'ンカシヤ ドウシ ウタル 'ウージン チチャン。
113	その子は二歳になったから自分で服を着ることができる／着れる	ウヌ クアーヤ [?] ターチ ナタトウ ドウシ チヌー チューシユン。 ウヌ クアーヤ [?] ターチ ナタトウ ドウシ チヌー チューシユン。
114	ざぶとんにはいとこが座る。	シチフトウンナイヤ イチュフヌ ユン。 シチフトウンナイヤ イチュフヌ ユン。
115	床にはだれも座らない。	ハラヨホナイ タン ヤン。 ハラヨホナイ タン ヤン。
116	私たちはここに座るから、きみたちは向こうに座れ。	ワッタ [?] マーナイ ユートウ [?] リーヤ アマナイ 'イーバ／'イー。 ワッタ [?] マーナイ ユートウ [?] リーヤ アマナイ 'イーバ／'イー。
117	きみもざぶとんに座ってください。	[?] ラン シチフトウンナイ 'イチトウラスイ／'イチトウラスイバ。 [?] ラン シチフトウンナイ 'イチトウラスイ／'イチトウラスイバ。
118	毎日祖父は海を見る。	メーニチ ウブシュヤ ウニ ニュンシエン(目上の人ノ行為)／ニュ ン。 メーニチ ウブシュヤ ウニ ニンシエン。(目上の人ノ行為)／ニュ ン。
119	最近クジラを見ない。	チカグル クジラヤ ニヤン。 チカグル クジラヤ ニヤン。
120	昨日クジラを見た。	チニュー クジラ ンチャン。 チニュー クジラ ンチャン。

121	お前も見なかったら見ろといって、孫に見させた。	[?] ラン ニーブーシャレー 'ンチンニーリ イチ マーハンカイ 'ンシタン。 [?] ラン ニーブーシャレー 'ンチンニーリ イチ マーハンカイ 'ンシタン。
122	「ありがとう」には方言で「～～～」と言う。	アリガトーカイヤ シマグチシ ニフェーディ [?] ユン。 アリガトーカイヤ シマグチシ ニフェーディ [?] ユン。
123	兄は何も言わない。	シーミヤ スーデイン [?] ヤン。 シーミヤ スーデイン [?] ヤン。
124	お母さんは弟に「あやまれ」と言った。	アンマヤ ウットウンカイ ドーデインディ イーディ イチャン。 アンマヤ ウトウンカイ ドーデインディ イーディ イチャン。
125	兄は弟に「いたずらするな」と言って、しかった。	シーミヤ ウットウンカイ ワチャクスイナーディ イチ アビタン。 シーミヤ ウトウンカイ ワチャクスイナーディ イチ アビタン。
126	弟は兄に「ばか」と言ってしまった。	ウトウヤ シーミンカイ プリムンディ イチャン。 ウトウヤ シーミンカイ プリムンディ イチ ネン。
127	蟬はすぐに死ぬ。	シャンシャンヤ スイグイ シニユン。 シャンシャンヤ スイグイ シニユン。
128	人に「死ぬ」って言うてはいけない。	チュンカイ シニーディ イチヤ ナラン。 チュンカイ シニーディ イチエー ナラン。
129	ゴキブリはすぐには死なない。	トービラヤ スイグイヤ シニヤン。 トービラヤ スイグイヤ シニヤン。
130	去年はひでりでカエルがたくさん死んだ。	フズヤ テヤーティ アタズイカ イータカ/イチャーサン シジヤン。 フズヤ テヤーティ アタディカ イータカ/イチャーサン シジヤン。
131	暑くて、家のネコも死んでしまった。	アツイサヌ ヤーヌ メン シジヤン。 アツイサヌ ヤーヌ メン シジヤン。
132	この村には港がある。	フヌ ムラナイヤ ニヤートウ アン。 フヌ ムラナイヤ ニヤートウ アン。
133	昔島には製糖工場があった。	ンカシ シマナイヤ ハイヤ アタン。 ンカシ シマナイヤ ハイヤ アタン。
134	製糖工場のあったところに学校を建てた。	ハイヤ アタル トウーマナイ ガッコー シュガラタン。 ハイヤ アタル トウーマナイ ガッコー シゴラタン。
135	お金があればなんでも買える。	ズイヌ アレー ヌー ヤティン ホーラリン。 ズイヌ アレー ヌー ヤティン ホーラリン。
136	今日はお金が無いから買いたくても買えない。	チューヤ ズイニー ネットウ ホイブーシャティン ホーララン。 チューヤ ズイニー ネットウ ホイブーシャティン ホーララン。
137	人の命は金では買えない。	チュヌ ニューチャ ズイニシヤ ホーララン。 チュヌ ニューチャ ズイニシヤ ホーララン。
138	有っても喜ぶな。	アティン イーシャ ツインナ。 アティン イーシャ ツインナ。
139	無くても泣くな。	ネンナティン ナクナ。ネンティン ナクナ。 ネンナティン ナクナ。ネンティン ナクナ。
140	人間の良し悪しは後でこそ分かる。	ニンジンヌ イーワツツアヤ アトゥージ ワハユル。
141	塩がない。	マシュ ネン。 マシュヤ ネン。
142	かまどの上にあったよ	ハマドウヌ [?] ウィーナイ アタンドー。 ハマヌ [?] ウィーナイ アタンドー。

143	砂糖もなかった。	サタン ネンタン／ネンナタン。 サタン ネンタン／ネンナタン。
144	無ければわたしが買ってこよう。	ネンナレー ワー ホーティ チュツツァ／ホーティ フー。 ネンナレー ワー ホーティ チュン／ホーティ フー。
145	座敷には人がたくさんいる。	ザシチナイヤ チュー イチャーサン 'ウン。 ザシチナイヤ チューヌ イチャーサン 'ウン
146	あなたはしばらく台所にいてください。	?ラーヤ イットウチャ トウンガナイ ウティ トウラスィバ。 ?ラーヤ イットウチャ トウンガナイ ウティ トウラスィバ。
147	さっきまで座敷に客がいた。	?ニャンマサーチャケ ザシチナイ チュー 'ウタン。 ?ニャンマサーチャケ ザシチナイ チュー 'ウタン。／ペーサヤケ ザシチナイ チュー 'ウタン。
148	座敷にいた人たちがみんな帰った。	ザシチナイ 'ウタル チュンチャ ムール ケータン。 ザシチナイ 'ウタル チュンチャ ムール ケータン。／ザシチナイ 'ウラタル チュンチャ ムル ケーラタン(座敷にいらっしやった人たちが皆帰られた)。
149	みんなかえって今はだれもいない。	ムール ケーティ ?ニャンマヤ タン 'ウラン。 ムール ケーティ ?ニャンマヤ タン 'ウラン／ムール ケーラティ ?ニャンマヤ タン 'ウララン(皆帰られて今は誰も居られない)。
150	若いころは那覇まで歩いた人がいた。	ワハサイヤ／ワハサル バーヤ ナツパヤケ アイチュル チュン 'ウタン。 ワハサイヤ／ワハサル バーヤ ナツパヤケ アイチュル チュン 'ウタン。
151	兄はお父さんに言われたら、何でもする。	ンーミヤ チャーチャナイ ?ヤーレー ヌー ヤティン シュン。 ンーミヤ チャーチャナイ ?ヤーレー ヌー ヤティン シュン。
152	兄は言われなければ、何もしない。	ンーミヤ ?ヤーランナレー ヌン ?ツァン。 ンーミヤ ?ヤーランナレー ヌン ?ツァン。
153	兄はしなさいと言われたから、畑仕事をした。	ンーミヤ ツイーリ ?ヤツタトゥ パルシクチ シヤン。 ンーミヤ ツイーリ ?ヤツタトゥ パルシクチ シヤン。
154	お父さんは兄に畑仕事をさせた	チャーチャヤ ンーミンカイ パルシクチ シミタン。 チャーチャヤ ンーミンカイ パルシクチ シミタン。
155	休んでないで仕事をしろ。	ユフティ 'ウラングートゥ スイクチ ?ツイー。 ユフラングートゥ スイクチ ?ツイー。
156	木の葉が詰まって溝の水が流れない。	キーヌパヌ スイマティ 'ンジュヌ ミズィヤ ナーリタン。 キーヌパヌ スイマティ 'ンジュヌ ミズィヤ ナーリタン。
157	お母さんが兄さんに木の葉を取らせて水を流れさせた。	アンマー ンーミンカイ キーヌパ トウラチ ミズィ ナーラサタン。 アンマー ンーミンカイ キーヌパ トウラチ ミズィ ナーラサタン。 ／トウラサティ ナーリラサタン(目上の人ノ行為)。
158	兄さんは木の葉を取って水を流れさせた。	ンーミヤ キーヌパ トウツティ ミズィ ナーラチャン(流した)／ナーラサタン(流させた)。 ンーミヤ キーヌパ トウティ ミズィ ナーリラサタン(流した)／ナーラサタン(流させた)。
159	ようやく(やっと)水が流れた。	ヤツトウシ ミズィ ナーリタン。 ヤツトウシ ミズィ ナーリタン。
160	この井戸水は飲めない。	フヌ ハーヌ ミズィヤ ヌマラン。 フヌ ハーヌ ミズィヤ ヌマラン。
161	誰でもこんなにたくさんのは飲みきれない	タン フヌ グートゥ イチャーサ アル ミズィヤ ヌニューサン。 タン フヌ グトウ イチャーサ アル ミズィヤ ヌニパティユーサン。
162	あく抜きした蘇鉄は食べられる。	アクヌチ シャール シュチュツィヤ ?カーリン。 アクヌチ シャール シュチュツィヤ ?カーリン。

163	腐った肉は食べられない。	ツァーリシシヤ ² カーラン。ツァーリティ ¹ ウル シシヤ ² カーラン。 ツァーリジシヤ ² カーラン。
164	ソーキ汁まだ残っているけど食べれる？	ソーキシル ² ニャーマ ノホトウスイガ ² カーリミ？ ソーキシル ² ニャーマ ノホティ ¹ ウスイガ ² カーリミ？
165	腹いっぱいだからもうこれ以上は食べきれない。	ワタ ウピーシャヌ ² ニャ フリユカ ² ケーユーサン。 ワタ ウピーシャヌ ² ニャ フリユカヤ ² ケーユーサン。
166	溢れるくらいお茶を注いでくれ。	アンディローダ チャー スイズィ トウラスィバ。 アンディローダ チャー スイズィ トウラスィバ。
167	湯が沸くまで待てない。	ユー プコーダ マタラン。 ユー プコーダ マタラン。
168	子どもだから、見せたくなかったけど、見るといって聞かなかったから、見せさせた。	ワラビ ヤトウ ¹ ンシブーシャ ネンタスイガ ニュンディ イチ チ チャンナティ ¹ ンシタン。 ワラビ ヤトウ ¹ ンシブーシャ ネンタスイガ ニュンディ イチ チ チャヌ ¹ ンシタン。
169	三線を弾いて客に聞かせる。	サンシン テイチ ドゥーシンチャンカイ チチャシユン。 サンシン テイチ ドゥーシンチャンカイ チチャシユン。
170	祖母が自分で着せたいと言ったので、仕方なく孫に服を着せさせた。	パーパヤ ドウシ フシラバディ イチャトウ ナクナク マーハンカイ チヌー フシヨチャン(目上の人の行為)/フシラチャン。 パーパヤ ドウシ フシラバディ イチャトウ ナクナク マーハンカイ チヌー フシヨチャン(目上の人の行為)/フシラチャン。
171	おととい買った服を赤ちゃんに着せる。	'ウッティ ホータル チヌー アハングアンカイ フスイユン。 'ウッティ ホータル チヌー アハングアンカイ フスイユン。
172	おばさんは自分が買った服をお母さんに頼んで赤ちゃんに着せさせた。	パーパヤ ドウシ ホータル チヌー アンマンカイ タルディ アハ ングアンカイ チャーサチャン/フシラチャン。 パーパヤ ドウシ ホータル チヌー アンマンカイ タルディ アハ ングアンカイ チャーサチャン/フシラチャン。

粟国村東方言の動詞活用資料

仲原 穰

1. 調査対象

沖縄県島尻郡粟国村

東（ひがし）方言 ※右図「★印」付近

(1) 粟国島の人口・世帯数

令和元年12月31日現在

- ・人口：696人（男384人、女312人）
- ・世帯数：419世帯

◎粟国村ホームページより (<http://www.vill.aguni.okinawa.jp/>)

(2) 調査地について

粟国島は面積 7.65 km² で島の周囲が約 12 km の扇形の島である。島の南西に「真鼻（マハナ）」という標高 95.8m の崖があり、島の東側へ向かって次第に低くなっている。島へのアクセスは、粟国島フェリーで那覇泊港より一日一往復、片道約 2 時間である。

(3) 話者情報

① S. S 氏（※今回の報告は S.S 氏のもの）

昭和 2 年(1927)年 東 生まれ。昭和 18 年～20 年まで大坂。昭和 20 年～粟国村東在住。

② S. C 氏

大正 15 年 浜 生まれ。昭和 17～19 年まで大坂。昭和 19 年～粟国村浜生まれ。

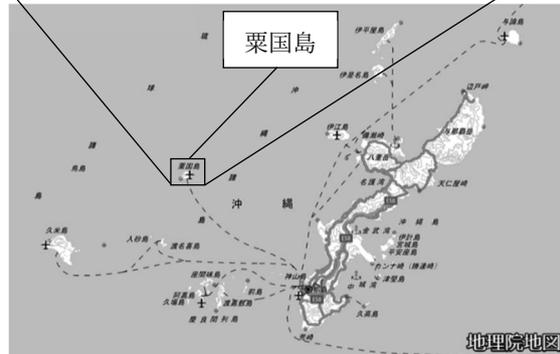


図 1. 沖縄島と周辺の島々と粟国島の位置

◆地図出典：「国土地理院」(<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>)

2. 調査の進捗状況

- ・調査票「船を漕ぐ」は調査済み。「浜」は補足調査が必要なため、今回は「東」のみの報告である。
- ・調査票「食べる」「煮る」「来る」は調査中。

3. 音声の特徴

概ね、沖縄語那覇方言の特徴を有しているが、[tsu]と[teu]や[d]と[r]の自由変異がある点、とりたての「ヤ」が融合したり、しなかったりする点など、沖縄本島中南部西方の島々、特に久米島と似た特徴もみられる。なお、語彙では「昨日」を「チヌー」とも「キヌー」とも発音している。

4. 先行研究

- ・琉球方言研究クラブ[編・発行](2018)『粟国村西集落方言の音韻体系とリズム=アクセント的構造』

	栗国村方言 2019年12月28日調査 S.S(S2.10.20生)、字東、92歳M	
1	※どこでもハーリーでは男が漕いでいる。	マーヤティン ハーリーヤ 'イキガヌル クジョーンドー。
2	若いときはみんなで舟を漕いだ。	ワカサンネー ンナサーイ フネー クジャンドー。
3	今でも女は舟を漕がない。	ナマ ヤティン 'イナグンチャーヤ フネー クガンドー。
4	今日は手が痛いので、舟を漕げない。	ナー ケーナン ヤディ チューヤ ワンネー クジヤウーサ ンドー。 / ワネー ナー チューヤ ケーナ ヤディ フネー クジウーサンドー。
5	※もう、手が治ったから、今日は船を漕げるよ。	ナー、ティーン ノートーグトウ、チューヤ フニ クガ リーンドー。
6	明日も海へ行く。	アチャーン ウミカイ イチュンドー。
7	天気が悪いときは父は海へは行かない。	ウミ ヤンリルバーネー スーヤ ウミカイエー イカン ロー。
7-1	※淵(崖の端っこ)があるからそこへは行くなよ。	フチヌ アグトウ ?ンマンカイ イカンキョー。
8	昼間仕事をして、夜は遊びに行った。	ヒルマ シグトウサーニ ユロー アシビーガ ンジャン。
9	今日は叔父が家に来る。	チューヤ 'ウンチューガ ヤーカイ チューンロー。
10	叔母は来ない。	'ウバマーヤ クーンロー。
11	祖父は叔父に電話をしていここを来させた。	?ンメーヤ 'ウンチューンカイ デンワカキティ イチュク クーラチャン。
12	孫も来たがったので、来させた。	?ンマガン チーブサ スタグトウ クーラチャン。
13	叔父もいとこもバスから来た。	'ウンチューン イチュクヌ バスカラ チャンロー。
14	※危ないから子どもはここへ来るな。	ウカーサグトウ ワラバーター ンマンカイ クーンキ ョー。
14-1	※ここには来るなよ。	?ンマカイ クーンキョー。
14-2	※崖(真鼻)の所へ行ったら、子どもたちは危ないから来させない。	マハナヌ ミーンカイ イチーネー ワラバーターヤ ウ カーサヌ クーラサン。
15	5月はよく雨降るねえ。	グングワチェー ユー アミ フユンヤー。
16	12月は雨降らないよ。	ジューニグワチェー アメー フランロー。
17	※昨日も大雨が降っていた。	チヌーン ウーアミ フトータン。
18	あ、雨降ってきた。	アーミ フティチャンドー。

19	大雨が降ったので、橋が流された。	ウーアミ フヤーイ、ハシヌ ナガサッターサー。
20	太郎は毎日学校の前でバスから降りる。	タローヤ メーニチ ガッコヌ メーンジ バソー ウリーンドー。／ガッコヌ メーンジ バスカラ ウリーンドー。
21	友人がさきにバスを降りた。	ドウシグワーガ サチニ バス ウリタンドー。
22	このバス停では誰も降りない。	クヌ バステー'ウトーテー ターン ウリランドー。
23	熟したら、木の実は自然に落ちる。	ジクシーネー、ムル ドウーサーイ キーカラ ウチーンドー。
23-1	※時期になるとその日その日(自然に)落ちてくるよ。	ジキナイネー ウヌヒー ウヌヒー ウチティチューンドー。
24	青い実は木を揺らしても、落ちない。	オーサル ウチェー キーヤ チャッサ ウジカチヤティン ナイグワーノー ウチランドー。(青いうちは、実はどんなに動かしても落ちないよ。)
25	木を揺らしたから、落ちた。	キー ウタグトウ、ウチタンドー。
26	※オスでもメスでも人を蹴る。	'ウームンヤティン ミームンヤティン チョー キーンドー。
27	※おとなしいのは人を蹴らない。	ウトウナサシガ、 チョー キランドー。
28	※おとなしかったやつ(馬)が人を蹴った。	ウトウナサシガ、 チュ キータンドー。
29	父は去年買ったものでも捨てる。	スーヤ クジュ コートーシ ヤティン シティーンドー。
30	まだ使えるのにラジオを捨てた。	ナマ チケンサン ムンヌ、ラジオヤ シティータンドー。
31	祖母はどんなに古くても、捨てない。	オバーヤ チャッサ フククナトーティヤティン シティランドー。
32	父は壊れたラジオを弟に捨てさせた。	スーヤ ヤンリトール ラジオー ウットウンカイ シティラチャン。
33	誰にも聞かないで、捨ててしまった。	ターンカイ イランジクー シティータンドー。／ターンカイ イランヨーイ シティータンドー。
34	ノコギリで枯れた木を切る。	ヌクジリサーイ カリトール キーグワーヤ チーンドー。
35	きのう枯れた木の枝を切った。	チヌー カリトール キーヌユラー チッチャンドー。
36	おじさんが一緒に切ってくれた。	'ウンチューガ マジョーサー チッチクィタンドー。／'ウンチューガ マジョーンシ チッチクィタンドー。
37	こわくて、誰もガジュマルを切らない。	ウトウルサヌ、ガジュロー ターガン チラン。
38	穴はスコップで掘る。	アナー スコップサー (イ) フィン。／スコップシ フィンドー。
39	お父さんは掘るけど、お母さんは掘らない。	スーヤ フィシガ、アンマーヤ フランロー。

40	二人でとても深い穴を掘った。	フカサル アナン タイシ フタンドー。
41	お父さんに頼んで兄さんにも掘らさせた。	スーンカイ イヤーニ ヤッチー フラチャン。(父に言っ て、兄に掘らせた。) / スーンカイ タヌマーイ、ヤッチー ン フラチャン。(父に頼まれて兄も掘らせた。)
42	木の実が熟したのに、祖父は自分 では落とさなかった。	キーヌ ナイヤ ジュクソーシガ、オジーヤ ドゥーサーイ ヤ ウトゥサンタン。 / ジコーソーシガ [?] ンメーヤ ウトゥ サンタンドー。
43	祖父が父に言いつけて兄に木の 実を落とさせた。	スーンカイ イーチキティ ヤッチーカイ キーヌナイ ウトウシミタン。
44	父が兄に棒で木の実を落とさせ た。	スーガ ヤッチーカイ ボーサーイ キーヌミー ムル ウトウシミタン。
45	兄が熟んだ木の実を全部落と した。	ヤッチーガ キーヌミー ジュクソーシェー ムル ウトゥ チャン。 / ヤッチーガ キーヌミーヤ ムル ウトゥチャン ドー。
46	※掃除したら荷物は何でも外に出 す。	ソージシーネー ニムツォーヌーンクィーン フカンカイ [?] ンジャスンドー。
47	弟も台所にあった荷物を外に出 した。	ウットウン フカンカイ [?] ンジャチャンドー。 / ニーヤ シ ムンカイ アシガ、チャー スビティ [?] ンジャチャンドー。 / シムンカイ アタル ニムチ フカンカイ [?] ンジャチャン ドー。
48	祖母が母に言いつけてホースで 水を流させた。	パーパーガ アンマーンカイ イーチキティ ホースング トウンソーシ ミジ ナガシミタンドー。 / ミジェー ナガ シミタン。
49	母が花子にホースで水を流させ た。	アンマーガ ハナコンカイ ホースサーイ ミジ ナガシミ タン。
50	父が兄に言いつけて祖父を起こ させた。	スーガ ヤッチー イーチキティ [?] ンメー ウクシミタン。
51	父が兄に寝ている祖父を起こ させた。	スーガ ヤッチーカイ ニントール オジー ウクシミ タン。 / ニントール [?] ンメー ウクシミタン。
52	兄が寝ていた祖父を起こした。	ヤッチーガ ニントール [?] ンメー ウクチャンドー。
53	弟は左利きだけど右手でお箸を 持つ。	ウットー ヒジャイティール カッティヤシガ、ニジリサー イ ハーシェー ムッチョータン。ヒジャイティーシ ム チュンドー。 / クレー ヒジャヨー ランドー。(これは 左利きだよ。)
54	汁鍋はこぼれやすいから、片手 では持つな。	シルナーベー クブリーグトウ、カタティーサーイェー ム タンキヨー。(汁鍋はこぼれるから、片手では持つなよ。)
55	おにぎりの入った重箱はお母 さんが持った。	メーニジリー、アンマーガ ジューバクンカイ ムッチャ ンドー。 / メーニジリー、ジューバクンカイ イッチョ ンドー。(おにぎり、重箱に入っているよ。)
55-1	※お母さんがこそ持ったよ。	アンマーガル ムッチャンドー。
55-2	※おにぎりも天ぷらでも入れて あるよ。	メーニジリー ティンプラヤティン イットーンドー。 (おにぎりも天ぷらでも入れてあるよ。) / メーニジ リー イッチョーンドー。(おにぎりも 入っているよ。)
56	茶はおばあさんが持っ てかえったよ。	チャーヤ パーパーガ ムッチケータンドー。

56-1	※おばあさんにはお茶を持っていった。	オバーサヌンカイ チャー ムッチウサギタンドー。(おばあさんに 茶を 持って差し上げたよ。)
57	おじいさんにはムシロを持たせる。	² ンメーヤ ムシル ムタチャンドー。(おじいさんは ムシロを持たせたよ。)
58	重いけどもって持てる?	ウブサシガ ムタリーンナー。/ウブサシガ ムチュースガヤー。/ナーヒン ムチュガヤー。(もって持つかな) ムタリーガヤー。(持てるかな) 【要確認】
59	あと一つだったら持てる。	ナー ティーチルン ヤレー ムタリーンドー。/ナー ティーチ ヤレー ムタリーンロー。
60	いつも豚肉はお父さんが買う。	メーニチ ² ワーヌシシヤ スーガル コーユンドー。/イチヤティン スーガル コートーンドー。
61	他には何も買わない。	ビチンカイ ヌーン コーランドー。
62	お父さんは昨日は野菜を買った。	スーヤ チヌー ヤーシェー コートータンドー。【要確認】
63	明後日が給料日だから、明日は買えない。	キューリョヤ アサティル ヤグトウ、アチャーヤ コーランドー。
64	明後日だったら欲しいものが買える。	アサティドゥンヤレー フサシェー ヌーヤティン コーランドー。
65	お父さんは取ってきた魚を売る。	スーヤ トウッティチャール イユ ウタン。/トウッティチョール イヨー ウユンドー。
66	きょうは魚が少ないから、売らない。	チューヤ イユグワーヌ イキラサグトウ ウィシェーネーラン。(売るのはない。)/ウラン(売らない)。
67	昨日は私が取ったイカとタコを売った。	キヌー、チヌーヤ ワーガ トウッティチャール イチャトウ タク ウタン。※「キヌー」続けて「チヌー」と発話した。
68	その魚を安く売ってください。	ウヌ イヨー ヤシクシ ウティクィランナー。
69	いつもおばあちゃんは私にお金をくれる。	イチヤティン オバーチャノー ワンヌカイ ジングワー クィトンドー。/パーパーヤ ワンヌカイ ジングワー イチヤティン クィトーンドー。
70	今日は弟にも1000円くれた。	チューヤ ウットウンカイ シェンエン クィタンロー。
71	おじいちゃんには私に何もくれない。	² ンメーヤ ワヌンカイ ヌーン クィラン。/ワンヌカイ ヌーン クィターネー。
72	いつも漁師から魚をもらっている。	イチ ヤティン ウミンチューカラ イユグワー チャー'イトーンドー。
73	小さいカニは誰ももらわない。	グマサル ガイグワー ターン 'イラン。
74	隣の家から大根ももらった。	トゥナイカラ デークニン 'イタン。/'イタンドー。
75	※皆からたくさんもらったから分けてあげたよ。	ナーナカラ 'イタグトウ、ワキティ クィタンドー。(皆からもらったから、分けてあげたよ。)
75-1	※あおさが沢山合ったから、皆へ分けてあげたよ。	アーサ マンドータグトウ ンナンカイ クィタンドー。 ※粟国島ではモズクはとれないという。
76	喉が乾いたら水を飲む。	ヌーリーヌ カーラチャグトウ ミジェー ヌムンロー。

77	私の夫は酒を飲まない。	ワッター 'ウトー サケー ヌマンドー。
78	叔父さんは病気だから、酒が飲みたくても飲めない。	'ウンチューヤ ビョーキ ヤグトゥ、サケー ヌミブサー アシガ ヌマン。/サケー フサーアシガ ヌマラン。/ヤンメー (病気)
79	※この水は飲める。	クマヌ ミジェー ヌマリーンドー。
80	お母さんが入れたお茶をたくさん飲んだ。	アンマーガ イッタル チャー、ウフオーク ヌランドー。
81	乗るなら飲むな。飲むなら乗るな。	ヌイラバ ヌマンキ、ヌムラー ヌランキ。
82	お母さんは赤ちゃんにおっぱいを飲ませてあげた。	アンマーヤ ワラビンカイ チーグゥーヤ ヌマチャンドー。/ヌマスンドー (お母さんは子どもに父を飲ませるよ。) /アカチャヌカイ オッパイ ヌマスタンドー。 ※アカングウ、ボージャーも使用する。
83	山羊もウシも草を食う。	ヒージャーン ウシン クサ クウユン。
84	山羊は濡れた草は食わない。	ヒージャーヤ ンリグサー クウーンドー。
85	家で飼っている猫が魚を食った。	ヤーンカイ チカナートル マヤーヌ イユ クウユタン ドー。
86	父が取った魚を猫に食われた。	スーガ トウッティチョール イユ マヤーンカイ クウーッタン。
87	毎日暗くなるまで、外で遊ぶ。	メーニチ クラクナイルウチマディ フカ'ウトーティ アシ ブン。
88	暗くなったら、誰も遊ばない。	クラクナレー ターン アシバン。/ターン アシバーヤ 'ウラン。(遊ぶ奴はいない。)
89	※いとことかくれんぼして遊んだ。	イチクトゥ カクレンボーシ アシダン。
90	弟は酒を飲むと、すぐに酔う。	ウットー サキ ヌメー シグ [?] ウィーユン。
91	昨日も酒を飲んだので、酔った。	チヌー サキ ヌマーイ [?] ウィートータンドー。/ [?] ウィー タンドー (酔ったよ。) も使う。
92	兄はどんなに飲んでも酔わない。	ヤッチーヤ チャッサ ヌディヤティン [?] ウィーランドー。
93	彼は酔って、寝ている。	アレー [?] ウィーティヤティン、ニントーンドー。/ニンジュ ンドー (眠るよ。)
94	少ししか飲んでいないのに、酔ってしまった。	ウフィグワール ヌドーシガ [?] ウィートータン。/ [?] ウィー トートッサー。(酔っているよ。)
95	汚れた皿とお椀はお父さんが洗う。	ユグリトール サラー マカエー スーガル アライン ドー。
96	私は兄さんに鍋を洗ってもらった。	ワネー ヤッチーカイ アラティ 'イタンドー。(洗っ て、それから「もらった」という意味か?【要確認】)
97	兄さんが私の代わりに洗ってくれた。	ヤッチーガ…。ワー カワイ ヤッチーガ アラティクイー ン。(私の代わりに 兄さんが洗ってくれる。)
98	お母さんは料理を作るから、洗わない。	アンマーヤ リョーリ チュクイグトゥ アラーン。

99	暑いときは帽子をかぶる。	アチサンネー ボーシ カンジュンドー。
100	今は誰もくば笠をかぶらない。	ナマー ターヤティン クバガサー カンダンドー。
101	※昔はみんなくば笠をかぶっていた。	ムカシエー ーナー ムル クバガサー カントータン ドー。
102	いとこたちには帽子をかぶらせた。	イチュクヌチャーンカイ ボーシ カブラチャータン (帽子 を被らせていた)。ノカンダチャン (被らせた) も使用。
103	私は毎年孫たちにお年玉を上げる。	ワネー メートウシ [?] ンマガヌチャーンカイ オトシダマー クイトーンドー。
104	去年はみんなに千円ずつ上げた。	クジョー ーナンカイ シェンエンナー クィタンドー。 ノクイトータン。(上げていた)
105	来年はまた二千元ずつ上げるよ。	ヤエー マタ ニシェンエンナー クィーンロー。
106	お菓子も買ってあげるよ。	クワーシン コーティクィーンヨー。
107	祖父は毎日6時に起きる。	NR/祖父でなければ「ウキーンドー」(起きるよ。)を使用する。
107-1	※祖父は毎日6時にはお目覚めになっているよ。	[?] ンメーヤ メーニチ ロクジネー ウキミソーチョー ンドー。
108	昨日は9時に寝て、8時に起きた。	キヌーヤ クジニ ニンジャーニ、ハチジネー ウキタン。 ノウキトータン(起きていた。) ※「キヌー」を使用。
109	5時には誰も起きない。	グジネー ターン ウキラン。
110	※自分で服を着るよ。	ドゥーサーイ フコー チーンドー。
110-1	※高校生は制服を着ている。	コーコーシーヤ セーフク チチョーン。
111	その服は古いから誰も着ない。	ウヌ ヨーフコー フルサグトゥ ターン キラン。【要確 認】
112	昔は自分で織った芭蕉布を着ているよ。	ムカシエー ドゥーサーニ ウトール バシヨースーニ チ キトーンドー。ノバサージン チチ アッチョンドー。(芭 蕉布を着ているよ。)【要確認】
113	その子は二歳になったから自分で服を着ることができる。	ナー、ウヌックワー ターチ ナタグトゥ ドゥーサーイ ヨーフク チラリーン。ノキチール グトゥ ナタンドー。 (付けられるようになったよ。)
114	ざぶとんにはいところが座る。	ザブトヌンカイエー イチュクヌル 'イーンドー。
115	床にはだれも座らない。	ユカンカイエー ターン 'イラン。
116	私たちはここに座るから、きみたちは向こうに座れ。	ワッターヤ クマンカイ 'イーグトゥ、イッターヤ アマン カイ 'イレー。
117	きみもざぶとんに座ってください。	[?] ヤーン ザブトヌカイ 'イレー。

118	今からテレビを見るよ。	ナマカラ テレビ ンジュンドー。
118-1	(新聞は)見ないよ。	ンーダンドー。／ナー グマジーグワンデー ンジューサ ンドー。(もう、小さい字などは見られないよ。)
118-2	毎日祖父は海を見ているよ。	メーニチ オジーヤ ウミ ンチョーンドー。／ナマ ン ジーガ イチュンドー。(今、見に行くよ。)
119	※テレビは見てはいないよ。	テレベー ンチェーンダンドー。(テレビは見てはいない よ。)
119-1	※最近クジラを見てはいない なあ。	チカグロー クジラー ンチェーンダンサー。
120	昨日クジラを見た。	チヌーン クジラー ンチャンドー。
121	お前も見たかったら見ろといって、 孫に見させた。	² ヤーン ンジープサーラー…。／ ² ンマガンカイ ミシタ ン。(孫に見せた。)【要確認】
122	※「ありがとう」と言うよ。	ニヘーレービル ディル イーンロー。
123	兄は何も言わない。	ヤッチーヤ ヌーンリン イラン。
124	お母さんは弟に「あやまれ」と言っ た。	オカーサノー ウットウンカイ アヤマレーンディ イチャ ン。
125	兄は弟に「いたずらするな」と言っ て、しかった。	ヤッチーヤ ウットウンカイ ガンマレーサンキンディ イ チ、ヌラタン。
126	※弟は兄に「ばか」と言ったなあ。	ウットウヤ ヤッチーンカイ バカディ イチャッサー。
127	蟬はすぐに死ぬ。	アササーヤ シグ シヌンドー。
128	人に「死ね」って言ってはいけな い。	ツチュンカイ シネーッテー イランドーヤー。／シニディ イランキョー。(死ねと言うなよ。)
129	ゴキブリはすぐには死なない。	ヒーラーヤ シゴー シナン。
130	去年はひでりでカエルがたくさん 死んだ。	クジョー ヒャーリサーニ カークー シジャン。
130-1	※ひでりでカエルがたくさん死ん でしまった。	ヒャーリサーニ カークー ムル シジニ ウラン。
131	※暑くて、家のネコも死んだよ。	アチサヌ、ヤーヌ マヤーン シジャンドー。
132	この村には港がある。	クヌ ムランカイヤ ンナトゥン アンドー。
133	昔島には製糖工場があった。	ムカシ シマンカイ セーターコージョーガ アタン。
134	※学校を 建てた。	ガッコー タティタン。
134-1	※製糖工場のあとに学校が建っ ている。	セーターコージョーヌ アトゥンカイ ガッコーガ タッ チョーンドー。
135	お金があればなんでも買える。	ジンヌ アレー ヌー ヤティン コーラリンドー。

136	今日はお金が無い。買いたくても買えない。	チューヤ ジヌン ネーン。コーイブサーアティン コーラランドー。
137	人の命は金では買えない。	チュヌ ヌチュー ジンサーイェー コーラランロー。
138	有っても喜ぶな。	アーティヤティン ユルクバンキ。
139	無くても泣くな。	ネーンアティン ナカンキ。
140	人間の良し悪しは後でこそ分かる。	ニンジノー ユタサワッサー アトゥル ワカユル。
141	塩がない。	マースヌ ネーン。
142	かまどの上にあったよ	カマヌ ² ウィーンカイ アタンドー。
143	砂糖もなかった。	サーターン ネーンタン。／ネーランタンも可能。
144	無ければわたしが買ってこよう。	ネーン ヤラバ ワン コーティカー。／ワーガ コーティチューン。(私が買ってくる。)
145	座敷には人がたくさんいる。	ジャーンカイェー ッチョー ウフオーク 'ウタンドー。(いたよ。) ／クヌ ヤシチンカイェー ッチョー ウフオーク 'ウンロー。(この座敷には人が多くいるよ。)
146	あなたはしばらく台所にいてください。	ウンジョー イットウチグワーヤ シムンカイ 'ウトーティクイリ。
147	※さっきまで座敷に人がいた。	サチマデー ジャーンカイ ッチュガ 'ウタンドー。
148	座敷にいた人たちがみんな帰った。	ジャシチンカイ 'ウタル ッチュヌチャー ムル ケータンドー。
149	※みんなかえって今はだれもいなくなっているよ。	シーナ ケーヤーニ ナマ ターン ナマ 'ウラン ナトーランドー。
150	※若いころは港まで、どこまで(でも)歩いた人もいた。	ワカサイネー ンナトウマディ マーマディ アッチャル ッチュン 'ウンドー。
150-1	※みな、全部、どこもかしこも、歩いているよ。	シーナ ムル マーンクイン アッチョーランドー。
151	兄はお父さんに言われたら、何でもする。	ヤッチーヤ スーンカイ イラリレー、ヌーヤティン スンドー。
152	兄は言われなければ、何もしない。	ヤッチーヤ イーラネー ヌーヤティン サン。／イーチキラネー (言いつけられないと)
153	兄はしなさいと言われたから、畑仕事をした。	イーラツグトウ ヤッチーヤ ハダキシグトウ サン。／ソーランドー (しているよ)
154	お父さんは兄に畑仕事をさせた	スーヤ ヤッチーンカイ ハタキシグトウ シミタン。
155	休んでないで仕事をしろ。	ユ克蘭ジクー シグトウ シリ。【要確認】
156	木の葉が詰まって溝の水が流れない。	キーヌハーヌ チマヤーニ ンジュグワーヌ ミジガ ナガリラン。

157	お母さんが兄さんに木の葉を取らせて水を流れさせた。	アンマーガ ヤッチーンカイ キーヌハー トウラサーニ ミジ ナガシミタン。
158	兄さんは木の葉を取って水を流れさせた。	ヤッチーヤ キーヌハー トウッティ、ミジ ナガシミ タン。
159	ようやく(やっと)水が流れた。	ヨーヤク ミジェー ナガリタン。
160	この水は飲めない。	クヌ ミジェー ヌマランロー。
161	誰でもこんなにたくさんの水は飲みきれない	ターン ウッサヌ ミジェー ヌミ' ウーサン。
162	※あく抜きしたものでないと食べられないよ。	クタシムン アラネー カマランドー。 / クタチカラ アラ ネー カマランドー。
162-1	※そのてんぷらは食べられるよ。	ウヌ ティンプラーヤ カマリンドー。
163	腐った肉は食べられない。	クサリトーシェー カマランドー。
164	ソーキ汁まだ残っているけど食べれる？	ソーキジロー ヌクトーシガ ナマ カマリーガヤー。(早 期汁は残っているけど、今、食べられるかな? <食べて大丈夫 かな?の意か?)) 【要確認】
164-1	※もっと食べられるね? / まだまだ食べられるよ。	ナーフィン カマリーンナー。 / ナーフィン カマリ ードー。
165	腹いっぱいだからもうこれ以上は食べきれない。	ナー ワタ ミッチョーグトウ、ウリ イジョーヤ ナー カミ' ウーサン。 / ナー カマン。(もう食べない。)
166	溢れるくらいお茶を注いでくれ。	アンリール グトウッシ、チャーン チジクイリ。
167	湯が沸くまで待てない。	ユーヌ フチュル ウチェー マタランドー。
168	※見せたくなかったけど、見せた。	ミシブコー ネーンシガ、ンシタン。
168-1	※見たいけど、(親が)見せなかった。	ンジブサンガ、ンシランタン。
169	※三線を弾いて友達に聞かせる。	サンシン ヒチャーイ ドウシンチャーンカイ チカスン。
170	祖母が自分で着せたいと言ったので、仕方なく孫に服を着せさせた。	パーパーガ ドゥーサーイ クシブサイチュクティ、シカ ターネー ?ンマガンカイ クシラチャン。
171	おととい買った服を赤ちゃんに着せる。	'ウッティー コータル フコー アカンボーンカイ チキ ラスン / クシタン (着せた)
172	おばさんは自分が買った服をお母さんに頼んで赤ちゃんに着せさせた。	パーパーヤ ドゥーヌ コータル フク オカーサヌンカイ タヌマーイ、アカチャンニ クシタン。 【要確認】

うるま市宮城島方言の動詞活用資料

中本 謙 (琉球大学)

うるま市宮城島方言の概況

沖縄本島中部の東側に勝連半島がある。半島から北東に「海中道路」が伸びており、平安座島、宮城島、伊計島へと道路は続いている。

宮城島は、周囲 12.2 km、面積 5.51 km²と比較的周辺の島々より面積が広く、標高 100 メートルを超える台形をしていることから、別名「高離島 (たかはなりじま)」、「はなり」等と呼ばれている。

集落は、上原、宮城、池味、桃原の 4 つからなる。島の南西の平坦部に桃原が位置し、島の高台の東崖下に上原と宮城が幅 3 メートルの道を境に立地している。北東の漁港に面して池味がある。

方言的特徴から 4 集落をみると、基本的に上原、宮城、池味の 3 集落はハナリクトゥバといわれ、ほとんど差異がないとのことである。桃原は首里、平安座などからの移住者によるいわゆるヤードゥイ (屋取) の集落であり、3 集落の方言とは異なる。

(参考 宮城自治区 2005 『なあくすく字誌』)

本調査では、宮城集落を対象とする。2019 年 3 月現在、世帯数 88、人口は 148 人である。方言区画上、沖縄本島中南部方言に属する。

主な音声的特徴として以下のものが挙げられる。

①サ>ハ

[hatʃi]ハチ (先)、[juhandi]ユハンディ (夕方)、[hato:]ハトー (砂糖)。沖縄本島中南部那覇方言では[satʃi]サチ (先)、[jusanri]ユサンリ (夕方)、[sa:ta:]サーター (砂糖) となる。

②シ>ヒ

[çitʃa]ヒチャ (下)、[ru:çi:]ルーヒー (雑炊)。沖縄本島中南部那覇方言では、[fitʃa]シチャ (下)、[dʒu:çi:]ジューシー (雑炊) となる。

③破擦音の摩擦音化

[finnuku]シンヌク (里芋)、[çi:]シー (乳)、[çina:]シナー (綱)、[çimi]シミ (爪)、[su:]スー (今日)。沖縄本島中南部那覇方言では、[tfinnuku]チンヌク (里芋)、[tçi:]チー (乳)、[tçina]チナ (綱)、[tçimi]チミ (爪)、[tçu:]チュー (今日) となる。

語彙的にも特徴がみられ、例えばゴキブリは、[jamata:]ヤマター、ハブは[kɪ:mun]キームンと言う。多くの沖縄本島中南部方言では、ゴキブリは[to:bi:ra:]トービラー、[çi:ra:]ヒーラーである。

- ・話者は根保幸徳氏 1933 年生。調査は、2019 年 11 月 29 日、12 月 6 日、2020 年 1 月 29 日、2 月 5 日に臨地調査を行った。

以下、調査で得られたうるま市宮城島方言の動詞活用資料を示す。

	うるま市宮城島2019年11月29日、12月6日調査 根保幸徳氏(s8生)、宮城、86歳M	
1	本土の人もヘチマを食べるの？	ヤマトウンチュン ナーベラー カムナー/カム ガヤー。
2	我が家では、夏になったら、毎日ニガウリを 食べる。	ワッター ヤーウウティ ナチ ナレー ゴー ヤー メーニチ カムン。
3	今日の朝ごはんは何を食べたの？	スーヌ ヒティミティムノー ヌー カダガ。
4	冬瓜を食べた。	シブイ カダン。
5	このサトイモは誰が食べるの？	クヌ シンヌコー タガ/タルガ カムガ。
6	姉さんがこそ食べるんだ。私はたべない。	アナーガル カムル。ワノー カマン。
7	お前が天ぷらを全部食べただろう？	ツヤーガル ティンプラー ブル カダルヤー。
8	私は一つだけ食べたんだよ。	ワノー ティーチル カダンロー。
9	残ったテンブラは、全部母さんがこそ食べ よったんだ。	ヌクトール ティンプラーヤ ブル アンマーガル カムタンドー/カムタル。
10	お前もバナナを食べるだろう？	ツヤームン バサナイ カムルヤー。
11	父さんもバナナ食べるかなあ。	チャーチャーン バサナイ カムガヤー。
12	父さんも食べるだろう。	チャーチャーン カムル ハジ。
13	誰がお菓子を食べたのかなあ。	ターガ クワーシ カダガヤー。
14	お菓子は妹が食べただろう。	クワーセー ウットウガ カダル ハジ。
15	そこに置いた魚は誰が食べよったの？	ツンマンカイ ウチェータル ツューヤ ターガ カ ムタガ。
16	犬が食べよったのかな。	インヌガ/インガル クッタガヤー。
17	隣の猫が食べよったはずよ。	トゥナイヌ マヤーガル クツタル ハジ。
18	食べるなっていたのに、食べたのか？	カムナンディ イチャシガ カダンナー。
19	兄さんが食べよったから、私も食べたんだ よ。	ヤッカーガ カムタクトウ ワヌン カダン。
20	兄さんが食べよったの？本当なの？	ヤッカーガ カムタンナー。 フントー ヤンナ。
21	兄さんは三つも食べよった。	ヤッカーヤ ミーチン カムタンドー。
22	ねえさんも食べよっただろう？見たらろう？	アナーン カダルヤ。シーツチャルヤー。
23	昨日食べたソバはおいしかった。	キヌー カダル スパー マーハータン。
24	今日も一緒に食べよう。	スーン マズーン カマヤー。
25	今日は名護に食べに行こう。	スーヤ ナグンカイ カミーガ イカヤー。
26	ご飯を食べながらテレビを見るな。	ムヌ カメーガーナー テレベー ンズナ。

27	もう片付けるから、急いで食べろ。	ナー カタジキークトゥ イスジ カメー。
28	ぜんぶ食べるまで待ってちょうだい。	ブル カムルマディ マッチ トウラシー。
29	お前が食べきれないなら、俺が食べよう。	ツヤーンガ カミウーハンダレー ワーガ カムサ。
30	これは私が食べる。食べよう。	クレー ワーガ カムン。/カマ。
31	食べるなら残すな。残すなら食べるな。	カムンムン ヤレー ヌクフナ。ヌクスムン ヤレー カムナ。
32	明日食べるコメを買ってきて。	アッチャー カミル クミ コーティ クー。
33	おじいさんはご飯を食べて薬を飲みよったか。	ンツプーヤ ムノー カディ クスレー ヌダガヤー。
34	おばあさんは夕ご飯を食べて寝よった。	パーパーヤ ユーバン カディ ニンズタン。
35	兄さんは昼飯を食べてから畑に行った。	ヤッカーヤ アサバン/ナーヒビ カディカラ ハルカイ イザン。
36	明日もサシミを食べるから、買って来い。	アツァン ナマシ カムクトゥ コーティ クー。
37	今日食べたから、明日は食べなくてもいい。	スー カダクトゥ アチャー カマンティン シミン。
38	パパイヤを食べたらお乳がよく出る。	パパヤー カダクトゥ シーヌ ユク ツンジーン。
39	クワンソウを食べれば眠れる。	クワンソー カメー ニンジヤッサン。
40	男はパパイヤを食べても、お乳は出ない。	イイキガー パパヤ カディン シーヤ ツンジラン。
41	その豆腐は腐っているから食べるな。	ウヌ トーホー クサトクトゥ カムナ。
42	そのお湯はさっき沸かしたから、もう沸かさなくてもいい。	ウヌ ユーヤ キッサ ワカチャクトゥ ナー ワカハンティン シムン/シムサ。
43	肉はよく食べるのに野菜はぜんぜん食べない。	シセー ユク カムシガ ヤセーヤ カマン。
44	クワンソウを食べたのに眠れなかった。	クワンソー カダシガ ニンダランタン。
45	うん。本土の人はヘチマを食べない。	イー、 ヤマトウンチョー ナーベラーヤ カマンドー。
46	姉さんが食べなかった。	アナーヤ カマンタン。
47	腹いっぱいだから食べないんだ。ヤギ汁は好きだよ。	ワタンミー ヤクトゥ カマンタンドー。ヒーザージロー シチヤンドー。
48	私はお腹が痛かったから、食べなかったんだよ。	ワノー ワタヌ ヤムタクトゥ カマンタンドー。
49	父さんも食べないだろう。	チャーチャーン カマン ハジ。
50	姉さんも食べなかっただろう。	アナーン カマンタン ハジ。
51	本土の人はヘチマを食べないの？	ヤマトウンチョー ナーベラー カマンナー。/カマンドウ アーンナ。
52	食べろっていったのに、食べなかったのか？	カマンリ イチャシガ カマンタンナー。
53	何故ヤギ汁を 食べないの？おいしくないの？	ヌーンディ ヒーザージロー カマンガ マーコーネーナ。/マーコーネーンドウ アーンナ。

54	粥が残っているけど、誰が食べなかったの？	ウケーヌ スクトーシガ ターガ カマンタガ。
55	お前はヤギ汁も食べないんだろ。	ツヤーヤ ヒーザージルン カマンダルヤー。
56	お前もお粥を食べなかったんだろ？	ツヤームン ウケーメー カマンタルヤー。
57	父さんはヤギ汁を食べないかなあ。	チャーチャーヤ ヒーザージロー カマンガヤー。
58	何故、お菓子を食べなかったのかなあ。	ヌーンディ クワーセー カマンタガヤー。
59	誰も食べないのに芋を煮た。	ターン カマンタシガ ツンム ニチャン。
60	クワンソウを食べなかったのによく眠れた。	クワンソー カマンタシガ ユク ニンタン。
61	誰も食べない物は買ってはいけない。	ターン カマン ムノー コーテー ナラン。
62	ぜんぶ食べないうちに片付けられた。	ブル カマン マドゥ カタジキラッタン。
63	ヨモギ雑炊を食べなかった子供にはお菓子をあげない	フーチバールーヒー カマンタル クワグワーン カイ クワーセー トウラハン。
64	おじいさんは夕ご飯を食べないで薬を飲みよった。	ンツプーヤ ムノー カマンガトウー クスレー ヌムタン。
65	明日はサシミを食べないから、買って来るな。	アチャー ナマシ カマンクトゥ コーティ クーナ。
66	昨日食べなかったから、今日食べよう。	キヌーヤ カマンテークトゥ スー カマ。
67	食べないなら買うな。	カマンクトゥ コーンナ。
68	パパイヤを食べなければお乳はでない。	パパヤー カマンダレー シーヤ ツンジラン。
69	クワンソウを食べなくても眠れる。	クワンソー カマンティン ニンダリーン。
70	もしおまえが食べないならご飯は炊かないよ。	ムシ ツヤーガ カマンダレー ムノー ニラン ドー。
71	もしおまえが食べなかったらヤギ汁は残るだろう。	ムシ ツヤーガ カマンダレー ヒーザージロー ス クユン ハジ。
72	食べる前に無くなっていた。	カムルメーニ ネーンナトータン。
73	姉さんが東京から来る。	アナーガ トーキョーカラ スーン。
74	姉さんはいつ来るの。	アナーヤ イチェー スーガ。
75	姉さんの旦那(夫)も来るの？うん、来るよ。	アナーヌ ウウトウン スーガヤー。オー、スーンドー。
76	姉さんたちが来るから、孫も来るだろう。	アナーターガ スークトウ ツンマガン スール ハジ。
77	孫たちが来たら、いっしょに遊ぼう。	ツンマガンチャーガ スークトウ/クレー マズーン アシ バ。
78	大阪の兄さんは来ないだろう。	オーサカヌ ヤッカーヤ クーン ハジ。
79	なぜ来ないの。	ヌーガ クーンドル。
80	忙しいから、来ないんだ。	イツナハヌ クーン ハジ。

81	姉さんたちが来るなら、ご馳走をつくっておこう。	アナターガ スークトゥ クワッチー ツクトーカ。
82	おじさんも来ないの？	ウウンチューヤ クーンナ。
83	うん、おじさんは仕事があるから、来ない。	オー、シグトゥヌ アークトゥ クーン。
84	おじさんが来ないから、おばさんも来ない。	ウウンチューガ クーンクトゥ ツンミーン クーン。
85	姉さんたちは空港からバスで来るんだ。	アナターヤ クーコーカラ バスカラ スーン。
86	姉さんたちが来ないうちに 家の中を片付ける。	アナターガ クーン マドゥ ヤーヌ ナカ カタジキラ。
87	孫たちが来たから、一緒に遊んだ。	ツンマガンチャーヤ キチャクトゥ マズーン アシダン。
88	姉さんたちは飛行機で来て、船で帰った。	アナターヤ ヒコーキカラ キチ フニカラ ケータン。
89	いどこにも来いっていったのに、来なかったのか？	イチクンカイ クーヨンディ イチャシガ クーンタンナ。
90	いここは来月沖繩に来てから、仕事を探す。	イチクヤ スールチチ ウチナーンカイ キチカラ シグトゥ トウマユン。
91	あさっては、家にいないから、来るな。	アサテー ヤーンカイ ウウランクトゥ クーナ/クーンナ ケー。
92	今日は来なくてもいいって言ったのに、来たのか？	スーヤ クーンティン シムンリ イッタシガ キチャンナ。
93	なぜ、来たの。	ヌーンディ キチャガ。
94	急ぎの用事があったから、来たんだよ。遊びに来たんじゃないよ。	アワティヌ ユージュヌ アータグトル チヤンドー。アスピガヤ クランタンドー。
95	昨日は来なかったんだろう？	キヌーヤ クーンタルヤー。
96	なぜ来なかったの？	ヌーンディ コーンタガ。
97	忙しかったし、頭も痛かったから、来なかった。	イツナハヌ チブルン ヤムテークトゥ クーンタン。
98	しあさっては君も来るだろう？	アハティンナーチャー ツヤーン スールヤ。
99	サシバ、今年は 来なかったねえ。	タカー クンドー クータンヤー。
100	何故、来なかったのかなあ。	ノーンリ クータガヤー。
101	今年は台風が多かったから、来なかったんだよ。	クンドー/クトゥセー カジヌ ウーハーテークトゥ クーンタル ハジ。
102	サシバ、来年は来るかなあ。	タカー ヤエー スーガヤー。
103	もうサシバは来ないかなあ。	ナー タカー クーンガヤー。
104	サシバ、去年は来よかったよ。	タカー クドー キチョータンドー。
105	そうか。来よかったんだ。	アンヤンナー。キチョータンナ。
106	いつ来たのかなあ。	イチュー キチョータガヤー。
107	だったら、今年は、来なくても、来年はくるかもしれない。	アンヘー クトゥセー クーンティン ヤエー シーガスラーワカラ。

108	今年は来なかったのに来年は来るの？	クトゥセー クーンタシガ ヤエー スーンナ。
109	むかし、来なかった年もあったよ。	ンカシ/メーディー クーンタルトゥシン アータンドー。
110	郵便屋はさっき来たよ。	ユービンヤーヤ キッサ キチャンロー。
111	郵便屋は来よったの？本当なの？	ユービンヤーヤ キチョータンナ。フントーナ。
112	郵便屋が来よったから、手紙があるんだよ。	ユービンヤーヌ キチャクトゥ ティガミヌ アーンドー。
113	誰も来ないのに店を開けているの。	ターン クーンソーティ マッチヤ アキトーンナ。
114	客が来るなら店を開ける。	チャクヌ スーレー マッチヤ アキーン。
115	もし客が来ないなら店を閉めよう。	ムシ チャクヌ クーンダレー マッチヤ シミラ。
116	夕方には客が来るだろう。	ユハンデー チャクヌ スール ハジ。
117	今から来る人にはおまけをしよう。	ナマカラ スール チュンカイ シーブン アギラナ。
118	何人、来よったの？	イクタイ スータガ
119	私が言った通り、来よっただろう？	ワガ イチャル トゥーイ キチョータルヤー。
120	うん、昨日、来た人が今日も来よった。	オー、キヌー キチョータル チューヌ スーン クータン ドー。
121	夜になって誰も来なかったから、閉めた。	ユルニー ナティ ターン クーンテークトゥ シミタン。
122	以前からサービスをしていれば、客はもっと来よっただろう	メーカラ サービス ヒチョーレー チャクン ナーヒン スータル ハジ。
123	サービスしていたら、来よったのかな。	サービス ヒチョーレー スータガヤー。
124	うん、もう少しは客が来ただろう。	オー、イネー チャクヌ スータル ハジ。
125	客が来ない店はつぶれる。	チャクヌ クーヌ マッチヤーヤ ネーンナユン。
126	あの子は学校に来ないで、家で休んでいる。	アヌ ワラペー ガッコー クーングートゥー ヤーウウティ ユクトーン。
127	学校に来ながら、友だちの家に行ってみた。	ガッコーンカイ イチェーガーシー ドウシヌ ヤーンカイ イジ ヌッチャン。
128	友だちを連れて学校に来い。	ドウシ ソーヤーニ ガッコーンカイ クー。
129	島に来なければ、島のいいところはわからない。	シマンカイ クーンダレー シマヌ イー トウクルヤ ワカラ ン。
130	船が来るまで港で待とう。	フニヌ スールマディ ンナトゥウウティ マタ。
131	もしバスが なかったらタクシーに乗ろう。	ムシ バスヌ クーンタレー タクシンカイ スラ。
132	せっかく島に来たのに雨ばかり降っていた。	ワザワザ シマンカイ キチャシガ アミビケー フトータ ン。
133	来年も二人で一緒に来よう。	ヤイン タイシ マンズーン クーヤー。
134	私たちが来れば、太郎も来るって言っていたよ。	ワッターガ スーレー タローン スーンリ イチョータン ドー。

135	来年来れなくても、再来年はみんなで来よう。	ヤイ シーウーサンティン ヤインツォー ブルシ/シーナシ クーヤー。
136	魚をたくさん釣って楽しかったから、来年も来よう。	ツュー オホーク クーチ イッソーハテクトウ/ウムハテクトウ ヤイン スーン/クーヤー(よびかけ)。
137	あいつは友達が家に来てても、お茶も出さない。	アレー ドウシヌ ヤーンカイ キチン サーン ツンダハン。
138	あいつは友だちが来るのにお茶さえ出さないのか？	アレー ドウシヌ スールムン サービケン ツンダハンナ。
139	だから、今までだれも来なかつただろう。	ヤクトウ ナママディ ターン クーンタル ハジ。
140	おまえ昨日も来ただろう？うん、来たよ。	ツヤーモー キヌーン キチャルヤ？ オー、キチャンドー。
141	明日は来ないだろう？うん、畑に行くから来ない。	アチャー クーンダルヤー？ ーン、ハルンカイ イツクトウクーン。
142	子どもが来る前にお菓子を用意しておこう。	ワラビヌ スールメーニ クアーシ ヨーイヒチョーカ。
143	今日は何を煮るの？	スーヤ スーヤ ニユガ。
144	今日は、昨日掘ったサツマイモを煮る。	スーヤ キヌー フタルー ツンムヤ ニユン。
145	この鍋で煮るの？	クヌ ナービナカイ ニユンナ。
146	ううん、小さいからその鍋では煮ない。	クーハクトウ ウヌ ナービサーニ ニラン。
147	どうやってたくさんのサツマイモを煮るのかなあ。	イチャーヒチェー ウサキー ツンモー ニユガヤー。
148	今日のかぼちゃを煮ないの？	スーヤ ナンクワー ニランナ。
149	昨日煮たから、今日は煮ないんだ。	キヌー ニチャクトウ スーヤ ニラン。
150	冷蔵庫に豚肉があるのに何故煮ないの？	レーゾーコンカイ ツワーヌ シシ アーシガ ヌーンディニランガ。
151	きのうも豚肉だったから、今日は豚肉は煮ないんだろう？	キヌーン ツワーヌ シシ ヤタクトウ スーヤ ツワーヌ シセー ニランダルヤー。
152	大根も一緒に入れて煮ないかなあ。	デークニン マーズン イッティ ニランガヤー。
153	ゴボウは煮ないだろう。	グンボーヤ ニラン ハジ。
154	そうか、好きじゃないから、ゴボウは煮ないんだ。	アンヤンナ シチェー アランクトウ グンボーヤ ニラン/ニラントン。
155	今日煮ない豚肉は冷蔵庫に入れておけ。	スー ニラヌ ツワーヌ シセー レーゾーコンカイ イットケー。
156	今日の里芋は誰が煮たの？	スーヌ シンヌコー タガ ニチャガ。
157	その里芋は母さんが煮たんだ。私じゃないよ。	ウヌ シンヌコー アンマーガル ニチェール/ニチャンドー。ワノー アラントー。
158	母さんが煮たんだろう？	アンマーガ ニチャルヤ。
159	母さんが煮た里芋はおいしかったねえ。	アンマーガ ニチェール シンヌコー ジコー マーハータンヤー。
160	豚肉が冷蔵庫にあるけど、何故豚肉を煮なかったの？	ツワーヌ シーシヌ レーゾーコンカイ アーシガ ヌーンディ ツワーヌ シシ ニラントガ。
161	鶏肉が食べたかったから、鶏肉を煮た。	トウイヌ シシヌ カミブサークトウ トウイヌ シシ ニチャン。

162	鶏肉は煮たけど、豚肉は煮なかった。	トゥイヌ シセーニチャシガ ツワーヌ シセー ニランタン。
163	昨日も豚肉を煮たから、今日は煮なかったんだろう？	キヌーン ツワーヌ シシ ニチャクトゥ スーヤ ニランタルヤ。
164	一昨日も豚肉だったから、昨日は煮なかったんだよ。	ウウッティーン ツワーヌ シシ ヤタクトゥ キヌーヤ ニラントドー。
165	もしおばあさんが煮ないなら誰が煮るの？	ムシ パーパーガ ニランダレー タガ ニユガ。
166	姉さんが煮るだろう。	アナーガ ニユル ハジ。
167	お前も時々煮るだろう？	ツヤームシ マルケーテ ニユルヤ。
168	何故、豚肉は煮なかったのかなあ。	ヌーンディ ツワーヌ シセー ニラントガヤー。
169	誰がカボチャを煮たのかなあ。	タガー ナンクワー ニチャガヤー。
170	そのカボチャは母さんが煮ただろう。	ウヌ ナンクワーヤ アンマーガル ニチャル ハジ。
171	姉さんは煮なかっただろう。	アナーヤ ニラントル ハジ。
172	母さんが煮るカボチャは甘くておいしい。	アンマーガ ニユル ナンクワーヤ アマハヌ マーハン。
173	母さんが煮れば、みんな残さず食べる。	アンマーガ ニレー ブル ヌクハングートゥー カムン。
174	鍋にあったトウガンは誰が煮よったの？	ナービンカイ アータル シブエー タガ ニチャガ。
175	さっき台所にいた姉さんが煮よっただろう。	キッサ ウフントウンカイ ウウータル アナーガ ニチェール ハジ。
176	サトイモを煮ろっていったのに、煮なかったのか？	シンヌク ニレーンディ イチャシガ ニチェーネーナ。
177	兄さんが煮よったから、私は煮なかった。	ヤッカーガ ニユタクトゥ ワノー ニランタン。
178	兄さんが煮よったの？本当なの？	ヤッカーガ ニチャンナ。フントー ヤンナ。
179	兄さんは食べきれないくらい煮よった。	ヤッカーヤ カミウーハン アタイ ニチェータン。
180	何故あんなにたくさん煮よったのかな。	ヌーンディ アンチ オホーク ニチャガヤー。
181	里芋を煮ながらテレビを見るな。	シンヌク ニイェーガーシー テレビ ンジュンナ。
182	ぜんぶ煮ないうちに火が消えた。	ブル ニラン マドゥナカイ ヒーヌ ケータン。
183	ゴボウは煮るなっていったのに、煮たのか？	グンボーヤ ニユナンディ イチャシガ ニチェーナ。
184	誰も煮ないのに魚を買ってきた。	ターン ニランムヌ ツユー コーティ キチャン。
185	魚を煮ないで、何を煮るの。	ツユー ニーラングトウ、ヌーヤ ニユガ。
186	少ししか煮なかったのに柔らかくなっている。	イヒグワー ニラントシガ ヤーラカク ナトーン。
187	タコは煮る前に塩で揉んでから煮ると柔らかくなる。	タコー ニユルメーニ マースナカイ ムディカラ ニレーヤーラカク ナユン。
188	魚を煮るなら、もう少し大きい鍋を使え。	ツユー ニユレー ナーヒン マギナービ チケー。

189	母さんもそうやって煮よっただろう？見ただ ろう？	アンマーン アンシ ニユタルヤー。 ンーチャルヤー。
190	今日は豚肉は煮ないから、買って来るな。	スーヤ ツワーヌ シセー ニランクトゥ コーテー クーナ。
191	昨日は煮なかったから、今日煮よう。	キヌーヤ ニランタクトゥ スーヤ ニラナ。
192	大根は、肉も入れて煮なければ、美味しく ない。	デアクネー シシン イッティ ニランダレー マーコー ネーン。
193	もしおばあさんが煮なかったら誰も煮ない だろう。	ムシ パーパーガ ニランダレー ターン ニラン ハジ。
194	おばあさんが煮ないなら、私たち二人で一 緒に煮よう。	パーパーガ ニランダレー ワッター タイシ マズーンシ ニラ。
195	今日はおまえが煮ろ。	スーヤ ツヤーガ ニレー/ニリ。
196	お前が煮ないなら、俺が煮よう。	ツヤーガ ニランダレー ワーガ ニユサ。
197	これは私が煮る。煮よう。	クレー ワガ ニユン。ニユサ。
198	私がサトイモを煮たのに誰も食べなかった。	ワガ シンヌク ニチャシガ ターン カマンタン。
199	魚ぐらいたまには自分で煮てみる。	ツュービケーヤ タマネー ドゥーシー ニティ ンーレー。
200	魚を全部煮るまで待ってくれ。	ツュー ブル ニールマディ マッチョーケ。
201	全部煮なくても家族の分はあるよ。	ブロー ニランティン ヤーグナヌ ムノー アーンドー。
202	魚を煮るなら、塩を少し入れろ。	ツュー ニユレー マース イヒグワー イリリ。
204	大根を煮てから、味噌汁も作った。	デアクン ニチカラ ンスシルン ツクタン。
204	父さんは自分で魚を煮て夕飯を作った。	チャーチャーヤ ドゥーシ ツュー ニヤーイ ユーバン ツ クタン。
205	明日はゴボウを煮るから、買って来い。	アチャー グンボー ニユクトゥ コーティ クー。
206	肉とゴボウを煮たら、アクがたくさん出る。	シシトウ グンボー ニチャレー アクヌ オーク ツンジタ ン。
207	弟が魚を煮ても、だれも食べない。	ウットウヌ ツュー ニチン ターン カマン。
208	その魚は腐っているから煮るな。	ウヌ ツューヤ ナマリトクトゥ ニユナ/ニユナケー。
209	大根はよく煮るのに冬瓜はあまり煮ない。	デアクネー ユク ニーシガ シブエー アンマリ ニラン。
210	全部母さんがこそ 煮よっただ。	ブル アンマーガル ニユタル。
211	トウガンはおばあさんがこそ煮るんだ。ほか の人は煮ない。	シブエー パーパーガル ニユル。ニユンドー。フカヌ チョー ニラン。
212	雑炊を煮なかった日は、ご飯を炊いた。	ルーヒー ニラントル ヒーヤ メー/ミシ ツクタン。

	うるま市宮城島、2020年1月29日、2月5日調査 根保幸徳氏(s8生)、宮城、86歳M	
1	どこでもハーリーでは男が舟を漕ぐ。	マーウウティン ハーリーヤ イキガヌ フニ クズン。
2	若いときはみんなで舟を漕いだ。	ワカイトウチェー ブルシ/シーナシー フニ クザン。
3	今でも女は舟を漕がない。	ナマ ヤティン イイナゴー フニ クガン。
4	今日は手が痛いので、舟を漕げない。	スーヤ ティーヌ ヤムクトウ フネー クジウーハン。
5	病気が治ったから、舟も漕げる。	ヤンメーガ ノータクトウ フニン クガリーン。
6	明日も海へ行く。	アチャン ツンミカイ イツン。
7	父は天気が悪いときは海へは行かない。	チャーチャーヤ ツワーチチヌ ワッサイネー ツンミカイ イカン。
8	昼間仕事をして、夜遊びに行った。	ヒル シグトウ ヒチ ユル アシビーガ イザン。
9	今日は叔父が家に来る。	スーヤ ウウンツウガ ヤーンカイ スーン。
10	叔母は来ない。	ウウバマーヤ クーン。
11	祖父は叔父に電話をしていところを来させた。	ンッピーヤ ウウンツーンカイ デンワ ヒチ イチク クーラチャン。
12	孫も来たがっていたので、来させた。	ツンマガン シーブサ スタクトウ クーラチャン。
13	叔父もいとこもバスから来た。	ウウンツーン イチクン バスカラ キチャン。
14	崖の側は危ないから、子どもは来るな。	ハンタヌ スパー ウクローハークトウ クウグワーター クーンナ。
15	5月はよく雨降るねえ。	グングワチェー ユク/ジコー アミヌ フユンヤー。
16	12月は雨降らないよ。	シワーセー アメー フランドー。
17	昨日も大雨が降った。	キヌーン ウーアミヌ フタン。
18	あ、雨が降ってきた。	アリ、アミヌ フティ キチャン。
19	大雨が降ったので、橋が流された。	ウーアミヌ フタクトウ ハセー ナガハッタン。
20	太郎は毎日学校の前でバスから降りる。	タローヤ メーニチ ガッコーヌ メーウウティ バスカラ ウリーン。
21	友人がさきにバスを降りた。	ドウシヌ ハチニ バス ウリタン。
22	このバス停では誰も降りない。	クヌ バステーウウター ターン ウリラン。

23	熟したら、木の実は自然に落ちる。	ツンドーレー キーヌ ナエー ナンクル ウティーン。
24	青い実は木を揺らしても、落ちない。	オールーナエー キー ンズカチン ウティラン。
25	木を揺らしたから、落ちた。	キー ンズカタクトウ ウティタン。
26	オスの馬もメスの馬も人を蹴る。	ウウーツンマーン ミーツンマーン チュ キユン。
27	おとなしい馬は人を蹴らない。	ウトウナハル ツンマー チョー キラン。
28	あのおとなしかった馬が人を蹴った。	アヌ ウトウナハータル ツンマヌ チュ キタン。
29	父は去年買ったものでも捨てる。	チャーチャーヤ クドウ コータルーン ヒティーン。
30	まだ使えるのにラジオを捨てた。	マダ チカーリーシガ ラジオー ヒティタン。
31	祖母はどんなに古くても、捨てない。	パーパーヤ チャーツサ フルハーティン ヒティラン。
32	父は壊れたラジオを弟に捨てさせた。	チャーチャー コーキトールー ラジオー ウットウンカイ ヒッティラッチャン。
33	誰にも聞かないで、捨ててしまった。	ターニン シカングートウー ヒッティ ネーンサ/ヒッタ ン
34	ノコギリで枯れた木を切る。	ヌクジリナカイ カリトール キー チユン。
35	きのう枯れた木の枝を切った。	キヌー カリトール キーヌ イダ チチャン。
36	おじさんが一緒に切ってくれた。	ウウンチューガ マズーン チチ トウラチャン。
37	こわくて、誰もガジュマルを切らない。	ウトウルハヌ ターン ガジマンヤ チラン。
38	穴はスコップで掘る。	アナー スコップナカイ フユン。
39	お父さんは掘るけど、お母さんは掘らない。	チャーチャーヤ フユシガ アンマーヤ フラン。
40	二人でとても深い穴を掘った。	タイナカイ ジコー フカハル アナ フタン。
41	お父さんに頼んで兄さんにも掘らさせた。	チャーチャーンカイ タヌディ ヤッカーン フラチャン。
42	木の実が熟したのに、祖父は自分では落とせない。	キヌ ナイヌ ツンドータシガ ンツプーヤ ドウセー ウ トウシウーハン。
43	祖父が父に言いつけて兄に木の実を落とさせた。	ンツプーガ チャーチャーンカイ イーチキティ ヤッカー ンカイ キーヌ ナイ ウトウシミタン。
44	父が兄に棒で木の実を落とさせた。	チャーチャーガ ヤッカーンカイ ボーシ キーヌ ナイ ウトウシミタン。
45	兄が熟んだ木の実を全部落とした。	ヤッカーガ ツンドール キーヌ ナイ ブル ウトウチャ ン。

46	掃除の時には荷物を外に出す。	ソージヌ トウチネー ニムチャ フカンカイ ツンダスン。
47	弟も台所にあった荷物を外に出した。	ウットー ウフントウンカイ アータル ニムチ フカンカイ ツンダチャン。
48	祖母が母に言いつけてホースで水を流させた。	パーパーガ アンマーンカイ イーチキティ ホースナカイ ミジ ナガチャン/ナガシミタン。
49	母が花子にホースで水を流させた。	アンマーガ ハナコンカイ ホースナカイ ミジ ナガシミタン。
50	父が兄に言いつけて祖父を起こさせた。	チャーチャーガ ヤッカーンカイ イーチキティ ンPPERウクチャン/ウクシミタン。
51	父が兄に寝ている祖父を起こさせた。	チャーチャーガ ヤッカーンカイ ニントール ンPPERウクチャン/ウクシミタン。
52	兄が寝ていた祖父を起こした。	ヤッカーガ ニントール ンPPERウクチャン。
53	弟は左利きだけど右手でお箸を持つ。	ウットー ヒザヤー ヤシガ ンジリヌ ティーシ ハーシムツン。
54	汁鍋はこぼれやすいから、片手では持つな。	シルナーバー クブリーヤツサク トウカタティーサー ムツナ。
55	おにぎりの入った重箱はお母さんが持った。	ンジリメーヌ イツツョール ジューバコー アンマーガムツチャン。
56	おばあさんにはお茶を持ってもらった。	パーパーンカエー サー ムッチ トウラチャン。
57	おじいさんにはムシロを持たせる。	ンPPERンカエー ムシルー ムタスン。
58	重いけどもって持てる？	ンブハイシガ ナーヒン ムチウースンナ。
59	あと一つだったら持てる。	アトウ ティーチャレー ムチウースン。
60	いつも豚肉はお父さんが買う。	イチン/チャー ツワーヌ シセー チャーチャーガ コーユン。
61	他には何も買わない。	フカネー ヌーン コーラン。
62	お父さんは昨日は野菜を買った。	チャーチャーヤ キヌー ヤセー コータン。
63	明後日が給料日だから、明日は買えない。	アハデー キューリョービ ヤクトウ アツァー コーイウーハン。
64	明後日だったら欲しいものが買える。	アハティヤレー フサハイセー コーラリーン。
65	お父さんは取ってきた魚を売る。	チャーチャーヤ トウティ キチャイル ツユー ウユン。
66	きょうは魚が少ないから、売らない。	スーヤ ツユーヌ イキラハイクトウ ウラン。
67	昨日は私が取ったイカとタコを売った。	キヌーヤ ワガ トウタール イチャトウ タコー ウタン。
68	その魚を安く売ってください。	ウヌ ツユー ヤシク ウティ クィリ。

69	いつもおばあちゃんは私にお金をくれる。	イチン/チャー パーパーヤ ワヌンカイ ジン イイラスン。
70	今日は弟にも1000円くれた。	スーヤ ウットウンカイ センエン イイラチャン
71	おじいちゃんは私に何もくれない。	ンツプーヤ ワヌンカイ ヌーン イイラハン。
72	いつも漁師から魚をもらう。	イチン ツユートウヤーカラ ツユー イイタン。
73	小さいカニは誰ももらわない。	クーハールー ガエー ターン イイラン。
74	隣の家から大根ももらった。	トゥナイヌ ヤーカラ デークン イイータン。
75	モズクをたくさんもらったからみんなに分けてあげた。	シヌイ オホーク イイタクトウ ブルンカイ ワキタン/ワキティ トウラチャン。
76	喉が乾いたら水を飲む。	ヌドゥヌ カーキトーレー ミジ ヌムン。
77	私の夫は酒を飲まない。	ワー ウットー サケー ヌマン。
78	叔父さんは病気だから、酒が飲みたくても飲めない。	ウウンツーヤ ヤンメー カカトクトウ サケー ヌミブサーシガ ヌマン/ヌマラン。
79	ここの井戸水は飲める。	クマヌ カーヌ ミゼー ヌマリーン。
80	お母さんが入れたお茶をたくさん飲んだ。	アンマーガ イッタル サー オホーク ヌダン。
81	乗るなら飲むな。飲むなら乗るな。	ヌユンムン ヤレー ヌムナ。ヌムンムン ヤレー ヌルナ。
82	お母さんは赤ちゃんにおっぱいを飲ませてあげた。	アンマーガ アカングワンカイ シー ヌマチャン。
83	山羊もウシも草を食う。	ヒーザーン ウシン クサ クウユン。
84	山羊は濡れた草は食わない。	ヒーザーヤ ンディートル クサー クウーン。
85	家で飼っている猫が魚を食った。	ヤーウウティ シカナートル マヤーヌ ツユー クウタン。
86	父が取った魚を猫に食われた。	チャーチャーガ トウタイル ツユー マヤーンカイ クウウタン。
87	毎日暗くなるまで、外で遊ぶ。	メーニチ クラク ナルマディ フカウウティ アシブン。
88	暗くなったら、誰も遊ばない。	クラク ナレー ターン アシバン。
89	昨日はいとことかくれんぼして遊んだ。	キヌー イチクトウ クウッキエー ヒチ アシダン。
90	弟は酒を飲むと、すぐに酔う。	ウットー サキ ヌメー スグ イイーユン。
91	昨日も酒を飲んだので、酔った。	キヌーン サキ ヌダクトウ イイータン。

92	兄はどんなに飲んでも酔わない。	ヤッカーヤ チャッサ ヌディン イイーラン。
93	彼は酔って、寝ている。	アレー イイーティ ニントーン。
94	少ししか飲んでいないのに、酔ってしまった。	イヒル ヌダシガ イイーティ ネーラン。
95	汚れた皿とお椀はお父さんが洗う。	ユグリトール サラトゥ マッカイヤ チャーチャーガ アラユン。
96	私は兄さんに鍋を洗ってもらった。	ワノー ヤッカーンカイ ナービ アラーシミタン。
97	兄さんが私の代わりに洗ってくれた。	ヤッカーガ ワー カワイニ アラティ クィタン。
98	お母さんは料理を作るから、洗わない。	アンマーヤ ムヌ スガユクトゥ アラーン。
99	暑いときは帽子をかぶる。	アチハーイネー ボーシ ハンズン。
100	今は誰もくば笠をかぶらない。	ナマー ターン クバガサー カンダン。
101	昔はみんなくば笠をかぶった。	ンカセー/メーディーヤ ンーナ クバガサ カンタン。
102	いとこたちには帽子をかぶらせた。	イチクンチャーカエー ボーシ カンダチャン。
103	私は毎年孫たちにお年玉を上げる。	ワノー メーニン ツマガンチャーンカイ オトシダマ イイラスン。
104	去年はみんなに千円ずつ上げた。	クゾー ンナンカイ センエンナー イイラチャン/クィタン。
105	来年は二千円ずつ上げよう。	ヤエー ニセンエンナー イイラハ。
106	お菓子も買ってあげよう。	クワーシン コーティ イイラハ。
107	祖父は毎日6時に起きる。	ンッパーヤ メーニチ ルクジニ ウキーン。
108	昨日は9時に寝て、8時に起きた。	キヌーヤ クジニ ニンティ ハチジニ ウキタン。
109	5時には誰も起きない。	グジネー ターン ウキラン。
110	高校生は制服を着る	コーコーセーヤ セーフク シユン。
111	その服は古いから誰も着ない。	ウヌ フコー フルハークトゥ ターン シラン。
112	昔は自分で織った芭蕉布を着た。	ンカセー ドゥーシ ウータル バサージン シチャン。
113	その子は二歳になったから自分で服を着ることができる/着れる	ウヌ クワー ニサイニ ナタクトゥ ドゥーシ フコー シラリーン。
114	ざぶとんにはいとこが座る。	ザブトンカエー イチクヌ イィユン。

115	床にはだれも座らない。	ユンカケエー ターン イイラン。
116	私たちはここに座るから、きみたちは向こうに座れ。	ワッターヤ クマンカイ イイクトウ イッターヤ アマンカイ イイレ。
117	きみもざぶとんに座ってください。	ツヤムン ザブトヌンカイ イイチ トウラシ/イイチ クイリ。
118	毎日祖父は海を見る。	メーニチ ンPPERヤ ツンミ ンズン。
119	最近クジラを見ない。	チカゴロー クジラー ンダン。
120	昨日クジラを見た。	キヌー クジラー ンチャン。
121	お前も見たかったら見ろといって、孫に見させた。	ツヤムン ンジブサレー ンディンディ イチ ツンマガンカイ ミシタン。
122	「ありがとう」には方言で「ニヘー」「ニヘーヤタン」と言う。	アリガトーンカエー シマクトウバセー 「ニヘー」「ニヘーヤタン」 ンディ ユン。
123	兄は何も言わない。	ヤッカーヤ ヌーン イラン。
124	お母さんは弟に「あやまれ」と言った。	アンマーヤ ウットウンカイ 「アヤマレー」 ンディ イチャン。
125	兄は弟に「いたずらするな」と言って、しかった。	ヤッカーヤ ウットウンカイ 「ガンマリ フナ」 ンディ イチ ヌラタン。
126	弟は兄に「ばか」と言ってしまった。	ウットー シーザンカイ 「バカ」 ンディ イチ ネーラン/イチャン。
127	蟬はすぐに死ぬ。	アササーヤ スグ シヌン。
128	人に「死ぬ」って言うてはいけない。	チュンカイ 「シネー」 ンディ イチェー ナラン。
129	ゴキブリはすぐには死なない。	ヤマターヤ スグネー シナン。
130	去年はひでりでカエルがたくさん死んだ。	クゾー ハーイ ナティ アータークェーヌ オホーク シザン。
131	暑くて、家のネコも死んでしまった。	アチハヌ ヤーヌ マヤーン シジ ネーラン。
132	この村には港がある。	クヌ ムランカエー ンナトウヌ アーン。
133	昔島には製糖工場があった。	ムカシ シマンカエー サトーヤーヌ アータン。
134	製糖工場のあったところに学校を建てた。	サトーヤーヌ アータル トウクルンカイ ガッコー タティタン。
135	お金があればなんでも買える。	ジンヌ アレー ヌー ヤティン コーラリーン。
136	今日はお金が無いから買いたくても買えない。	スーヤ ジンヌ ネーノクトウ コーイブサハティン コーララン。
137	人の命は金では買えない。	チュヌ ヌツェー ジンセー コーララン。

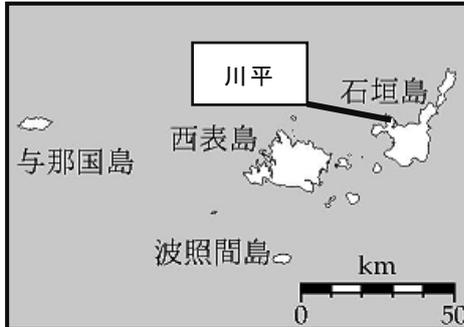
138	有っても喜ぶな。	アーティン ユルクブナ。
139	無くても泣くな。	ネーンティン ナクナ。
140	人間の良し悪しは後でこそ分かる。	ニンジンヌ ユシアセー アトゥ ナティル ワカユン。
141	塩がない。	マースヌ ネーン。
142	かまどの上にあったよ	カマドゥヌ イーンカイ アータンドー。
143	砂糖もなかった。	サトーン ネーンタン。
144	無ければわたしが買ってこよう。	ネーンダレー ワガ コーティ クー。
145	座敷には人がたくさんいる。	ザシチンカエー チュヌ オホーク ウゥーン。
146	あなたはしばらく台所にいてください。	イガモー イットチェー ウフントウンカイ ウウティ トゥラシ。
147	さっきまで座敷に客がいた。	キッサマディ ザシチンカイ チュヌ ウゥータン。
148	座敷にいた人たちがみんな帰った。	ザシチンカイ ウゥータル チュヌチャーヤ ブル/シーナ ケータン。
149	みんな帰って今はだれもいない。	ブル ケーティ ナマ ターン ウウラン。
150	若いころは那覇まで歩いた人がいた。	ワカイクロー ナーハマディ アッチャル チュヌ ウゥー タン。
151	兄はお父さんに言われたら、何でもする。	シーザーヤ チャーチャーンカイ イラリーネー ヌー ヤ ティン スン。
152	兄は言われなければ、何もしない。	シーザー イラランダレー ヌーン ハン。
153	兄はしなさいと言われたから、畑仕事をした。	シーザー ヒンディ イチャクトゥ ハルシグトゥ ヒチャ ン。
154	お父さんは兄に畑仕事をさせた	チャーチャーヤ シーザンカイ ハルシグトゥ シミタン。
155	休んでないで仕事をしろ。	ユ克蘭グートゥー シグトゥ シ。
156	木の葉が詰まって溝の水が流れない。	キーヌ ファーヌ チマティ ハクヌ ミズヌ ナガリラ ン。
157	お母さんが兄さんに木の葉を取らせて水を流れさせた。	アンマーガ シザンカイ キーヌ ファー トウラチ ミ ジー ナガシミタン。
158	兄さんは木の葉を取って水を流れさせた。	ヤッカーヤ キーヌ ファー トウッティ ミズ ナガシミ タン。
159	ようやく水が流れた。	ヨーヤク ミジヌ ナガリタン。
160	この井戸水は飲めない。	クヌ カーヌ ミゼー ヌマリーラン。

161	誰でもこんなにたくさんのは飲みきれない	ター ヤティン オホークヌ ミゼー ヌミウーハン。
162	あく抜きした蘇鉄は食べられる。	アク トゥタル ヒチチンナエー カマリーン。
163	腐った肉は食べられない。	クサトールー シセー カマラン。
164	ソーキ汁まだ残っているけど食べれる？	ソーキジル ナーダ ヌクトーシガ カマリーンナ。
165	腹いっぱいだからもうこれ以上は食べきれない。	ワタンミー ヤクトゥ ナー カミウーハン。
166	溢れるくらいお茶を注いでくれ。	アンディールマディ サー シディ クイリ。
167	湯が沸くまで待てない。	ユーヌ ワクマディ マチウーハン。
168	子どもだから、見せたくなかったけど、見るといって聞かなかったから、見せさせた。	ワラビ ヤクトゥ ミシブサネーシガ ンズーンディイチ シカンテークトゥ ンダチャン。
169	三線を弾いて客に聞かせる。	サンシン ヒチャーイ ドウシンチャーシカイ シカスン。
170	祖母が自分で着せたいと言ったので、仕方なく孫に服を着せさせた。	パーパー ドゥーシ シラスンディイチャクトゥ シカタナク ツンマガンカイ フコー シラチャン。
171	一昨日買った服を赤ちゃんに着せる。	ウウッティー コータル フク アカングワーンカイ キシユン。
172	おばさんは自分が買った服をお母さんに頼んで赤ちゃんに着せさせた。	パーパーヤ ドゥーシ コータル フコー アンマーンカイ タヌディ アカングワーンカイ キシタン。

八重山地方石垣島^{かびら}川平方言の動詞の特徴

荻野千砂子（福岡教育大学）

1. 川平の概要



(図) 川平集落の位置¹

川平は石垣島の北部に位置する。石垣の中心部からは、車で約25分、バスで40分かかる。昔は、川平から石垣の中心部まで歩いて4時間程度かかっていたという。その際、名蔵湾の海沿いの道には現在のような橋がなかったため、潮の満ち引きも考えたという話である。川平地域としては、川平、大嵩、中筋、吉原の四つの集落をまとめて、一区分となされているが、ここでは、川平集落のみを調査の対象としている。

現在の人口は、393名である²。川平には日本本土からの移住者が多く、方言話者が少なくなっている。話者によると70歳代でも話せない人が多く、日常会話を方言で行えるのは80歳代であるという。川平方言は消滅の危機に瀕していると言える。川平方言に関する記述としては、外間守善他（1975）があり、談話、基礎語彙、動詞や形容詞の活用など、100頁程度の基本的記述がある。しかし、後に述べるように、中舌母音のEについての記述がないなど、不足している部分もある。また、川平は、神行事が多い地域として石垣の中でも有名である。近年では澤井真代（2012）による俯瞰的な研究もある。

2. 川平方言の動詞活用資料（別表）

調査に協力して下さった話者は、お二人とも男性で、昭和9年生まれの大仲進（おおなか すすむ）氏と昭和9年生まれの崎山用桂（さきやま ようけい）氏である。用例の表記は次のように行った。

川平方言の母音は、a、i、u、e、o、I、Eの7母音であると考え、中舌母音としてIとEの記号を用いる。外間守善他（1975）では、a、i、u、e、o、Iの6母音としているが、次の例のように、Iの後に、助詞ja（「は」相当）が下接するときや、「来る」の連体形で、Iが二モーラの長さになったときに、EEという音声が現れる。このとき、必ずEEになるわけではなく、どちらでもよいとされる。ただし、「eeとは異なる音である」という認識が話者にあるため、音素としてEを考えることとする。

- (1) kutusI（今年）=ja → kutusE=E
 (2) k^sI-I（来る・連体形）→ k^sE-E

子音に関しては、簡略した音声記号を用いた。その際、[ϕ]はhwで、[tɕ]はcで代用した。[kI]の発音のとき、多くはkに呼気が伴うため、k^sIna（来るな）のように、k^sで表す。*印

¹ 国土地理院発行の地図データをもとに Thomas Pellard 氏が作成した地図に加筆をしている。

² 石垣市役所 HP 統計いしがき（第40号）平成28年12月31日現在（2020年2月13日閲覧）

は、直前の母音や子音が無声化していることを表す。二重母音は、母音を重ねて表し、促音は子音を重ねて表し、成節鼻音はNで表す。接語境界を=で表す。その際、境界は付属語（助詞）とした。また、接辞境界として活用のある自立語と付属語の境界を-で区切った。その際、活用語尾の母音は、語幹に続けて示すこととした。これは、単語としてのまとまりをわかりやすくすることを目的としたものである。例を示す。

（例）眠れなかった nuhwa-ra-N-ta

眠る-可能-否定-過去

他に、以下のような記号を用いて、調査票での用例を記述した。

- ・使用できる語が複数ある場合は、{A/B}のように示した。
- ・別の語を付け加えてもよいと指摘された場合は、()として単語を加えた。
- ・説明を付け加える場合は、〈 〉で示した。

3. 資料から見られる動詞の活用形

資料の分析を行う。以下の分析では、動詞の語幹と語幹末母音の間も接辞境界の-で区切る。これにより、語幹が明らかになる。「煮る」と「食べる」と「来る」の主な活用形を表1に示す。「来る」の語幹は今後の課題とする。今回の調査では出てこなかった形式は、空欄にしている。

表1 「煮る」「食べる」「来る」の活用表

		煮る	食べる	来る
活用形	共通語例\語幹	bagas-	ho-/hwa-	k ^s -/ko-/ku-/ki-/ k ^s I
言い切り1	煮る	bagas-IN	ho-oN	k ^s -I-N
言い切り2	煮る		hwa-i=du sI-I	k ^s -I=tu sI-I
勧誘	煮よう	bagas-a-a	hwa-a	ko-o
否定	煮ない	bagas-a-nu	hwa-a-noo hwa-a-nu	ku-u-noo ku-u-nu
否定連体	煮ない(肉)	bagas-a-N	hwa-a-N	ku-u-N
否定過去	煮なかった	bagas-a-N-ta	hwa-a-N-ta	k-u-N-ta k ^s -I-N-ta
過去1	煮た	bagas-I-ta	h(w)o-o-da	k ^s -I-ta k ^s -I*-ta
仮定条件	煮たら	bagas-I=tara	hwo-o=dara	k ^s -I=tara
禁止	煮るな	bagas-I=na	hwo-o=na	k ^s -I=na
継続	煮ている	bagas-i uN		
連用	煮て	bagas-i	hwa-i	ki-i
理由1	煮るので	bagas-i=kii		

連体	煮る (肉)	bagas-u	hwo-o	k ^s I-I k ^s E-E kI*s-I
命令 1	煮よ		hwa-i	ku-u ko-o
命令 2	煮よ	bagas-ja		
疑問対応	(なぜ) 煮るか	bagas-ja	hwa-i-ja	kj-aa
完了連体	既に煮た(肉)	bagas-j-eer-u	hwa-eer-u	

否定形では、例えば「食べない」だと hwa-a-noo と hwa-a-nu の二形式が出てくる。否定辞-anu の語尾が音的に伸びて二モーラになるときに、hwa-a-nu の nu が nuu となり、それが noo に変化するだけかと考えていたが、話者によると、hwa-a-nu は言い切っている感じがあり、hwa-a-noo は相手に呼びかけている感じがあるという。モダリティー面での相違がありそうである。詳細は、まだ不明なので、今後の調査で明らかにしたい。また、その他に出てきた活用形を、表 2 にまとめる。

表 2 「煮る」「食べる」「来る」のその他の活用形

		煮る	食べる	来る
活用形	共通語例\語幹	bagas-	ho-/hwa-	k ^s -/ko-/ku-/ki/ k ^s I
否定強調	煮ないで		hwa-a-N=kusa	
否定理由	煮ないから			k-u-N=kii
否定接続	煮ないで			ku-u-N=ti
接続 1	煮て		hwa-i=siti	ki-i=siti
接続 2	煮て	bagas-i=ti		ki-i=tte
理由 2	煮るので		hwa-i=ba	
否定未来理由	煮ないので		hwa-a-N=ba	
否定完了理由	煮なかったので		hwa-a-nar-eer-i=kii	
過去 2	煮た		hwa-i=du sI-ta	
過去 3	煮た	bagas-I		
過去連体	煮た(肉)			k ^s -I-ta
過去否定連体	煮なかった(肉)	bagas-a-N-ta		
完了理由	煮たので	bagas-j-eer-i=kii		
完了 2	煮たので		hwa-i=du ar-eer-u	

過去進行	煮ていた		hwa-i hwu-ta	ki-i hwu-ta
継続過去完了	煮ていた			ki-i=du ur-eer-iN
過去仮定	煮たら			k-ee=tara
受身過去	煮られた		hwa-a-ri-da	
可能	煮られる		hwa-a-r-iN hwa-a-rir-u-N	
可能否定	煮られない	bagas-a-r-u-nu	hwa-a-r-u-nu	ki-rar-a-N
可能過去	煮られた			ki-rar-i-da
可能否定過去	煮られなかった			ki-rar-u-N-ta
能力可能否定	煮られない		hwa-i busaa neN	
不可能	煮られない			ki-rar-a-N
使役過去	煮させた			k ^s -I-mas-I-ta
目的	煮に		hwa-i=na	
付帯	煮ながら		hwa-i=daaree	
途中	煮る途中			k ^s I*-N=taani(=na)
願望	煮たい			k ^s -I-ttsa
否定仮定条件	煮なかったら		hwa-a-N=dara hwa-a-N=tara	k(u)-u-N=dara
譲歩 1	煮ても		hwa-a=baN	ku-u=baN
譲歩 2	煮ても	bagas-u muno=o		
否定譲歩 1	煮なくても			ku-u-N=tuN ku-u-N=tiN
否定譲歩 2	煮なくても	bagas-a-N- ta=deN	hwa-a-N- ta=deN	ku-u-N-ta=deN
逆接過去	煮たけど		ho-o-da=suNga	
逆接否定過去	煮なかったけど		hwa-a-N- ta=suNga	ku-u-N- ta=suNga
尊敬	煮なさる	bagas-j-ooruN	hwa-j-ooruN	
尊敬過去	煮なさった	bagas-j-oo-ta	hwa-i oor-i-ta	
尊敬継続過去	煮ていなさった		hwa-i oor-i hwu-ta	
尊敬否定仮定	煮なさらないなら	bagas-j-oor-a- N=dara		
否定疑問	(なぜ) 煮ないのか	bagas-a-N=ba	hwa-a-N=ba	k-u-N=ba

4. 資料から見られる動詞の活用の種類

川平方言での動詞の活用の種類を表3としてまとめた。

子音語幹動詞は、否定形が-a-nuになり、母音語幹動詞は、-u-nuになる。子音語幹動詞1、2、3と分けたのは、それぞれ特徴があるためである。子音語幹動詞1は、語幹が子音で終わる。子音語幹動詞2は「ある」「おる」に相当する動詞でr語幹であるが、言い切り形がaN、uNとなる特徴を持つ。さらに、過去形では、語幹の最初にhwまたはhの音声が付加されるという特徴を持つ。また、子音語幹動詞3は、主に古典のハ行動詞に属する語であり、語幹末子音としてwが想定される語である。現在はwが消えて、語幹末が母音で終わるため、言い切り形の形態素境界で母音に変化する。母音語幹動詞は、言い切り形が「起きる」のhwukir-uNのようにr語幹になるが、否定形ではu語幹になり、過去形ではi語幹になる。よって、複数語幹を想定することになる。

過去形の接辞から考察すると、子音語幹動詞1、2は-taとなり、子音語幹動詞3と母音語幹動詞が-daになるという特徴がある。このとき、子音語幹動詞1の「飲む」「死ぬ」は撥音便化するために、音声的に-daとなっているが、基底は-taであると考えている。だが、子音語幹動詞3は-daとなるため、母音語幹動詞の特徴も持っていると言えるかもしれない。

「来る」はカ変とし、「する」はサ変とする。「する」を外間守善他(1975)では、子音語幹動詞のs語幹の動詞と同様の活用であると分析する。しかし、今回の調査では「する」の言い切りの形はsuNであり、sINではなかった。ただし、-INと-uNは、音声的に揺れやすいため、今後、更なる調査が必要であろうと考える。

表3 動詞の活用の種類

種類	語	語幹	言い切り	否定	過去1
子音 1	煮る	s	bagas-IN	bagas-a-nu	bagas-I-ta
	売る	s	kaas-IN	kaas-a-nu	kaas-I-ta
	切る	s	ki*s-IN	ki*s-a-nu	ki*s-I-ta
	出す	s	Ndas-IN		Ndas-I-ta
	落とす	s			hwu*tus-I-ta
	漕ぐ	g		kug-a-noo	kug-I-ta kuk-I*-ta
	行く	r	par-uN	par-a-noo	pat-ta par-i-ta
	蹴る	r	ki*r-uN	ki*r-a-nu	kit-ta
	掘る	r	pu*r-uN		put-ta
	遊ぶ	p	ha*su*p-uN	ha*su*p-a-nu	ha*su*p-i-ta
	かぶる	w	ka-uN kahw-uN	kaw-a-noo	kahw-u*-ta
	飲む	m	num-uN	num-a-noo	nu-N-da
	死ぬ	n		sI*n*-a-nu	sI-N-da
言う	n	aN	an-a-noo	a-N-da	
子音 2	いる	r		ur-a-nu	hwu-ta
	ある	r	aN		ha*-ta

子音 3	降る	u		ho-o-nu	ho-o-da
	洗う	a	aar-oo	aar-a-nu	
	食べる	a	ho-oN	hwa-a-noo hwa-a-nu	h(w)o-o-da
	買う	a	ka-uN	ka-a-noo	ka-u-da
母音	見る	r/u/i	miir-uN		mi-i-da
	座る	r/u/i		bu-u-noo	
	着る	r/u/i		ku-u-nu	ki-i-da
	起きる	r/u/i	hwukir-uN	hwuk-u-noo	hwu*k-i-da
	酔う	r/u/i		bu-u-noo	bi-i-da
	もらう	r/u/i	iir-uN	iju-u-nu	i-i-da
	くれる	r/u/i	hiir-uN	hju-u-nu	hi-i-da
	降りる	r/u/i	urir-uN	ur-u-nu	ur-i-da
	落ちる	r/u/i	hwutir-uN	hwut-u-nu hwut-u-noo	hwut-i-da
	捨てる	r/u/i			sit-i-da
	流れる	r/u/i		nagar-u-nu	nagar-i-da
カ変	来る	k	k ^s -I-N	ku-u-noo ku-u-nu	k-I-ta k-I*-ta
サ変	する	s	suN	s-a-nu sa-a-nu	s-I-ta
形容	ない		neN		neen-aa-ta

5. 無声化の影響

川平方言では無声化が頻繁に起きる。母音だけでなく、直後の子音にも影響を及ぼすようである。(3)において、焦点の *du* は有声音であるが、(4)では、*tu* と無声音になる。これは、前にある名詞 *hitsI** の *I** が無声化しているためではないかと考える。

- (3) mai=nu kai=nu nukur-i hwu=suNga taa=du hwaa-N-ta=ra?
 米=の 粥=が のこっている=けど 誰=ぞ 食べる-否定-過去=終助詞
 米の粥が残っているけど誰が食べなかったの？
- (4) hanako=ja hitsI*=tu k-jaa?
 花子=は いつ=ぞ 来る？
 花子はいつ来るの？

無声化は単語内の子音にも影響を及ぼしているのではないかと考える。石垣市中心部の四箇（しか）では、「遊ぶ」は *asabuN* となり有声音 *bu* であるが、川平では *ha*su*puN*、もしくは *ha*su*pu*N* となる。*u** の無声化が *b* に影響を及ぼし *p* となっている可能性がある。無声化を考察するために、今後、単語単独での音声を調査する必要がある。

6. 川平方言での童謡

川平方言で童謡の替え歌を作成した。元の歌詞に出てくる動物や楽器は、適宜、身近な方言の語彙に変更をした。「山の音楽家」と「チューリップ」の二種を、以下にあげる。

「山の音楽家」

わたしゃ音楽家 山の小りす
上手にバイオリンひいてみましょう
キュキュ キュッキュッキュ
キュキュ キュッキュッキュ
キュキュ キュッキュッキュ
キュキュ キュッキュッキュ
いかがです

わたしゃ音楽家 山のうさぎ
上手にピアノをひいてみましょう
ポポ ポロンポロンポロン
ポポ ポロンポロンポロン
ポポ ポロンポロンポロン
ポポ ポロンポロンポロン
いかがです

わたしゃ音楽家 山の小鳥
上手にフルートふいてみましょう
ピピ ピッピッピ
ピピ ピッピッピ
ピピ ピッピッピ
ピピ ピッピッピ
いかがです

わたしゃ音楽家 山のためき
上手に太鼓をたたいてみましょう
ポコ ポンポンポン
ポコ ポンポンポン
ポコ ポンポンポン
ポコ ポンポンポン
いかがです

わたしゃ音楽家 山の仲間
上手にそろえてひいてみましょう
タタ タンタンタン
タタ タンタンタン
タタ タンタンタン
タタ タンタンタン
いかがです

バナヤ サンシン ピキヤー ヤマヌ マヤー
ジョーズニ サンシン ピキ モーラ
テンク テンテンテン
テンク テンテンテン
テンク テンテンテン
テンク テンテンテン
ノーシドウ オーッタ ネーラ

バナヤ サンバ フチャー ヤマヌ ピピジャ
ジョーズニ サンバ ナラシ モーラ
タタ タンタンタン
タタ タンタンタン
タタ タンタンタン
タタ タンタンタン
ノーシドウ オーッタ ネーラ

バナヤ ピー フカー ヤマヌ ツクグルー
ジョーズニ ピー フキ モーラ
ピピ ピッピッピ
ピピ ピッピッピ
ピピ ピッピッピ
ピピ ピッピッピ
ノーシドウ オーッタ ネーラ

バナヤ タイク フチャー ヤマヌ ウムザ
ジョーズニ タイク タタコーラ
ドド ドンドンドン
ドド ドンドンドン
ドド ドンドンドン
ドド ドンドンドン
ノーシドウ オーッタ ネーラ

バンダヤ ウタシャ ヤマヌ シンカ
マーズン アーシ タダフカショーラ
ババ バンバンバン
ババ バンバンバン
ババ バンバンバン
ババ バンバンバン
ノーシドウ オーッタ ネーラ

「チューリップ」

さいた さいた
 チューリップの花が
 ならんだ ならんだ
 あか しろ きいろ
 どの花見ても
 きれいだな

ゆれる ゆれる
 チューリップの花が
 風にゆれて
 にこにこ 笑う
 どの花見ても
 かわいいな

風にゆれる
 チューリップの花に
 とぶよ とぶよ
 ちょうちよが とぶよ
 ちょうちよと花と遊んでる

サキタ サキタ
 チューリップヌ パナヌ
 ナラビール ナラビール
 ハ*カ シ*ル クィール
 ドウヌ パナ ミリバン
 カイシャダル

ウギル ウギル
 チューリップヌ パナヌ
 カジシ フサリ
 パーパー バーライ
 ドウヌ パナ ミリバン
 ハ*パラシャソ

カジシ ウガサリル
 チューリップヌ パナへ
 マヤリル マヤリル
 ハ*ピルヌ マヤリル
 ハ*ピルトウ パナヌ マジャブリル

参考文献

- 外間守善他（1975）「八重山石垣島川平方言」『琉球の方言』（1） 法政大学沖縄文化
 研究所
 澤井真代（2012）『石垣島川平の宗教儀礼』森話社

石垣島川平 大仲進氏 (S9生まれ)、崎山用桂氏 (S9生まれ)		
1	本土の人もヘチマを食べるの？	jamatu pitu=N nabeera hwai=du sII ?
2	ううん、本土の人はヘチマは食べない。	aai. jamatu pito=o nabeera=ja hwaa-noo.
3	我が家では、夏になったら、毎日ニガウリを食べる。	duu=nu jaa (baNda jaaとも)=naa=ja natsI nat=tara gooja=N mainItsI hwai=du sII.
4	今日の朝ごはんは何を食べたの？	kjuu=nu sItumudi muno=o noo=du hoo-da=ra ? (朝ご飯: ha*sa munoo/ha*sa NboN/sItumudi muN)
5	冬瓜を食べた。	suburu=du hoo-da.
6	長女姉さんは食べなかった。	hoNma=ja hwaa-N-ta.
7	このサトイモは誰が食べるの？	ku*nu mutsI=I taa=du hwaija?
8	長女姉さんがこそ食べるんだ。私は食べない。	hoNma=Ndu hwaj-ooru. bano=o hwaa-noo.
9	お前が天ぷらを全部食べたろう？	waa=du paNbiN muuru hoo-da=sa ?
10	私は一つだけ食べたんだよ。	bana=a tsINtu pItItsI=du hoo-da. (ちよつとだけ食べた: koopema=du hoo-da.)
11	残ったテンプラは、全部母さんがこそ食べよったんだ。	nukuriru paNbiN=ja muuru bunee=Ndu {oosj-oori-ta /N*koori-ta}.
12	父さんもバナナ食べるかなあ。(独り言のように)	bigee=N basoo=nu narI {hwaj-ooruN / N*kooruN/oosj-ooruN}=gaja .
13	父さんも食べるだろう。食べるはず。/食べ終わっているはず。	bigee=N basoo=nu narI {N*k-ee=du sj-ooru/N*kooru/oosj-ooru} patsI*. / N*k-eeru patsI*.
14	お前もバナナを食べるだろう？(うん食べる)	waa=N basoo=nu narI hooN=sa ?
15	誰がお菓子を食べたのかなあ。(独り言のように)	taa=du kwaasI=ju hwoo-da=gaja.
16	お菓子は妹が食べたろう/食べたはず。	kwaasI=I bunarI=Ndu {hwoo-da/hwa-eeru} patsI* (=too).
17	そこに置いた魚は誰が食べよったの？/あなたが見たときに、誰が食べていたか。	kunaa cik-ee-ta izo=o taa=du hwoo-da=gaja. /waa mi-i hwu-ta basjo=o taa=du hwa-i hwu-ta=ra.
18	犬が食べよったのかな。/犬が食べていたか、知らない	iN=du hwa-i hwu-ta=juu. / iN=du hwai hwu-ta=juu ssIsa-nu.
19	違うよ。隣の猫が食べよったはずよ。	ara-nu. tu*narI=nu maja=Ndu hwai hwu-ta patsI*.
20	食べるなっていったのに、食べたのか？	hwoo=na=joo=di {ani uri=ba=ja / ani=ba} hwai=du sI-ta ?

21	兄さんが食べよったから、私も食べたんだよ。	hizja=nu hwai oori hwu=tara banu=N hwoo-da.
22	兄さんが食べよったの？本当なの？	hizja=nu hwai {oori / oori-ta}=soo ? sjookutu ?
23	兄さんは三つも食べよった。	hizja=ja miitsI=N hwai=du oori-ta.
24	おじいさんも食べていただろう？あなたも見たらどう？	hwusjumai=N hwai=du oori-ta. wa=N mii=du hwu-ta=sa.
25	昨日食べたソバはおいしかった。	k ^s Inuu hwoo-da suba=ja sikattu massa-tta.
26	今日も一緒に食べよう。	kjuu=N maazoN hwaa.
27	今日は白保に食べに行こう。	kjuu=ja hi*sabu=he hwai=na para.
28	ご飯を食べながらテレビを見るな。	NppoN=ba hwai=daree terebee mii=na.
29	もう片付けるから、急いで食べろ。	mee si*tsI*mi du sii=ba paisja hwai.
30	ぜんぶ食べるまで待ってちょうだい。	muuru hwoo madee imeN {mac-i hir-ee/mac-ee}.
31	お前が食べきれないなら、俺が食べよう。	waa hwai busaa neN=dara baa hwaa.
32	これは私が食べる。	kure=e baa=du {hwoo / hoo}.
33	(もったいないから) 食べるなら残すな。残すなら食べるな。	hwoo=dara nukusu=na.nukusu siku ha=tara hwoo=na.
34	明日食べるコメを買ってきて。	ha*tsa hwoo mai kai {kii hiiree/koo/ku=joo}.
35	おじいさんはご飯を食べて薬を飲みよったか。	hwusjumai=ja NppoN hwai (oori) =siti hwusirI numi oori hwu-ta ?
36	おばあさんは昼ごはんを食べて、寝たよ。	NNmee=ja juNboN=ju n*kee=siti n*u*hw-oo-ta=saa.
37	兄さんは昼飯を食べてから畑に行った。	hicca=ja piro+NboN {hwai=siti / hwai=tee=ra=du} patagi=he {pat-ta/ oot-ta}.
38	明日もサシミを食べるから、買って来い。	ha*ttsa=N namasI*=tu hwai=ba kai kuu=joo.
39	今日食べたから、明日は食べなくてもいい。	kjuu hwai=du ar-eeri=ba ha*ttsa hwaa-N=tuN misjaaN.
40	パパイヤを食べたらお母さんのお乳がよく出る。	maNzjumai=ju hwoo=dara bunee=nu tsII=N sikattu NdiruN.
41	痩せた女の方は、パパイヤを食べなければお乳は出ない。	joogari mittuu=ja maNzjumai=ju hwaa-N=dara tsII Ndu-noo.

42	男はパイパイを食べても、お乳は出ない。	bigiduN=nu maNzjumai=ja hwaa=baN tsII {Ndu-noo/Ndu-nu}.
43	クワンソウを食べれば眠れる。	kwaNsoo=di aN hwusa=ju hoo=dara sikattu n*u*hwa-riruN.
44	クワンソウを食べたのに眠れなかった。	kwaNsoo=ba hoo-da=suNga nuhwa-ra-N-ta.
45	クワンソウを食べなかったのによく眠れた。	kwaNsoo=ju hwaa-N-ta=suNga {joo / sikattu} nuhwa-ri-da.
46	私は、クワンソウを食べなくても眠れる。	bano=o kwaNsoo hwaa-N-ta=deN nuhwa-riruN.
47	肉はよく食べるのに野菜はぜんぜん(全く) 食べない。	ni*ko=o sikattu hwoo=suNga paa munu {muttu / muzuttu} hwaa-nu.
48	今日買ったキャベツはおいしいから、食べてみる。	kjuu kau-da tamanaa=ja massari=kii hai mii moo.
49	その腐った豆腐は食べるな。	ku*n*u tooho=o hwusari uri=ba hoo=na=joo.
50	何故ヤギ汁を食べないの？ おいしくないの？	noo=di pipizja=nu sIro=o hwaa-N=ba. massaa=du neenu?
51	腹いっぱいだから食べないんだ。ヤギ汁は好きだよ。	bada Nci uri=ba=du hwaa-N-ta. pipizja=nu sIro=o sikattu massaN=dara.
52	長女姉さんも食べなかつたろう。食べなかつたはず。	hoNma=N hwaa-N-ta=sa? hwaa-N-ta patsI*.
53	お腹が痛かったから、食べなかつたんだよ。	bada=nu jami=ki=du hwaa-N-ta.
54	お前もヤギ汁は食べないんだろう？	waa=N pibizja=nu sIro=o hwaa-nu=sa?
55	父さんも食べないだろう／食べないはず。(嫌いだから)	bigee=N hwai oora-N patsI*=too.
56	父さんはヤギ汁を食べないかなあ。(独り言のように)	bigee=ja pibizja=nu sIro=o hwai oora-nu=gaja.
57	もしおまえが食べなかつたらヤギ汁は残るだろう。	musu(ka) waa hwaa-N=dara pibizja=nu sIro=o nukut=tu {sI-I / sE-E}.
58	本土の人はヘチマを食べないの？	jamatu pito=o nabeera=ja hwaa-nu=sa?
59	食べろっていったのに、食べなかつたのか？	hwai=di ani=baN hwaa-N-ta?
60	粥が残っているけど、誰が食べなかつたの？	mai=nu kai=nu nukuri hwu=suNga taa=du hwaa-N-ta=ra?
61	お前もお粥を食べなかつたんだろう？	waa=N mai=nu kai=ja hwa-N-ta=sa?
62	何故、お菓子を食べなかつたのかなあ。(独り言のように)	noo=di kwaasI hwaa-N-ta=gaja.
63	誰も食べないのに芋を煮た。	taroo=N haa-N munu ha*kkoN=ba bagasI-ta(=ra).

64	誰も食べない物は買ってはいけない。	taroo=N hwa-aN muno=o kai kI=na=joo.
65	ぜんぶ食べないうちに、片付けられた。	muuru hwaa-N=keN=na katazuki-rari=duroo.
66	ヨモギ雑炊を食べなかった子供にはお菓子をあげない	hwutsI=nu paa zuusii=ju hwaa-N hwaa=he=ja kwaasI=I hjuu-nu.
67	おじいさんは夕ご飯を食べないで眠ろうとしていた。	hwusjumai=ja juNboN=ja hwaa-N kusa nuhwuN=di oor-iroo.
68	今日は肉を食べないから、買って来るな。	kjuu=ja niko=o hwaa-N=ba kai kI=na=joo.
69	昨日魚を食べなかったから、今日は食べよう。	kInoo izo=o hwaa-nar-eeri=kii kjuu=ja hwai=du sII.
70	食べないなら炊くな。	hwaa-N=tara bagasI=na.
71	もしおまえがご飯を食べないなら炊かないよ	musu waa NppoN hwaa-N=dara bagasa-N=doo.
72	お祝いのごちそうは、私が食べる前に無くなっていた。	joi=nu kokke=e baa hoo mai=na nee=na nari=du hwu-ta.
73	長女姉さんが東京から来る。花子が東京から来る。	hoNma=Ndu tokjoo=hara oot=too. / hanako=Ndu tookjoo=hara kIt=too.
74	花子はいつ来るの。明日、来るって。	hanako=ja hitsI*=tu k-jaa? ha*tsaa kIN=too.
75	花子の旦那さんも来るの？ うん、来るよ。	hanako=nu arootsI=N kI=tu sII? NN. kIN.
76	花子たちが来るから、孫も来るだろう。	hanako+daN {kIN=di=ba/ kI=tu sii=ba} maa=N ma(a)zoN kI=tu su=sa.
77	孫たちが来たら、いっしょに遊ぼう。	maa=nu mee=nu kI=tara maazoN ha*su*pa=Nba.
78	大阪の太郎は来ないだろう。来ないはず。	oosaka=nu taroo=ja kuu-nu=sa? kuu-nu patsI*=too.
79	なぜ来ないの。	noo=de kuN=ba.
80	忙しいから、来ないんだ。来たいけど来ないよ。	paNtas-aari=kii=du kuu-nu=too. ki-ccaa=suNga=du kuu-nu=too.
81	花子たちが来るなら、ご馳走をつくっておこう。	hanako+daN kI=tara kokkiN sikoori ciku=ba=du nas=sa.
82	次郎も来ないの？	ziroo=N maazoN kuu-nu?
83	うん、次郎は仕事があるから、来ない。	NN.ziroo=ja sigudu=nu ari=dari ki-rara-nu=too.
84	次郎が来ないから、花子も来ない。	ziroo=nu ku-uN=kii hanako=N kuu-nu=too.
85	花子たちは空港からバスで来るんだ。タクシーじゃない。	hanako+da=ja kuukoo=hara basu=si=du kIt=too.takusje=e ara-N=daraa.

86	花子たちが来ないうちに 家の中を片付けろ。	hanako+da(a) ku-uN=keN=naa jaa=nu naka=ju katazuki cikoo.
87	孫たちが来たから、一緒に遊んだ。	maa+nama=nu mee=nu {kI-taa=du / kI=tara} maazon ha*su*pi-ta.
88	花子たちは飛行機で来て、船で帰った。	hanako+da=ja hikooki=si kii=siti kaere=e hwuni=si=du pat-ta.
89	いどこにも来いっていったのに、来なかったのか？	hicihwu=N kuu=joo=di aN-daru munu noo=di {ku-N=ba / ku-N-ta=ra}.
90	いどこは来月 沖縄に来てから、仕事を探すそだよ。	hicihwu=ja raigetsu hwu*kInaa=he kii=tte=du sigudu=ba {tu*miruN=di aN-da=soo / tu*m-it=too}.
91	あさっては、家にいないから、来るな。	ha*sute=e jaa=na ura-naa=kii k ^s I=na=joo.
92	今日は来なくてもいいって言ったのに、どうして{来たのか/来られたのか}？	kjuu=ja {kuu-N=tuN / kuu-N=tiN} misjaaN=di aN-da munu noo=di {kI-ta=ra / ki-rari-da=ra}?
93	なぜ、来たの。なぜ、来られたの。	noo=di k ^s I-ta=ra? noo=di ki-rari-da=ra?
94	急ぎの用事があったから、来たんだよ。遊びに来たんじゃないよ。	hwutti=nu juuzju=nu ari=dari=du k ^s I-ta=dara. ha*su*pi=na ku-N-ta=dara.
95	昨日は来なかったんだろう？	k ^s Ino=o ku-N-ta=sa?
96	なぜ来なかったの？	noo=di k ^s I-N-ta=ra?
96	誰が来なかったの	taa=du k ^s I-N-ta=ra?
97	忙しかったし、頭も 痛かったから、来なかった。来られなかった。	paNtasaN ari tsupuru=N jam-iri=kii=du kuu-N-ta. ki-raru-N-ta.
98	しあさっては君も来るだろう？	juuka wa=N kIN=sa?
99	今年は サシバが{来なかったねえ / 舞わなかったねえ}。	kutusjE=E taka=N {kuu-N-ta / mau-N-ta}=sa.
100	何故、{来なかったのかなあ / 舞わなかったのかなあ}。	noo=di kutusjE=E taka=ja kuu-N-ta=gaja=djoo? mau-N-ta=gaja=djoo.
101	今年は台風が多かったから、来なかったんだよ。	kutusjE=E hwuu+kazi=nu hwuusa ari=dari=du kuu-N-ta patsI*=doo.
102	サシバ、来年は 来るかなあ。(独り言のように)	taka=ja eN dusjE=E kIN=gaja.
103	もうサシバは来ないかなあ。(独り言のように)	mee taka=a kuu-nu patsI*=too.
104	サシバ、去年は {来よかったよ / 来ていたはずだよ}。	kuzo=o taka=ja kii=du hwu-ta=dara. kii=du ur-eeru patsI*=too.
105	そうか。来よかったんだ。(私は見なかったけど)	assi. kii=du ur-eer-iN=ra? banoo=ja muu-N-ta=suNga.
106	そう。それは、いつ来たのかなあ。(独り言のように)	assi. ure=e hitsI*=tu kii hwu*-ta=gaja.

107	だったら、今年は、来なくても、来年はくるかもしれない。来るはず。	assi kutusE=E kuu-N-ta={deN/suNga} eN=ja kIN=ju ssI*sa-nu. kIN patsI*.
108	今年は来なかったのに来年は来るの？	kutusE=E kuu-N-ta=suNga noo=di eN=ja kjaa.
109	むかし、来なかった年もあったよ。	mukasE=E kuu-N tusI=N ha*-ta=too.
110	郵便屋はさっき来たよ。	juubiNhaidatsI=I sadagi kii hwu-ta=dara.
111	本当に郵便屋は来よったの？私は見えないけど。	hwuNtoo haidatsI=I kii=du hwu-ta? bano=o muu-N-ta=suNga.
112	郵便屋が来よったから、手紙があるんだよ。	haidatsI=nu kii ur-eeri=kii=du tigame=e as=sa.
113	誰も来ないのに店を開けているの。	taroo=N kuu-N munuu matsIja=ba ha*ki cik-eerja.
114	客が来るなら店を開ける。	pitu=N kI=tara matsIja=ja ha*kiruN.
115	もし客が来ないなら店を閉めよう。	musuka pitu=nu kuu-N=dara matsIja=ja hwuzi cikoo.
116	夕方には客が来るだろう／来るはず。	juneN {cike=e / cikeN=ja} pitu=ju kuN=ju ssI*sa-nu.
117	今から来る人にはサービス(おまけを)しよう。	meema=hara kII pitu=he=ja suibuN si oosjoo.
118	何人、来よったの？	ihwu+taarI kii hwu-ta=ra.
119	私が言った通り、来よただろう？	baa aN-da tuurI kii hwu-ta=sa.
120	うん、私が言った通り、昨日、来た人が今日も来よただろう？	NN.baa aN-da tuurI k*Inu kii hwu-ta pitu=Ndu kjuu=N kii hwu-ta=sa?
121	夜になって誰も来なかったから、閉めた。	juN nari=siti tarooN kuu-N-taa=du hwutsI*-ta.
122	以前からサービス(おまけ)をしていれば、客はもっと来よただろう	maimai=hara suibuN=ju si ur-eeri=ba pito=o takaani kI-ta ara-nu=gaja.
123	サービス(おまけ)していたら、来よったのかな。	suibuN si ur-eet-taru meeheN {kI-ta / kii hwu-ta} aranu=gaja.
124	うん、もう少しは客が来ただろう。	NN. mee+NmeeN kI-ta ara-nu=gaja.
125	客が来ない店はつぶれる。もう少し人が来たらつぶれなかったよ。	pitu=nu kuu-N matsI*ja=ja tsIburi=du sII. mee+imeeN pitu=nu k-ee=tara tsIbura-N-ta=ju.
126	あの子は学校に来ないで、家で休んでいる。	ka*n*u hwaa=ja gakkoo=hee=ja kuu-N=ti jaa=naa=du ha*sipi uroo.
127	学校に来ながら、友だちの家に行ってみた。	ha*ttsa gakkoo=he kI*N=taani(=na) dusI=nu jaa=he juri miiri.
128	友だちを連れて学校に來い。	dusI=ju saari=diri gakkoo=he kuu=joo.

129	島に来なければ、島のいいところはわからない。	sIma=he ku-N=dara sIma=nu ii dukuN=ja wakara-noo.
130	船が来るまで港で待とう。	hwuni =nu k ^s II=madi {hwu*na*tsIkI / hwanacikee}=na matsaa.
131	もしバスが来なかったらタクシーに乗ろう。	musuka basu=nu kuu-N=dara takusii=na nuri pa*ra.
132	せっかく島に来たのに雨ばかり降っていた。	wazawaza sIma=he kI-ta munu aami=taNga {hwui / hwui hwu-ta=sa}.
133	来年も二人で一緒に来よう。	eN hwutaarI=si maazoN koo.
134	私たちが来れば、太郎も来るって言っていたよ。	paa kI=tara taroo=N kIN=di ani hwu-ta.
135	来年来れなくても、再来年はみんなで来よう。	eN ki-rara-N=dara miite=e keera=si paraa.
136	魚をたくさん釣って楽しかったから、来年も来よう。	izu=N takaani hoosi umusat-tari=kii eN mata koo.
137	あいつは友達が家に来てても、お茶も出さない。	ure=e dusI=nu mee=nu jaa=he kuu=baN caa=NtsaN Ndasanoo.
138	友だちが来るのにまだごはんは出来ていないの。	kure=e dusI=nu mee=nu kI*sI* munu meeda NppoN=ja bagasa-noo.
139	だから、今までだれも来なかったかもしれない。	jari=kii=du meema=madee taroo=N kuu-N-ta=raa=ree.
140	おまえ昨日も来ただろう？ うん、来たよ。	wa=ja k ^s Inu=N kI-ta ara-N=ba? NN.kii hwu-ta.
141	明日は来ないんだろう？ うん、畑に行くから来ない。	ha*ttsa kuu-nu=sa. NN. patagi=hee pari=kii kuu-noo.
142	子どもが来ない前に お菓子を用意しておこう。(来る前に)	haanama=nu mee=nu kuu-N mai=na kwaasI zjuNbi si cikoo. (k ^s II mai=na)
143	今日は何を煮るの？	kjuu=ja noo=du bagasja ?
144	今日は、昨日掘ったサツマイモを煮る。	kjuu=ja kInoo puri k-eeru ha*kkoN=du bagasI.
145	この鍋で煮るの？	kunu nabi=si=du bagasI ?
146	ううん、小さいからその鍋では煮ない。	aai. kunu nabe=e gumasaari=kii kuri sje=e bagasa-nu.
147	どうやってたくさんのサツマイモを煮るのかなあ。(独り言のように)	noo=si=du oobunaa=nu ha*kkoN=ju bagasI=gaja.
148	今日はかぼちゃを煮ないの？	kjuu=ja kabuca=a bagasa-nu ?
149	昨日煮たから、今日は煮ないんだ。	kInoo bagasj-eeri=kii kjuu=ja bagasa-nu.
150	冷蔵庫に豚肉があるのに 何故煮ないの？	reezooko=na oo+niku=nu aru munu noo=di bagasa-N=ba ?

151	きのうも豚肉だったから、今日は豚肉は煮ないんだろう？	kI*nuu=N oo+niku=du {ar-eeri=kii / jar-eeri=kii} kjuu=ja oo+niko=o bagasa-nu=sa.
152	大根も一緒に入れて煮ないかなあ。 (独り言のように)	daiguN maazoN iri=siti bagasu=soo masI ara-nu ?
153	ゴボウは煮ないだろう。煮ないはず。 (嫌いだから)	guNboo=ja massaa neeN=kii bagasa-nu=sa./bagasa-N patsI*.
154	そうか、好きじゃないから、ゴボウは煮ないんだ。	assi. massaa neeN=kii guNboo=ja bagasa-nu.
155	今日煮ない豚肉は冷蔵庫に入れておけ。	kjuu bagasa-N(-ta) oo+niko=o=(ja) reezooko=na iri cikiree.
156	今日の里芋は誰が煮たの？	kjuu=nu mutsI*=ja taa=du bagasI-ta=ra ?
157	その里芋は私ではなく母さんが煮たんだ。	kjuu=nu mutsI*=ja bano=o bagasa-nu. bunee=du bagasj-oo-ta.
158	母さんが煮たんだろう？	bunee=Ndu bagasj-oos=sa ?
159	母さんが煮た里芋、おいしかったねえ。	bunee=nu bagasj-oot-ta mutsI*=ja massat-ta=soo=raa.
160	豚肉が冷蔵庫にあるけど、何故豚肉を煮なかったの？	reezooko=na oo+niku=nu aru munu noo=di bagasa- N-ta=ra ?
161	鶏肉が食べたかったから、鶏肉を煮た。	turI+niku hwai-cat-ta=du turI+niku bagasI-ta.
162	鶏肉は煮たけど、豚肉は煮なかった。	turI+niko=o bagasi-ta=suNga oo+niko=o bagasa-N-ta.
163	昨日も豚肉を煮たから、今日は煮なかったんだろう？	kInuu=N oo+niku {bagasI-ta=suNga/ bagasj-eeru munoo} kjuu=ja bagasa-N-ta=saa ?
164	一昨日も豚肉だったから、昨日は煮なかったんだよ。	bududui=N oo+niku=du jar-eeri={kii/munu} kIno=o bagasa-N-ta=doo.
165	もしおばあさんが煮ないなら誰が煮るの？	musuka NNmee=nu bagasj-oor-N=dara taa=du bagasja.
166	長女姉さんが煮るだろう／煮るはず。	hoNma=nu bagasj-ooruN=sa.
167	お前も時々煮るだろう？	waa=N basju*basjo=o bagasi uN=sa?
168	何故、豚肉は煮なかったのかなあ。 (独り言のように)	noo=di oo+niko=o bagasa-N-ta=gaja.
169	誰がカボチャを煮たのかなあ。(おいしいなあ。独り言のように)	taa=du kabuca=ba bagasI-ta=gaja.
170	そのカボチャは母さんが煮ただろう／煮たはず。	unu kabuca=ja bunee=Ndu bagasj-oor-eru patsI*.
171	長女姉さんは煮なかっただろう／煮なかったはず。	hoNma=ja bagasj-oor-N-ta patsI*.
172	母さんが煮るカボチャは甘くておいしい。	bunee=nu bagasj-ooru kabuca=ja atsIma atsIma=si massaN.

173	母さんが煮れば、みんな残さず食べる。	bunee=nu makasj-oor-eri=kii nukusa-N kusa=a muuru hooN.
174	鍋にあったトウガンは誰が煮よったの？	nabi=na ha*-ta suburu=ja taa=du bagasI-ta=ra?
175	さっき台所にいた長女姉さんが煮よっただろう。煮よったはずよ。	sadagi toora=na hu*-ta hoNma=Ndu bagasj-oot-ta=sa.
176	サトイモを煮ろっていったのに、煮なかったのか？	mutsI=ju bagasi=di aN=daru munu noo=di bagasa-N-ta=ra?
177	兄さんが煮よったから、私は煮なかった。	hicca=Ndu bagasi oori hwu=taraa bana=a bagasa-N-ta.
178	兄さんが煮よったの？本当なの？	hicca=Ndu bagasj-oot-ta? huNto?
179	兄さんは食べきれないくらい煮よった。	baa mii-da basjoo niinii=Ndu hwaa-ra-nu siko bagasi hwu-ta.
180	何故あんなにたくさん煮よったのかな。	noo=di assi oobuna {bagasI-ta / bagasi hu*-ta}=gaja.
181	{里芋を煮ながら / 物を煮ながら} テレビを見るな。	{mutsI=ju bagasi=diree / munu=ju bagasuN=taani} terebe=e mii=na.
182	ぜんぶ煮ないうちに火が消えた。	muuru bagasa-N=keN=na pI*sI*=Ndu kii-da.
183	ゴボウは煮るなっていったのに、煮たのか？	guNboo=ja bagasI=na=di {ani=ba / aN-da=suNga} bagasI=du sI-ta?
184	誰も煮ないのに魚を買ってきた。	taroo=N bagasa-N munu izu=ba kai kI-ta=ra.
185	魚を煮ないで、何を煮るの。	izo=o bagasa-N=ti noo=du bagasja.
186	少ししか煮なかったのに柔らかくなっている。	imee=Ndu bagasI-ta(ru) munu hwukurasa {bagar-iroo / bagari uroo}.
187	タコは煮る前に 塩で揉んでから煮ると柔らかくなる。	ta*ko=o bagasu mai=na maasu=si mumi=siti bagasI=tara hwukurasa naruN.
188	魚を煮るなら、もう少し大きい鍋を使え。	izu=ju bagasI=tara {imeeN / mee+imeN} maisjaru nabi=ju tsukai.
189	母さんもそうやって煮よっただろう？見ただろ？	bunee=N ai=du bagasi oori-ta=sa? mii-da=sa?
190	今日は豚肉は煮ないから、買って来るな。	kjuu=ja oo+niko=o bagasa-N=kii kai kI=na=joo.
191	昨日は、煮なかったから、今日煮よう。	kIno=o bagasa-N-ta=kii kjuu=ja bagasIN.
192	大根は、肉も入れて煮なければ、美味しくない。	daiguN=ja niku iri=ti bagasa=ba=du massaru.
193	おばあさんが煮なかったら、誰も煮ないだろう。	NNmee=nu bagasj-oor-N=dara taroo=N bagasa-nu.
194	おばあさんが煮ないなら、私たち二人で一緒に 煮よう。	NNmee=nu bagasj-oor-N=dara baNdaa hwutaarI=si mazoN bagasIN.

195	今日はおまえが煮ろ。	kjuu=ja waa bagasja.
196	お前が煮ないなら、俺が煮よう。	waa bagasa-N=dara baa bagasIN.
197	これは私が煮る。煮よう。	ku*re=e baa {bagasaa / bagasIN}.
198	特別に（せっかく）、私がサトイモを煮たのに誰も食べなかった。	kuttini baa mutsI=ju bagasj-eeru munu taroo=N hwaa-nu.
199	魚ぐらいたまには自分で煮てみる。魚さえも炊けないのか。	izu hatarI=ja duu=si bagasi miri. izu=NtsaN bagasi busaa neenoo?
200	魚を全部煮るまで待ってくれ。	izu=ju muuru bagasu=madi maci hiiree.
201	全部煮なくても家族の分はあるよ。	muuru bagasa-N-ta=deN jaa niNzju=nu muN=ja ari=du uroo.
202	魚を煮るなら、塩を少し入れろ。	izu=ju {bagasu basjoo / bagasI=tara} maasu=ju imeN iriree.
204	自分で大根を煮てから、味噌汁も作った。	daiguni=ju bagasi=ti=du misju+zIro=o bagasI-ta.
204	父さんは自分で魚を煮て酢の物を作った。	baNda accaa=Ndu duu=nu duu=si izu=ju bagasi suuna munu(=ju) tsukur-oot-ta.
205	明日はゴボウを煮るから、買って来い。	ha*ttsa=a guNboo=ju bagasi=kii kai kuu=joo.
206	肉とゴボウを煮たら、アクがたくさん出る。	niku=tu guNboo=ju bagasI=tara ha*ku=Ndu takaani {Ndee / Ndi} =sa.
207	弟が魚を煮ても、だれも食べない。	hwutudu=nu izu bagasu munoo taroo=N hwaa-nu=sa.
208	その魚は腐っているから煮るな。	kunu izo=o {hwusari=du uri=kii / hwusar-iri=kii} bagasI=na.
209	大根はよく煮るのに、冬瓜はあまり煮ない。	daiguN=ja juu bagasa-ri=suNga suburo=o bagasa-ru-nu.
210	これは全部母さんがこそ煮よったんだ。	kure=e muuru bunee=Ndu bagasj-oot-ta.
211	トウガンはおばあさんがこそ煮るんだ。ほかの人は煮ない。	suburo=o NNmee=Ndu bagasj-ooru. huka=nu pitu=ja bagasa-ru-noo.
212	雑炊を煮なかった日は、ご飯を炊いた。	sIru+zusii bagasa-N(-ta) pIN=ja koo+NpoN=du bagasI.

1	どこでもハーリーでは男が舟を漕ぐ。	duma=na=N paarii=naa=ja bigiduN=du hwu*n*ee kugI.
2	若いときはみんなで舟を漕いだ。	bagasaN=keN=ja keera=si=du hwu*n*ee {kugI-ta / kuki*-ta}.
3	今でも女は舟を漕がない。	meema=N midduN=ja hwu*n*ee kuga-noo.
4	今日は手が痛いので、舟を漕げない。	kjuu=ja tii=nu jami uri=dari hwu*n*ee kuga-ru-noo.
5	病気が治ったから、舟も漕げる。	jaN=nu {noot=tara / noori uri=dari} hwu*n*e=N kuga-ri-ruN.
6	明日も海へ行く。私は四箇へ行く。	ha*ttsa=N inaa=he paruN. bana=a silka=he=du parI.
7	父は天気が悪いときは海へは行かない。	bigee=ja ootsIkI barasaru basjoo ina=he=ja oora-noo. (非敬語形はpa*ra-noo / para-noo.)
8	昼間仕事をして、夜遊びに行った。	pirooma sigudu=ju sii=siti juNneN=ja ha*su*pi=naa=du parI*.
9	今日は、叔父が家に来る。いとこが家に来る。	kjuu=ja buzasa=Ndu jaa=hee oorI. hicihwu=Ndu jaa=hee k*EE.
10	叔母は来ない。いとこは来ない。	bubama=ja oora-noo. hicihwu=ja kuu-nu.
11	祖父は叔父に電話をして来いと言った。祖父はいとこを来させた。	aza=ja buzasa=he deNwa sii=siti hicihwu=ju kuu=di ani oor-iru. aza=ja hicihwu=ju kI*-masI*-ta=doo.
12	孫も来たがっていたので、来させた。	maa=N {pat-tsa / kit-tsa}=di ani hwu=tara kI*-masi*-ta=doo.
13	叔父もいともバスから来た。	buzasa=N hicihwu=N basu={hara / si}=du k*I*-ta.
14	ここはリーフの境だから、子どもは来られないよ。来るな。	ku*m*a=a jatu jari=kii hanama=a ki-rara-N=doo. k*I=na.
15	5月はよく雨降るねえ。	guNgatsI=ja juu aami=nu hoo=soo=ra.
16	12月は雨降らないよ。	{zjuunigatsI=ja / zjuunigatsE=E} aame=e dugu hoo-N=soo=raa.
17	昨日も大雨が降った。	k*Inuu=N {hwuu / uhwu} aami=nu hoo-da=soo=raa.
18	あ、雨 降ってきた。	uri uri, abee, aami=nu hwui k*IN=doo.
19	大雨が降ったので、橋が流された。	hwuu aami=nu {hwui / hwui kii}=du pa*sI=I nagasa-ri-da.

20	太郎は毎日学校の前でバスから降りる。	taroo=ja mainItsl gakkoo=nu mai=na basu=hara uriruN.
21	友人がさきにバスを降りた。	dusl=Ndu paisja basu={hara / ra} uri-da.
22	このバス停では誰も降りない。	ku*n*u basutee=na=ja taroo=N uru-nu.
23	木の実は熟したら、自ら落ちる。	kii=nu narl=ja uN=dara duu=si=du {hwuti / hwutiruN}.
24	青い実は木を揺らしても、落ちない。	au narl=ja kii ugasa-baN {hwutu-nu / hwutu-noo}.
25	木を揺らしたから、落ちた。	kii=ju {bugas-eeru / bugas-eeri}=kii=du hwuti-da.
26	オスの馬もメスの馬も人を蹴る。	bigi Nma=N mii Nma=N pitu=ju ki*ruN.
27	おとなしい馬は人を蹴らない。	hwutunasaaru Nma=a pitoo ki*ra-nu.
28	あのおとなしかった馬が人を蹴った。	ka*nu hwutunasat-ta Nma=Ndu pitu=ba ki*t-ta.
29	父は去年買ったものでも捨てる。	baNdaa bigee=ja kuttsu ka-eeru munu jara=baN si*t-ooruN.
30	まだ使えるのにラジオを捨てた。	kunu razio=ja {meeheN / meesiN} {tsukaa-riN / tsuka-riru} munu=ba si*ti-da.
31	祖母はどんなに古くても、捨てない。	baNdaa NNmee=ja noo=si hwurusaa ara=baN si*t-ooru-nu.
32	父は壊れたラジオを弟に捨てさせた。	baNdaa bigee=ja jaburi razio=ba hwu*tudu=hee siti-simi-da.
33	誰にも聞かないで、捨ててしまった。	taroo=he=N slka-N=kusa siti neenu.
34	枯れた木をノコギリで切る。	ka*ri juda=ba nu(h)kkIrl=si ki*sIN.
35	きのう枯れた木の枝を切った。	k*I*n*u ka*ri juda=ba ki*sI-ta.
36	おじさんが一緒に切ってくれた。	buzasa=Ndu mazoN kisi {hj-oo-ta / h-oo-ta}.
37	誰もこわくて、ガジュマルを切らない。	taroo=N hakosa=nu {gatsupanee / gatsuparee}=ja ki*sa-nu.
38	穴はスコップで掘る。	aboo=ja {sukoppu=si pu*ruN / sukoppu=si=du pu*ru}.
39	お父さんは掘るけど、お母さんは掘らない。	bigee=ja aboo puro=ssuNga bunee=ja aboo {pur-roora-nu / pur-roora-noo}.

40	二人でとても深い穴を掘った。	hwutaarI=si(=du) hwu*kasaaru abu=ba {put-ta / pur-oot-ta}.
41	お父さんに頼んで兄さんにも掘らさせた。	bigee=he tami=siti hicca=he=N pu*ra-si-ta.
42	木の実が熟したのに、祖父は自分では落とせない。あなたは落としきれない。私は落としきれない。	kii=nu narI=ja umi=du hwu=suNga hwusjumai=ja {duu=sje=e /duu=nu duu=sje=e } hwutusu busa ar-oora-nu. waa=ja hwutusu basan-oo. banaa=ja hwutusu busa neen-oo.
43	祖父が父に言いつけて兄に鞠を落とさせた。	hwusjumai=ja bigee=he ani hicca=he maarI=ba hwutusu-m-oot-ta.
44	父が兄に棒で木の実を落とさせた。	bigee=Ndu hicca=he boo=si(=ni) kii=nu narI=ju hwu*tusu-m-oot-ta.
45	兄が熟んだ木の実を全部落とさせた。	hizja=Ndu um-iru kii=nu narI=ba muuru hwu*tusI-ta. hwutusi-mi-da.
46	掃除の時には荷物を外に出す。	sootsI=nu basjoo niim*u*tsI=ba puka=hee NdasIN.
47	弟も台所にあった荷物を外に出した。	hwutudu=N toora=na ha*-ta niim*u*tsI=ba puka=hee NdasI-ta.
48	祖母が母に言いつけてホースで水を流させた。	NNmee=Ndu bunee=he ani hoosu=si mitsI*={ ju / ba } nagasu*-m-oot-ta. (非敬語形はnagasi-mi-da)
49	母が花子にホースで水を流させた。	bunee=Ndu hanako=hee hoosu=si mitsI*=ju nagasu*-m-oot-ta.
50	父が長男に言いつけて祖父を起こさせた。	bigee=Ndu tsakusI*=he ani, hwusjumai=ju hwukusu*-m-oot-ta.
51	父が長男に寝ている祖父を起こさせた。	bigee=Ndu tsakusI*=he nuhwi oor-iru hwusjumai=ja hwukusu*-m-oot-ta.
52	兄が寝ていた祖父を起こした。	hicca=Ndu {nuhw-oor-iru / nuhwi oor-iru} hwusjumai=ju hwukusj-oot-ta.
53	弟は左利きだけど右手でお箸を持つ。	hwutudu=ja pIdarI+kIkI=du ja=suNga nIrl tii=sii=du pasI=I mutsI.
54	汁鍋はこぼれやすいから、片手では持つな。(飲みやすいから上等。)	sIru nabe=e kurubi-caari=kii kata tii=sje=e mutsI=na. {nuN-canisjaari=kii zjootoo / nuN-caari=kii zjootoo}.
55	おにぎりの入った重箱はお母さんが持った。	mai=nu NboN=nu ir-iru zubako=o bunee=Ndu muc-oot-ta.
56	おばあさんにはお茶を(持ってもらった/持ってくれた)。	NNmee=Ndu caa=ja {muc-oot-ta / mucI hj-oot-ta}.
57	おじいさんにはムシロを持たせる。私はおじいさんに筵を持たせた。	hwusjumai=ja mussu=du mucI hj-oot-ta. / baa=du hwusjumai=he musso=o mutsasI-ta.
58	重いけどもって持てる?	jussa=suNga meesiN mutsa-riN?

59	あと一つだったら持てる。	mee pititsI ha*=tara mutsa-riN.
60	いつも豚肉はお父さんが買う。／私が買う。	hitsI=N oo=nu ni*ko=o bigee=Ndu kai ooru. /baa kauN.
61	(父は)他には何も買わない。／弟は絶対買わない。	uN huka=a noo=N kai oora-nu. /hwutudo=o zettai kaa-noo.
62	弟は昨日は野菜を買った。	hwutudo=o k ^s Ino=o jassai=ba kau-da.
63	明後日が給料日だから、明日は(買わない／買えない)。	ha*sutii=du kjuurjoobi jari=kii ha*ttsa {kaa-nu / kaa-ra-nu}.
64	明後日だったら欲しいものが買える。	ha*sutii ha*=tara pussa aru munu=N kaa-riruN.
65	お父さんは取ってきた魚を売る。	bigee=ja tu*ri k-eeru izu=ju {kaasIN / kaasj-ooruN}.
66	きょうは魚が少ないから、売らない。	kjuu=ja izu=nu sigasa ari=kii kaasa-nu.
67	昨日は私が取ったイカとタコを 売った。	k ^s Ino=o baa turi k-eeru hika=ttu taku=ju kaasI-ta.
68	その魚を安く売ってください。	unu izo=o jaasa=si kaasi hiiri.
69	いつもおばあちゃんは私にお金をくれる。／いつも友達は私にくれる	hitsI=N NNmee=ja banu=hee ziN=ju hj-ooruN. / hitsI=N dusE=E banu=hee hiiruN.
70	今日は弟にも1000円くれた。	kjuu=ja hwutudu=he=N sjeNeN hii-da.
71	友達の太郎は私に何もくれない。	dusI=nu taroo=ja bano=hee noo=N hjuu-nu.
72	いつも漁師から魚をもらう。	hitsI=N sicimaN=hara izu=ju iiruN.
73	小さいカニは誰ももらわない。	gumasaru kaN=ja taroo=N {ijuu-nu / iju-nu}.
74	隣の家から大根ももらった。	tu*n*arI=nu jaa=hara daiguN ii-da.
75	モズクをたくさんもらったからみんなに分けてあげた。	su*nooru=ba takaani ii-eeri=kii keera=he {bagi oosi-da / bagi hii-da}.
76	喉が乾いたら水を飲む。	nudu=nu kaarak ^s I=tara mitsI*=ju numuN.
77	私の夫は酒を飲まない。	baa arootsI*=ja gusje=e numa-noo.
78	叔父さんは病気だから、酒が飲みたくても飲めない。	buzasa=ja oomasa ar-oori=dari gusje=e nuN-tsaar-oori-baN {numa-ra-nu / numa-r-oori-noo}.

79	ここの井戸水は飲める。	ku*m*a=nu kaa=nu {mitsI* / mitsE=E} {numa-riN / numa-riruN}.
80	お母さんが入れたお茶をたくさん飲んだ。	bunee=nu uja=nu ir-oor-eeru caa=ja takaani {numa-ri-da / nuN-da}.
81	車乗ると思うなら飲むな。酒飲もうと思うなら乗るな。	kuruma nuruN=di umoo=dara nuN=na. saki numuN=di umoo=dara nuN=na.
82	お母さんは赤ちゃんにおっぱいを飲ませてあげた。	bunee=nu uja=ja hwaa=he tsII(=ju) {numa-sj-oot-ta / suma-sI-ta <自分の子の場合>}.
83	山羊もウシも草を食う。	pipizja=N hwu*sI=N hwu*sa=du hwoo.
84	山羊は濡れた草は食わない。	pipizja=ja zohwiru hwu*sa=a hwaa-nu.
85	家で飼っている猫が魚を食った。	jaa=na tsukai uru majaa=Ndu izu=ba hoo-da.
86	父が取った魚を猫に食われた。	bigee=nu tur-oot-ta izu=ba majaa=he hwaa-ri-da.
87	毎日暗くなるまで、外で遊ぶ。	mainItsI hwu*hwasa naru=madi=N puka=na ha*sU*puN.
88	暗くなったら、誰も遊ばない。	hwu*hwasa nat=tara taroo=N ha*sU*pa-nu.
89	昨日はいいこと、かくれんぼをして遊んだ。	k'Ino hicihwu=tu peemarugoNkiN=si ha*sU*pi-ta.
90	弟は酒を飲むと、すぐに酔う。	hwutudo=o gusi=ju nuN=dara sugu bii=du sI.
91	昨日も酒を飲んだので、酔った。	k'Inu=N gusi=ba num-eN=keN=du bii-da.
92	兄はどんなに飲んでも酔わない。	hicca=ja noo=si numa=baN buu-noo.
93	彼は酔って、寝ている。	kuree bii=tari nuuhwi=du uroo.
94	少ししか飲んでいないのに、酔ってしまった。	{imeN / koppema}=du nuN-da=suNga bii=du uroo.
95	汚れた皿とお椀はお父さんが洗う。弟が洗う。	juguriru makkarI sara=a bigee=Ndu aarai oor. hwutudu=Ndu aaroo.
96	私は兄さんに鍋を洗ってもらった。	hicca=Ndu nabee aarai {h-oot-ta / hj-oot-ta}.
97	兄さんが私の代わりに洗ってくれた。	hicca=Ndu baa kaara aarai h-oot-ta.
98	お母さんは料理を作るから、洗わない。妹は料理を作るから洗わない。	bunee=ja katimunu=du tsukuri oor-iri=kii aarai oora-nu. bunarI=ja katimunu=ju tsukuri uri=kii aara-nu.

99	暑いときは帽子をかぶる。	ha*ttsaru basjoo boosi=du kahwu*. かぶる {kauN / kahwuN}.
100	今は誰もくば笠をかぶらない。	meema taroo=N kwaasa kawa-noo.
101	昔はみんなくば笠をかぶった。	mukasE=E keera kwaasa=du kahwu*-ta.
102	いとこたちには帽子をかぶらせた。	hicihwu=nu mee=he=ja boosi=du kawa-sl*-ta.
103	私は毎年孫たちにお年玉を上げる。	bana=a maitu*sI* maa+nama=he otosidama=ju hii uN.
104	去年はみんなに千円ずつ上げた。	kuzo=o muuru=he sjeNeN=na hii-da.
105	来年は二千元ずつ上げよう。	eN=ja nisjeNeN=na {hii=du sl*=ti umu-iru / hjoo}.
106	お菓子も買ってあげよう。	kwaasI=N kai hjoo.
107	祖父は毎日6時に起きる。太郎は毎日6時に起きる。	azaa=ja mainItsI rukuzi=na hwuk-ooruN. taroo=ja mainItsI rukuzi=na hwukiruN.
108	昨日は9時に寝て、8時に起きた。	k*Ino=o kuzi=na {nuhwi=siti / nuhwi=ti } hacizi=naa hwu*ki-da.
109	5時には誰も起きない。	gozi=naa=ja taroo=N hwuku-noo.
110	高校生は制服を着る	gakkoo siitu=nu mee=ja gakkoo hwuku=ba kii uN.
111	その服は古いから誰も着ない。	unu joohwuko=o hwurusaari=kii taroo=N kuu-nu.
112	昔は自分で織った芭蕉布を着た。自分で織った着物を着た(非敬語形)	mukasE=E duu=nu duu=si ur-ot-ta basoo kIN=du kij-oot-ta. duu=nu duu=si ur-eeru kIN=du kii-da.
113	その子は二歳になったから自分で服を着ることができる／着れる	ku*n*u hwaa=ja hwutaatsI*=he nat=tara duu=nu duu=si hwuko=o ki-rariruN.
114	ざぶとんにはいところが座る。	iNca=naa=ja hicihwu=Ndu {bi-iroo / bii uroo}.
115	床にはだれも座らない。私は床には座らない。	hwuNda=na=ja taroo=N bii ura-noo. {bano=o / bana=a} hwuNda=naa=ja buu-no.
116	私たちはここに座るから、きみたちは向こうに座れ。	baNda=ja kunaa bii ura=ba pi*sa=a kanaa biiree.
117	きみもざぶとんに座ってください。	wa=N iNca=na bii hj-ooree.
118	祖父は毎日海を見る。弟は毎日海を見る。	hwusjumai=ja mainItsI inaa=du mij-ooru. hwutudo=o mainItsI inaa=du mii.

119	最近クジラを見ない。	cikaguro=o pittu=ja mi-raru-noo.
120	昨日クジラを見た。	k*Ino=o pittu=ju {mii-da / mi-rari-da}.
121	お前も見たかったら見ろといって、孫に見させた。	wa=N mic-caa=tara miiri=di maa=hee mi-si-da.
122	「ありがとう」には方言で「プコーラサ」と言う。	arigatoo=ja sIma muni=si pukoorasa=di=du aN.
123	兄は何も言わない。	hicca=a noo=diN ana-noo.
124	お母さんは弟に「あやまれ」と言った。私が言った。	bunee=ja hwutudu=he kutubagi si=di an-oot-ta. baa=du aN-da.
125	兄は弟に「いたずらするな」と言って、しかった。	hicca=a hwutudu=he gaNmari su*=na=di ani sicik-oot-ta.
126	弟は兄に「ばか」と言ってしまった。口恥もなくて言ってしまった。	hwutudo=o hicca=he puri munu=di aN-da=too. hwutsI patsI*=nu neeN=kusa ani ur-iN=ja.
127	蟬はすぐに死ぬ。	sjoNsjoN=ja sugu sIN=du sII.
128	人に「死ぬ」って言ってはいけない。	pitu=he {sI*nec / sI*nii}=di ane=e hika-nu.
129	ゴキブリはすぐには死なない。	ku*m*usE=E sugu=ja sI*n*a-nu.
130	去年はひでりでカエルがたくさん死んだ。	kuzo=o pizIrI=ba si auda=Ndu takaani sIN-da.
131	あまり暑くて、家のネコも死んでしまった。	amanu ha*ttsa=Ndu jaa=nu maja=N sI*ni neenu.
132	この村には港がある。	ku*nu mura=na=ja {hwunatsIke / hwunaciki}=N aN.
133	昔島には製糖工場があった。	mukasE=E sIma=na=ja siitoo+jaa=N ha*-ta.
134	製糖工場のあったところに学校を建てた。	siitoo+jaa=nu ha*-ta duguN=na gakkoo=ju tati-da.
135	お金があればなんでも買える。	ziN=nu ha*=tara noo ara=baN kaa-riruN.
136	今日はお金が無いから買いたくても買えない。	kjuu=ja ziN=nu neena ari=kii kai-caa ara=baN kaa-ra-nu.
137	人の命は金では買えない。	pitu=nu {nutsE=E / nutsI=I} ziN=sje=e kaa-ru-nu.
138	有っても喜ぶな。	ara=baN jurukupI=na.

139	無くても泣くな。	neena ara=baN nakI*=na.
140	人間の良し悪しは後でこそ分かる。	pitu=nu ii kutu jana kuto=o ha*tu=du wakarū.
141	塩がない。	maasu=Ndu neN.
142	かまどの上にあったよ	kamadu=nu ui=na ha*-ta=soo.
143	砂糖もなかった。	sa*taa=N neena-ta.
144	無ければわたしが買ってこよう。おまえが買ってこい。	neeN=dara baa kai koo. waa kai koo.
145	座敷には人がたくさんいる。	zasIkI=naa=ja pitu=Ndu takaani {oori uroo / uroo<同級生だけの場合>}
146	あなたはしばらく台所にいてください。	wa=jaa hatatsInamaa toora=na {oori uree / oor-iree}.
147	さっきまで座敷に客がいた。	{meema+sIkI / meema sakI}=madi zasIkI=na pitu=Ndu hwu-ta.
148	座敷にいた人たちがみんな帰った。	zasIkI=na hwu-ta pitu=nu mee=ja muuru {pari-ta / pat-ta / pari-si-ta}.
149	みんなかえって今はだれもいない。	muuru {pari=ti / pari=siti} meema taroo=N ura-nu.
150	若いころは那覇まで歩いた人がいた。	bagasaN=keN=ja sIkI=madi araki paru pitu=N hwu-ta.
151	兄はお父さんに言われたら、何でもする。	hizja=ja bigee=he ana-ri=daraa {noo ara-baN / noo-ri=baN} suN.
152	兄は言われなければ、何もしない。	hizja=ja {ana-ru-N / an-oorā-N}=dara {noo=N / noo-ra=baN} {saa-nu / sa-nu}.
153	兄はしなさいと言われたから、畑仕事をした。	hizja=ja patagi sigudu=ju sii=di an-ot-taa=du sI-ta.
154	お父さんは兄に畑仕事をさせた	bigee=ja hwaa=he patagi sigudu=ju su*m*i-da.
155	休んでないで仕事をしろ。	jukui ura-N=ku*sa sigudu=ju sii.
156	木の葉が詰まって溝の水が流れない。	kii=nu paa=nu tsumari=siti mizju=nu mitsI*=I* nagaru-nu.
157	お母さんが兄さんに木の葉を取らせて水を流れさせた。	bunee=Ndu hwaa=he kii=nu paa=ju turasi mitsI*=ju nagasu*-m*-oot-ta . nagasu*-mi-da<非敬語形>.
158	兄さんは木の葉を取って水を流れさせた。	hicca=ja kii=nu paa=ba turi=siti mitsI*=ju nagasj-oot-ta. nagasu*-mi-da<非敬語形>.

159	ようやく(やっと)水が流れた。	jattu=nu kutu=si mitsI*=I* nagari-da.
160	この井戸水は飲めない。	kunu kaa=nu mitsI*=I* numa-ru-nu.
161	誰でもこんなにたくさんの水は飲みたくない。飲みきれない	taroo=N koobuna=nu mitsI*=I* nuN busaa neenu. numa-ru-nu.
162	あく抜きした蘇鉄は食べられる。	{haku / aku} nug-eeru hititsI=ja {hwaa-riruN / hwaa-riN}. / aku nukI sj-eeru hititsI=ja hwaa-riruN.
163	腐った肉は食べられない。	hwusari niko=o hwaa-ru-nu.
164	ソーキ汁まだ残っているけど食べれる？	sooki sIrI=nu nukuri=suNga hwaa-riruN?
165	腹いっぱいだからもうこれ以上は食べきれない。	bada Nci kuri izjoo=ja hwaa-ru-nu.
166	溢れるくらいお茶を注いでくれ。	{ahwuri / ahwi} sikoo caa=ju tsuni hiiree.
167	湯が沸くまで待てない。	juu=nu bakI*=madi {maci ura-ra-nu / maci ura-ru-nu/ matsa-ru-nu / mace=e ura-ra-nu}.
168	子どもだから、見せたくなかったけど、見るといって聞かなかったから、見せさせた。	hanama jari=kii misi-cca neeN=suNga=du miiruN=di suka-N-taa=du misi-da.
169	三線を弾いて客に聞かせる。	saNsiN=ju plkii dusI=nu mee=he sikasi-ta.
170	祖母は自分で着せたかったけど、仕方なく孫に服を着せさせた。	NNmee=ja duu=si=du kImic-caroo=suNga sikata neeN=kusa maa=he kIN=ju kI*masj-oot-ta.
171	おととい買った服を赤ちゃんに着せる。	bududui baa kai k-eeru kIN=ba hanamaa=he kImi-da.
172	おばあさんは自分が買った服をお母さんに頼んで赤ちゃんに着せさせた。	NNmee=ja duu=nu kai k-eeru kIN=ba bunee=he tami hwaa=hee k*Imi-da.

八重山地方西表島^{ふなうき}船浮方言の談話資料

荻野千砂子（福岡教育大学）

竹富町西表島船浮方言（現在の地名表記は「舟浮」となっているが、話者は従来、「船浮」が正しかったと指摘するため、報告書では船浮の字を用いる）の談話資料を以下に文字起こしする。撮影と録音は、船浮集落にて2017年11月9日のシチ（節）が行われた際に行った。シチが終わり、全員が片付けをしている最中であり、広場は騒々しく、若干、物音が録音に入ってしまったことが残念ではあるが、話者二人が緊張をせず、船浮での生活について話している様子が記録できた。話者Aは、昭和15年生まれの男性、戸眞伊擴（とまい ひろむ）氏、話者Bは昭和3年生まれの女性、清水光江（しみず みつえ）氏である。

兩人とも日常では共通語で話すことが多いため、談話の中でも共通語が混在する。そのため、共通語は、仮名や漢字で起こし【 】を付す。それらの共通語は、書き起こしの段階で、方言があるかを確認し、方言があった場合は、（ ）で方言形を追加説明する。また、共通語訳の際に短い注記は〈 〉で示し、長い注記は脚注に示した。船浮方言以外の琉球語には〔 〕の記号を用いた。用例の表記は、[ɸ]はhw、[tɕ]はc、[dz~z]はz（[i]の前では[ɕ]~[z]）、鼻母音は、母音の後に~を付した。成節鼻音はN、促音は子音を重ね、長母音は母音を重ねた。また、無声化した母音や子音には直後に*を示す。接辞境界は-で示し、接語境界は=で示す。

- A : banu=me=joo. icibaN aa hwu*nee mura ki*missai=ra=di
 私はね 一番。ああ船浮村 すばらしいなど
 hwu*nee mura ki*missai=di umu-u munu=mee=joo
 船浮村 すばらしいと 思う ことはね。
- B : NN うん。
- A : kjuu=nu sici=jo
 今日の シチね。
- B : NN うん。
- A : moo Ndeeⁱ kamaduma=nu 【愛した】 unu kubadesaaⁱⁱ=jo.
 もう。ほら〈指し示す〉 カマドマが愛した あのクバデサーね
 juda mucu=nu [curasa] ⁱⁱⁱ ……jaakuba=nukii
 枝振りが美しい。 〈不明〉
 [mijarabi juda] ^{iv} ..anoo [nasake=nu curasa] ^v=di asi
 女の子 枝。あの。 「情けが美しい」と そういう
 【あの】 ^{vi} tunusama busi=na utawar-iru 【あの】 kunu kubadesaa=joo
 (unuu) 殿様節に 謡われている (unuu) あのクバデサーね。
- B : NN うん。
- A : unu sitaraa=na jooi=si atte maitta mir-ukara
 この下で〈シチの〉お祝いして そして 前をみたら

- kaNta=na hwuNtoo mee 【太陽】 =jo
向こうに 本当にもう (tida) ね
- B : NN うん。
- A : tida=jo tida=mee sugu
太陽ね。太陽は すぐ
- B : NN うん。
- A : ibi=nu maitta maitta=ra 【こう】 tida=du id-i ki-i=soo.
拝所の 前 前から (asi) 太陽が 出てくるでしょう。
- B : NN うん。
- A : asi=nu mura=mee=jo
こんな村はね
- B : zama=N=na mjaN.
どこにもない。〈形態素の順番は、どこ=も=に ない、となっている〉
- A : nihoNzjuu maar-abaN=joo
日本中、回っても 〈maaraNba=jo と聞こえるが maarabaN が正しい〉
- B : NN うん。
- A : hw*unee=gaanaa=du ar-u ar-aN=kaja=di.
船浮だけ あるのではないかなど。
- B : asi asi. そうそう。
- A : asi=ki banu=joo uri=du mee icibaN waa^{vii} hw*unee mura=mee ki*missai=di
だから 私ね これ、もう、一番、おお、船浮村、素晴らしいと
baa asi=du umu-iru. mina kjuu mir-abaN=joo ki*missa=soo.
私、そう思っている。 今、今日見てもね すばらしいでしょう。
- B : NN うん。
- A : kaNta mit=te mata
あそこ みて また
- B : zama=N unu...zama=N=na asi=nu si*ma mjaN=joo.
どこも あの、どこにも こんな村 ないよ。
- A : asi asi banu=joo asi umu-i=te=du=jo
そうそう。私ね そう思っただけ
- B : NN うん。
- A : aa jappari hwu*nee mura=ra=du 【だから】 【あの】 moohi=ra
ああ。やっぱり船浮村だなと。(asi=kii) (unuu) 昔から
[ari=kara ari oru uhwu tsuki=nu ju] =di asi=nu uta=N a=soo.a..uri
「東から上がっていらっしやる大きな月の夜」〈八重山子守歌〉という歌もあるよね。
- B : [uhwu tsuki=nu ju] . NN
大きな月の夜。 そう。
- A : aa uri 【船浮】 utat-ta uta ar-aN=kaja=di.
ああ。あれ (hwu*nee mura) 歌ったうたではないかと。
- B : NN うん。

- A : banu=jo asi=du umu-iru=saa. 【我が】 mari zima
私 そう思っているよ。 (baa) 生まれた村。
- B : [ucina=N jaima=N]
「沖縄も八重山も」〈八重山子守歌〉
- A : hwu*nee mura
船浮村
- B : [terasj-oori]
「照らしていらっしゃる」〈八重山子守歌〉
- A : 【だから】 kju 【また】 sici=di i-i=ti ki=tti
(asi=kii) 今日 (mee) シチとって 来て
iroiro 【あの】 mi-ida=sunu aa ici=iN mir-abaN aa 【やっぱり】 hw*unee mura
色々 (unuu) 見たけど ああ いつ見ても ああやっぱり船浮村
baga mar-i zima a ki*missai=di banu=jo asi=du umu-iru.
私達の生まれた村 あ。素晴らしいと 私ね、そう 思っている。
- B : zama=N=na asi=nu sici mjaN=jo.
どこにも こんなシチ ないよ。
- A : ai.
ああ。〈ai asi ja-da =soo.あんなだったよ、という意味〉
- B : gumaa-nu sima=nu hwu*nee mura jas=sunu.
小さい村の 船浮村なのだけど。
- A : su*nee pitu mee=joo oo guma..
祖内の人ね。 はい。 小さい…
- B : jooi=di j-ukkara mjaa muuru
お祝いといたら、もう、みんな
- A : ai ai そうそう。
- B : mudur-i ki-i=kii uri=N icibaN sa*nisaru^{viii}
戻ってくるから これも一番 嬉しい。
- A : si*ma=mee mee gumai ja=su=ra 【右、左】 =mee
村は、小さいけどね (si*ma=mee=mja がよい) 右左は (右 migi、左 pidari)
200 【メートル】 ar-u=kaja mjaN=kaja=di
200 メートル 有るか 無いかと、
siNta=mee 100 【メートル】 ar-u=kaja mjaN=kaja
後ろは 100 メートル 有るか 無いか
asi=nu gumaa=nu si*ma jas=sunu aa mjaa mjaa unu
そういう小さな村だけど あのうもう、あの
kunu jooi su-u=di ju-kkara mjaa icibaN 【もう】 ki*missai
このお祝いすると いたら、もう一番 (mjaa) すばらしい
【あの】 mura ar-aN=kaja. banu umu-iru=jo.
(unuu) 村ではないか。 私は思っているよ。

- B : icibaN maitta=nu 【うみ】 ..ee. suunaa^{ix}=mee kassi kaga~=nisi pikaru=soo.
一番 前の (suunaa) えー。海は あんなに鏡のように光るでしょう。
- A : oo oo oo. はい。はい。はい。
- B : siNta=tti ih-abaN mata
後ろに行っても また
- A : ida ida=nu pa*ma=saa.
イダ、イダの 浜ね。
- B : siNta=nu ida=nu pa*ma=na=joo mjaa 【真っ白】 =si nuu=N 【汚れ】 =N nuu=N kuuN
後ろのイダの浜にね。 もう 〈ssossiru〉 で 何も汚れも何も
- A : eeee えー。
- B : ku-u-na=kii 来ないから。
- A : asi そうだね。
- B : asi=nu mura mjaa zama=N=na=N mjaN
そんな村、もう どこにもない。
- A : zama=N mjaN.
どこもない
- B : baa umu-iru.
私は思っている。
- A : ida=nu pa*ma=joo. 【あの】 ida=nu pa*ma=naa=nu ssossi=nu
イダの 浜ね。 (unuu) イダの浜の 真っ白の
- B : NN うん。
- A : 【砂】 =joo. aa moo hoNtoo. icibaN=ra.
(inoo+zi、粘土は mita+zi) ね。 ああ。もう本等。一番ね。
- B : paNkja=joo ana pu*ri=tti sa. hwutaari=si=joo
私達ね 穴掘ってね。 二人でね。
ana pur-i=tti uri=nu naka=na peer-i asip-i si-ta=dura.
穴を掘ってそれにの中に入って遊び したよね。
- A : asi=kii uma maita ih-ada=sunu kaNta=na ee ana=jo. pa*ruN^x=jo
だから その前 行ったけど、あそこに えー穴ね。パルンね。
kani=jo. 【白いかに】 pa*ruN. pa*ruN=di bu-u=soo.
カニね。(ssosi=nu kani) パルン。パルンって いるでしょう。
- B : NN うん。
- A : uri=nu ana=du ippai a-da=joo.
その 穴が いっぱいあったよ。
- B : aa そう。
- A : asi=kii moohi=mee site unu pa*ruN tu*r-i
だから 昔は もう あのパルン取り
- B : a-kkara そしたら
- A : tu*r-i ki=tti jaa=nu 【あの】 taNpiki=jo kaNta=na ir-i=ti
取ってきて 家の (unuu) 床下ね。 あそこに 入れて

- joi=nu basjoo saada=soo=tte. asi=kii unu pa*nasi=mee kuNcaN
 お祝いのときに したでしょうって。 だからこの話は 少し
- B : asi 【あの】 nuu=dja te..tegusu^{xi}? uri maas-i hwutari=si maas-i
 そう。(unuu) 何か テグス?天蚕糸を回して二人で交換して回し
- A : asi=kii
 そうだから
- B : unu pa*ruN=nu aruhwuN=nu
 あのパルンが歩くの
- A : pa*ruN=joo 【そうそう】 aruhwuN=nu
 パルンね。 (asi asi) 歩くの
- B : uriN=nu sjasiN
 その写真
- A : at=te uri=ju pu*r-u basjoo=jo. ana pu*r-i ana zama=N ka*ma=N ih-i=soo.
 そして、これを掘るときはね 穴ほり 穴は、あちこちに行っているでしょう。
 asi=kii pu*r-i=tti mi… miN=jo
 だから 掘って み、耳ね。
- B : NN うん。
- A : miN ziina=na sik-i=tti gasi gasi=tti kwa...
 耳を地面に置いて ガシガシって (人間が地面を掘っている音)。ここ、
- B : asi そう
- A : 【あの】 … 〈不明〉 ana nu=jo ana=nu basjo 【あの】
 (unuu) 穴のね、穴の場所 (kwaa=nu maaru, ana=nu maaNka) (unuu)
 【方向=jo】 uri=du
 方向ね (pa*ruN ihw-u maaNka パルンが行く辺り) これが
 【探り】 =tti matta mata kaNta
 (asagur-i=tti) またまたあっち
- B : asi=du
 そうして
- A : asi si-i=tti=du tu*r-ada=joo=ra.
 そうして 取ったよね。
- B : umaa pu*r-i=tti miN aas-i
 ここ掘って、耳をあわして 〈耳を砂に当てて、の意味〉
- A : 【そうそう】 miN aas-i=tti 【そうそうそう】
 (asi asi) 耳をあてて (asi asi)
- B : maata maa=ti Ngir-ja mata maa=ti Ngir-ja maa=ti
 またここへ行くと 〈ここ掘り〉、 またこっちにいったら、こっちへ 〈こっち掘り〉
- A : raa
 ねえ。
- B : asi=du pa*ruN tu*r-i bu-da
 そうやってパルンを取っていた

- A : asi si-i=ti=du=raa. pa*ruN tu*r-ada=jo=ra. unu pa*nasi 【さっき】=jo
 そうやってね。パルンを取ったよね。 その話 (ki*sa) ね
 sjeNsjee are Ng-i=tti pa*nasi si-i bu-da=jo.
 先生 あれ、行って、話をしていたよ。
- B : aa ida=ra
 あ。イダね。
- A : uN. ida=na ih-i=tti
 そう。イダに行って、
- B : ih-i=tti ki-ta?
 行ってきた？
- A : ana=jo ar-i=kii=du uri nuu=nu ana=rjaa=di i-i=ki=du uri=joo asi=nu ana=doo=di.
 穴があるけど これ何の穴かって 言うから これはそういう穴だよって。
 【あの】basi*ma muni=si=mee pa*ruN=di=du ju-u=doo=di iz-u pa*nasi si-i bu-u sizi=ga
 (unuu)、自分の村の言葉で パルンというよ、っていうはなしをしていたわけよ
- B : NN うん。
- A : unu tu*ri kata mina=N ar-i=su=jo (笑い)
 あの取り方 今もあるよ。
- B : juru=mee suu mits-ukkara ih-i=tti oNta~ si-i=tti Ng-i=soo. unu kai=joo.
 夜は 潮がみちたら 行って、泳いで 行くよ あのカニよ。
- A : 【そうそうそう】 pata pata si-i=ra. 【早い】=saa=naa 【だから】asi=kii=du
 (asi asi asi)。ばたばたしてね。 (paisai=saa=raa) だから
 pa*ruN=di=du ju-u=djoo. atte mata mata 【変な話】jas=sunu
 パルンって言うよ。 そしてまたまた (ihwuna pa*nasi) だけど
 【ずっと】ida=jo
 ズーっとイダね <kaama ida=joo で、「イダの端」という意味になる>
- B : NN うん
- A : 【火葬場】=du a-da=soo. site
 火葬場があったよ。そして、
- B : NNN うんうんうん。
- A : 【火葬場】 火葬場
- B : mina mjaN
 今、ない。
- A : moohi=nu 【火葬場】=ga
 昔の火葬場よ
- B : muuru 【すな】=sa. duru=sa
 みんな砂 (inoo^{xii}) よ。泥よ。
- A : ma ma maa ijaa 【あの一】
 あ、あ、あ、いやー
- B : isi isi isi mjaN=joo
 石、石、石、無いよ。

- A : uzumar-i uzumar-i=du u=sunu uzumari=du=sunu moohi=mee asi=du ja-da=dura=di.
埋まり、埋まっているけど埋まっているけど 昔はこんなであったよと
- B : ee ああ
- A : aaa 【あの火葬場】=joo
あー (asi) 火葬場ね
- B : 【火葬場】
- A : pitu jahw-u. pitu jaah-i. kasi kasi=raa agajoo. aa hwuNto
人を焼く 人を焼いて こんなあんなにね。〈返す仕草〉 あー大変、本当
【あの】hone 【でる】basjo ai 【目】=nu 【前】=ni mir-i=tti jah-i bu-da=soo.
(unuu) 骨、でるとき、 あの目の前に 見て焼いていたでしょう
- B : aa mir-i=ti jahw-u=saa.
ああ。見て焼くよ。
- A : asi そう
- B : niis-i=tti su-u=sunu uki=tti..ai
寝せてするけど 起きて、ほら
- A : asi. mata paraai pjaa pjaa
そう。またパライ〈paraai は不明〉 ぴゃーぴゃー (勢いよく手足が飛び出る)
- B : uk-i=su dura.
起きるでしょう
- A : oo はい
- B : uk-i=tti 起きて
- A : asi (笑い) ai 【あの】 kaNbaku=ga 【亡くなったら】=jo
こんなふうに ほら (unuu) かんおけね。 (maaras-ukkara) ね
pacippaci=si ugok-u wake=sa. haa 【あの】 kasi si-i=tti=du ir-i=soo
ぱたぱた動くわけよ。 えー (unuu) こんな (足を曲げて) 入れるでしょう。
uri ba=tti aa uri mir-ukkara uugwa=nu=joo. uduri ssi*ni^{xiii}
それ、バツて〈足が飛び出す〉えー。それを見ると怖いよ。 とても驚いた。
- B : ...ida=na ih-i mir-ukkara zjootoo=ga. ida=nu pama=ra
イダにいった見たら上等だよ。 イダの浜から
- A : 【だから】 asi=kii=du unu pa*nasi=miN 【一応】 sikas-i
(asi=kii) そうだから、この話も 一応、聞かせて
ass-ukara iruiru 【itta=jo】
そうだから 色々 (ja-ada=jo)
- B : mata atu=ra panasi=ga=raa
また後からの話だよ。
- A : ida=na ida=na ih-i=tti=jo. idu=nu pa*ma=na atte ui=nu kaa^{xiv}
イダにイダに行ってね。 イダの浜ね。そして上の水たまり
ih-i=tti mata ui=nu kaa=nu 【あの】 【あの】 ana=ar-u=soo. 【洗濯】 ...
行って、また上の水たまりの (unuu) (unuu) 穴があるでしょう。洗濯

- B : NNNN sikas-ita?
うんうんうん。聞かせた？
- A : iruiru sikas-itara mata 【せっけん】 sahwuN cik-iru basjoo
色々聞かせたら、また、(sahwuN) せっけんを置いていたところ
- B : NNNN うんうんうん。
- A : uri cik-iru bajoo uri uri
あれ、置くところ、あれあれ。
- B : atte maa=nu mici=du icibaN Nmaaru
そして ここの水が 一番美味しい
- A : Nmaaru 【そうそうそう あれ】 kakke=nu kakke=nu
おいしい。(asi asi asi uri) 脚気の、脚気の
- B : NN うん。
- A : 【くすり】 =di=raa
(hwusiri) ってね。
- B : a 【検査】 s-i=tti icibaN
ああ。検査して、一番って。
- A : NN うん。
- B : mee moo もうもう。
- A : 【脚気、脚気のね】
- B : 【そうそう】
- A : 【良薬が】 (kakki=nu hwusiri=du)
- A : 【含まれている】 (hwukumai=duru)
- B : 【脚気】 =nu
脚気の
- A : moohi ui=nu kaa=jo eee soo. kari ju=nu basjo
昔 上の水たまりね。 そうそう。 それ、同じ場所
- B : 【だから炭鉱にはたいている人は かけかかったらすぐ船浮にきて】
(asi=kii tanakoo=na hatarak-iru pitu=mee kakke nar-ukkara sugu hwu*nee ki-i=tti)
- A : 【ああいう風に】 【そうすぐ船浮に】
(asi=nu basjo=ra) (asi asi sugu hwu*nee=na)
【えー この井戸水 えー】 ui=nu kaa=nu mici=jo.
上の水たまりの水ね。
- 【これで脚気が治る】 【そうそうそう】 uree mina=du umuidas-i=tti
(kuri=si kakke=du nooru=di) (asi asi asi) これ 今、思い出して
- B : 〈笑い〉
- A : 【あんだけの良質な あの】 kaa 【わけさ】 . ui=nu kaa.
(unu si*koo maasi=nu kaa=ga あれだけ上等の水だ) 上の水たまりの水。
asi 【今日、また久しぶりに】
そう (kjuu mata 久しぶりに)
- B : 〈笑い〉

- 【あれは】 paNkjoo suN=di ju-u=soo (清水さんに話を戻している)
 (uri=mee) 私達、スンと言うでしょう
- B : 【ああ、そう】 (asi)
- A : 【和名】 =mee 【トキワギョリュウ】 =tti ju-u=djoo.
 和名はトキワギョリュウというよ。〈間違い。本当はコウトウシュウカイドウ〉
- B : 【トキワギョリュウ?】
- A : NN 【難しい】 =doo. uri uree 【植物の名前、も一覚えるのよ】
 うん。 (mucikasai) よ。これ。これ (植物=nu naa ubu-iru suu=ja mucikasa=daru)
 あるいは、(ubuir-u=kjaa=mee mucikasa=daru 覚えるまでは難しいよ)
 sootoo saNsoo+maari 【苦勞】 =nu daNdaN
 相当ぐるぐる周り 〈あっちこっちへ行く〉 苦勞がたくさん (awari=nu gookaci)
 …… 【もー】 【覚えるのも大変わけさ】 【方言】
 〈不明〉 もー (ubuiN=nu abunai) (si*ma muni)
 pankjaa=tte moohi=mee hoogeN=si=du muuru naraas-ita=soo
 自分なんかは 昔は方言で 〈祖母が〉 全部 (自分に) 教えたよ。
- B : NN うん。
- A : bee=nu jarabee=nu appa=du 【方言でしかいわんのに】
 うちのヤラビのアップー 〈祖母〉 は (basi*ma muni=si=du i-i bu-da 方言で言っていた)
 uri=mee nuu kii=di 【方言】
 これは何の木と (si*ma muni)
- B : paNkjaa baasaN+daa=du 〈二人笑い〉
 私達 ばあさんたちが
- A : 【そう】 (asi)
- B : 【方言】 hisir-i=kii ippai wakar-i=ga.paNkjaa cika-ada basjo mjaN^{xvi}.
 方言を知っているから たくさん分かるよ。私達 使ったときない。
- A : 【方言】 =gaanaa=du si... i-i=du bur-i=tte bee=nu appa 〈Bさんが笑う〉
 方言だけで 言っていた。 うちのおばあさんは
- A : 【あははじゃないよ】 toohja=tti uri=ba sik-i=tti
 (ahaha ar-aN=dura) あらあら困ったと、それを聞いて。
 too 【今度は和名はどうするかっていったら、もう辞典】
 さあ (too kuNdoo mee nuu=du su-u=kaja =di 辞典)
 【辞典】 asagur-i=si ki-i=tte=joo
 辞典を色々調べてきてね。
- B : NN うん。
- A : 【探して】 【よおやく】 micik-i=tti=jo.
 (mic-i ki-i=tte/mic-i ki ki=tti 探してきて) (jatto) 見つけてね。
 uri=ra=du 【西表方言】 =du 【はい。じゃ和名】 =mee nuu=sir-u
 それから (ba s*ima muni=du) はい。じゃ和名は どんな
 【科名】 =mee nuu=di=du muuru uri=ba
 科名はどんな 全部これを

- B : 【あ。そう】 (ee asi)
- A : beNkjoo sa-ada sizi=ga. asi si=tti=du mina 【60 何種類】 =nu kii=joo
勉強したわけだ。 そうして、いま、60 何種類の木ね。
- B : NN うん。
- A : uri aci*mir-u sizi=ga.
それを集めているわけよ。
- B : 【おー。ろくじゅういくらあった】
(rokuzjuu amari {at-turu/aruN})
- A : oo 【65】
(asi. rokuzjuugo)
- B : hoo. ほー。
- A : rokuzjuugo=nu kii=jo. uri 【集めて】 【みんな名前を今】
65 の木ね。 それ集めて (acim-i=tti/acim-i ki=tti) (muuru naa=ba mina)
- B : 【かいてる】
(kak-i bu-u)
- A : 【いま、勉強会、毎日】 【石垣で】
(mina beNkjookai piiNpiN) (isi*nagee=na beNkjoo si-i bu-u)
【とまい先生さ、もう】〈二人笑い〉 【だから】
(tumai siNsii=ga) (asi=kii)
asi=nu munu=du=jo. asi=nu munu=du mina
こんなものだよ。〈木のことを〉 そういうものを いま
sika=na mitumer-ari=tti kuNdu=nu=jo
石垣で認められて 〈isi*nagee / si*nagee 石垣のこと〉 今度のね
unu asi=nu munu agajaa moo 【だから】
この、そういうもの (agajaa asi=kii=du mjaa ああだからもうね)
【あー。これ】 jarabee=nu appa=nu 【お陰もいっぱいあるな】 =di
(uree) 祖母の (ukagi=si=du asi ippai {ar-u/at-turu}=ra)と
baa umu-iru sizi=ga site hwu*nee mura=ra umareri ki=du
私は思っているわけさ そして 船浮村に生まれてきたから (mari k-er-i=kii=du)
asi=nu kutu natt-a ar-aN=kaja. 【あーぼくがしかで生まれたら】
そういうことになったんじゃないか (aa baa (i)si*nagee=na mar-ikkara)
【全くないさ。もう】
(pitiN=caN=daN mjaN 一つさえもない)
ai naa hwu*nee muna jar-i=kii=du asi nar-u=djoo. jarabee=nu appa
ほら。ね。船浮だから、こんなになるようだよ。 ヤラビのアップー

ⁱ Ndee Ndee (相手が気づかないと、繰り返しいってもいい)

ⁱⁱ 殿様節の歌に出てくる。(歌詞 kaidagi budaN=joo.baa. (木を) かき抱いていたよ.私、カマドゥマが)

ⁱⁱⁱ 「石の屏風」の歌詞。curasa は沖縄言葉。「美しい」は船浮では kaisai という。

- iv 「石の屏風」の中の歌詞。
- v 「石の屏風」の歌詞。ここは「殿様節」と「石の屏風」の歌が混じってしまっている。石の屏風とは、船浮から白浜に行くときの山の石が屏風みたいに連なっている場所の名である。
- vi 以下、「あの一」は共通語である。unuu が船浮方言。
- vii waa 感嘆の気持ち。船浮で「waa ku*nu ka*m*ai=joo paNtari=tee ki*missai=raa おお。このいのしし、太っていてすばらしいね」というと、「waa (豚) じゃない。ka*m*ai (いのしし)」と、だじゃれを言って楽しんでたという。
- viii sanisaN ともいう。だが、決めつけるからきつく聞こえる。sanisaru...は何か続く感じで、柔らかくやさしく聞こえる。
- ix suunaa は海は全部。集落の周辺の海。波打ち際は piida という。suunaa で、深く底が見えない、黒いところは tuunaa。suuna で、浅いところは piini という。piini でもくぼんでいる、円形で深いところは、ku*moori という。suunaa の中で、大海は uhwu tuu という。戸眞伊氏は tuu は「深い」、naa は「海」を表しているのではないかという。
- x 白いかに。甲羅が 4, 5 cm で足が 5, 6 cm ぐらい。早く走るからパルン。戸眞伊氏は kani というが、清水氏は kai という。
- xi 天蚕糸のこと。魚釣るときの糸。清水氏は、パルンでなく、別の話題をしようとしていると考えられる。
- xii inoozi は 畑の砂地。ここで duru はおかしい。duru はどろりしている。mitazi と一緒。mitazi は粘土質の土の畑。
- xiii uubai ssi*sjaN は「驚いて死んだ」が直訳だが、「死ぬほど驚いた」という意味になる。
- xiv たまった所は kaa といい、流れているところは kaara という。
- xv 活用：「見せない mis-uN」「見せたらいいのに misir-jaa misaNnuba」「みせよ mis-irjaa」「見せるな misir-ina」「見せてもいいよ mis-ubaN misaN」「見せたらいいのに mis-ikkara misaNnuba」「あんたが見せるなら私も見せる ura mis-uba banu=N misiN」
- xvi 清水さんは常々「方言を使ったことはない。でも頭には入っている」という。日常、方言で話す機会はなかったということだ。そのため、清水さんが方言を話せることを知らない人もいる。

八重山語波照間島方言について

金田章宏

1. はじめに

波照間島方言の状況について、麻生 2020（2007～2019 年に実施した現地調査の成果をまとめた博論）から以下に引用(抜粋)する。

波照間方言は琉球語派の中の南琉球語群に属する。Pellard (2015) によると、南琉球語群には八重山諸島で話されている広域八重山語支 (Macro-Yaeyama) と宮古語があり、そのうち広域八重山語支には与那国語 (原文では Dunan) と八重山語が属する。波照間方言は八重山語波照間方言である。

波照間方言内部の方言差には 2 つの段階がある。まず、より大きい方言差として挙げられるのは、石垣白保方言と波照間方言の方言差である。石垣白保方言は、18 世紀に波照間島からの移住によって再建された石垣島の白保集落で話されている方言である。波照間方言話者の話では、白保方言と波照間方言はお互いに相互理解が可能である。一方で、アクセント体系や動詞の活用形についても異なる点がいくつか挙げられる。

次に、波照間島内の方言差である。波照間島は 5 つの集落に分かれている。5 つの集落は西から東の順に、富嘉、名石、前、南、北である。パップラルド(2012) の報告から、母音/E/に富嘉とその他の集落で違いがあることが分かっている。その他にも、アクセントの違いが富嘉とその他の集落で異なる可能性がある(麻生・小川 2016)。このような差が見られるものの、相互理解を損なう程度ではないため、コミュニケーションに何ら問題は生じない。

波照間方言の話者人口を正確に示すことは難しい。しかし、筆者(麻生：金田注)の経験から、1940 年代半ば頃までに生まれた方であれば、流暢な波照間方言を話すことが可能である。筆者のこの観察が正しいとすれば、波照間島における波照間方言の話者人口は、およそ 120 人だと推定できる。ただし、波照間島以外にも石垣島や本島などに移り住んでいる方もいるため、実際の波照間方言話者は 120 人よりも多いことが見込まれる。

40～60 歳代の若い人々は、波照間方言を聞き理解することはできるものの、話すことは難しいようである。さらにそれよりも若い世代は波照間方言をほとんど理解することはできない。(pp. 8-13)

▽本稿および調査票の表記について

・母音の無声化を ! でしめす。また、アクセントとイントネーションを区別せずに、上昇を [で、下降を] でしめす。

e:ru] p!itu mo:[nu. あんな人いない。

・二重母音を<>でしめす。

ke:]ru p!itu mo:[nu]d<o[a>. こんな人はいないよ。

・撥音を N で、促音を q でしめす。促音は半拍程度であらわれることが多いが、それを区別しない。

maN]taba[ribagja buq]taN. さっきまでは いた。

・琉球諸語にみられる強調辞 du は撥音 N のあとでは du で、母音のあとでは ru であらわれる。共通語訳のほうでは機械的にゾで対応させる。

▽話者について

この資料に使用したデータの話者は、南集落の阿利盛八（アリ セイハチ）氏(1934.1.20 生 M)、北集落の田盛吉（タモリ ヨシ）(1939.9.10 生 F)、それに^{ふか}富嘉集落の RS 氏である。

2. 波照間島方言のいくつかの特徴について

担当者はこれまで数回にわたって波照間島において現地調査をおこなった。またそのまゝに、石垣市に在住の波照間島出身の方から予備調査もおこなった。今回はそれらの調査の範囲のデータをもとに整理する。データは波照間島の南集落の話者を中心に北集落と富嘉集落も使用したが、今回の調査票資料には石垣市在住の方の分はふくまない。富嘉集落は西に少しはなれているが、南集落と北集落は隣接していて、今回の話者の家も徒歩 1 分程度の距離である。

調査票自体は動詞の活用をみるものであるが、調査の結果、波照間島方言に特徴的とみられるいくつかの現象が確認された。人名詞の複数形で、固有名詞(人名)では男性名と女性名で複数形がことなることや、存在動詞の否定形が、形態的には否定形ではなく別の語彙であること、「ここ」を意味する指示語に二種類あることなどである。また、名詞の格形式のうち、共通語の与格に相当する格語形がかなりあることも明らかになった。いずれもまだじゅうぶんなデータがあるわけではなく、それぞれの課題の記述を目的とした調査票でもなかったもので、今回は中間報告として概略の記述にとどめ、今後の調査で修正をくりかえしながら体系的な記述をめざしたい。

2. 1. 人名詞の複数形

波照間島方言の人名詞には複数形が多くみられるので表でしめす。名詞の種類と複数接辞とに相性のようなものがみられるので、これについては再度検討したい。複数接辞には次のようなものがある。(表は p.146~147 にしめす)

~Nda:、~(i)ma:、~(i)maNda:、~(i)maima:/(i)ma:ma:、~NdaNda、~daci、~daciNda:、~N]zi:、~N]ziN[da:

興味深いのは人固有名詞（人名）の複数形が男の名前と女の名前でことなることである。はじめに単数の例をあげる。強調辞 *du* のまえの *N* は主格助辞である。

taro:N]du [kja]ru. 太郎がゾ来た。
 sju:i]ciNdu [kja]ru. シュウイチがゾ来た。
 jui]Ndu [kja]ru. ユイがゾ来た。
 [kajoNdu ku:N. カヨがゾ来る。

これが複数形になるとつぎのように語形がことなる。男性名に使用される接辞は *Nda* とその重複形の *NdaNda*、女性名に使用される接辞は *ma* とそれを核とする *maima*、*maNda* で、明確に相補分布している。その複数のなかに異性がまざっていても同性だけでもおなじである。これらの接辞は、語彙による相性は別にして、このような人名以外ではどれも男女にかかわらず使用されている。なお、*daci*(*Nda*:)は男性名にも女性名にも使用される。

taro:N]daNdu [kja]ru. 太郎たちがゾ来た。 *Nda*
sju:ici]NdaNdaNdu [kja]ru. シュウイチたちがゾ来た。 *NdaNda*
jui]maNdu [kja]ru. ユイたちがゾ来た。 *ma*
kajo]maimaNdu [ku:N. カヨたちがゾ来る。 *maima*
ke:]komaNdaNdu [kja]ru. けいこたちがゾ来た。 *maNda*

また、*Nzi*(:)をふくむ接辞は、子どもの *uqtama* と、これに二人称代名詞が融合した *daqtama* としか組み合わせず、我が子の *baqtama* は *Nda* としか組み合わせられないようである。

2. 2. 存在、非存在

人に代表される生き物の存在をあらわすのは、ほかの八重山語諸方言と同様フリ系の語彙である。一方で、非存在はフリ系の語彙の否定形ではない *mo:nu* である。宮古語大神方言には「見ない。」と同音の *mi:N* (いない。)があるが、これと関わるか。

はじめに存在の例をあげる。

ici]N mo:[ru] bo:. いつもここにゾいる。
 ta]N[da]raNdu bo:. だれかがゾいる。
 mana] za[ru bu]ba? いまどこにゾいる？
 maju [u:]gara buNba? ネコ、何匹ゾいる？
 maN]taba[ri]bagja buq]taN. さっきまではいた。
 manabi daidokorona buta amaN[du] mbusja p!aci. さっき台所にいた姉さんがゾ煮たと思うよ。

波照間島方言の名詞複数形

	Nda:	(i)ma:	(i)maNda:	(i)maima:/ (i)ma:ma:
私包含	(単数 <u>ba:/banu</u>) ×	be:ma:	bemaNda	bemaima
私排除	(単数 <u>ba:/banu</u>) ×	baima:	baimaNda:	baima:ma:
あなた	(単数 <u>da:</u>) ×	daima:	daimaNda:	daimaima:
父	<u>ija</u> Nda:	ijaima:	ijaimaNda:	×
母	<u>ab<oa></u> Nda:	aboima:	aboimaNda:	×
祖父	<u>buja</u> Nda:	bujaima:	bujaimaNda:	×
祖母	<u>pa</u> Nda:	paima:	paimaNda:	×
おじ	<u>buz</u> aNda:	buzama:	buzamaNda:	buzaima:ma:
おば	<u>buba</u> Nda:/buwaNda:	buwaima:	bubamaNda:	buwaima:ma:
男	<u>bidumu</u> Nda:/biduNda:	bidumuma:	bidumumaNda:	×
女	<u>midumu</u> Nda:/miduNda:	midumuma:	mudumumaNda:	midumumaima:
子ども	×	×	<u>uqtama</u> (i)maNda:	×
我が子	<u>baqtama</u> Nda:	×	×	×
汝が子	<u>daqtama</u> Nda:	daqtamaima:	×	×
人	<u>plitu</u> Nda:	plituma:	×	×
秀一	<u>taro:</u> Nda	×	×	×
ユイ	×	<u>ju</u> ima	<u>ke:koma</u> Nda	juimaima

私包含：一人称複数包含形 私排除：一人称複数除外形

我が子：私の子ども 汝が子：あなたの子ども

太字下線は単数形。×は語形ナシ。<oa>は二重母音。高低の符号は省略。

	daci	daciNda:	NdaNda	Nzi:	NziNda:
私包含	×	×	×	×	×
私排除	×	×	×	×	×
あなた	×	×	×	×	×
父	ijadaci	ijadaciNda:	×	×	×
母	ab<oa>daci	ab<oa>daciNda:	×	×	×
祖父	bujadaci	bujadaciNda:	×	×	×
祖母	pa:daci	pa:daciNda:	×	×	×
おじ	buzadaci	buzadaciNda:	buzaNdaNda	×	×
おば	bubadaci	bubadaciNda:	bubaNdaNda	×	×
男	bidumudaci	bidumudaciNda:	bidumuNdaNda	×	×
女	midumudaci	midumudaciNda:	midumuNdaNda	×	×
子ども	uqtamadaci	uqtamadaciNda:	uqtamaNdaNda	uqtamaNzi:	uqtamaNziNda
我が子	×	×	×	×	×
汝が子	daqtamadaci	daqtamadaciNda:	×	daqtamaNzi:	daqtamaNzianda:
人	p!itudaci	×	×	×	×
秀一	taro:daci	taro:daciNda:	<u>sju:ici</u> NdaNda	×	×
ユイ	juidaci	juidaciNda:	×	×	×

以下は非存在の例である。

taN] mo:[nu. だれもいない。
 e:ru] plitu mo:[nu. あんな人はいない。
 ke:]ru plitu mo:[nu]d<o[a>. こんな人はいないよ。
 ke: mu]nu mi[ru pl]itu mo:[nu. こんなもの見る人いない。
 k!uri mi[rja pl]itu mo:[nu. これ見た人いない。
 ke:] munu nu[mu pl]itu mo:[nu. こんなもの飲む人はいない。
 k!uri nu[mjaru pl]itu mo:[nu. これを飲んだ人はいない。
 naga ku:] plitu mo:[nu. ここに来る人はいない。
 naga kja:] plitu mo:[nu. ここに来た人はいない。
 k!uri su: plitu] mo:[nu. これをする人はいない。
 k!uri sja:] plit<u[a>] mo:[nu. これをした人はいない。
 astua] hina mono[ju]gara [ku]najo[:. あさっては家にいないから来るな。

終止形 mo:[nu 以外の例 mono[ju]gara(いないから)が1例(さいごの例)ある。動詞否定形の kunui]gara(来ないから)と語形がにているが、ほかの否定形 ha[nuN]gara(食べないから)や mbusaN]gara(煮ないから)と比較するとおなじようにはみえない。むしろ動詞肯定形の bu[ju]gara(いるから)や nu[mu]jagara(飲むから)に近いだろう。もしそうだとすると、この mono[ju]gara は意味的には非存在で否定だが、語形としては肯定形とみるべきか、ということになるが、終止形が～nu(mo:[nu)で、動詞否定終止形(ha]nu 食べない、kunu 来ない)とおなじである点が問題としてのこる。動詞の例をあげておく。

aqca:] namasu ha[nuN]gara ke: [k!una:. あしたは刺身を食べないから買ってくるな。
 kju:ja uwanu ni]ku[ja mbusaN]gara [ke]: [kuna. 今日は豚肉は煮ないから、買って来るな。
 buza[maN kunui]gara bu[baN kunu. おじさんが来ないから、おばさんも来ない。
 hina] bu[ju]gara [kiba. 家にいるから来い。
 ba:] nu[mu]jagara [na: s!iki. 私は飲むからそこに置け。
 ututuNdu ju]: [mbusibaN [ta:]N ha]nu. 弟が魚を煮ても、だれも食べない。
 pliteci] Ngugara [kunu. 畑に行くから来ない。

なお、ものの存在は aN、非存在は ne:nu で、周囲の諸方言とおなじタイプである。

[na:N na:N aN. ここにもここにもある。
 naN ari hanaN aN]d<o[a>. ここもあるし、ここもある。
 hana] gusaNdu [aru. そこに杖がゾある。

sa: ma:bi a[na:]? > N]: [aN. お茶まだある? > うん、ある。
 kjuja N[go:]bi [ataN. きょうはたくさんあった。
 me:[na na:] gusaNdu [aqtaru. まえはここに杖がゾあった。
 snua [na:] ko:[si aqta]na:]? > N]: [aqtaN. きのはここにお菓子があった? > うん、あった。
 snua [na:]N nu:N[du aqtara:]? きのはここになにがあったの?
 [na: aqtaska. ここにあったけど。

nuN] ne:[nu. なにもない。
 na:] gu[saN] ne:[nu. そこには杖がない。
 snu]ja [ho:] munu ne[N]ta:N. きのは食べるものがなかった。

2. 3. 「ここ」の語彙

場所をあらわす指示代名詞は、基本的には na (コ系～ソ系) と hana (ソ系～ア系) の 2 系列であるが、コ系にはほかに mo(:) もみられる。西表祖納方言の場所をあらわす指示代名詞にはおおよそコソアに対応する kuma、uma、kama があって、さらにこれらとは別に 2 度目以降の同一場所の指示 (英語の it に類似) に使用される ma があるが、この方言の mo(:) はそれとは明らかに意味がことなる。

基本的に使用されるのは na(:) である。

na:Ndu] ma:[si. ここがゾいい。
 na:] aoga siba. ここを青にしろ。
 na: [aN. ここにある。
 na[ga] biriba:. ここに座れ。

おなじ意味で mo(:) も使用される。

mo:Ndu] aga[rja]ru. ここがゾ明るい。N 格 (主格)
 ici]N mo:[ru] bo:. いつもここにゾいる。φ 格
 eN[n<iu>] mata [moga ki as]pa:. 来年またここに来て遊ぼう。ga 格
 eN[n<iu>] mata [moga ko:. 来年またここに来よう。ga 格

3. 与格相当の語形について

これまでの数回にわたる調査から、名詞の格形式のうち、共通語の与格に相当する語形が複数あることがわかった。まだじゅうぶんなデータがあるわけではなく、格形式の意味記述

を目的とした調査票でもなかったのが概略にとどまるが、現段階で整理したものを提示したい。今後の調査で格の体系的な記述をめざす。

3. 1. 格形式別の整理

3. 1. 1 φ格（ハダカ格）

この方言のφ格は、主として共通語の対格＝ヲ格に対応する直接補語に使用されるほか、一部の従属節の主語にも使用されるが、ここでは与格的な間接補語を中心とする用法について整理する。

この格形式は存在の場所、移動先、結果の意味で使用される。動作のおこなわれる場所の例もみられたが、この意味は基本的には **nagi** 格があらわす。

▽存在の場所

人やものの存在する場所をあらわす。存在の場所がφ格であらわれるのは、これまでの例では指示代名詞のみである。普通名詞ではほかの格語形（**na** 格）をとっているので、相補分布の可能性はある。

- ・人の存在の場所

na: bu]ba. ここにいろ。

na:] burijo[:. ここにいてくれ。いろ。

na:] ori ta[bo]rijo:. ここにいてくださいね。敬語

da [**na**] bu[re]ri. あなた、ここにいろ。

da [**na** ori] jo:. あなた、ここにいなさいね。敬語

da [**na** ori tabori. あなた、ここにいてください。敬語

ici]N **mo:**[ru] bo:. いつもここにづいろ。

mana] **za**[ru bu]ba? いまどこにづいろ？

指示語の空間的な直接指示の連体的な用法では「ここにいろ」で「この」の意味をあらわすことがある。つぎのはじめの例は **na]buq[tama** のように一語化した発音もきかれる。

na] bu: uq[tama この子ども、ここにいろ子ども

na: bu:] p]lituNda: この人たち、ここにいろ人たち

おなじく直接指示では「ここにいて」で「ここで」の意味をあらわすことがある。

na:] buqci kasmaru. ここで売っている。ここにいて。

na:] buq[ci] as]ipibaN mi[sjaN]d<o[a>. ここで遊んでもいいよ。ここにいて。

na:] buriq[ci] sigutu/skama si:/siba. ここで仕事をしろ。ここにいて。

直接指示では「あそこにいる」で「あの」の意味をあらわすことがある。はじめの例は hana]buq[tama のように一語化した発音もきかれる。

hana bu:] uq[tama あの子ども、あそこにいる子ども

hana o p!itu]ja nu:[ru] si[oq]ka [ja:ʔ あの人なにをゾしていらっしやるかねえ？

ha:/hana bu:] p!ituNda: あの人たち

ha:/hana o:ru] p!ituNda: あの方たち 敬語

直接指示では「あそこにて」で「あそこで」の意味をあらわすことがある。

hana buqci] mi[rja] p!it<ua> taqka[ja]:ʔ あそこで見ている人はだれかな？

hana] buqci kasmabi[rjaru. あそこで売っている。

以上のような例では、存在の場所を示す指示語と存在動詞が意味的に一語化して、存在動詞の連体形では名詞の連体格的に、中止形ではおなじく連用格的に機能しているとみるべきである。こうした形式動詞化の現象は、具体性がなく指定性のみの指示語とたんなる存在のみをあらわす存在動詞だからこそおこったものだろう。同様の現象がつぎの、ものの存在の場所にもみられる。

・ものの存在の場所

[na: p!ite:Ndu aro:.. ここに畑がゾある。

[na:N na:N aN. ここにもここにもある。

naN ari hanaN aN]d<o[a>. ここにもあるし、ここにもある。

na:] nuNdu [a ba]:ʔ ここになにがゾあるの？

na: aqta mu]n<ua> naN[ga]taN. ここにあったものは捨てた。

[na: aqtaska. ここにあったけど。

[manab<ia> na: aqtaN. さっきはここにあった。

snua [na:] ko:[si aqta]na:ʔ > N]: [aqtaN. きのうはここにお菓子があった？ > うん、あった。

me:[na na:] gusaNdu [aqtaru. まえはここに杖がゾあった。

na:] gu[saN] ne:[nu. そこには杖がない。

hana mi]zut!amariNdu [aru. ここに水たまりがゾある。泉がある。

hana] gusaNdu [aru. そこに杖がゾある。

hana] nu:N[du aba]:? そこになにがゾあるの？

hana a:] munu muq[c!i ku:. あそこにあるものを持ってこい。hanamunu にきこえる。

うえのさいごの例のように、指示語の空間的な直接指示の用法では「あそこにある」で「あの」の意味をあらわすことがある。一時的な存在ではない「木」でも使用されていて、「いる」と同様、存在動詞の形式動詞化の傾向があらわれている。

hana a:] munu あれ。あそこにあるもの。

hana a]ru [simuci あの本。あそこにある本。

hana a]ru [t!uki あの時計。あそこにある時計。

hana a]ru [ki あの木。あそこにある木。

▽移動先

移動先の例はすべて指示代名詞で、この格での具体名詞の使用については未確認である。

ba:] nu[mu]jagara [na: s!iki. 私(は)飲むからそこに置け。

[hana us!ikiba. あそこに置け。

▽結果

結果の意味のなかでも、これらの例は具体的な意味のない「なる」との組み合わせである。具体的な意味の動詞との組み合わせについては未確認。結果の意味でも「～にする」のほうでは ga 格があらわれる。

disi na[ri] jo. 友だちになれよ。

ju[ru] naqtara [ta:]N kunaki [simaqtaru. 夜になったら誰も来ないから、(店を)閉めた。

▽動作のおこなわれる場所

この例も代名詞の例で、かつ存在的な継続相の用法である。具体的な場所名詞のばあいは nagi 格になる。

hana] numibi[rja] muna: ta[:]ja? あそこで飲んでいるのはだれ？

3. 1. 2 na 格

この格形式は存在の場所、移動先、時間の意味で使用される。動作のおこなわれる場所の例もみられたが、この意味は基本的には nagi 格があらわす。

▽存在の場所

存在の場所が具体的な場所名詞のばあい、na 格が使用される。

・人の存在の場所

astua] hina mono[ju]gara [ku]najo[:. あさっては家にいないから、来るなよ。

hina] bu[ju]gara [kiba. 家にいるから来い。

manabi daidokorona buta amaN[du] mbusja p!aci さっき台所にいた姉さんがゾ煮ただろう。煮たはずよ。

aqca] hi[na bu]na? > buNd<o[a>. あした家にいる? >いるよ。

unu u[tama:] gakuci NgaNsku[ci] hi[naru] bu. あの子は学校に来ないで、家にゾいる。

・ものの存在の場所

re:zo:ko]na [uwanu niku]N [aruNska] neq[ci]ru [mbusana]ba:? 冷蔵庫に豚肉があるのに何故ゾ煮ないの?

uwanu ni]kuja [re:zo:]ko]na [aNsuka] ne:[ci]ru [uwanu] niku[ja mbusaNtara? 豚肉が冷蔵庫にあるけど、何故ゾ豚肉を煮なかったの?

nabina aqta [s!ipuriNja] ta:Ndu mbusjata[ra]:? 鍋にあったトウガンは誰が煮たの?

▽移動先

na 格のものの移動先の例が 1 例だけみられた。移動先に基本的なのは場所名詞では ci 格、代名詞では ga 格である。

k!uriq]tu [k!uri]nu ftabisi]na s!ikiba. これとこれの間に置け。

▽時間

時間の例はこれまでのところ用例全体でこの 1 例のみである。

t!akuja mbusu] me:[na] ma:su[si] mumis!ita mbuscja ja[ra]jarasi naruN. タコは煮る前に塩で揉んでから煮ると柔らかくなる。

▽動作のおこなわれる場所

基本的に存在の場所をあらわす na 格でのこの用法は 1 例のみで、くみあわさる動詞も存在的な継続相になっている。この意味をあらわすのは、基本的には与格相当の格形式ではなく、共通語のデ格に対応する nagi 格である。

hi[na skanahja]ru majuNdu ju:] hja[ru. 家で飼っているネコがゾ魚を食べた。

参考までにゲ格に対応する nagi 格の例をあげておく。

fni ku: kami] minatu[nagi] maci[ba:. 船が来るまで港で待て。

inanagi] u[i kjaN. 海で泳いできた。

3. 1. 3 ga 格

この格形式は移動先のほかに相手、使役文の動作の主体、結果の意味で使用される。

▽人やものの移動先

・人の移動先

[naga ku ba:. ここに来い。

[naga ku:. ここに来い。

naga k!ucja] бага[ruN. ここに来ればわかる。

naga kibaN] bagara[nu. ここに来てもわからない。

naga kjabal] bagaruq[ta] munu. ここに来たらわかったのに。

naga kunaba] bagaruq[ta] munu. ここに来なければわかったのに。

naga ku:] p!itu mo:[nu. ここに来る人はいない。

naga kja:] p!itu mo:[nu. ここに来た人はいない。

da: na[ga] biri. あなた、ここに座れ。

na[ga] biri ba:. ここに座れ。

haga] Ngi. あそこに行け。

haga Ngi] ba:. あっちに行け。

eN[n<iu>] mata [muga ki as]pa:. 来年またここに来て遊ぼう。来年も二人で一緒に来よう。

eN[n<iu>] mata [muga ko:. 来年またここに来よう。来年も二人で一緒に来よう。

daNta[ga Ngi]bo[haNska Nga]runu. あなたのところに行きたいけど行けない。

da: za[ga Ngi] ba:? あなたはどこに行くのか?

・ものの移動先

[naga s!iki. ここに置け。

naga] irja[ru. ここに入れた。

naga] ira[N]do[:. ここに入っているよ。

指示代名詞での使用が基本的なようで、具体名詞の例は少ない。具体名詞では ci 格が基本である。

gakuga] Ngi. 学校に行け。(gak!luci も可)

t!abiga] Ngjatara [muqsaqtaN. 旅行に行ったらおもしろかった。

うえの2例目は移動目的のようだが、動詞の目的形であればこれと別の～Nの形をとる。
(3. 1. 9参照)

▽相手

代名詞にも具体名詞にも使用される。代名詞の相手の用法にみられる mu 格との関係は不明である。

daga] hiru]N. あなたにあげる。

unu p!ituga] [eni]ba. あの人に言え。[ni]

jatafcinu]ju: [hanu] uq[tamaga: kosi] hi:na:. ヨモギ雑炊を食べない子どもには菓子をやるな。

▽使役文の動作の主体

使役文の動作の主体は、共通語では他動詞で二格をとり、自動詞では二格とともにヲ格でもあらわれる。この方言ではこれを区別して、他動詞では与格相当の ga 格、自動詞では対格に相当する ϕ 格(さいごの2例)であらわれている。これも相補分布である可能性がある。

taro:]ga misis[maqtaru. 太郎に見させた。

taro:]ga h!aka[smaqtaru. 太郎に書かせた。

baN[du ta]ro:ga h!aka[hjaru. 私がゾ太郎に書かせている。

u[tutuga] skuras[maru. 弟に作らせた。

baN[du ututuga] buja ugasmaru. 私がゾ弟にじいさんを起こさせた。

taro:] jarahja[taru. 太郎を行かせた。ϕ 対格

taro:] p!aras[maqtaru. 太郎を走らせた。ϕ 対格

▽結果

結果の用法のうち、具体的な意味のない動詞「する」との組み合わせに使用される。具体的な意味の動詞との組み合わせについては未確認。

na:] aoga siba. ここを青にしろ。

na:] agaga siba. ここを赤にしろ。

3. 1. 4 ci 格

この格形式はもっぱら具体的な人の移動先をあらわすようである。具体的な移動先にはほかの格形式も使用されるが、それらとの張り合い関係は未確認である。

pliteci] Ngi. 畑に行け。

ba: [plite:ci N]go:. 私は畑に行く。

unu u[tama:] gakuci NgaNsku[ci] hi[naru] bu. あの子は学校に来ないで、家にゾいる。

kju gakuci NgiN[can]a dusinu ja[ci] Ngjaqtaru. 学校に行きながら、友だちの家に行ってみた。

kju gakuci [kiNcan]a dusinu ja[ci] Ngjaqtaru. 学校に来ながら、友だちの家に行ってみた。

gak!uci]/gakuga] Ngi. 学校に行け。

buifa]:[: s!imaci ki:s!i]taki sigutu t!umiN[te]nua. /t!umiNcju. いとこは島に来てから、仕事を探そうだよ。

dusi so:ri gakuci [kuba]:. 友だちを連れて学校に来い。

s!imaci kuna]c]ara [s!imanu] zo:[tunu] t!ukurua bagara[N]d<uwa>:. 島に来なければ、島のいいところはわからない。

s!imaci kjaN]ska ami[ga]gi [ffis!i]ta[ma]:. 島に来たのに雨ばかり降っていた。

kjo:a isas!imaqci] heN N[ga]:. きょうは石垣に食べに行こう。he:N[ga]:に聞こえる。

sjama:] plismaru mu[nu] he:s!ita: [pliteci Ngja]ru. 兄は昼を食べてから畑に行つた。

inaci N]gi u[i] kose:. 海に行つて泳いで行こう。

3. 1. 5 mu 格

動作の相手をあらわす。この意味は ga 格にもみられる。mu 格にあらわれるのはこれまでのところ人称代名詞のみだが、ga 格には普通名詞もみられる。

da]mu mu[ci kja]N. あなたに持つてきた。

ba[mu hi:]na:. 私にくれるか。

3. 1. 6 gaci 格

人の移動先をあらわす。これは ga 格と ci 格による複合格のようにみえる。この用法に gaci 格があらわれるのは、これまでのところ名詞が hi(家)のばあいのみである。

da higa[ci N]gi ma[:. 家に帰れ。よその子に、自分の家に。

ba hi]gaci [ku] jo[:. 私の家に来い。

ba higaci [ori tabori. 私の家にいらっしやってください。敬語

3. 1. 7 naga 格

移動先をあらわす。用例はこのものの移動先の1例のみである。

kju: mbusanu uwanu ni]kuja [re:zo:konaga [i]ra[s!iki. 今日煮ない豚肉は冷蔵庫に入れておけ。

3. 1. 8 (N)nja 格

受動文の動作の主体をあらわす。用例がまだ少ないが、これまでの用例では、動作の主体が人名詞のばあいでは～Nnja、ネコのような動物では～n<ia>(～nja)であらわれていて、相補分布の可能性はある。これらの語形が単純な格語形なのか、格語形になにかが融合したものであるかは確認する必要があるだろう。

daNnja bami]ga[ra]taN. あなたにたたかれた。

daN]njaru [bami]gaa[ra]taro:. あなたにづたたかれた。

daNnja bami]gara [kjaN. あなたになぐられてきた。

sjamaNn<ia>] k!u!ra[ra]qta]ru. 兄さんになぐられた。

sjamaNn<ia>] kura[ra]ru/k!u!ra[ra]qta]ru/k!u!ra[ra]N. 兄さんになぐられた。

majun<ia>] [h!akazurara]wa. ネコに引っかかれた。

majun<ia>] [hara]N/[hara]ru/[hara]qta]ru. ネコに食べられた。

3. 1. 9 動詞の目的形 ～N

名詞の格語形ではないが、共通語では二格と同音で、いくつかの方言ではへ格と同音であられるので、参考までにとりあげておく。この方言の動詞の目的形は中止形の～Nの形をとる。

nu[miN] kuba:. 飲みに來い。

heN [kuba:. 食べに來い。

mi[riN] kuba:. 見に來い。

動詞目的形とくみあわさる動詞が「行く NguN」のばあい、目的形に強調辞 du がついたばあい（1例目）やていねいな発音（2例目）以外では目的形のNと動詞語頭音のNが1モーラ化して、中止形のみのようにきこえる。

ju: ho[siNdu Ngo]:. 魚を釣りに行こう。

sigutu siN Nga]:. 仕事をしに行こう。
 ma:zi nu[mi] Nga:. いっしょに飲みに行こう。
 uri mi[ri N]ga:. あれを見に行こう。
 h!unabu] buri [N]guN. シーカーサーを折りに行く。実を取りに行く。
 ma:zi] u[i N]gase:. いっしょに泳ぎに行こう。
 ju: ho[si Ngu]na:?. 魚を釣りに行くのか？

3. 2. 意味別の整理

与格相当の格語形ごとに意味用法を概観したが、いくつかの格語形では複数の意味用法がみられた。ここではそれらを意味のほうから整理しなおす。

▽存在の場所（間接補語）

人やものの存在の場所については、代名詞の ϕ 格と具体的な場所名詞の na 格とで明確な使い分けがみられ、相補分布となっている。

na: bu]ba. ここにいる。代名詞 ϕ 格
hina] bu[ju]gara [kiba. 家にいるから来い。場所名詞 na 格

▽移動先（間接補語）

移動先の意味をあらわす形式はこれまでのところ 6 語形が確認されたが、中心的なものは代名詞の ga 格と場所名詞の ci 格である。これも基本的には相補分布となっている。また、代名詞の ga 格は人の移動にもものの移動にもあらわれるが、場所名詞の ci 格は人の移動にしかあらわれていない。

このほか、人の移動先には gaci 格の場所名詞が、ものの移動先には ϕ 格の代名詞、na 格、naga 格の場所名詞があらわれている。

[naga ku:. ここに来い。代名詞 ga 格 人の移動先
 [naga s!iki. ここに置け。代名詞 ga 格 ものの移動先
 p!iteci] Ngi. 畑に行け。場所名詞 ci 格 人の移動先
 ba hi]gaci [ku] jo[:. 私の家に来い。場所名詞 gaci 格 人の移動先
 [hana us!ikiba. あそこに置け。代名詞 ϕ 格 ものの移動先
 k!uriq]tu [k!uri]nu ftabisi[na s!ikiba. これとこれの間に置け。場所名詞 na 格 ものの移動先
 kju: mbusanu uwanu ni]kuja [re:zo:ko]naga [i]ra[s!iki. 今日煮ない豚肉は冷蔵庫に入れておけ。
 場所名詞 naga 格 ものの移動先

▽相手（間接補語）

相手をあらわすのは **ga** 格と **mu** 格である。用例は少ないが、どちらも一方向の動作で、相互動作の相手は未確認である。**ga** 格は代名詞にも人名詞にも使用されるようだが、**mu** 格はこれまでのところ代名詞の例のみである。

daga hiru]N. あなたにあげる。

jatafcinu]ju: [hanu] uq[tamaga: kosi] hi:na:. ヨモギ雑炊を食べない子どもには菓子をやるな。

da]mu mu[ci kja]N. あなたに持ってきた。

▽結果（修飾語的？複合述語？）

結果の意味に使用されるのは ϕ 格と **ga** 格である。これまでに確認されたものはいずれも実質的な意味のない「なる」と「する」との組み合わせで結果をあらわすわずかな例である。 ϕ 格は「なる」と、**ga** 格は「する」との組み合わせに使用されていて、相補分布の可能性がある。

disi na[ri] jo. 友だちになれよ。

na:] aoga siba. ここを青にしろ。

▽時間 na（状況語）

時間をあらわす例は1例のみで、**na** 格が使用されている。

t!akuja mbusu] me:[na] ma:su[si] mumis!ita mbuscja ja[ra]jarasi naruN. タコは煮る前に塩で揉んでから煮ると柔らかくなる。

▽動作のおこなわれる場所（状況語）

この意味に基本的に使用されるのは与格相当の諸形式ではなく、共通語のデ格に対応する **nagi** 格であるが、与格相当の格形式にもわずかながらこの用法がみられる。ただしその場合でも、格形式とくみあわさる動詞はこれまでのところ継続相のみなので、動作の「おこなわれる」場所ではなく、状態性の動作の「存在する」場所、とみるべきか。

fni ku: kami] minatu[nagi] maci[ba:. 船が来るまで港で待て。nagi 格

hana] numibi[rja] muna: ta[:]ja? あそこで飲んでいるのはだれ？ ϕ 格

hi[na] skanahja]ru majuNdu ju:] hja[ru. 家で飼っているネコがゾ魚を食べた。na 格

▽受動文の動作の主体（間接補語）

用例はまだ少ないが、受動文の動作の主体が人名詞では～Nnja、ネコなどの動物では～

n<ia>(nja)であらわれていて、相補分布の可能性はある。これらの語形が単純な格語形なのか、格語形になにかが融合したものであるかは確認する必要があるだろう。(用例は省略)

▽使役文の動作の主体 他動詞 ga (間接補語)

使役文の動作の主体は、共通語では他動詞で二格をとり、自動詞では二格とともにヲ格でもあらわれる。それに類似して、他動詞では与格相当の ga 格、自動詞では対格に相当する φ 格であらわれている。これも相補分布である可能性がある。

taro: [ga h!aka[smaqtaru. 太郎に書かせた。 ga 格

taro: [p!aras[maqtaru. 太郎を走らせた。対格=直接補語の φ 格

▽動詞の目的形 ~N (状況語)

動詞の目的形は格語形ではなく動詞の語形のひとつであるが、その形式は方言により、共通語の二格相当であったりへ格相当であったりする。しかし、この方言ではここでとりあげた与格相当のどの格形式ともことなる~Nの形式をとっている。(用例は省略)

4. おわりに

調査初年度の波照間島方言の印象であるが、今回とりあげた名詞の与格相当の格語形は、これまでに調査した西表祖納方言にくらべて種類が多く、また、動詞の語形もかなり豊かで複雑におもわれた。次年度の調査で形態論の概要を明らかにしたい。

参考文献

- ・ Pellard, Thomas (2015) “The linguistic archaeology of the Ryukyu Islands,” in Heinrich, Patrick, Shinsho Miyara, and Michinori Shimoji eds. Handbook of the Ryukyuan languages -History, structure, and use, Vol.11 of Handbook of Japanese Language and Linguistics, Berlin/Boston/Munich: Mouton de Gruyter, pp.13-37.
- ・ パッパラルド, ジュゼッペ (2012)「波照間方言 2 変種の音響音声学的比較」,『音声研究』, 第16巻, 第1号, 6-15頁.
- ・ 麻生玲子・小川晋史 (2016)「南琉球八重山語波照間方言の三型アクセント」,『言語研究』, 第150巻, 87-115頁.
- ・ 麻生玲子 (2020)「南琉球八重山語波照間方言の文法」(博士論文)

竹富町波照間 2019年11月30日調査 阿利盛八 (アリセイハチ) (1934.1.20生)、波照間南集落、85歳M	
1	本土の人もヘチマを食べるかな？ jamatu[nu] p!ituN nabi[ra] hoNka[ja]:?
2	我が家では、夏になったら、ニガウリを毎日食べている。 ba]hija: na[ci] narucja(r)a go:[ja:] me:ni[ci] hebirjaru.
3	今日の朝、何をゾ食べたの？ kju:nu slitumuci nu:[ru] hoq[ta]ra?
4	冬瓜を食べた。 s!ipuriN] hoqtaru.
5	このサツマイモは誰がゾ食べるの？ k!unu] aga[n<ia>] taNdu heba?
6	姉さんがゾ食べる。私はたべない。 amaNdu] ho:. ba[na] hanu.
7	お前がゾ天ぶらを全部食べたろう？ daNdu [siNpura gas!i]ta hja:[sa]:.
8	私は一つ食べた。 bana: [p!ituqsiru] hjaqta[ru].
9	残ったものは、全部母さんがゾ食べた。 noga[rja]ru mun<ua> [gas!i]ta a[b<oa>Ndu] hjaru.
10	お前もバナナを食べるだろう？ daN ba[sa]na[ri] ho:na:?
11	父さんもバナナ食べるかなあ。 ijaN] ba[sa]na[ri] hoNka[ja]:?
12	父さんも食べるだろう。 ijaN] ho: p!azid<o[a>/p!azido[:re]:.
13	誰がゾお菓子を食べたのかなあ。 taNdu [ko:si] ho:qtaqka[ja]:?
14	お菓子は弟妹たちがゾ食べたろう。 ko:s<ia> [ututuN]daNdu [hjaru] p!azido[:re]:.
15	そこに置いた魚は誰がゾ食べたの？ nau s!ikjaqtaru] ju:ja taNdu [hjabal]:?
16	犬がゾ食べたのかな。 inuNdu] hjaqkaja:?
17	隣の猫が食べたはずよ。]t!unarinu majunu hjaru p!azi.
18	食べるなっていったのに、食べたのか？ hoN]naq[te] in<ia>qta munu [hja:s!i]ta?
19	兄さんがゾ食べたから、私も食べた。 sjamaNdu] he:[ki] ba[nuN] hjaru.
20	兄さんがゾ食べたの？ 本当なの？ sjamaNdu] hjaqka[ja]:? [huNto]na:?
21	兄さんは三つ食べた。 sjama: mi:q]si hja[wa]:.
22	おまえも食べたろう？ おまえも見たろう？ amaN] hja[Nsa]:? [daN] miq[ta]sa:?
23	昨日食べたソバはおいしかった。]s!inu hoqtaru suba: mahaqtaN.
24	今日も一緒に食べよう。 kju:N] ma:[zi] ha:.
25	今日は石垣に食べに行こう。 kjo:a isas!imaqci] heN N[ga]:.
26	ご飯を食べながらテレビを見るな。 mu]nu heNcana [tere]bi] miru[na.
27	ご飯を食べながらテレビを見るな。 mu]nu heNci [tere]bi] miru[na.
28	片付けるから、急いで食べる。 k!atas[ki]jagara [s!iku] he:.

29	ぜんぶ食べるまで待て。	gas!ita] ho:kami maci.
30	お前が食べきれないなら、俺が食べよう。	da:] he:s!a[naq]cjara [ba:] hoN.
31	これは私が食べる。	k!ur<ia> [ba:] hoN.
32	食べるならぜんぶ食べろ。残すくらいなら食べるな。	ho:mujaqcjara [gas!i]ta he:.noga[su s!ukueq]cja [hoN]na.
33	明日食べるコメを買ってきてくれ。	aqca] ho: mii: ke:[ki] hiri.
34	おじいさんはご飯を食べて薬を飲んだか。	buja:] mu[nu] he:s!ita: [h!uciri] nu[mja]na:?
35	おばあさんは夕ご飯を食べて寝た。	pa:] jumu[ne:] he:s!ita nuff[fa]ru.
36	兄さんは昼飯を食べてから畑に行った。	sjama:] p!ismaru mu[nu] he:s!ita: [p!iteci Ngja]ru.
37	明日もサシミを食べるから、買って来い。	acaN] nama[si] hoegara ke: [ku:.
38	今日食べたから、明日は食べなくてもいい。	kju:] hja[e]gara [aqca:] ha[na]baN [misjaN.
39	これを食べたら元気になるよ。	k!uri ho[cja]ra [kuNki skuN]do:.
40	これを食べたらよく眠れる。	k!uri hoq[cja]ra ju[:] nuffairuN.
41	これを食べても元気がでないよ。	k!uri hebaN kuNki N[dunu]d<o[a>.
42	その豆腐は腐っているから食べるな。	k!unu [to:fu fcaradai]gara ho:na.
43	お湯は沸かしたから、沸かさなくてもいい。	jua f[ke:]gara f[kahaN]baN mi[sjaN.
44	この子は肉はよく食べるのに野菜は食べない。	k!unu uq[tama] ni[kua] hoNs[ka] ja[seal] hanu.
45	これを食べたのに眠れなかった。	k!uri] hjaq[taska] nuffa[ruN]taN/nuffaru[na]taN.
46	本土の人はヘチマは食べない。	jama[tu]p!it<ua> nabi[ra:] hanuN.
47	姉さんがゾ食べなかった。	amaNdu] ha[naq]taru.
48	腹いっぱいだから(ゾ)食べないんだ。	baq[ta] Nciki([ru]) ha[na]ru.
49	姉は食べなかった。	ama:] hanaqtaN.
50	父さんはこれを食べないだろう。	ija:] uri hanuNd<o[a>.hanu] p!azid<o[a>.
51	姉さんは食べなかっただろう。	ama:] ha[naq]ta p!azid<o[a>.
52	本土の人はヘチマを食べないかな？	jamatu[p!it<ua>] nabira: hanuqka[ja]:?
53	食べろっていったのに、食べなかったのか？	he:q[te] en<ia>taska hanasita:?
54	何故ゾ、ヤギ汁を食べないの？	nu:qtaru] p!imizanu su: ha[na]ba:?
55	だれがゾこれを食べなかったの？	ta:Ndu uri [hanaq]tara?
56	お前はヤギ汁を食べないんだらう？(>うん、食べない。)	da: p!imizanu [su:] hanu[sa]:? > a[i] hanu.
57	お前はお粥を食べなかったんだらう？	da: okaju hanaqtasa]:?

58	父さんはヤギ汁を食べないかなあ。	ija: p!imizanu su:] Ngio[raN]ka[ja]:? (敬語) /hanuq[kaja]:?
59	何故ゾ、お菓子を食べなかったのかなあ。	nu:qtaru] ko:[si hanaq]taqka[ja]:?
60	誰も食べないのに芋を煮た。	ta:N] hanu munu a[gaN] baga[hjas!i]ta.
61	これを食べなかったけどよく眠れた。	k!uri [hana]tas[ka ju:] nuffa[raq]taN.
62	誰も食べない物は買うな。	taN] hanu muna: [ko:]na.
63	ぜんぶ食べないけど、片づけられた。	gas!ita] hanus[ka] uskuma[:s!i]ta.
64	雑炊を食べなかった子供にはお菓子を食べさせない。	zo:si: hanaqta uqtamaga ko:si haha]nu.
65	おじいさんはご飯を食べないで薬を飲んだ。	buja:] mu[nu] hanusku[ci fciri] numja[ru.
66	明日はサシミを食べないから、買って来るな。	aqca:] namasu ha[nuN]gara ke: [k!una:.
67	昨日食べないつもりだったけど今日食べるよ。	snu] hanu [sja:mi]jaqtas[ka] kj<oa> hoNdo[:.
68	食べないなら買うな。	ha[naq]cjara ko:na.
69	これを食べなかったら元気が出ないよ。	k!uri hanaqcjara kuNki skanu]d<o[a>.
70	私は食べなくても眠れる。	ba[na:] ha[na]baN nuffairuN.
71	おまえが食べないなら、ご飯は炊かないよ。(食事の支度をしないよ。)	da: ha[na]cjara zo:s!iki [saN]d<oa>.
72	おまえが食べないなら、ヤギ汁は残るだろう。	da: ha[na]cjara p!imizanu su: no:ga[ruN]do:.
73	私が食べない前に無くなっていた。	ba:] hanu [kami] ne[na]sas!ita.
竹富町波照間 2019年10月19日調査 阿利盛八(アリセイハチ)(1934.1.20生)、波照間南集落、85歳M		
74	あしたは姉さんがゾ東京から来る。	aqca: [amaNdu] to:kjo:gara [kuqcjo:]/[kuNdo:.
75	姉さんはいつ来るの。(明日、来る。)	ama: [i]cu [kuN]ka[ja]:? / ama: i]cudu [kiba?
76	姉さんの夫も来るの?(>うん、来るよ。)	amanu] butuN [ku]na? > u]N [ku:N.
77	姉さんも来るから、孫も来るだろう。	amaN ku]legara [ma:]faN [kuNsa]:.
78	孫たちが来たら、いっしょに遊ぼう。	ma:]fa: [k!ucja]: ma:zi as!ipa:.
79	兄さんはたぶん来ないだろう。	sjama: nuq]siN [kunu]du[re]:.
80	なぜゾ来ないの。	ne:[kiru(qte) ku]naqkaja:.
81	忙しいからゾ、来ないんだ。	paNtaq]sa(:)[gi(:)ru ku]naru.
82	姉さんたちが来るなら、ご馳走をつくっておこう。	amaima k!ucjara masamunu] skuris[ka/skoris[ko.
83	おじさんも来ないの?	buza[maN kunu]na?
84	おじさんは仕事があるからゾ、来ない。	buza[ma:] sigutunu [arikiru kuna]ru.
85	おじさんも来ないから、おばさんも来ない。	buza[maN kunui]gara bu]baN kunu.

86	姉さんたちは港から車で来るんだ。	amai]ma: [minatuga]ra [kurumasi kuN.
87	姉さんたちが来ないうちに家の中を掃除しよう。	amaima kunukami] hi[nu] naga [so:zi]sa:.
88	孫たちが来たから、一緒に遊んだ。	fa:[ma:nu ki:ki] ma:zi as!ipuqtaru.
89	姉さんたちは飛行機で来て、また船で帰った。	amaima: hiko:kiga]ra [ki:s!i]ta[ki ma]ta [fnisi kairja]wa[.
90	いとこたちに来いっていったけど、来なかったのか？	buifaNda [ku:]te jaqtara [kuna]is!ita?
91	いとは島に来てから、仕事を探すそうだよ。	buifa]:[! s!imaci ki:s!i]taki sigutu t!umiN[te]nua./t!umiNcju.
92	あさっては、家にいないから、来るな。	astua] hina mono]ju]gara [ku]najo[:.
93	今日は来なくてもいいって言ったのに、来たのか？	kjuaqte [kuna]ba misjaNte [e]n<ea>taska [kja]ba?
94	なぜ、来たの。	nu:ta kja]ba?
95	用事があったから、来たんだよ。	ju:zi[nu] ariki [kja]ru.
96	昨日は来なかったんだろう？	s!inu]a [kunaq]ta[s!a]:.
97	なぜ来なかったの？	nu:]ta [kunata]ra?
98	忙しかったし、頭が痛かったからゾ、来なかった。	paNtaqsatu amaskuru] jamikiru [kunaq]ta]ru.
99	忙しかったし、頭が痛かったからゾ、来なかった。	paNtaqsatu amaskuru] jami[ki kunaq]ta]ru.
100	しあさっては君も来るだろう？	astu] ju:gaqte da:N [ku(:)]na:?
101	しあさっては君も来るだろう？	astu] ju:ga[ja] da:N [ku(:)]na:?
102	タカは今年は来なかったねえ。	t!aka:] k!utusia [kuna]is!ita:.
103	何故、来なかったのかなあ。	nu:]ta [ku]naqkaja:?
104	今年は風が吹いたからゾ、来なかったんだ。	k!utusia k!acinu h!uki[kiru] kunaru.
105	今年は風が吹いたからゾ、来なかったんだ。	k!utusia k!acinu h!uki[kiru] kunaqta.
106	来年は来るかなあ。	eN[n<ia> [kuN]kaja:.
107	タカは来ないかなあ。	t!aka: [kunuq]kaja:.
108	タカは去年は来たよ。	t!aka: [k!ucun<ia> kja]taN.
109	そうか。来たんだ。	e:saqcja]: [kja]N[saqcja]:.
110	いつ来たのかなあ。	ici kja]Nqka[ja]:.
111	だったら、今年は、来ないけど、来年は来るかわからない。	esja:] k!utusia [kunuska] eN[ni]a [kuN]du:[N] bagara[nu].
112	今年は来なかったけど、来年は来るの？	k!utusia [kunaqtaska] eN[niacja] kuN[sa:qcja]:.
113	今年は来なかったけど、来年は来るかなあ？	k!utusia [kunaqtaska] e[n<ia> [kuN]kaja:.
114	むかしは、来ない年もあった。	muga[sia [kunu t!usiN aqtaN.

115	郵便屋がゾ来たよ。	ju:biN[du [kja]ru.
116	本当に来たの？	huNtu:te kjaN]na:.
117	郵便屋が来たから、手紙があるんだよ。	ju:biN[nu ki:ki sigami aN]do:.
118	だれも来ないのに(店を)開けてあるか。	taN ku]nu munu agas!i[kjaba]:.
119	人が来るなら(店を)開ける。	p!itu [k!ucjaqta muN]te agau[wa:.
120	人が来ないなら(店を)閉めるよ。	p!itu [kuna]cja [s!imi]suq[te:.
121	夕方には人が来るだろう。	june[N] naqcja: p!itu [ku:] p!aci.
122	今から来る人には安く買わせる(売る)。	manara ku:] p!itua jaq[sasi] kas!imiru.
123	何人、来たの？	utari [kjaq]tara:?
124	私が言った通り、来ただろう？	ba [eN]ta turi [kja]uwa:.
125	うん、昨日、来た人がゾ今日も来た。	N]: s!inu [kjaq]ta p!ituNdu [kju:N kja]ru.
126	夜になったら誰も来なかったから、閉めた。	ju[ru] na[riki ta:]N kunaqtara [simaqtaru.
127	夜になったら誰も来なかったから、閉めた。	ju[ru] naqtara [ta:]N kunaki [simaqtaru.
128	以前から安く買わせたら(売ったら)、人はもっと来たのに。	me:[gara] jaq[sasi] kas!imaba p!it<ua> [ma:biN k!uta] munu.
129	安く買わせれば(売れば)、もっと来たかな。	jaq[sasi] kas!imaba [ma:bi k!utaq]ka[ja:.
130	安く買わせれば(売れば)、もっと来たのに。	jaq[sasi] kas!imaba [ma:bi k!uta] munu.
131	うん、もう少しは人が来たのに。	N]: ma:[bil]ja: p!ituN [k!uta] munu.
132	人が来ない店はつぶれる。	p!itu]nu [kunu] macija: [turaq]siru.
133	あの子は学校に行かないで、家にゾいる。	unu u[tama:] gakuci NgaNsku[ci] hi[naru] bu.
134	学校に行きながら、友だちの家に行った。	kju gakuci NgIN]cana] dusinu ja[ci] Ngjaqtaru.
135	学校に来ながら、友だちの家に行った。	kju gakuci [kiNcana] dusinu ja[ci] Ngjaqtaru.
136	友だちを連れて学校に來い。	dusi so:ri gakuci [kuba]:.
137	島に来なければ、島のいいところはわからないよ。	s!imaci kuna]cjara [s!imanu] zo:[tunu] t!ukurua bagara[N]d<uwa>:.
138	船が来るまで港で待て。	fni ku: kami] minu[nagi] maci[ba:.
139	バスが来なかったらタクシーに乗ろう。	basu kuna]cjara [takusi:naga] nuru [ma]:.
140	島に来たけど雨ばかり降っていた。	s!imaci kjaN]ska ami[ga]gi [ffis!i]ta [ma]:.
141	来年またここに来よう。	eN[n<iu>] mata [muga ko:.
142	私たちが来れば、太郎も来るって言っていたよ。	be[ma k!ucjara taro:]N [kuNte Nta]ru.
143	私たちが来れば、太郎も来るって言っていたよ。	be[ma k!ucjara taro:]N [kuNte N]taN.

144	来年来なかったら、再来年いっしょに来よう。	e[:N kuna]cjara ma:[mi:ciN] ma:zi [ku]jo:.
145	魚をたくさん釣って楽しかったから、また来年も来よう。	ju: [Ngo]bi ho[he: sanisjaq[ta]gara/sanisja[iki] maqta eN[n<iu>N ko:ra]:.
146	あいつは友達が来ても、お茶も出さない。	unu za: dusi [kibaN sataN dahanu.
147	あいつは友達が来ても、お茶も出さない。	unu za[ja] dusi [kibaN sataN dahanu.
148	あいつは人が来てもお茶さえ出さないのか？	unu za:[te] p!itunu [kibaN sataN dahanu]na.
149	だからゾ、だれも来なかっただろう。	e:kiru ta]N [ku]naqta[ba]:.
150	おまえ昨日来ただろう？（>うん、来たよ。）	da[te] s!inu [kja]ta[sa]:? > e:ki [kj<a]u>wa:.
151	明日は来ないだろう？（>畑に行くから来ない。）	aqca: kunusa]:? > p!iteci] Ngugara [kunaru.
152	子どもが来ない前に お菓子を用意しておこう。	uq[tamaN]zi [kunu kami ko:si] zjuNbi s[ka.
153	子どもが来ない前に お菓子を用意しておこう。	uq[tamaN]zi [kunu kami ko:si] zjuNbi si:s[ka.
154	子どもが来ない前に お菓子を作っておこう。	uq[tamaN]zi [kunu kami ko:si] skuris[ka.
竹富町波照間 2020年1月11日調査 田盛吉(タモリヨシ)(1939.9.10生)波照間北集落、80歳F		
155	今日は何をゾ煮るの？	kju:ja nu:]a[ru] m[busiba]:?
156	今日は、昨日掘った大根を煮る。	kju:ja de:]gu[ni] mbusuN.
157	この鍋で煮るの？	k!unu] nabi[si] mbusu]na:?
158	うん、小さいからその鍋では煮られない。	a:[i] isja[ga:]gara [k!unu] nabi[sija] mbusaru[nu.
159	どうやってゾたくさんの大根を煮るのかなあ。	ne:q[ci]ru gwa:[bi]nu [de:]gu[ni] mbusu]ka[ja]:?
160	今日のかぼちゃを煮ないの？	kju:ja kabocja mbu]sa[nu]na:?
161	昨日煮たから、今日は煮ない。	snu mbusata]gara [kju:ja mbusanu.
162	冷蔵庫に豚肉があるけど、何故ゾ煮ないの？	re:zo:ko]na [uwanu niku]N [aru]nska] neq[ci]ru [mbusana]ba:?
163	きのう豚肉だったから、今日は豚肉は煮ないだろう？	snu uwanu nikujaqta]gara [kju:ja uwanu] nikuja [mbusa]nu?
164	大根も一緒にに入れて煮ないかなあ。	de:]gu[ni]N ma:zi ira[ci mbusa]N]ka[ja:.
165	ゴボウは煮ないだろう。	gu]bo]Nja mbusanu] p!aci]jo:.
166	そうか、好きじゃないから、ゴボウは煮ないんだ。	e:]na [he]bo[henu]gara [gu]bo]Nja mbusanu]ra:.
167	今日煮ない豚肉は冷蔵庫に入れておけ。	kju: mbusanu uwanu ni]kuja [re:zo:ko]naga [i]ra[s:iki.
168	今日の魚は誰がゾ煮たの？	kju:nu ju:]ja ta]Ndu [mbu]sja]ba:?
169	その魚は母さんがゾ煮たんだよ。私じゃないよ。	u]nu [ju:]ja [abo]Ndu mbusja]ta[ro:.]ba: [aranu.
170	母さんがゾ煮たんだらう？	abo]Ndu mbu]sjata]sa:?
171	母さんがゾ煮た魚はおいしかったねえ。	abo]Ndu mbusjaru ju:]ja [mahata]N]ra]:.

172	豚肉が冷蔵庫にあるけど、何故ゾ豚肉は煮なかったの？	uwanu ni]kuja [re:zo:]ko[na [aNsuka] ne:[ci]ru [uwanu] niku]ja mbusaNtara?
173	鶏肉がゾ食べたいから、鶏肉を煮た。	koqka[nu ni]kuNdu [he]boha[ki] koqkanu [ni]ku mbusjataN.
174	鶏肉は煮たけど、豚肉は煮なかった。	koqka[nu ni]ku]ja mbusjataska] uwa[nu ni]ku]ja mbusanataN.
175	昨日も豚肉を煮たから、今日は煮なかったんだらう？	snuN] uwa[nu ni]ku [mbusjataga]ra kju:]ja [mbusanaq]ta[sɑ:]?
176	一昨日も豚肉だったから、今日は煮なかったんだ。	snu butuciN uwanu] ni[kuj]ri[ki kju:]ja mbusana]taN.
177	おばあさんがゾ煮ないなら誰がゾ煮るの？	pa:Ndu mbusana]cja [ta:N]du [mbusu:]?
178	姉さんがゾ煮るだらう。	amaNdu mbusu] p!aci.
179	お前も煮るだらう？	da:]N [mbusu]N[sɑ:]?
180	何故、豚肉は煮なかったのかなあ。	neq[ci uwanu ni]ku]ja mbusaNta]ka]ja:?
181	誰がゾ、カボチャを煮たのかなあ。	ta:N]du kabucja [mbusjata]ka]ja:?
182	そのカボチャは母さんがゾ煮ただらう。	u]nu kabucja [aboNdu mbusja p!a]ci.
183	姉さんは煮なかっただらう。	a]ma]ja: mbusaNta p!aci.
184	母さんがゾ煮るカボチャは甘くておいしい。	aboNdu mbusu ka]bocja [mahaN
185	母さんがゾ煮れば、みんな残さず食べる。	aboNdu mbuqsja mu[:]ru nugu[sɑN]skuq[ci] ho:N.
186	鍋にあったトウガンは誰が煮たの？	nabina aqta [s!ipuriNja] ta:Ndu mbusjata[ra:]?
187	さっき台所にいた姉さんがゾ煮ただらう。	manabi daidokorona buta amaN[du] mbusja p!aci
188	サトイモを煮ろっていったのに、煮なかったのか？	ju: mbusiq]ta [eN]tas[ka mbusanaq]taqka]ja:?
189	兄さんがゾ煮たから、私は煮なかった。	sjamaNdu mbusiki] ba:]ja mbusana]taN.
190	兄さんがゾ煮たの？ 本当なの？	sjamaNdu mbusjata munu]ja? [huNtu]na?
191	兄さんは食べきれないくらい煮た。	sjamaja he:]sanu [sj!uku] mbusjataN.
192	何故あんなにたくさん煮たのかな。	neq[ci] o:bina mbusjata]ka]ja:?
193	魚を煮ながらテレビを見るな。	ju: mbusiqcana terebi mi]ru]na.
194	ぜんぶ煮ないうちに火が消えた。	mu:]ru [mbusanu kami pi: ke]rasa.
195	ゴボウは煮るなっていったのに、煮たのか？	gu]bo[Nja mbusunaq]ta [eN]tas[ka mbusjata]na:?
196	誰も煮ないのに魚を買ってきた。	ta:]N [mbusanuska ju]: [ke: k!utara.
197	魚を煮ないで、何を煮るの。	ju]: [mbusanuskuci nu: mbusatara:]?
198	そんなに煮なかったのに柔らかくなっている。	esusku] mbusanaq]tas[ka] ja[ra]jarasi nari bi[rja]ru.
199	タコは煮る前に塩で揉んでから煮ると柔らかくなる。	t!akuja mbusu] me:[na] ma:su[si] mumis!ita mbuscja ja[ra]jarasi naruN.
200	魚を煮ないなら鍋をむこうに置いておけ。	ju: mbusana]cja [nabi haga na]i[s!iki.

201	母さんもそうやって煮ただろう？ 見ていただろう？	aboN [eq]ci mbusjata[sɑ:]? [mirja]ta[sɑ:]?
202	今日は豚肉は煮ないから、買って来るな。	kju:ja uwanu ni]ku]ja mbusaN]gara [ke]: [kuna.
203	昨日は、煮なかったから、今日は煮よう。	snuja mbusaNta]gara [kju:ja mbusuN.
204	大根は、肉も入れて煮なければ美味しくない。	de:guni]ja] ni]kuN] iraq]ci mbusana]cja [ma:ku]ne:]nu.
205	おばあさんがゾ煮なかったら誰も煮ないだろう。	pa:Ndu mbusana]cja [ta:]N [mbusanu p!aci.
206	おばあさんがゾ煮ないなら、私たち二人で一緒に煮よう。	pa:Ndu mbusana]cja be: ftari]si ma:]zi [mbusana]cja.
207	今日はおまえがゾ煮ろ。	kju:ja] daNdu [mbusiba.
208	お前がゾ煮ないなら、俺がゾ煮よう。	daNdu mbusana]cja baNdu mbusa.
209	これは私がゾ煮る。煮よう。	k!urja [baNdu mbusa:.
210	私がゾ魚を煮たのに誰も食べなかった。	baN]du ju]: [mbusjata[sɑ:] [ta:]N hanataN.
211	魚をおまえも自分で煮てみろ。	ju: da:]N du:]si] mbusi miriba.
212	魚を全部煮るまで待っていてくれ。	ju]: [mu:]ru [mbu]subagiN ma]ci] bi]rja]ba.
213	全部煮なくても家族の分はあるよ。	mu:]ru mbusa[na]baN mu:]runu k!umata aN.
214	魚を煮るなら、塩を少し入れろ。	ju]: [mbuscja] ma:]su(N?) [be:]bi iriri.
215	大根を煮てから、味噌汁も作った。	de:guni mbuscja mi]sju]qsuNqsu/mi]suzu]ru] skurjataN.
216	父さんは自分で魚を煮て酔の物を作った。	ija:ja du:]si t!urikjaru ju]: [mbusi sunumunu skurjataN.
217	明日はゴボウを煮るから、買って来い。	aca: gu]bo]N mbusu]gara [ke]: [ku:.
218	肉とゴボウを煮たら、アクがたくさん出る。	niku]tu gu]bo]N mbus!]c]jara [akuN] gwa:]bi]N NziruN.
219	弟がゾ魚を煮ても、だれも食べない。	ututuNdu ju]: [mbusibaN [ta:]N ha]nu.
220	その魚は腐っているから煮るな。	u]nu [ju:]ja [fcara:]gara [mbu]suna.
221	大根はよく煮るのに冬瓜はあまり煮ない。	de:gu]ni]ja] zju:]bu]N mbusuNska spuriNja [e:]bagiN mbusanu.
222	全部母さんがゾ煮たんだ。	mu:]ru a]bo]N]du [mbusjataN.
223	トウガンはおばあさんがゾ煮るんだ。ほかの人は煮ない。	spuriNja pa:Ndu mbusuN.fkanu p!]tuja [mbusanu.
224	魚を煮なかった日は、そばを食べた。	ju]: [mbusaN]ta [pi]Nja soba hja]ta]ro.

演劇をめぐる伝承・伝統の意義と役割

～2つの「中断」を事例として

前田達朗

はじめに

本稿でとりあげるのは、奄美群島の2つの地点での芸能活動である。

本研究ではこれまでも、演劇が琉球（諸）語の維持・継承の手段たりうるかということの検討を続けてきたが、引き続き加計呂麻島・諸鈍の「諸鈍シバヤ」と与論の「方言劇」の事例について考える。なにをもって芸能あるいは演劇とするのかはここでは詳しく立ち入る必要はないと思うが、個人だけの娯楽ではなく、公に披露することを目的の1つとしているもので、歌謡や舞踏、演劇や話芸などが含まれると考える。また習得のために相当のコストがかかり、「芸」として一程度の水準を要求されるので、たとえば子供のお遊戯会などは含まれないであろう。プロにもなれる可能性があるもの、という言い方もできよう。つまりある種の水準を保つ必要がある。諸鈍のシバヤと与論の「方言劇」はその水準において十分に芸能であると考えられる。なぜこのような断りをするのかということは本論の中で詳しく触れるが、比較する対象が少ない「芸能」の水準をどう獲得して維持するかが地域の大きな課題になることが見えてきたからである。2つの例とも地域の住民によって支えられているが、それぞれの地域の現状が「バイタル」ともいえる部分で大きく異なり、当然ながらそれらは演劇・芸能のあり方に投影されている。

本稿は継続的な調査の経過報告であるとした上で、明らかにすべきことは以下のようなものだと考えている。

- ・芸能・演劇の継承、伝承とことばは結び付けられているのか。
- ・「伝統」は地域文化の伝承のモチベーションとして機能しているのか。
- ・地域社会の外からの働きかけは文化伝承に有効か。

この2つの事例を並べて論ずることの意味を改めて考えたい。

まず与論と加計呂麻・諸鈍は奄美群島に位置する。同じ琉球語圏ではあるがその歴史・社会的背景は沖縄と大きく異なる。400年前の薩摩侵攻にだけその理由を求めるのではなく特に近代以降の歴史的な流れと奄美人の意識（あるいは沖縄の側にも）のある種の「乖離」と、行政的に鹿児島支配が続いていることで言語・文化のおかれる現況は沖縄（県域）と違うことは奄美群島を分けて考える理由になるだろう。

そしてこの2つの地点で扱う演劇は全く違うとも言える。「諸鈍シバヤ」は伝統芸能とされ、800年前に起源が求められると謳っている¹。これはもちろん伝説でしかなく検証する方法はない。ここで重要なのは「古く」「伝統がある」と意識されていることだ。よくある平家の落人伝説と繋げても、少なくとも地域社会では異論が出ないほど意識されているということである。E. ホブズボームが指摘するように「伝統は作られる」²のではあるが、だからと言って価値がないと言おうとしているのではない。相当の裏付け、そして何よりも時間の経過がなけれ

¹ 新聞記事なども含めほぼ全てのシバヤについての記述がこれで始まっている。

² エリック・ホブズボーム、テレンス・レンジャー『創られた伝統』紀伊國屋書店、1983

ば認められないであろう。伝説を検証できないのはともかくとして、記録の残る限りでも諸鈍シバヤは長きにわたって続いている。しかし「記録に残る限りでは」初めての中止を2017, 2018の2年にわたって経験した。一方の与論の「方言劇」は2017-18年の二回公演されたもので、新しい取り組みである。前田(2019)³で言及したように継続させることが大きな課題の1つだった。だが2019年は文化庁の補助金申請が通らず公演が叶わなかった。伝統、あるいは歴史という意味では両極端な2つの事例であるが奄美群島内では数少ない「方言」を取り扱う芸能の事例であることからそれぞれの事例の個別の報告と、そこから見えてくる伝承の装置としての共通した課題、問題などを扱ってきた。

本報告では偶然にも2つの事例が経験した「中断」を軸に地域社会の、特にそれぞれに深く関わった人々への聞き取りを記録し、上述の3つの視点を中心に分析を試みる。

1. 諸鈍シバヤと諸鈍集落

本節では奄美大島の付属島嶼とされる加計呂麻島に位置する諸鈍集落で長年続いている

「シバヤ」をめぐる近年の状況、特に2017, 18年の台風による中止について人々の語りから構成することを試みる。

1-1 諸鈍シバヤ

これまでも本研究でも何度か触れてきたが、本稿に合わせ改めてシバヤについて概括する。シバヤは毎年旧暦の9月9日に加計呂麻島、諸鈍の「大屯（おうちゃん）神社」で行われる。シバヤが演劇であるかについてであるが、音楽劇、野外劇とされている。さらに琉球列島全域にある八月踊り、豊年祭の演しものではないことが挙げられているが⁴、現在は11の演目が上演されている。紙の面（かびぢら）をつけた仮面劇と言われることもあるが、演じられる演目はかつての半分程度になっている。既述のように起源ははっきりしていない。かつては群島内を商業目的で巡業した記録もあり、1976年に国指定無形文化財になってからは何度か⁵島外で公演も行なっている。

諸鈍は現在も加計呂麻島最大の集落である。しかし加計呂麻島、あるいは瀬戸内町全体での傾向であるが、人口減は止まらない。2004年に233人だった人口が2019年には173人になっている⁶。近年の人口減少のペースは特に早い。分母が小さくなったところへの人口流出のためにより実感するところが多い。原因としてはかつての人口流出は若年層のものであったが、近年は残された老年層の死亡、もしくは転出が見られる。加計呂麻には33の集落があるが、そのどれもが過疎化しており特に医療、介護、教育の面で困難があり、それらがさらに人口減少を加速させていると思われる。加計呂麻は周囲150km、面積はおおよそ77平方kmの島であり、公共交通機関も奄美大島側と繋ぐフェリーにあわせて運行されるバスが一日数便あるだけである。島内の中学を1つにまとめる計画が持ち上がったが、特に諸鈍集落の強い反対で流れた。集落から学校を失うことが受け入れられなかったからである。美しい砂浜やデイゴ並木な

³ 前田達朗(2019) 「与論島「方言劇」～地域社会への影響」

⁴ 瀬戸内町図書館 <http://www.setouchi-lib.jp/assets/j5.html>

⁵ 最後の島外公演は2004年である。

https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/plays/view_detail?division=plays&class=min_geinou&type=series&lstart=all&sid=61&trace=detail&did=1400095

⁶ 瀬戸内町ホームページによる

http://www.town.setouchi.lg.jp/koseki/cho/chosei/jinkou/jinkousetai_2019.html

ど観光客が目指す美しい景観や、琉球王朝とのつながりも含め加計呂麻の中心地を自負し続けてきた集落のプライドは、今なお強い。

そのプライドを支えてきたもう1つのものがシバヤである。「芝居」の転訛だとされることもあるが、演じられる際に拵えられる小屋のことを呼んだものだとされている。諸鈍出身者の男性でなければ在住者でも参加できないのが「諸鈍シバヤ保存会」である。18名のコアメンバーと9名のサポートメンバーで構成されている。既述のように国指定文化財であるため年間7万円の予算が下りるが、仮面や衣装の補修などに消えていく。従って公演に伴って報酬などが発生するわけではない。前田(2018)⁷でも触れたが、2017年に長年「唄者」と呼ばれるいわばリード・シンガーを勤めた人物が死去し大きな打撃を受けたが、新メンバーで公演ができるまでの練習を積み上げた、そしてそこへ台風が直撃し「少なくとも戦後初めての」中止となった。2018年も同様の理由で中止となった。

保存会の中ではシバヤはいつの頃からか「神事」であるとの意識が強いのだが、既述のようにかつては商業目的でもあった。「神事」であることを理由に旧9月9日以外の上演を断っている⁸。このある種の思い込みは、神社の境内で行なっていると言うことに起因していると思われる。しかしかつては集落の広場で行われていたものが、神社に場所を移した記録が残っており、そもそも神事であったと言う証拠にはならない。また「神社」も他の琉球列島地域と同様に明治以降に土着の宗教の施設が神社へと転用されたものである。

「神事であるから他では上演できない」と言うのは、文字通り保存会の「体力」の問題であると考えられる。メンバーの高齢化や個人にかかる負担もあわせ年に一度の上演が限界だと言うのが本当のところだと思われる。

1-2 二度の中止

本節では2017年と2018年の上演の中止をめぐる関係者の「語り」から、その前後の集落の人々の様子を再構築しようとする。以下は2019年のシバヤについて伝える奄美新聞の記事である。

「本来の形」に 瀬戸内町諸鈍

「クガツクンチ」(旧暦の9月9日)の7日、瀬戸内町加計呂麻島・諸鈍集落の大屯＝おおちゃん＝神社で国指定の重要無形民俗文化財「諸鈍シバヤ」があった。昨年、一昨年と台風により中止となったため、今回が実に3年ぶり。見物に訪れた大勢の観客の前で紙面をつけた集落の男衆、諸鈍小中学校の子ども達、計25人がコミカルな動きの劇などを繰り広げ、笑いを誘った。「諸鈍シバヤ」は1185年の壇ノ浦の戦いで源氏に敗れた平資盛＝すけもり＝一行が、島人と交流を深めるために伝えたのが始まりと伝えられる。一時期途絶えた期間があったものの1914年に復活し、76年に国指定の重要無形民俗文化財に登録された。かつて20種目余りあったという演目は、即興的狂言、人形劇を含めて現在11種目が伝承・保存されている。2017年には台風接近により初めての中止に。翌18年は行事前に接近した台風24号により集落内に砂が吹き上がり、浸水被害がある家屋も出たことなどから、2年連

⁷ 前田達朗(2018)「与論「方言劇」」

⁸ 2015年「国民文化祭」での瀬戸内町古仁屋での公演が最後の諸鈍以外での公演である。

続の中止を余儀なくされていた。今回は行事を「本来の形」に近づけるために、アナウンスでの劇内容などの紹介・説明を省略。諸鈍シバヤ保存会の吉川久也会長(48)は「本来の諸鈍シバヤに戻していきたい」とした一方、「今後は継承のために(同小)校区内の近隣集落に声を掛けて協力を仰ぐ必要もあると思う」とも話した。演者らがホラ貝やハトを鳴らし、踊りながらの「ガクヤ(楽屋)入り」で第1部はスタート。同小中の児童生徒も「キンコウ節」などに参加した。「スクテングワ」では演者が2列に並び、両端に飾りをつけた棒を激しく打ち合い、飾りがひらひらと舞う姿に観客らが見入った。第2部はイノシシとの格闘を模した「シシキリ」で幕開け。かまを持って踊る「カマ踊り」や人形劇「タマティユ」など多彩な演目にユーモアな動きが加わり、会場の笑いを誘っていた。吉川会長は「行事は集落にとってなくてはならないもの。(中止になっていた)2年間で先代の唄者がなくなるなど存続も厳しい状況だった。子ども達にもいろいろと協力してもらって、本番を迎えることができて良かった」と語った。

(奄美新聞 2019年10月7日、強調筆者)⁹

この記事にはいくつか本節で問題にしようとしているものが含まれている。「中止の判断」「他集落との連携」「本来の姿」「唄者の交代」「存続の危機」「子どもの参加」などである。以下複数名へのインタビューを基に構成するが、回答者の情報は一切記さないこととする。その理由は言うまでもないことかもしれないが、小さな地域社会のため誰が話したかで、禍根が残る可能性が非常に高いからである。匿名を条件に話をしてもらった人もいる。そのため属性がわからない形で「 」をつけて引用するが、その中に間違いがあったとしたら全て筆者の責任である。「事情を知る人々」と言うことしか言えない。何度か繰り返しているが、2017年の中止は大きな衝撃であった。そもそも旧暦の9月9日あたりは台風の多いシーズンであり、これまでも上演が危ぶまれたことはあったが、記録上初めての中止と言う判断に至った。シバヤのもう1つの姿は観光資源としてのそれである。これを目当てに観光客も来るようになり、例年盛況である。けして広くない神社の境内は人で溢れかえる。この時ばかりは普段は人気のない諸鈍も活気を取り戻し、集落の人々はかつての姿を思い描くことができる。瀬戸内町行政も大いに期待、利用をしているのだが「集落の行事だから」とコミットすることはしない。臨時のものを除いて予算措置も特にされていない。中止を巡っては保存会の中でも議論があったが、町営のフェリーの欠航が決まったことと台風の勢力が強かったことを理由に中止が決定された。しかし、別の「迷い」もあった。同年5月に長年¹⁰唄者を勤めたU氏が逝去する。集落のダメージは大きかった。保存会は当然新体制を組んで、例年以上に練習に打ち込んだが、「不安もあり、(中止に)正直ほっとした部分もあった」。この「旧暦の9月9日でなければいけない」と言う縛りは「伝統」の一部であろう。土日や休日に合わせることなく続いてきた伝統は日程を変えて上演することが許されない。「日程を変更しようと言う話にはならなかった」。保存会の人々は一年をかけて準備している。それぞれの演目を演じようとするとなんかの練習がいる。シバヤが続いてきたのは、もちろん芸能としてのレベルが高いからである。「昔から練習は厳しく、年配の人の要求は高い」と言われる。そこまでしても中止にする、と言う判断

⁹ <http://amamishimbun.co.jp/2019/10/07/20883/> 同日の「南海日日」では「奉納」とされていた

¹⁰ 一説には30年と言うものが聞かれたが、正確な記録がないとのことだった。

がされたのであった。新聞記事の中にもあるように「唄者の交代」があったことが 17 年の中止に影響がなかったとは言えないのではなかろうか。「中止と聞いた時に、台風よりもそっちなかなと思った」と言う話も聞いた。保存会会長が「存続の危機」とコメントしているが、危機感については「いろいろだった」、と言うように保存会の中でも意見や意識が分かれていたことがわかる。「あつて当たり前」のシバヤを続けなければならないと言う義務感とでも言うべきものもまた「伝統」なのであろう。2 年目の中止の判断は台風の通過後でもあったことから「いよいよダメかと思った」と感じた人もいた。集落の被害は確かにあったが、繰り返すが台風の影響はあるものとして人々は生活している。そのように捉えられても仕方がないところではあるが、保存会の中でも激しい議論があったと言う。その中で持ち上がったのが「諸鈍以外の集落からの参加」である。これまでも「例外的に」中学生までは諸鈍以外の子供も参加が認められていた。排他的だとの批判ももちろんあったが、特に高齢者の中には抵抗があった。少なくとも 5 年前には「大きな声では言えないこと」であった存続の危機を感じたからこそ保存会の会長という立場で公にコメントが出る、と言うところまで来たのだと考えられる。

「子どもシバヤ」¹¹と呼ばれるものがある。保育園や幼稚園あるいは小学生がいわば真似をする。これについては拙くとも、どこに住んでいても、あるいはどこから来ても「許される」。しかしこれもまた子どもにさせていることで「続いている」という錯覚に過ぎず、その後全く繋がっていなかった。諸鈍の子どもがその中にいなければ、その後本物のシバヤに参加することはできず、文化伝承でもなんでもなくただのお遊戯に過ぎない。また近年はメンバーの不足も相まってシバヤの本番に中学生や小学校高学年の児童が特定の演目に登場するが、これも中学生までであってそれ以降は諸鈍小学校の校区住民でも諸鈍出身者でなければ参加できない。シマグチの伝承活動にも言えることだが、「子どもへの依存」と「集落のプライド」が伝承活動の途絶という結果を招いたのは間違いない。受け手とされる子どもの不在に結論づけられているが、実は伝承が必要だったのは子供達だけではなかった。諸鈍に限らず「お年寄りに昔のことを習う子どもたち」というストーリーが美化されているが、「効果」という意味では限定的であった。彼らはやがて間違いなくシマを離れ、多くは戻らない。集落の行事や生活を支える世代はシマグチを知らないままであった。そしていまその受け手がいなくなり以前のような伝承活動は途絶している。

加計呂麻島の他の集落では、豊年祭の時にシバヤの「楽屋入り」と同じ曲、同じリズムで練り歩く際に「諸鈍の真似をする」と言う歌詞がある。また対岸の大島側の油井集落には「豊年踊り」と呼ばれる、同様に仮面をつけ一部シバヤとほぼ同じものが存在する¹²。別のものと考えるか、模倣とするかはともかく、シバヤの影響力と「権威」はそこここに残る。それが揺らいだと考えるのか、時代の変化と考えるのかはともかく、「伝統」は頑なである必要があり、それ故に伝えられたものもあるが、支える力も必要であった。その力が今の諸鈍集落にあるのかが問われ、人々は変化を受け入れようとしているように見えるのである。

ただ「やめてしまおう、という話は一度も出ませんでした。しんどいな、という言葉はあり

¹¹ 例えば次の記事のような「おめでたい」が「血や伝統」が強調されるような表現がされることも多い

<http://www.nankainn.com/culture/%E5%9C%92%E5%85%90%E3%81%8C%E3%80%8C%E8%AB%B8%E9%88%8D%E3%82%B7%E3%83%90%E3%83%A4%E3%80%8D%E5%AE%8C%E3%82%B3%E3%83%94>

¹² <http://www.setouchi-bunkaisan.com/time/100>

ましたが。シバヤがなくなることは想像できなかつたです」というように、2年連続の中止を乗り越えたのもまた伝統の力である。ただ2年のブランクは歌や踊りを含む演技のレベルの低下も心配された。「以前と変わらない素晴らしいものであった」という評価も比較が難しかったであろう。激しい動きをとまなうシバヤにメンバーの高齢化は確実に効いてくる。

また「本来の姿に戻す」というのは、観光コンテンツ化を目指した、つまりはシマグチを理解しない観客のために行われていた日本語による解説をやめるということであった。「間が空きすぎていた」と進行上あるいは演出上も邪魔だと考えられていたようだが「シマグチの空気がダメになる感じがした」とのコメントもあった。前田(2017)で触れたように「口上」と呼ばれる劇への導入も日本語になってしまっていたように、歌の歌詞以外はシマグチが存在感を失っていた。

2000年代初頭、「シマグチ」伝承運動が盛んだった頃、諸鈍は「こどもたちのシマグチがうまい」と言われていた。コンテストなどでも他の集落を寄せ付けぬ強さで、それも集落のプライドを支えた。もちろん大人たちの間にもあったのだが、中学生や小学生の中にも「シバヤに出たい」といういわばポジション争いがあり、その中でシマグチも要求され、磨かれていった。コミュニティにバイタルがあったその頃に戻れる可能性は極めて少ないが、諸鈍だけでなく加計呂麻全体で、あるいは移住者なども排除しないコミュニティの再構築がかなえば、現状を打破できる可能性はあると考える。

2 与論「方言劇」の中断と人々の反応

前田(2019)¹³で明らかにしたように、2017、18年の二度にわたって行われた「方言劇」の活動は地域社会に大きなインパクトを与えた。しかし文化庁の助成金が原資であり、ある程度予想もされていたが3年連続の助成はかなわなかったため、結果途絶することとなった。このことが地域社会に落とした影と人々の反応を見ることが本稿の主な目的となる。

2-1 これまでの「方言劇」「もう一つのあじにっちえ（按司根津栄）伝説」と「空亡」

2017年の初回の「方言劇」のタイトルと2018年の2回目のものである。按司根津栄の伝説は15世紀の北山王朝による与論侵攻に一人立ち向かい琉球軍を一度は押し戻したという英雄伝説をモチーフに、SETの坂田鉄平の脚本、白土直子の演出によって制作・上演された¹⁴。SETはこうした都市部以外での地域住民と演劇を作る活動の実績があり、その点も採択の材料になったと考えられる。白土も経験は豊富で、演劇経験のない人々を集め短い時間で仕上げるという困難な作業ができる演出家、舞台監督といえる。脚本は書き下ろしで台詞のうち「方言」の部分は主に今の与論の若者たちがタイムスリップしたときの「昔の人」が話す言葉であった。その他は琉球の侵略軍も含め東京語を話していた。沖縄から音響と照明のスタッフ、劇団のプロの俳優が一名助演という形で参加し、白土の不在時には演技指導も行った。およそ三ヶ月という準備期間であったが、この条件の中では完成度の高いものであり、与論の人々へのインパクトは大きかった。この劇をきっかけに特に子どもたちが伝説の人物に興味をもち、祀られている場所や集落を訪ね、小学校の授業としても取り上げられるなどの想像していなかった効果

¹³ 前田達朗(2019)

¹⁴ 前田達朗(2018)

があったという。

その「実績」を受けての二回目、二作目の「空亡」（くうぼう）は脚本のコンペが行われ、応募作のうち末吉功治の作品が選ばれた。末吉は沖縄の劇団 TEAM SPOT JUMBLE (TSJ) の所属であり、沖縄で制作され全国的に知られることとなった戦隊もの「琉神マブヤー」¹⁵の重要なキャラクター「龍神ガナシー」役として人気の現役俳優である。与論でも子どもたちはマブヤーとガナシーを知っていた。TSJ もまた SET を主宰する三宅裕司の発案で 2005 年沖縄を地盤に活動を行う劇団として立ち上げられたものである。末吉自身東京での生活経験があり「ことばについて辛い思いをしたし、シマの言葉には思い入れがある」とのことであった。人々の意識は変わりはじめ、新しい動きや見直しも始まっている。とらえ直されているいちばん大きな物はもちろん「方言」である。演劇を続けたいと考えることは「方言」を考えることである。人々がこれまでの二回の公演を到達点と考えていないのは演劇としての完成度だけでなく「方言」で劇をするという目標が形になって見えてきたからであろう。また観客、地域の人々の反応も好評で、3 回目がかなわなかったことについて残念がる声が多く聞かれた。

与論というコミュニティと演劇という手法はこれまでのところうまく合っているように見える。コミュニティの紐帯、若い世代と移住者の存在感、沖縄との距離などがうまく作用していると考えられる。そしてなによりこのサイズのコミュニティであるにも関わらずじつに多くの才能が与論にはあると感じさせられた。

2-2 中断への反応と新しい演劇活動

地元でもある程度予想されていたが、2019 年度の文化庁の助成金の不採択は「方言劇」活動を途絶させた。この助成制度はいわば「両刃の剣」ともいえる。あえてネガティブな面から見ると、地域の人々だけではすぐには作れないレベルのものを経験できる、ということは外からの力に頼らなければなにもできないということを経験することでもある。「劇団を作りたい」「自分たちの力だけで作る体制を整えたい」と上演後の演者を中心とした人々へのインタビューでの答えがあったが、それらが整うまでには至らなかった。したがって今年度はこれまでのものと直接つながる活動は見られなかった。最大の課題としてあげられていたのは脚本をはじめとする制作側の技術をどのように獲得するか、であった。演じることへの自信を獲得した多くの人々がいたが、一方でそれは与えられたものであることも理解されていた。もちろん資金の調達や規模も問題となってくる。この先にも助成が獲得できる可能性は十分あるが、今回の途絶は想像以上に早い「現実」であったというのが地域の戸惑いにも似た反応だった。方言継承に効果的だという手応えがあっただけに残念だが、自分たちでできる方法を探す必要がある、というのが複数の人々に共通した見解であった。そしてリーダーの不在を問題としてあげる人も多く、人間関係の濃密な地域社会での難しさはあるだろう。それゆえ外部からの参加がやはり必要¹⁶だろう。

一方で別の演劇活動が与論で起こって活動が始まっている。「野生を編む島」という劇団が第一回の公演を 2019 年 10 月 11 日に公演を行なった。劇団を主宰する沖たかとし氏は与論出身で、東京在住時代に中野でアイヌと沖縄出身者を中心に行われる多文化を標榜した「チャラ

¹⁵ 2008 年から放送開始。マレーシアではリメイク版が制作され人気を博した

¹⁶ 前田達朗(2019)

ンケ祭」に関わっていた。2016年に与論島に戻り現在も在住である。東京での活動で知り合った演出家、小池博史¹⁷氏の手法である身体表現を中心とした演劇活動の与論からの発信を着想し、上演に至った。沖氏がめざすのは「与論を表現すること」だと言う。与論性、与論らしさとは何かということを追求したいと考えている。10月の公演には「方言劇」に出演し中心的な役割を果たしたメンバーが2人いる。「方言劇」の存在は知っていて、公演も見たが自身の活動と直接の関係はないと考えている。しかし「（与論）を表現しようとしたら、「方言」を使いたい」と考えている。脚本や演出について勉強をして、自分で作り上げたいとも考えている。

5000人程度のコミュニティである与論町だが興味や才能をもった人材が多く、統計には現れないバイタルの高さが見える。（たとえば諸鈍集落がある瀬戸内町は高齢化率が35%、与論町は31%ほどで有意な差があるとは考えにくい）。「野生を編む島」の公演も150名程度の観客を集め、会場は満席であった。特定に人々だけでなく一般の関心も高いと言える。

演劇が効果的な手段であることは特に直接関わった人々には、強く感じられている。「身の丈にあった」方法が模索され始めていた。距離の取り方に困っていた行政も状況は把握していた。距離の近いコミュニティゆえであろうが「まずは町民主体の活動が立ち上がって、それを助成していくというのが健全な姿だろう」というのは、与論町の文化事業の責任者である教育長の弁である。

おわりに

諸鈍で見られたのは、繰り返しになるが「伝統」の2つの側面であった。あるいは「伝統芸能」と呼ばれるものに共通していると思われるが、様々な「縛り」があり、それ故に変わる、あるいは変えることは躊躇われて結局は前例を踏襲すること以外のことできない。もちろんその「縛り」がルールとして機能するだけの力が集落にあった頃には意味があったかも知れない。既述のように2000年代初頭のシマグチ伝承活動が盛んな頃にはシバヤの存在こそが諸鈍の人々のプライドとシマグチの能力を支えていた。しかしいわば縮小再生産しかできない集落の現況には負の効果をもたらしているようにも見える。その顕著なものは、諸鈍集落出身者以外はシバヤに関われないと言うものだろう。だが一方で2年のブランクを経てもなおシバヤを開催できたのは、いろいろな選択、例えば規模の縮小ややめてしまうことも含めた見直しを押し留めた。存在することが当たり前でそのことを疑わないのも、やはり「伝統」の力であろう。伝承すると言う選択は今の集落には相当の負担であるが、構成員の誰もがそれを言わずに「復活」と言ってもいいシバヤの再演にこぎつけたのは、強制力とまで言うところ集落の人々には抵抗があるだろうが、大きな力が働いていることは間違いがない。

与論の「方言劇」の中断が人々に惜しまれていることと諸鈍シバヤを復活させたものは同じなのだろうか。もちろん現時点では答えは出ないが、与論の人々もまた「伝統」を欲しがっている。固有の芸能に乏しいことには既に何度か触れたが、助成がいつまでも続くものではないということも分かりながらも、続いてほしいと望んでいたことからわかるように、継続することに地域社会が安心感を持てるのは間違いがない。これまでにないインパクトが地域社会にあり、人々の気持ちは確かに動いた。そして「縛り」がないことは、いま様々な動きにも繋がって

¹⁷ 小池 博史；演出家・作家・振付家。TVディレクターを経て1982年パフォーマンスアーツグループ『パパ・タラフマラ』を設立。代表作に「パレード」「SHIP IN A VIEW」「三人姉妹」等

る。そしてその動きの中にいる人々はユンヌフットゥバの意義をそこに見出そうとしている。それができるのは与論ではユンヌフットゥバへの危機感もあるが話者もいることから、希望が持てるからだ。この調査を通じて見えてきた。コミュニティのサイズは大きく異なり、「与論」と言うくくりも適当かどうかは疑問であるが、諸鈍集落が失った言葉のバイタルがまだあると感じられることで生産性を持つことが見込める。

奄美群島と沖縄の違いはここにあると考える。石原(2018, 2019)の報告にもあるように現代的な手法や題材を取り入れた演劇活動ができるのは、少なくとも沖縄の中南部の人口集中地域には、しま言葉を日常的に使う能力、新しいものに対応しさらに生み出す能力がある人的な資源がまだあるということである。

諸鈍の事例は、厳しい言い方になるが、変わらないと生き残れないと言う随分と言い古されたことの典型例であろう。ただ「継承」と言う視点からいくと言語にせよ、あるいは文化全体にせよ変わらないことに意味を我々は見出している。人間の精神活動の総体を文化と呼ぶとすると、変化は自然なことで、それを受け入れないようにするために費やされる様々な努力が必要なのは当事者以外も考えなければならないことだろう。伝統は確かに伝承のモチーフでもあった。変わらないことから得られる「安心感」は確かに存在する。必要なものかもしれない。しかしそれを維持することに耐えられる体力がコミュニティにあるかどうか、さらにそれ故に失うものがあるかもしれないことに気付けるのは、内側にいる人ではないとこれまでの二地点の調査で強く感じる。諸鈍の「伝統」はさらに外部からの侵入を拒んでいる。集落の人口が減る中で苦しんでいるのは、与論の「方言劇」にたびんちゅ〜旅人と呼ばれる人々が活力を与えているのと実に対照的である。諸鈍の伝統は今重荷になっているのではなかろうか。外部からの力を借りることも現状を変える有効な手立てに見える。

与論の人々の様々な経験の積み重ねが将来的には「伝統」となる可能性はある。与論オリジナルの、沖縄のものでも奄美群島の他の島のものでもないものを見つけよう、作り上げようとしている。その場所への演劇の導入は実に効果的であった。人々は与論とは何かを問い直し、伝説やユンヌフットゥバをできるだけ盛り込み「与論性」を投影しようとした。わずか2回の実践であり、過去のもの、あるいは古いものの象徴であったのはユンヌフットゥバの現状を投影しているだけではなく、伝統や歴史、あるいは古さの中に正統性を感じ求めているからであろう。その模索が始まったばかりであり、外からの大きな力、この場合は助成金であるが、が途絶したのはやはり大きなダメージだった。現状では与論の人々だけの力での活動は限定的で、二回の「方言劇」が与えた影響ほどのものは得られていない。今後の経緯を引き続き見ていく必要があると考える。しかし与論も諸鈍も、中断が見直す機会になっていることが見られた。

演劇が、どのような形態や方法を取るにせよ、ストーリー性を持つと言う意味で言語は必要なツールであるし、地域のものであろうとすれば、地域言語は外せない。長く続くシバヤでも始まったばかりの与論の「方言劇」でもその「機能」は変わらない。シマの言葉を使うが故の様々なコストを理解してもなお、自分たちのものであるためには諸鈍のシマグチとユンヌフットゥバでなければならない。「伝統的」なものとは始まったばかりのもの、双方で同じ役割を担っていることから、演劇、もしくは芸能はシマの言葉を次の世代に繋ぐものであると言えよう。それが目的ではなかったシバヤもともかくとして与論で芽生えつつある演劇活動でそのことは強く意識されている。作り上げるためには時間や労力を要するが、何よりも演じることの楽しさを経験者たちは強く語る。

また地元行政の関わり方もおよび腰の感を拭えない。諸鈍の瀬戸内町も「地域の宝」などと利用もしながら一方で「集落の行事」との理由で積極的な関わりをさけている。与論町にも「ある種の「戸惑い」があった。外部資金で行われる事業にどれだけコミットしていいかの距離感がつかめずにいた。その姿勢には町民からの批判もあった。また多額の助成を行う文化庁であるが、単年度だと地域の人々の準備の時間が乏しい。地域になにかを根付かせるためには一度や二度では難しいと考える。

参考文献

- 石原昌英 2018 『しまくとうば劇の効果について』（平成 29 年度）危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』琉球大学国際沖縄研究所
- 石原昌英 2019 『しまくとうば継承しまくとうば劇』 「平成 30 年度危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」琉球大学島嶼地域学研究所
- エリック・ボブズボウム、テレンス・レンジャー 1983 『創られた伝統』紀伊國屋書店
- 前田達朗 2013 「経験としての『移民』とそのことば」『ことばと社会 12 号』三元社
- 前田達朗 2018 「与論『方言劇』」『（平成 27 年度）危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』琉球大学島嶼地域学研究所
- 前田達朗 2019 「与論島『方言劇』地域社会へのインパクトと『旅人～たびんちゅ』の役割」 「平成 30 年度危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」琉球大学島嶼地域学研究所

ニュースピーカーとしまくとうば劇の効果

石原昌英

1. はじめに

しまくとうば劇の効果に関する調査は令和元年度で3回目である。平成29年度の調査では沖縄ハンズオンNPOでしまくとうば劇に演者・地謡（じかた）として参加した男女の若者にグループインタビューをし、また、しまくとうば劇に演者として参加したハワイ出身の沖縄系アメリカ人4世の20代の女性にインタビューした。平成30年度の調査では、劇団創造でしまくとうば劇に演者として参加した50代の男性にインタビューをした。この2回の調査でわかったのは、次のようなことである（石原2018, 2019）。

- 1) 若者達は、劇を通してしまくとうばが自分たちのことばでもあることを自覚するようになった。
- 2) しまくとうばをより深く理解できるようになって、沖縄民謡の意味を考えて歌えるようになった。
- 3) ある程度しまくとうばの文法的知識を得てから、劇に参加した方がよい。台本は日本語としまくとうばの併記が望ましい。
- 4) 若者は、しまくとうばを用いながら年配者と交流をすると、年配者がより深いところまでところを開くようになったと感じた。
- 5) ことばは使われなくなるとなくなってしまふことを実感した。
- 6) だれが、どこで、どのような観客を対象にしまくとうば劇を上演するかで、台詞のことば（沖縄芝居ことば、やんばることば、宮古ことばなど）を変えた方がいい。
- 7) 指導者は、演者がしまくとうばを母語としていないことを踏まえて指導すべきである。間違えたときに頭ごなしにしかってはいけない。

今年度の調査では、12月26日に琉球大学において、プロの沖縄芝居役者である夫婦が指導するうちな一芝居講座に5年間にわたり参加した40代前半の女性にインタビューを行った。

2. プロが指導するうちな一芝居講座に参加して

沖縄芝居俳優の平良進と故平良とみが指導したうちな一芝居講座に5年間にわたり参加した大城智子（敬称略：氏名を示すことに了解を得ている）に2019年12月26日に1時間程度インタビューした。この節ではその内容について記し、分析を試みる。

大城は、幼い頃祖父母・両親と一緒に住んでいた。祖父母は大城の両親と話す時はしまく

とうばで話したが、孫である大城との会話では日本語のみが使われていた。そのような言語環境で育ったので、大城にはしまくとうばで話すという機会はなかった。しかし、大城はしまくとうばが使われる家庭でそだったので、聞いて少しはわかるようになっていた。

大城がしまくとうばを初めて学んだのは沖縄県にある大学に在籍したときである。大学では英語系の学科で学んだが、4年生の時に所属したゼミでは指導教員の方針で学園祭において学生によるしまくとうば劇を上演していた。そのことを知っていた大城は、「自分がしまくとうばをしゃべると祖父がよろこぶかなと思って」そのゼミを選択したようである。台本は日本語で書かれていて、演者として参加した学生は日本語の台詞を家族等の協力を得てしまくとうばに翻訳して、それを覚えることが指示された。大城は、祖父はことばが聞きづらかったので、父（現在は70代半ばで、しまくとうばが使える）の協力で翻訳作業を進めた。父親は、最初は戸惑っていたが、なれてくるとスムーズにしまくとうばが出てくるようになったので、翻訳作業が進んだ。大城によると、父は最初のころは、「自分は方言札をかけられて、うちなーぐちを話さないように教えられたのに、なんであんたは、なくなろうとすることばをおぼえようとするのか」と冗談を言っていたが、よろこんでいたようである。大城は、「台詞を覚えると、父と祖父に方言で話すことができ、父と祖父が話していることが理解できるようになったのでうれしかった」と語った。大城によると、劇を観た父と祖父は感動し、祖父は「智子がしばいしー（役者）になったらどうしようかね」と冗談をいうほど、喜んでいたようである。

練習は本番の3ヶ月前から始まったが、本格的に取り組んだのは1ヶ月前からである。演者が翻訳してきた台詞は様々な地域のことばが反映されていたが、ゼミ生はその違いがどのようなものか知らなかったため、違和感を感じることなかった。オリジナルが日本語であったので、しまくとうばの台詞の意味は、ほぼ理解していた。ゼミ生が劇を離れて、覚えた台詞の言い合いをすることはあっても、会話にしまくとうばを使うことはなかったようである。大城によると、学生は、しまくとうばを使って会話をしたいと思っはいるが、どう言えばいいのかわからない、聞いてもわからないので、結局日本語になってしまったようである。

大城は、大学でしまくとうば劇に参加し、少しだけしゃべれるようになると、このことばを誰が残すのかと考えるようになった。周りはみんなしゃべれないので、祖父が亡くなったら、だれがしゃべるのかと思ひ、しまくとうばの消滅の可能性を感じて、あせってしまった。

大城は大学卒業後久米島町の中学校で英語教員として勤めた。文化祭で大城たちが大学で上演した劇の台詞を半分以上は日本語に戻して、中学生に演じさせた。劇を観た地域の人たちも喜んでいて、生徒達の自信にもつながったと思った。最後に、生徒が「わったー芝居はチャーやいびーたがやー（私たちの芝居はどうでしたでしょうか）」と聞いたら、観客が涙を流して喜んでいたので、「芝居はいいなあ」と思うようになった。子ども達は家で祖父母としまくとうばで話すに通じたので、うれしかったようである。

大城は、久米島町の中学校で勤務したのちカナダに留学し、帰国してから平良進・とみ夫妻が指導するうちなー芝居講座のことを知った。中学校で生徒達といっしょにしまくとう

ば劇をやりたいとの思いもあったので、講座に参加するようになった。講座は1年間に4回あった。各講座で受講生は1週間に1回の頻度で10回のクラスで学び、最後には芝居を上演する。講座は10名程度が参加し、年代は20代から50代までで、しまくとぅば能力はさまざまであった。平良夫妻はしまくとぅばを用いて指導をしたが、夫妻のことばを理解できる者もいれば、「え、いま何て言ったの?」というレベルの者もいた。夫妻が指導にしまくとぅば使ったので、聞く練習にはなった。講座では、平良夫妻から、台詞の言い方や所作・立ち回りを細かく指導され、鍛えられた。芝居で使うことばは、標準を那覇方言においた芝居言葉であった。

大城によると、講座で学ぶ劇の題材は歌劇、時代劇と現代劇であった。最初は、歌に載せた方が、受講者が台詞をいいやすいであろうというので、歌劇をならった。3回目あたりからは、普通の台詞をしゃべる芝居に変わった。受講生が台詞のある芝居のほうが楽しいと言ったら、平良夫妻も賛同して芝居を指導するようになった。歌劇では、指導者の平良夫妻が歌うのを復唱する形で歌を覚えた。普通の芝居では、平良夫妻がいう台詞を録音して覚え、同じような発音・抑揚（イントネーション）で台詞をいう練習をした。うちな一芝居では、もともと台本がなく、口承で覚えていた。講座では、簡単な台本はもらうが、「あんだ、これも言いなさい。あれも言いなさい。」で、どんどん台詞が増えて、覚えきれなくなったので、録音するようになった。最初の頃は、しまくとぅばはそんなにしゃべれるということではなかったので、台本は必需品であった。

大城は、うちな一芝居講座に5年間にわたり参加し、出演した芝居は20作品であった。その5年間で、しまくとぅば能力はかなり向上し、平良夫妻が言うことの7割が理解でき、観客としてうちな一芝居を観ても台詞の7割以上が理解できるようになっていた。また、自分が言いたいことをしまくとぅばで言えるようにもなった。それでも、平良夫妻とは、ところどころにしまくとぅばを使うことがあっても、しまくとぅばの敬語がむつかしいので、失礼があってはいけないと思い、日本語で話していた。講座で学ぶうちな一芝居には敬語の台詞もあるが、断片的なもので、実際の会話で使えるほどの知識はつかなかった。一方で、講座参加者とは基本的には日本語で話していたが、会話の1割とか2割はしまくとぅばで話した。大城は、敬語と敬語ではない普通のうちな一ぐちを教える必要があると思っている。

大城によると、平良夫妻とはしまくとぅばで話すことはなかったが、父や叔母とは、しまくとぅばで話すことが増えたようである。かなりしゃべれるようになったと自信を持っていたので、父や叔母としまくとぅばで会話ができることをうれしく思っていた。叔母は、「方言しゃべれるの、あなたはしばいーになるんじゃないの」と冗談を言っていた。

大城によると、中学生としまくとぅば劇をしたいというのが講座に参加した主な理由であったが、そのような機会はなかった。教員採用試験に合格して宮古島市の中学校に赴任した。そこで、中学生と劇をやりたいと思っはいたが、多忙であったのと、地域のことばが沖縄島のことばとは異なるために、うちな一芝居はできないと思って断念した。しかし、宮古島市の出身で、芝居が趣味であった校長先生が中学生に宮古島市のことばで芝居を教えたので、着付けとかの手伝いをした。

大城は、上記を除いては、いままで勤めてきた中学校では、時間がとれなかったので、生徒たちが学習発表会等でしまくとうば劇を上演するということはなかった、と述べた。授業時間では無理で、やるとすると宮古島市の中学校のように、放課後にクラブ活動として指導するしかない。久米島の中学校でしまくとうば劇を指導したときには、総合学習に組み込むことができたので、授業中とか、放課後の空き時間に劇の練習をする時間を設けることができた。今も、総合学習の時間はあるが、内容が細かく決められているので、しまくとうば劇をとり入れるということは難しくなっている。1年生の総合学習は「郷土学習」がテーマなので、しまくとうば劇を取り入れる可能性はありそうである。ただ、多くの学校では新聞をつくっているようである。大城は、自分がとりもどすことができたしまくとうばを残したいと思っていて、せっかくうちな一芝居講座で平良夫妻におそわったので、しまくとうば劇クラブを作って子供たちに教えたいと考えたことはあったが、実現はしなかった。勤めている中学校でしまくとうばを使う生徒は一人もいないのではと推測している。

大学のゼミとうちな一芝居講座で劇を学んだことの効果に関する質問に対して、大城は次のように答えた。台詞としてしまくとうばを覚えるので、敬語も含めて、いろんな応用の仕方もわかるようになった。実際に使うことは多くはないが、使えるようになったことが効果である。しかし、宮古島市の中学校に赴任して、沖縄島のしまくとうばと芝居から離れた期間が長かったので、聞く力を含めて言語能力が低下して、いまテレビなどのしまくとうば劇を観ても5割程度しか理解できなくなっているのがわかってショックをうけた。ことばは、話さなくなるとわすれてしまうのだなと実感した。ピーク時には芝居を観てほとんど理解できて、かなり話すこともできたのに、今は自己紹介程度のことしか言えなくなってしまう。父や叔母との会話でも「まーかい いちゃびーが（どこに行きますか）」程度のことしか言えない。ことばは使わなくなると失ってしまうなとすごく強く感じている。言語を維持するためには継続して使うことが大事であると痛感している。

最後に、大城は、しまくとうばを知らない人が芝居を観ることを考えて字幕をつけることが大事であるとのべた。大城は、意味のわからない芝居をみることは苦痛であるので、観客が芝居の内容を理解できるようにするべきであると考えている。

3. 分析

大城へのインタビューから分かったことは次のようなことである。

- 1) 若者にはしまくとうばで話をしたいと思っても、その言語知識がないので、話すことも聞くこともできない者が多い。しまくとうば劇は、そのような若者に話す機会をあたえることができる。その際に、日本語の台詞を、家族等の協力を得ながら、演者みずからがしまくとうばに翻訳させることは効果的である。意味のわかる日本語を訳するので、訳されたしまくとうばの意味は理解している。家族内でのそのような活動は、ことば以外のことも学ぶ機会となる。

- 2) しまくとうば劇には、台本が必要である。特に初心者は聞いて台詞を覚えることは難しいので、台本を読んで覚えることになる。また、指導者等の発するしまくとうばの台詞の録音することを認めるべきである。台本の台詞を耳で聞いて、抑揚までを覚えることができる。現在は、スマートフォンでも手軽に録音ができるので、目と耳から覚えることで効果的な学習ができると思われる。
- 3) 劇の台詞から敬語を学ぶことはあっても、実際の会話で使えるほどに十分なものではないので、ある程度しまくとうばが話せるようになっている者でも、年配者とはしまくとうばで話さないことがある。敬語を間違えてつかうことで、年配しない失礼なものいいになってしまうことを恐れるのである。
- 4) 中学生はしまくとうば劇を通して地域の高齢者と交流することが可能で、観劇した地域の人々に感動を与えることで、自分に自信をもつことができる。少ない機会ではあるが、劇で学んだしまくとうばを使うようになる。
- 5) しかし、第二言語として覚えたしまくとうばは使わないと急速にわすれてしまう。
- 6) 学校教育の総合学習等の時間にしまくとうば劇を取り入れることは難しそうである。

4. ニュースピーカー

今年度の調査協力者を含め、この3年間に筆者がインタビューをした者はすべて、日本語を母語としていて、しまくとうばを母語としてはいない。しまくとうば講座やしまくとうば劇に参加するなどの活動を通してしまくとうばを学び、あらたな話者になろうと努力しているのである。いわゆるニュースピーカー（新話者）である。沖縄県（2017）や琉球新報（2017）の調査では、沖縄県内にはしまくとうばを聞いて理解することはできるが、話せないといういわゆる受動的母語話者—ある程度の言語的知識を有している者—が50代、60代、70代に数多く存在する。石原（2018）が述べたように、そのような人たちが劇に参加することで話者になることがある。しまくとうばが話せるようになった受動的母語話者をニュースピーカーの範疇に加えることができるであろうが、その人達でも話せるようになるには文法的な間違いや音声的な間違いを犯してきたであろう。それでもめげることなく努力を続けて話せるようになったのである。ましてや、しまくとうばを聞くことも話すこともできない者—言語知識を全く持っていない者—が聞いて理解できるようになり、さらには話せるようになるには相当な努力が必要である。石原（2019）でインタビューした上江洲朝男が力説するように、しまくとうば劇の指導者はこのような努力をしている者が間違いを犯したときに頭ごなしに叱ってはいけない。叱られることで嫌気がさし、しまくとうばを学ぶことを避けてしまい、ニュースピーカーになる機会を失ってしまうからである。これは2018年11月24日に宮古島市で開催された「平成30年度 危機的な状況にある言語・方言サミット」での基調講演で田窪行則が述べていたことと一致する。しまくとうばを母語とする者、または第二言語として流暢に話すことができる者は、若者たちの間違いに寛容であるべき

で、間違いを語り、怒ってはいけないのである。

5. まとめ

石原（2018、2019）と本稿で述べたように、しまくとうば劇はしまくとうばを母語としない者が第二言語的にしまくとうばをおぼえるうえでさまざまな効果があると思われる。しかし、祖父母や両親との繋がりを想定した学習には限界がある。子どもや孫のしまくとうばを聞いて父母や祖父母がよろこぶのは確かであろうが、20～30年後にこのような学習は動機としても方法として成り立たなくなっているであろう。しまくとうばを継承する若者世代が、なぜしまくとうばを継承するのかを考える必要がある。また、母語ではないことばは、使われないと失われてしまうので、使う機会をどのように作っていくのかも考えていくひつようがある。せつかく、劇を通してマスターしたしまくとうばが日常生活の場面等でも使われないと失われてしまうのである。

参考文献

- 石原昌英（2018）「しまくとうば劇の効果について」『平成 29 年度 文化庁委託事業「機器的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」報告書』242-253 頁。琉球大学国際沖縄研究所。
- 石原昌英（2019）「しまくとうば継承としまくとうば劇」『平成 30 年度 文化庁委託事業「機器的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」報告書』223-229 頁。琉球大学島嶼地域科学研究所。
- 沖縄県（2017）『平成 28 年度 しまくとうば県民意識調査報告書』
- 田窪行則（2018）「ことばと生きる、ことばを残す」平成 30 年度危機的な状況にある言語方言サミット基調講演（11 月 24 日：宮古島市）。
- 琉球新報（2017）『沖縄県民意識調査報告書 2016』那覇市：琉球新報社。

シマジマのしまくとうば

1

危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した
実地調査研究 令和元年度

2020年3月

琉球大学 島嶼地域科学研究所

文化庁委託事業